



山形県埋蔵文化財センター調査報告書第114集

かつば遺跡発掘調査報告書

財団法人
山形県埋蔵文化財センター



かつば遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第114集



2003

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



かつば遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第114集

平成15年

財団法人 山形県埋蔵文化財センター





調査区全景



遺跡遠景（北東から）





床面検出（整穴住居 S T 4 南西から）



地床炉 E L311 (S T 4 北から)



床面出土土器15 (S T 4 西から)



貼床土 (S T 4 北から)



覆土内出土土器22・29 (S T 4 西から)



掘立柱建物 S-B15 (北西から)



柱穴 S-P214 (西から)



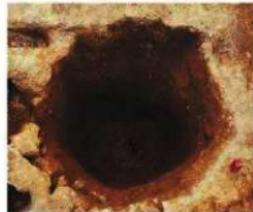
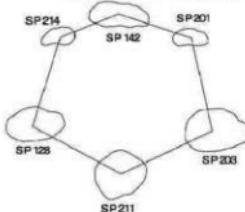
柱穴 S-P142・206 (東から)



柱穴 S-P201 (北東から)



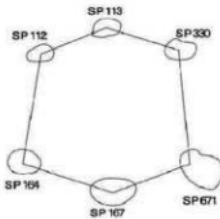
柱穴 S-P128 (東から)



柱穴 S-P203 (北から)



掘立柱建物 S-B16 (北西から)



柱穴 S-P167 (東から)



柱穴 S-P164 (西から)



柱穴 S-P330 (東から)



柱穴 S-P113 (西から)



柱穴 S-P112 (北から)



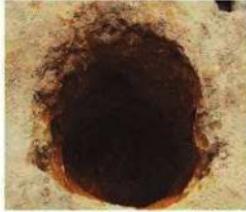
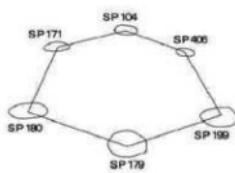
掘立柱建物 S-B17 (北西から)



柱穴 S-P 171 (東北から)



柱穴 S-P 104 (東から)



柱穴 S-P 180 (東から)



柱穴 S-P 179 (南から)



柱穴 S-P 199 (東から)



掘立柱建物 S B18 (北東から)



柱穴 S P 672 (北から)



柱穴 S P 360 (西から)



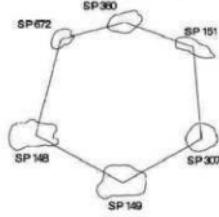
柱穴 S P 151 (北から)

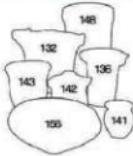


柱穴 S P 148 (東から)

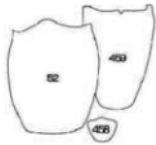


柱穴 S P 149 (南から)

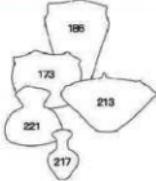




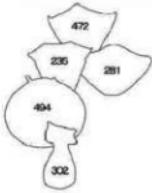
I群 大木8a式土器



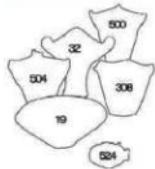
II群 南境1式土器



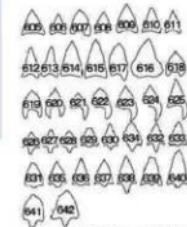
Ⅲ群 南境2式土器



IV群 宝ヶ峯1式土器



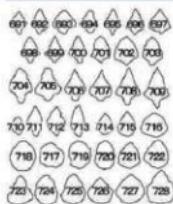
V群 宝ヶ峯2式土器



石鏃 凹基無莖・凹基有莖



石器 平基有茎



石鏃 凸基有莖・尖基・円基

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、かっぱ遺跡の調査成果をまとめたものです。

かっぱ遺跡は、山形県の北東端に位置する最上郡最上町に所在します。この町は四方を奥羽山脈・神室山地に囲まれた独立盆地で、中央部を最上小国川が西流しています。豊富な森林資源を利用した林業も盛んです。

この度、平成12年度山形県農林水産部の中山間地域総合整備事業(立小路地区)に伴い、工事に先立ってかっぱ遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、主に縄文時代後期の遺構として竪穴住居、掘立柱建物、さらに貯蔵穴と考えられる土坑群が検出されました。ほかに配石遺構、旧河道を利用したゴミ棄て場などもあり、これらの集落を構成する要素が一つの遺跡から発見されたことは、縄文時代の集落を考えるうえで貴重な資料を得ることができたといえます。また、出土した石器は縄文時代の食料生産にかかわるものが多くみられました。石鏃は狩猟に、石皿・磨石・凹石は木の実などの加工に、石錐は漁労にと、当時のかっぱ遺跡周辺が自然豊かであったことを示すものです。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及・学術研究・教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成15年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 木 村 宰

例　　言

- 1 本書は、中山間地域総合整備事業（立小路地区）に係る「かつば遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 既刊の年報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は山形県農林水産部の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 調査要項は下記のとおりである。

遺　跡　名　　かつば遺跡
遺　跡　番　号　923
所　在　地　　山形県最上郡最上町大字富沢字合羽
調　査　主　体　財団法人山形県埋蔵文化財センター
理　事　長　　木村 宰
受　託　期　間　平成12年4月1日～平成13年3月31日
　　　　　　　平成14年4月1日～平成15年3月31日
現　地　調　査　平成12年5月8日～8月23日
調　査　担　当　者　調査第一課長　野 尻 優（県農林水産部関連事業担当）
主任調査研究員　黒坂 雅人
調　査　研　究　員　水戸部秀樹（調査主任）
調　査　研　究　員　齊 藤 健
調　査　研　究　員　菅 原 哲文
調　査　員　　宮 地 文 七

- 5 本書の作成、執筆は水戸部秀樹が、遺物写真撮影・レイアウトは須賀井明子が担当した。
- 6 委託業務は下記のとおりである。
航空写真測量　朝日航洋株式会社
石器実測・図版編集　株式会社セビアス
- 7 出土遺物、調査記録類については、報告書作成終了後すみやかに山形県教育委員会に移管する。
- 8 発掘調査および本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。(順不同、敬称略)
山形県農林水産部、山形県教育庁社会教育課文化財保護室、最上教育事務所、最上町教育委員会、
安孫子昭二、新井達哉、荒川降史、安斎正人、石井寛、石川日出志、長田友也、北野博司、木下哲夫、
小林達雄、佐川正敏、佐藤宏之、鈴木健太郎、海藤直行、高橋龍三郎、滝沢規朗、竹田純子、
巽惇一郎、田中耕作、土肥孝、富樫秀之、富樫泰時、長澤正機、秦昭繁、本間宏、宮尾亨、
宮本長二郎、武藤康弘、渡邊裕之

凡　　例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

S T…窪穴住居

S B…掘立柱建物

S K…土坑

S P…柱穴・ビット

S G…旧河道

S X…そのほかの遺構・性格不明遺構

E L…炉跡

E U…埋設土器遺構

- 2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。
- 3 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系（日本測地系）により、高さは海拔高で表す。
- 4 本文中の遺物番号は、遺物実測図・写真図版とも共通のものとした。
- 5 基本層序および遺構覆土の色調記載については、1997年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色帖」に従った。

目 次

I 調査の経緯	1
II 遺跡の立地と環境	3
III 遺跡の概要	9
IV 遺構	10
V 遺物	14
VI 調査のまとめ	30
遺物観察表	32
遺構実測図	45 (付図)
遺物実測図	87
報告書抄録	卷末

表

表1 繩文土器観察表	32	表3 石器観察表	40
表2 土偶・耳飾・スタンプ状土製品・土鍾・そのほかの土 製品・円盤状土製品観察表	39		

図 版

第1 図 調査区概要図	2	第26 図 壁穴住居 S T 19	68
第2 図 向町盆地東部の地形分類図	4	第27 図 壁穴住居 S T 1004	69
第3 図 遺跡位置図	7	第28 図 地床炉	70
遺構実測図		第29 図 地床炉 埋設土器遺構 立石遺構	71
第4 図 遺構実測図の割合図	45	第30・31 図 振立柱建物 S B 15	72
第5～12 図 遺構実測図 1～8	46	第32 図 振立柱建物 S B 16	74
第13 図 旧河道 S G21 断面図	54	第33 図 振立柱建物 S B 17	75
第14 図 旧河道 S G21 断面図 b - b'	55	第34 図 振立柱建物 S B 18	76
第15 図 旧河道 S G21 断面図 c - c' - d - d'	56	第35 図 振立柱建物 S B 1006・1007	77
第16 図 旧河道 S G21 断面図 e - e'	57	第36 図 振立柱建物 S B 1008	78
第17 国 旧河道 S G21 断面図 f - f'	58	第37 国 配石遺構 S X25 土坑	79
第18 国 旧河道 S G21 断面図 g - g'	59	第38～42 国 土坑	80
第19 国 旧河道 S G21 断面図 h - h'	60	第43・44 国 往穴	85
第20 国 壁穴住居 S T 2	62	遺構出土の土器	
第21 国 壁穴住居 S T 3	63	第45 国 土器分類図	87
第22 国 壁穴住居 S T 4 床面検出	64	第46 国 壁穴住居 S T 2～4	88
第23 国 壁穴住居 S T 4 楼方完断	65	第47 国 壁穴住居 S T 4・7・19・1004	89
第24 国 壁穴住居 S T 7	66	第48 国 埋設土器遺構 E U27・509 振立柱建物 S B 15	
第25 国 壁穴住居 S T 9	67	16・17・1007・1008 土坑 S K40・63・64	90

第 49 図 立石遺構 S P482 配石遺構 S X25	91	第 94~96 図 IV群 遺物包含層 136
土坑 S K41・60.....		第 97 図 IV・V群 遺物包含層 139
第 50 図 土坑 S K230・232・233・247・251・252・ 258・271.....	92	第 98・99 図 V群 遺物包含層 140
第 51 図 土坑 S K308・351・416・426・488・502・511・513		第 100 図 VI・VII・VIII群 遺物包含層 142
第 52 図 土坑 S K516・614・627 ピット S P156・174・217	94	第 101 図 VII・VIII群 遺物包含層 143
第 53 図 桂穴 S P144 ピット S P219・221・256・268・ 330・372・402・434・438・441・462・488・542	95	出土地点不明土器 143
第 54 図 ピット S P557・650・656 性格不明遺構 S X11・ 24・62・65・70・139	96	土偶など 143
第 55 図 性格不明遺構 S X222・250・253・286・ 587・645	97	第 102 図 土偶 耳飾 スタンプ状土製品
旧河道 S G21出土の土器		土罐 そのほかの土製品 144
第 56~60 図 I群 旧河道 S G21	98	第 103 図 円盤状土製品 145
第 61 図 I群 旧河道 S G21 ピット S P542	103	石 器 145
第 62・63 図 I群 旧河道 S G21	104	第 104~106 図 石錐
第 64 図 II・III群 旧河道 S G21	106	第 107 国 尖頭器 有舌尖頭器 石範
第 65~69 国 III群 旧河道 S G21	107	第 108 国 振器 石匙
第 70~77 国 IV群 旧河道 S G21	112	第 109 国 石匙
第 78~81 国 V群 旧河道 S G21	120	第 110・111 国 石錐
第 82・83 国 VI群 旧河道 S G21	124	第 112 国 接合資料
第 84~90 国 VII群 旧河道 S G21	126	第 113 国 磨製石斧
第 91 国 VII・VIII群 旧河道 S G21	133	第 114 国 磨製石斧 石錐
遺物包含層出土の土器		第 115 国 浮子 砕石 磨石
第 92 国 II群 遺物包含層	134	第 116 国 磨石 回石
第 93 国 II・III・IV群 遺物包含層	135	第 117・118 国 圆石
		第 119 国 圆石 石皿
		第 120・121 国 石皿
		第 122 国 線刻縦 石刀 石劍 石棒 そのほかの石製品 水晶 球状自然石
		第 123 国 棒状自然縦

写真図版

卷頭写真 1	調査区全景・遺跡遠景	卷頭写真 14	石鐵 凸基有茎・尖基・円基
卷頭写真 2	壁穴住居 S T 4		遺 標
卷頭写真 3	掘立柱建物 S B 15	写真図版 1 ~ 3	旧河道 S G21
卷頭写真 4	掘立柱建物 S B 16	写真図版 4	壁穴住居群・掘立柱建物群
卷頭写真 5	掘立柱建物 S B 17	写真図版 5	壁穴住居 S T 2・3
卷頭写真 6	掘立柱建物 S B 18	写真図版 6	壁穴住居 S T 7・9
卷頭写真 7	I群 大木 8 a 式土器	写真図版 7	壁穴住居 S T 1004
卷頭写真 8	II群 南境 1 式土器	写真図版 8	壁穴住居 S T 19・配石遺構 S X25
卷頭写真 9	III群 南境 2 式土器	写真図版 9	地床炉
卷頭写真 10	IV群 宝ヶ峯 1 式土器	写真図版 10	地床炉・埋設土器遺構・立石遺構
卷頭写真 11	V群 宝ヶ峯 2 式土器	写真図版 11	掘立柱建物 S B 1006・1007
卷頭写真 12	石罐 回基無茎・回基有茎	写真図版 12	掘立柱建物 S B 1008
卷頭写真 13	石罐 平基有茎	写真図版 13~18	土坑

写真図版19~20	柱穴	写真図版70	VII群 深鉢
	遺構出土の土器	写真図版71	VII群 鉢・浅鉢・壺
写真図版21	壁穴住居S T 2・3	写真図版72	VII群 壺、VII群 深鉢
写真図版22	壁穴住居S T 3・4	写真図版73~76	VII群 深鉢
写真図版23・24	壁穴住居S T 4	写真図版77	VII群 深鉢・壺
写真図版25	壁穴住居S T 7	写真図版78	VII群 深鉢・鉢
写真図版26	壁穴住居S T 7・19・1004	写真図版79	VII群 深鉢
	埋設土器遺構		VII群 ミニチュア土器・異形土器
写真図版27	立石遺構S P-482		遺物包含層出土の土器
写真図版28	獨立柱遺物・配石遺構S X 25・土坑	写真図版80・81	II群 深鉢・鉢
写真図版29	土坑S K 41	写真図版82	III群 深鉢・壺、IV群 深鉢
写真図版30~32	土坑	写真図版83・84	IV群 深鉢
写真図版33	土坑・柱穴・ピット	写真図版85	IV群 深鉢・浅鉢
写真図版34	ピット	写真図版86・87	IV群 壺
写真図版35	ピット・性格不明遺構	写真図版88~90	V群 深鉢
写真図版36・37	性格不明遺構	写真図版91	V群・VI群・VII群
	旧河岸S G21出土の土器	写真図版92	VI群 壺、VII群 深鉢、VII群
写真図版38~42	I群 深鉢		出土地点不明の土器
写真図版43・44	I群 浅鉢		土偶など
写真図版45	II群、III群 深鉢	写真図版93	土偶
写真図版46~50	III群 深鉢	写真図版94	円盤状土製品・耳飾・スタンプ状土製品
写真図版51	III群 浅鉢213		土鍤・そのほかの土製品
写真図版52	III群 浅鉢・壺		石器
写真図版53	III群 壺220・221	写真図版95	尖頭器・有舌尖頭器・石籠・攝器・石匙
写真図版54~59	IV群 深鉢	写真図版96	石錐
写真図版60	IV群 深鉢・鉢	写真図版97	接合資料・石鍤
写真図版61	IV群 鉢・浅鉢	写真図版98	磨製石斧
写真図版62	IV群 浅鉢281	写真図版99	浮子・砥石・磨石
写真図版63	IV群 浅鉢・壺・片口土器・注口土器	写真図版100	圓石
写真図版64	IV群 壺・片口土器	写真図版101	石皿・棒状自然礫
写真図版65	IV群 片口土器302	写真図版102	線刻繩・石棒・石刀・石劍
写真図版66・67	V群 深鉢		そのほかの石製品・水晶・球状自然石
写真図版68	V群 深鉢・鉢・壺		
写真図版69	V群 壺・注口土器・台付浅鉢		
	台部・脚部		

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

飯豊山系の山々の沢水を集めた最上川は、山形県内を縱貫するように置賜地方、村山地方、最上地方を蛇行しながら北流し、各地方に肥沃な土地を形成している。また、最上川は最上地方の新庄市南西部で急激に西流し、最上峡谷を抜けて、庄内地方に広大な沖積平野を形成し、日本海に流れる。

本遺跡が所在する山形県最上郡最上町大字富沢字合羽は、最上地方の北東部、最上町域の中心となる向町盆地を西流する小国川の右岸に位置し、小国川には神室山系の急峻な山々から、鳥出川や、絹出川等の清流が注ぎ込んでいる。これら中・小河川が注ぎ込む急峻な谷間に肥沃な土壌を作り、小区画の水田が営まれている。

昭和50年代になると中心となる向町盆地の小国川周辺の河岸段丘には、水田経営の効率化から水田を広げ、収益を高めるためのほ場整備計画が進められた。このことにより、最上町管内の遺跡分布調査が実施され41ヵ所の遺跡が確認され、ほ場整備事業にかかわり水木田遺跡や、水上遺跡、熊ノ前遺跡などが調査された。その後平成10年代になると、小国川に注ぎ込まれる中・小河川の小区画の水田にもほ場整備計画が策定され、山形県農林水産部では、平成11年度に中山間地域総合整備事業として、遺跡が所在する当地域に同事業の整備計画を(立小路地区)として計画し、計画地域内の遺跡詳細分布調査を県教育委員会に依頼した。これを受けた教育委員会文化財課では、平成11年10月5・6日に事業区域内に試掘トレンチを設定し、遺跡の内容や、文化層までの深度や広がりなどを確認し、事業実施での文化財の保護協議を申し入れた。協議では事業での保護が困難な削平計画であり、記録での保護が求められることによって調査が計画され、財団法人山形県埋蔵文化財センターに調査の依頼がなされたものである。

ほ場整備計画

調査が開始されるまでには、平成12年4月7日に事業実施事務所である最上土地改良事務所において、事業計画の再聴取を行い、先に報告していた調査面積や、調査経費などの確認と、調査期間、残土置き場、調査事務所設置箇所、仮の水路の切り回しなどを打ち合わせた。調査は当初計画で5月8日から8月8日までの延べ97日の予定で進めることとし、事前の調査打ち合わせ会を4月26日に地元の立小路公民館で開催した。そこでは事前に調整された調査計画や、出土遺物の予測を約300箱とし、事業範囲内は事後転作との計画が打ち合わされ、県教育委員会、最上町教育委員会、最上町農林課、土地改良事務所、地元地権者代表との共通理解が得られ、5月8日から調査が進められた。

2 調査の経緯

調査開始後、6月初めには表土の除去が進み、遺跡の内容が明らかになると、遺構・遺物の出土が予測を上回ることが確認されたため、調査計画の見直しが必要となった。このことから、県教育委員会に調査状況と今後の調査計画について報告し、県農林部との調整を依頼した。そ

の結果、調査費は当初どおりとしながらも内訳内部の操作で次年度に一部を振り分けることや、調査員の増員、作業員の増員などで対処することで了解が得られた。しかし、6月後半になると、さらに、遺構・遺物の出土量が増大することが判明し、予定の8月8日までに終了する調査日程が難しい状況となった。そこで、事業実施工間に合わせ調査終了部分を引渡し、終了日を8月23日とすることで了解を受けた。調査は変更日程で進められ、終了までに至った。

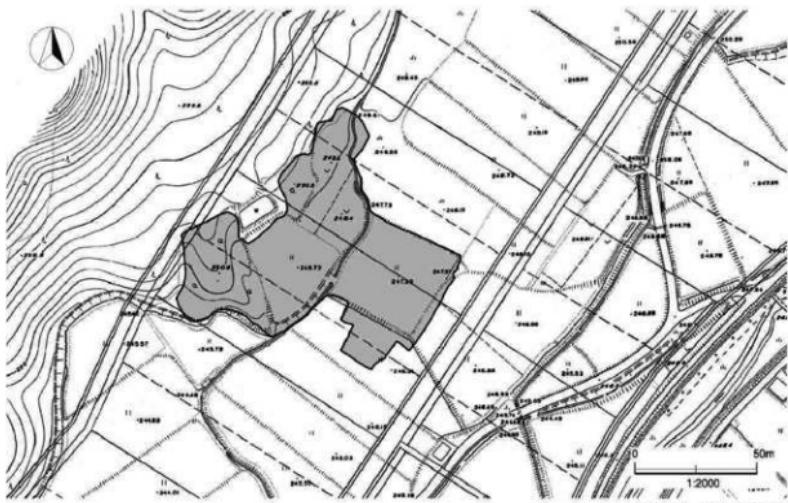
参加者400人 平成12年7月20日には現地で参加者400人を集めた調査説明会が行われた。

3 調査の方法

調査区の表土および旧耕土を重機により取り除き、グリッドを設定した。グリッドの縦軸は座標北で西に22度22分26秒振る方角に設定した。グリッドの間隔は2m四方とした。グリッドの名称とした数字は、左から右へ大きくなる数字と下から上へ大きくなる数字を、それぞれグリッドの横軸と縦軸に沿わせた。その数字の組合せを、縦軸と横軸の交点の第1象限となる2m方眼のグリッド名とした。

表土、および旧耕土を除去中にも良好な状態で遺物を確認することができ、特に調査区の西半部は旧耕土中でも大きな搅乱はなかったものと推測された。

その後、遺構検出、遺構検査、そして遺構断面図・遺構平面図の作成、遺構断面・遺構の完掘状況・遺物出土状況の写真撮影などの記録作業を進めた。そして、三度に分けてラジコンヘリを用いた空中写真撮影を行った。遺物の出土地点の記録については、遺構から出土したものは遺構とグリッドと層位により、遺構外から出土したものはグリッドと層位によった。



第1図 調査区概要図

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

「第2図 向町盆地東部の地形分類図」参照

かつば遺跡は、山形県最上郡最上町大字富沢字合羽（北緯38度44分55秒、東経140度32分57秒）に位置する。遺跡のある最上町は山形県の北東端にあたり、宮城県と秋田県に接し、地域的には最上地方に含まれる。最上町には平地として向町盆地（別名最上盆地・小国盆地）が存在しており、盆地中央を最上川支流の小国川が西流する。最上町内の遺跡はすべて向町盆地内に位置しており、小国川水系に属することになる。

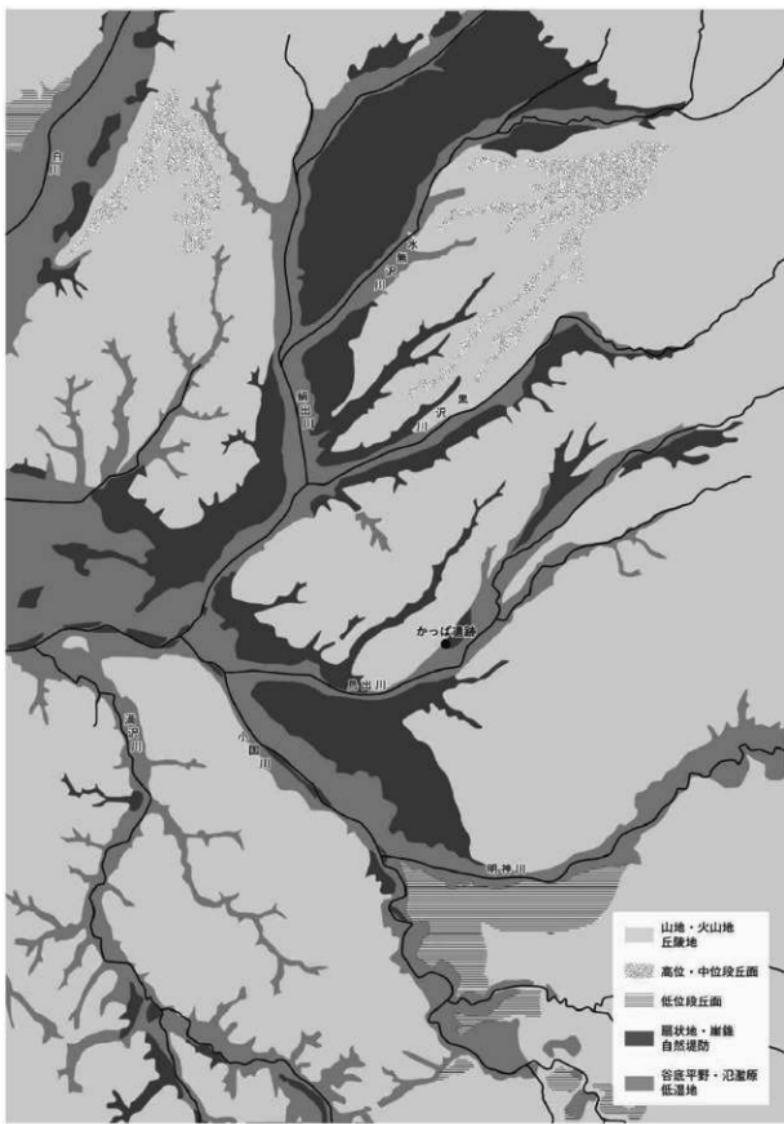
向町盆地は、平地で見ると東西幅約11km、南北幅約1～8kmの奥羽山脈中の小盆地であるが、東隣の鳴子や鬼首と同様にカルデラとして生成したと考えられており、外輪は直径約10km超を測り、噴火の時期は約70万年前と推定されている（向町カルデラの噴出物の多くは新庄・尾花沢盆地に広く分布する）。盆地の四隅は、800～1,300m級の急峻な奥羽山脈・神室山地に囲まれており、カルデラ内の大部分は、裏山と称される緩やかな丘陵地で占められている。丘陵地形は陥没した凹地に周囲から急激に供給された土石流により埋められ、その間に鬼首カルデラの噴出物が堆積し、その後の浸食作用により、300～400mのなだらかな丘陵地形を形成するに至ったと考えられている。

盆地を貫流する小国川は、流路延長約49kmの最上川の支流で、最上町の南東端の標高785mの無名峰に源を発する。上流部は急激な下刻作用で深い峡谷を穿って曲流が著しく、幾つかの段丘を形成する。盆地谷口付近の赤倉温泉（標高250m）まで流下した小国川は、次第に川幅を広げ、谷底を浅くして、盆地東端を南東から北西方向に緩やかに流れが、向町までの区間では、北東から南西方向に向かってほぼ並行して三つの支流（明神川・島出川・網出川）が直交する。網出川合流後は流れを西方向に変え、右岸に白川・大横川、左岸に満沢川・杉ノ入沢川などを肋骨状に合わせ、盆地南部の丘陵地帯を浸食しながら7km程直進する。小国川は盆地（盆地底標高150m）を抜けた後は南北方向に流路を変えて、奥羽山脈の西端に深い峡谷を穿つて横切り、舟形町長者原で最上川に合流する。

盆地内の平地は、段丘と谷底平野から構成される。特に小国川右岸や北部の支流沿いには平坦な低位段丘が発達している。低位段丘は白川など支流が形成した扇状地が開析されたものとして、広く分布している。盆地北部には中位・高位段丘も認められるが、これらは丘陵の山脚の尖端に細長く突き出す形で分布するのみである。また盆地南部には起伏が大きく開析の進んだ台地（火碎流台地）が展開している。

かつば遺跡は、小国川支流島出川右岸の山裾から河成段丘（低位段丘）にかけて営まれた遺跡である。島出川によって開削された谷は狭く、幅は約150mほどで、山間低地としての立地条件にある。遺跡は合流点から2.4kmほど遡った地点にあり、島出川から北西へ約100mの距離、現河床との比高差は約5mを測る。

小国川は最上川水系を代表する清流であり、サケ、マス、ハヤ、アユ、カジカなど豊富な水



第2図 向町盆地東部の地形分類図 (1 : 50,000)

産資源に恵まれている。今日においては渓流釣りが盛んな河川となっているが、縄文時代においても当然これらの資源が重要な食料源となっていたものと推定される。

盆地東端の明神川に沿って溯ると、奥羽山脈を横切る標高350mの横谷（境田越）に至る。**境田越** 勾配が緩く、古くから宮城県方面との交通の要衝となってきたが、現在は国道47号線とJR陸羽東線が並走している。しかし東方の標高が低いため、東（太平洋側）からの気流が比較的流入しやすく、夏季にオホーツク高気圧が発達した場合には、ヤマセと呼ばれる冷涼気団が流れ込み、冷害を引き起こしやすい環境にある。また冬季の積雪が多く日照時間は少なく、融雪時期が遅い地域である。

2 周辺の遺跡

「第3回 遺跡位置図」参照

かっぱ遺跡が位置する向町盆地内には、現在52ヵ所の遺跡が周知されている。時代別でみると、旧石器時代末期1ヵ所、縄文時代34ヵ所、弥生時代1ヵ所、平安時代3ヵ所、中世16ヵ所で、中世は全て城館跡である（複数時期にわたる遺跡については、それぞれに組み入れて遺跡数をカウントした）。

最上町の遺跡の分布調査は1962年頃に初めて実施された。文化財保護委員会（当時）の全国規模の遺跡台帳作成の要請によるもので、最上町内では縄文時代の遺跡が18ヵ所登録された。更に1972年さあべい同人会による分布調査が実施され、新たに遺跡が追加された。かっぱ遺跡については報告の中では触れられなかったが、分布図の中で図示されており、遺跡の初出例として特記されるものであろう。1974年県教委の要請により、長沢正機・本間敬義を中心とした「埋蔵文化財包蔵地調査カード」が作成され、それらに基づき『山形県遺跡地図』（1978年）が刊行された。今日における調査・研究の典拠となるものであるが、この調査で最上町内には41ヵ所の遺跡が登録され、縄文時代は30ヵ所にのぼっている。かっぱ遺跡は「遺跡番号923」として登録されており、時期は大木8式と新地式の遺跡と記されている。

向町盆地内で最も古い人類の痕跡は、月橋地内で採集された細石刃核である。1960年頃に月橋在住の中学生によって採集されたもので、同地内には水木田遺跡（28）などが所在するが、出土地点を特定するには至っておらず、遺跡としては未詳である。旧石器時代末期に位置づけられるもので、縄文時代以前はこの1例のみである。多数の遺跡が確認されている隣接地域（新庄盆地・宮城県北部）の在り方に比すると、旧石器時代遺跡の僅少さは、カルデラに由来する向町盆地の成因に關係しているとも考えられる。

縄文時代の遺跡は、小国川右岸や支流沿いの河成段丘・山裾に多く分布している。時期が判別している遺跡は、早期1ヵ所、前期5ヵ所、中期12ヵ所、後期14ヵ所、晩期11ヵ所で、中期以降に遺跡数の増加と遺跡規模の大型化が認められる。

主な支流域で遺跡をみていくと、明神川沿いには中～晩期の狐塚遺跡（43）と中期の長原遺跡（44）が存する。前者は分布範囲が広く約50,000m²に及んでおり、後者は水田化され遺跡の規模は不明である。

かっぱ遺跡が位置する鳥出川沿いでは、上流部に油子沢遺跡（25）や中首遺跡（32）、米入鳥遺跡（33）が存在する。いずれも後・晩期の遺跡で、特に油子沢遺跡は発達した舌状台地の先端部にあって、水田化に際し後・晩期の遺物が多数出土したとされている。またかっぱ遺跡の北

かっぱじんかく
縄石刃核

*遺跡名の後の括弧内数字は「第3回 遺跡位置図」の番号に対応する。

東に隣接する大沢口遺跡（42）も後期中葉の遺跡であり、かつば遺跡と一緒に遺跡であったと推察される。

綱出川 綱出川沿いには、一本杉北遺跡（6）、材木遺跡（11）、水上遺跡（23）などが存する。材木遺跡は、1973年町教委によってトレンチ主体の発掘調査が実施された。調査では晩期大洞B C～A'式の土器や土偶などの土製品、石鏃などの石器が多数出土し、地炉の痕跡も認められており、晩期全般にわたる有力遺跡であったことが判明している。水上遺跡は、1976年と1980年の2度にわたって県教委によって発掘調査が実施された。調査では中期の堅穴住居跡1棟、後期全般の堅穴住居跡12棟が検出され、そのほかに前期大木6式や晩期大洞B C～C 2式の土器が出土した。山形県内では数少ない後期前葉主体の遺跡として注目されるが、堅穴住居跡は不整規円形・方形プランを呈しており、円形プランを主体とするかつば遺跡とは対照的な在り方を示している。

白川 白川沿いには、げんだい遺跡（13）が存する。げんだい遺跡は、1987年県教委によって発掘調査が実施された。調査では中期と晩期の埋設土器群が検出され、後期後葉～大洞A 2式までの連続とした生活の痕跡が認められた。

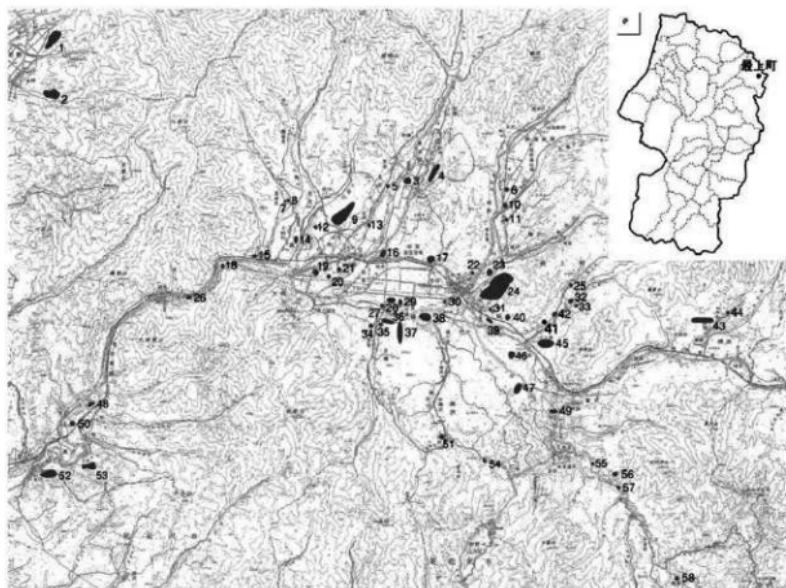
大横川 大横川沿いには、狐穴口遺跡（8）、高すず遺跡（7）が存する。二つの遺跡は小さな谷川で遮られているが、本来は一体の遺跡と捉えるべきであろう。晩期大洞B C～C 2式の土器や石棒、石皿などが採集されている。

小国川本流域 小国川本流域でみると、上流域では狹小な段丘上に荒沢遺跡（55）、へそ岩遺跡（56）、昔の半遺跡（57）が存する。いずれも後・晩期の遺跡であるが、後二者では比較的多くの遺物が採集されており、規模はいずれも5,000m²と推定されている。更に上流には屋敷平遺跡（58）が存するが、早期の可能性が指摘されている。

盆地中央の小国川右岸の河成段丘には熊の前遺跡（30）と水木田遺跡（28）、白川との合流点付近には宮の下遺跡（20）と森の越遺跡（21）、小国川左岸の杉ノ入沢川との合流点には橋の裏遺跡（35）が存する。

水木田遺跡 熊ノ前遺跡（30）は1977年県教委によって発掘調査が実施された。調査では中期大木7 b～8 a式の堅穴住居跡3棟が検出されており、西方1.5kmに位置する水木田遺跡とは時期的に並行の関係にある。水木田遺跡（28）は1978年県教委による発掘調査が実施された。調査では堅穴住居跡8棟や土器捨場が検出され、大木7 b～8 a式の完形土器が多量に出土した。遺物の散布範囲は90,000m²に及んでおり、向町盆地では最大規模の集落跡であったことが判明している。宮の下遺跡（20）は1985年県教委によって発掘調査が実施された。調査では後期中葉の堅穴住居跡4棟と溝状構造が検出され、かつば遺跡とは時期的に並行の関係にある。橋の裏遺跡（35）は1985年町教委によって発掘調査が実施された。調査では後期前葉の土器と住居跡と思われる遺構が検出された。

遺跡分布を時期別にみると、中期では盆地中央の水木田遺跡を中心として、各支流域への遺跡の分散が認められる。後期では遺跡の分布が小国川右岸にはほぼ限られるようになり、鳥出川・綱出川・白川流域に遺跡が集中する。特に後期中葉には鳥出川沿いのかつば遺跡（41）、綱出川沿いの水上遺跡（23）、白川沿いの宮の下遺跡（20）といった有力遺跡が併存しており、狹小な盆地ながら8遺跡を数えることができる。晩期になると盆地中央の小国川右岸の河成段丘



国土地理院発行 5万分の1 地形図「新庄」・「鳴子」を使用
第3図 遺跡位置図 (1:150,000)

番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡名	時代	種別
1	小倉館	戦国	城館跡	30	熊の前遺跡	绳文 (中期)	集落跡
2	落館	中世	城館跡	31	本城遺跡	绳文	集落跡
3	館の内		館	32	中首遺跡	绳文	集落跡
4	東法田の館		館	33	米入遺跡	绳文	集落跡
5	新田遺跡	绳文	集落跡	34	まないた原遺跡	绳文 (中期)	集落跡
6	一本杉北遺跡	绳文	集落跡	35	橋の東遺跡	绳文	集落跡
7	高さず道路	绳文	集落跡	36	物見の橋	橋	橋
8	狐穴口遺跡	绳文	集落跡	37	月橋	橋	橋
9	志茂の手柄		館	38	赤館	館	館
10	山野神道跡	绳文	集落跡	39	要吉館	館	館
11	材木道跡	绳文	集落跡	40	平沢遺跡	绳文	集落跡
12	水の手橋		城館跡	41	かっぽ遺跡	绳文	集落跡
13	げんだいの遺跡	绳文・弥生前期	集落跡	42	大沢口遺跡	绳文・平安	集落跡
14	鶴移遺跡	绳文	集落跡	43	堅原遺跡	绳文	集落跡
15	戰沢遺跡	绳文	集落跡	44	長原遺跡	绳文	集落跡
16	太郎田館		館	45	富沢倒・富沢傾	室町	城館跡
17	平兵衛館		館	46	氏家館		館
18	立石遺跡	绳文	集落跡	47	比丘尼館		館
19	小館		館	48	フン館		館
20	宮の下遺跡	绳文	集落跡	49	万騎の原遺跡	绳文	集落跡
21	森の越遺跡	绳文・平安	集落跡	50	野田遺跡	绳文	集落跡
22	愛宕前遺跡	平安	集落跡	51	小松原 a 遺跡	绳文	集落跡
23	水上遺跡	绳文 (前期～晚期)	集落跡	52	古館		館
24	小国城		館	53	垂船		館
25	油子沢遺跡	绳文	集落跡	54	小松原 b 遺跡	绳文	集落跡
26	瀬見遺跡	绳文	集落跡	55	荒沢遺跡	绳文	集落跡
27	堀の堀		館	56	へそ岩遺跡	绳文	集落跡
28	水木田遺跡	绳文	集落跡	57	音の平遺跡	绳文	集落跡
29	曾植		柏	58	屋敷平遺跡	绳文	集落跡

からは遺跡が姿を消し、合流点から2～3km遡った鳥出川・網出川・白川・大横川沿いの河成段丘上に有力遺跡の規則的な配置が認められる。即ち鳥出川には油子沢遺跡（25）、網出川沿いには材木遺跡（11）と水上遺跡（23）、白川沿いにはげんだい遺跡（13）、大横川沿いには孤穴口遺跡（8）と高さず遺跡（7）であるが、少なくとも大洞B C～C 2式までは併存形態が存していたと推定される。それぞれの河川沿いに生活領域が形成されていたのか、資源の消費を適正規模に押さえるための移動の結果であったのかは判然としないが、興味深い遺跡分布の在り方である。

げんだい遺跡 弥生時代では、げんだい遺跡（13）で弥生時代前期の甕や鉢の小片が報告されている。細片のみで詳細は判然としないが、報告の通りとすれば向町盆地では唯一の資料であり、継続期間の長い遺跡であったと想定される。なお報告書の中で弥生土器として報告された完形の甕と蓋形土器については大洞C 2～A式に帰属するものであり、訂正を要する。また立小路地内からは弥生時代と推定される石鉈が採集されている。

上記のように、狭小な盆地ではあるが縄文時代の中期から晩期にかけては多くの遺跡が知られている。向町盆地が繁栄を極めた背景には、小国川の水産資源と背後に聳える山々の資源に恵まれていた点が挙げられるが、宮城県方面との中継地点としての役割も無視できない要因であったと思われる。しかし弥生時代から平安時代までは遺跡が途切れているのは、当該域が冷害の影響を受けやすい地理的条件により水稻耕作などの新たな生業形態には適さなかったためと推察される。

III 遺跡の概要

1 基本層序

調査区の西半部は隣接する山の裾部分である。調査前の現状が畠地ということもあり、大きな削平を受けず遺物包含層・遺構とも遺存状態は良好だった。ただしその西半部でも北端部と南端部は遺物・遺構とも確認できたのはわずかであった。つまり、北端・南端の遺構・遺物の希薄な部分が遺跡の範囲を示しているものと考えられる。また、西半部の南側の調査区外は大きく削平されており水田になっている。遺跡の範囲

東半部も本来は鳥出川に向かいながら傾斜する山裾であったはずだが、現状は水田であり、すでに一度削平を受けている状態であった。ここには南流する旧河道 S G21 が存在しており、多くの遺物を出土した。基本層序はこの旧河道 S G21 の北端と南端を含む調査区壁面（第14図 旧河道 S G21 断面図 b - b' および第19図 旧河道 S G21 断面図 h - h'）で確認した。

調査区は遺跡の範囲を確認しながら一部拡張したが、東半部の北側・東側・南側ともやはり削平を受けている状態であり、遺構・遺物ともほとんど確認できなかった。

地山の状態は遺構のない69 - 58グリッド部分にトレチアを設定して確認した（第13図 旧河道 S G21 基本層序）。断面図によると西側に向かいながら傾斜している状況が確認できる。第四紀更新世から完新世の半固結堆積物、一層にあたる（山野井1998）。このトレチアから遺物の出土はない。

2 遺構と遺物の分布

遺構は調査区西半部で竪穴住居、掘立柱建物、土坑、ピットなどが多く確認された。調査前の現状が畠地で遺存状態が良い部分にあたる。遺物も遺物包含層から相当量出土した。遺構からの出土は少ないが、竪穴住居 S T 3・4などの遺存状態の良い遺構からは比較的多く出土している。

調査区東半部は、その面積の半分ほどが旧河道 S G21 にあたる。掲載した遺物総数984点中572点がこの遺構から出土したものである。旧河道 S G21 の埋没前および埋没過程で廃棄されたと考えられる出土状態のものと、埋没後に掘り込まれた遺構内から出土したと考えられるものがある。ただし、埋没後に掘り込まれた遺構を認識するのは、土色などの差異が不明瞭なため困難であり、旧河道 S G21 上で遺構を検出することは、一部を除いて行わなかった。

572/984

調査区全体で倒木痕と考えられる遺構が多く確認された。遺物包含層中の遺物を多く含んでいるため、調査の対象にしたが、記録などは掲載しない。削平を受け、遺物包含層が確認できなかつた地点においても、倒木痕の中からは黒色シルトと遺物を確認することができた。削平を受けなければ、さらに多くの遺構・遺物が存在したことを裏付けるものである。

IV 遺構

検出した遺構は数知れないがその中でも重要なものを報告する。文章中で遺構の時期を表示する目安として、次章で示した土器分類を用いて記述している。詳しくは次章を参照されたい。

1 壊穴住居

確認できた壊穴住居はS T 2・3・4・7・9・19・1004の7棟である。遺構実測図では、ほかにも壁柱穴のみが円形に残る壊穴住居が多く見受けられる。おそらくこれらも掘り込みの浅い壊穴住居の残存部なのであろうが、遺存状態が悪く、詳細な調査はできなかった。

S T 2 (第20図) 掘り込みは浅く深いところでも15cm程度だが、明確に円形のプランが確認された。規模は直径3.9m。主柱穴は明確ではないが、可能性のあるものをエレベーション図に示した。土器埋設炉E L266を有する。埋設された土器1は深鉢の底部のみの資料である。ほかの出土遺物は覆土からのものであるが、V群とした加曾利B 2式併行期の土器2が最新である。

S T 3 (第21図) 遺存状況の良好な円形の壊穴住居で、深さは50cmを測る。規模は直径4.8m。中央に地床炉E L212を有する。この地床炉を挟んだ位置に柱穴が認められる。覆土内からは多くの遺物が出土したが、V群の遺物が最も新しく、主体を占める。

S T 4 (第22・23図) 第22図には床面での検出状況を示した。直径6.6mの遺存状況の良好な円形の壊穴住居で、深さは60cmを測る。中央に地床炉E L311をもつ。地床炉の周囲には炭が分布する。貼床は黄褐色粘質土で厚さ10~25mm、床面全面に認められる。床面から出土した土器15・16はV群である。覆土内出土の土器もV群主体である。

東側に入口施設 第23図には貼床を除去した掘方の完掘状況を図示した。入口が東側に設けられている。住居の北半部は壁柱穴が二重に巡ることから、一度拡張を行ったと考えられる。断面d-d' とe-e' に主柱穴と入口施設の柱穴のエレベーション図を示した。e-e' の柱穴は規模が小さい。柱穴S P290からはIV群の鉢18が、入口施設の柱穴S P430からはV群の深鉢17が出土した。

S T 7 (第24図) 旧河道 S G21の西岸で検出した。S G21埋没後に構築された住居である。円形を呈し、残存部は浅い。規模は3.5mである。地床炉E L8をもつ。床面からV群の深鉢32が出土した。断面図では壁柱穴は見られるが、主柱穴は判然としない。

S T 9 (第25図) 残存部は浅く、円形を呈する。直径は4.2mを測る。中央部を土坑に切られており、炉跡は確認されなかった。主柱穴はS P296・298・675と断面b-b' に見られる19~22層であると考えられる。壁柱穴も認められる。

覆土からは、図示していないがV群の48に類似した連続する弧線文を施す土器片が出土している。

S T 19 (第26図) 同じく遺存状態が良くない円形の住居。北西側にわずかに掘り込みが残るのみである。主柱穴の可能性を持つものをエレベーション図に示したが、判然としない。炉跡も確認されない。遺物はIV群の土器33のほかに図示していないV群の土器片がある。

S T1004 (第27図) 削平により西半部を失った堅穴住居。プランは方形と見られるが、明瞭でない。中央部に地床炉 E L649がある。断面 b - b' の住居の掘方と考えられる4層からは819～826を始めとする69点の剥片が一括して出土した。土器はV群の34などが覆土から出土した。埋納された剥片

2 地床炉 (第28・29図)

E L6・22・29・31・34・534・535・536・579・584・588・613の単独で検出した地床炉をまとめた。周囲では住居を確認できなかった。また屋外炉の可能性もある。E L6は大型の地床炉である。4層は炉以前の土坑。隣接する配石遺構 S X36は奉大の石を並べたものである。互いの関連性については不明である。ほかの地床炉についても規模はさまざまであるが、周開が強く熱を受け赤化しているものである。

3 埋設土器遺構 (29図)

E U27とE U509の2基を検出した。いずれもピットに土器を正位に埋設したものと考えられるが、土器37・38とも大きく欠損しているため時期的な特徴はつかめない。

4 立石遺構 (29図)

S P336とS P482の2基を検出した。ピットに棒状の石を埋設し立てたものである。石自体に加工は施されないが、石棒としての性格を持つものと考えられる。S P482からはV群の土器48が出土している。

5 掘立柱建物

検出した7棟は、いずれも6基の柱穴を六角形に配置する。柱穴はほかにも多数検出しており、棟数はさらに多いはずだが、実際に組むことができたのはここに記載するものだけである。柱穴底面の柱が載った部分は白色粘土化しており、明確な柱位置を確認できるもの多かつた。柱間は桁行・梁行ともにすべて一間である。建物内部の施設・構造に関する遺構は検出されなかつた。

S B1006・1008を構成する柱穴は、ほかの掘立柱建物の柱穴に比べ明らかに小さい。柱間はやや短いが、大きな違いではない。建物の重量が柱の太さなどに影響するすれば、建物の高さ、あるいは構造が複数タイプ存在したものと考えられる。

S B15 (第30・31図) 柱穴 S P128・214・142・201・203・211から成る。柱間は桁行4.1m、梁行3.8m、棟持柱¹⁰どうして6.6mである。建物の方位は北で西に70度50分14秒振れる。柱穴底面の高さは一定ではない。柱痕跡の径は25～35cmである。S P203からIV群の土器39が出土している。S P202・214では柱の抜取が認められる。S P198・206・143・202は建物を構成できなかつた柱穴である。

S B16 (第32図) 柱穴 S P167・164・112・113・330・671から成る。柱間は桁行3.7m、梁行3.3m、棟持柱で5.5mである。方位は北で西に72度37分15秒振れる。柱穴底面の高さは一定ではない。柱痕跡の径は15～25cmである。S P112からIV群の土器40が出土している。S P108・204は柱位置がS B16とは合わず、建物を構成できなかつた柱穴である。

S B17 (第33図) 柱穴 S P 179・180・171・104・406・199から成る。柱間は桁行3.8m、梁行4m、棟持柱間で6.6mである。方位は北で西に64度44分31秒振れる。柱穴底面の高さは一定ではない。柱痕跡の径は10~30cmである。S P 199から注口土器の注口部41が出土するが、時期的な特徴に欠ける。

S B18 (第34図) 柱穴 S P 151・307・149・148・672・360から成る。柱間は桁行4.1m、梁行4.2m、棟持柱間で7mである。方位は北で東に54度57分49秒振れる。柱穴底面の高さはほぼ一定である。S P 672では白色粘土化した柱痕跡が2ヶ所確認された。柱を付け替えたのか、あるいは別の建物の柱穴であろうか。柱痕跡の径は20~35cmである。時期的な特徴を表す遺物は出土していない。

S B106 (第35図) 柱穴 S P 663・658・659・660・661・662から成る。柱間は桁行3.5m、梁行3.1m、棟持柱間で4.6mである。方位は北で西に70度29分15秒振れる。柱穴底面の高さは棟持柱がほかに比して低い。時期的な特徴を表す遺物は出土していない。

S B107 (第36図) 柱穴 S P 624・551・561・580・642・318から成る。柱間は桁行2.8m、梁行3.2m、棟持柱間で5.4mである。方位は北で西に11度8分57秒振れる。柱穴底面の高さはほぼ一定である。S P 561からIV群の鉢42が出土する。

S B108 (第36図) 柱穴 S P 628・631・629・630・619・617から成る。柱間は桁行3m、梁行2.6m、棟持柱間で5.9mである。方位は北で西に29度22分27秒振れる。柱穴底面の高さはS P 630がほかよりやや低い。S P 619からIII群の深鉢43が出土する。

6 配石遺構S X25 (第37図)

堅穴住居S T 4に隣接して検出された配石遺構である。住居の入口施設の上層に構築されたものであり、住居と直接的な関わりはない。人頭大の石を同心円状に配する。北端、東端部分は擾乱されており、本来の規模、形態は分からぬ。中央部のみ石が配されていないが、断面図に示したように本来立石として立てられていた石が、倒れたためとも考えられる。配された石の一部は石皿・凹石などの石器を利用している。IV群の深鉢49が出土しているが、S T 4との前後関係から、混入によるものと考えられる。

7 土 坑 (第37図~42図)

円形のものについては貯蔵穴であると考えられる。調査区全域から検出された。墓壙と見られるような土坑は検出されなかった。

第37図 S K39・42・47・49は長方形を呈する土坑。S K39は大型で長軸2.5m、短軸2.2m、深さ0.5mを測る。

第38・39図に示した土坑は平面形が円形で、断面形が開口部より内部が大きいラスコ状を呈しており、貯蔵穴と考えられる一群である。覆土には炭・焼土・地山土・礫・土器・石器などが廃棄されることが多い。S K230ではV群の深鉢が、S K232では粗製深鉢が一括して廃棄されている。

第40図には平面形が円形で、断面形が円筒形の土坑を示した。ラスコ状土坑の上半部が崩落し円筒形になったものも含まれる。S K424には内部に多数の石が、S K648には板状石が

廃棄されていた。

第41図・第42図 S K635までは削平により、断面形がフラスコ状とも円筒形とも判別できないものである。平面形は円形を呈す。S K41ではII群の土器50~52が底面に敷き詰められた状態で出土した。S K64ではV群の土器45・46、S K511ではIV群の特徴を有する土器76~78が一括して出土した。

第42図 S K508は丸底の土坑、S K103は陥穴であり、底面に逆茂木を立てたピットが見られる。S K103は位置的にも調査区の北端、集落の本体より外れている山裾部分で検出された。

8 柱 穴 (第43・44図)

ここで述べる柱穴は、堅穴住居、あるいは掘立柱建物などの柱穴なのであろうが、実際にそれらの遺構の要素としては確認されなかつたものである。いずれの柱穴も断面で柱痕と掘方が判別できたものである。また、S P92・95・96・99・107・141・190・334・559では底面に白色粘土化した柱の痕跡が確認された。S P190では石皿942が、あたかも礎石のように柱痕の下で出土した。

9 旧河道 S G21 (第13~19図)

調査区の東、約100mに南流する鳥出川の旧河道と考えられる。現在は幅約20mの小河川で、両岸をコンクリートで護岸されている。調査区内で検出された旧河道 S G21では、砂や礎などの河川堆積物が一時的に層を形成することもあるが、覆土は主に黒色シルトの自然堆積による。S G21の幅は最大で約28mを測るが、地山面での幅であり、実際の川幅を表すものではない。また、常に一定の幅で河道が存在するのではなく、幾度も流れを変えた後の姿である。概して浅く、河川堆積物も顕著ではないことから、鳥出川が何度も流れを変えた際の一つの河道、つまり氾濫原と考えられる。第1図調査区概要図の等高線が示すように、遺跡は西側の山裾からの傾斜地に営まれたので、S G21の埋没も山側からの土砂などの流入によって西側から始まったものと考えられる。

S G21からは多くの遺物が出土している。中期の遺物については70~30グリッド付近から一括して出土している。ほかの地点でわずかに出土する中期の遺物を含めて、ほぼすべて S G21 の東岸から、しかも地山付近で出土している。中期段階での S G21 はまだ埋没しておらず、河道として一時的に水が流れることもあったものと考えられる。

後期段階の遺物は S G21 の今域から出土する。この段階ですでに S G21 が完全に埋没しているかどうか確認できないが、埋没後に掘り込まれた遺構もベルトの断面で多数検出している。第15図 d - d' の2層・17~22層のフラスコ状土坑、第16図 e - e' の13~19層の堅穴住居、第17図 f - f' の20~25層の堅穴住居、第24図堅穴住居 S T 7などである。これらは覆土が黒色シルトの、埋没した S G21 に掘り込まれた遺構であり、平面的に掘り下げるなどの調査は行わなかった。

S G21全体も覆土を分層して調査はしたもの、埋没後に掘り込まれた遺構が多数あるため、覆土がすでに擾乱された状態であった。上下層での遺物の時期的な差も中期の遺物を除いては認められなかった。

埋没後は生活面

V 遺 物

出土した遺物はコンテナ（55×39×14cm）で467箱を数える。石器が100箱、ほかは縄文土器である。数点の近世陶磁器片も出土した。報告するのは縄文土器が548点、土偶19点、耳飾1点、土鍤1点、スタンプ状土製品1点、円盤状土製品31点、そのほかの土製品が3点、石器は360点である。縄文土器については遺構ごとに掲載したが、そのほかの遺物については遺物の種類ごとにまとめて掲載する。出土地点については観察表を参照されたい。

1 縄文土器

出土した縄文土器の属する時期は中期中葉、後期前葉・中葉のものがあるが、主体は後期である。ほかは後期後葉に属する土器の破片が2点のみである。実測図は、遺構出土の土器を447点、遺物包含層出土の土器を93点、出土地点不明の土器を8点掲載した。以下この順で内容を記す。実測図は、各遺構ごとに掲載した。旧河道S G21出土の315点は数が多いため、土器の特徴により時期的な分類を行った順で掲載している。遺物包含層出土の土器も同様である。出土地点不明の土器は最後にまとめた。

土器の分類

土器の分類は次のように行った（第45回土器分類図）。

- I群 中期中葉の土器群（大木8a式）。
- II群 後期前葉、関東地方における堀之内1式に併行する土器群、南境1式²。
- III群 後期前葉、堀之内2式に併行する土器群、南境2式。
- IV群 後期中葉、加曾利B1式に併行する土器群、宝ヶ峯1式。
- V群 後期中葉、加曾利B2式に併行する土器群、宝ヶ峯2式。
- VI群 無文土器、時期的な分類が困難なため文様をもたない土器を一括した。
- VII群 粗製土器、時期的な分類が困難なため縄文、条線文のみが施された土器を一括した。
- VIII群 そのほか上記の分類にあてはまらない土器、後期後葉の土器など。

A 遺構出土の土器

i 積穴住居出土の土器（第46・47回）

積穴住居S T 2（1～3） 1は土器埋設炉E L266に埋設された深鉢の底部付近。文様、底部圧痕とも認められない。強く被熱している。2は波状口縁深鉢の口縁部で縄文帯の太さからV群、3は平口縁深鉢の口縁部、平行沈線が施される、IV群。

積穴住居S T 3（4～14） 4は口縁部に無文帯、低く幅の広い隆带上に縄文を施す。体部には磨消縄文により上下が大きく噛み合う弧状文が施される、V群。5は平口縁、6は4単位波状口縁の深鉢、両者とも平行沈線が施されるが、6は口縁部の無文帯が広がり、文様は体部まで下る、IV群。7は平口縁に小突起のつく深鉢、口縁部無文帯の下に隆帯をもつ、V群。8は無文の鉢。9も3と同様の深鉢。10・11は注口土器の注口部と口縁部、V群。12は頸部の長い壺、13・14は粗製土器とした。

堅穴住居 S T 4 (15~29) 床面と柱穴から遺物が出土しており、遺構の年代をつかむ重要な手がかりとなる。15・16が床面出土の土器、共にV群。15は台付深鉢の体部下半、17・21も同様の器形の破片。16は鉢、口縁部に平行沈線と列点状の刺突文、体部の弧線文にも刺突文が沿う。17が柱穴 S P430出土の深鉢。18は柱穴 S P290出土の鉢、IV群。19は口縁部が内側に屈曲する平口縁の浅鉢、馬鞍状の突起は第98図504と類似する。口縁部の屈曲部には斜沈線が施され、V群。20は薄手の鉢、口縁部内面に沈線、外面上には幅広の縄文帯、V群。21は3単位波状口縁台付深鉢、波頂部に発達した装飾部が付属するが、欠損している、V群。22と25はV群の注口土器、22は粗製深鉢で密着した状態で覆土から出土した。23は小型盃、胴部には磨消縄文の波状文が施される、V群。24は直線的な沈線による渦巻文が施された平口縁の深鉢、V群。26は小型無文の鉢、27は同じく浅鉢。28は撚糸文Rを口縁部には横位に、体部には斜位に施文した粗製深鉢。

床面出土の土器

この住居から出土した土器は覆土・床面にかかわらずV群の土器が主体を占めている。18はほかの土器より古い特徴をもつが、柱穴出土であり、埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

堅穴住居 S T 7 (30~32) 32が床面から出土している。加曾利B2式に特徴的な器形の3単位波状口縁深鉢、波頂部には装飾が付くが欠損している。口縁部の無文帯は広がり、平行沈線が胴部に施される。平行沈線上にはC字文、逆C字文が施される。また口縁部は肥厚し内湾する。

床面出土の土器

30はIV群の平行沈線を施す鉢、31はボウル形の浅鉢、波状口縁の波頂部の口唇部にはS字状の貼付文が付く。IV群とした。

堅穴住居 S T 19 (33) 波状口縁の波頂部の左側には1点の刺突が施されている、IV群。ほかに図示していないが、前掲21と同様の口縁部の破片資料が出土している。

堅穴住居 S T 1004 (34~36) S T 1004からは3点の破片資料を図示した。34は幅広の縄文帯をもつ平口縁深鉢、V群。36は内面に平行沈線を施された浅鉢、IV群。

ii 埋設土器遺構出土の土器（第48図）

2点出土した。E U27出土の37は底部付近のみの資料、網代痕をもつ。E U509出土の38は体部下半の資料、底部は木葉痕。両者ともに正位で埋設されたため、残存部以上は削平を受け欠損している。

iii 挿立柱建物出土の土器（第48図）

挿立柱建物 S B15の柱穴 S P203から出土した小型の盃39はIV群。S B16の柱穴 S P112出土の40は波状口縁で平行沈線の施される深鉢、体部が細く口縁部が大きく開く器形、IV群。41はS B17の柱穴 S P199出土の注口土器の注口部。S B1007の柱穴 S P561出土の42は平口縁で体部の文様は弧状の磨消縄文だが、小破片でしかも外側の剥離も著しい。ここでは入組文の可能性を想定しIV群に含める。43はⅢ群の深鉢、S B1008の柱穴 S P619出土。東北地方北部の土器型式である十腰内1式の深鉢に類似する器形と文様である。

iv 立石遺構出土の土器（第49図）

立石遺構ではS P482出土の土器48を図示した。4単位の波状口縁深鉢で、頸部でくびれる器形をもつ。文様は頸部に連続する弧線文を、体部に平行沈線を施す、V群。

v 配石遺構出土の土器（第49図）

S X25出土の49を図示する。5条の平行沈線が口縁部に施される波状口縁深鉢、IV群。

vi 土坑出土の土器（第48～52図）

S K40 (44) 口縁部が内側に屈曲するIV群の浅鉢、口縁部後線直上に沈線が1条、口唇部に連続する刻目が施される。外面とも丁寧に磨かれており光沢を有する。

II群の一括資料

S K41 (50～52) S K41からはII群の土器3点を図示した。50は頸部がくびれ、胴部が膨らむ器形で、口縁部は平口縁だが、橋状把手が付く部分のみ緩やかな波状を呈す。また、把手の接合部分などに円形刺突文が施される。51は同じく橋状把手をもち、頸部がくびれる器形だが、胴部は底部へ向かい直線的にそぼむ。口縁部は無文、その下に隆線に連続する刺突を施す鎖状隆線文をもつ。地文は撚糸文R、体部には連続するS字文と縱位に弧状の磨消繩文が施される。52も撚糸文Rを地文とする4単位波状口縁深鉢である。胴部には磨消繩文によるJ字文が施され、また隣の単位の文様はS字連鎖文である。

S K63 (47) 頸部にくびれをもつ粗製土器の深鉢である。くびれ部分のみ地文が磨り消されている。

S K64 (45・46) 45は台部のみの資料であり、器部分は欠損している。繩文のみ施される。46は頸部が緩やかにくびれる平口縁の深鉢、幅広の繩文帯が2本認められる。共にV群。

S K65 (53・54) 53は小型の粗製深鉢。54は口縁部に沈線と連続する刺突が施文される。おそらく壺の口縁部であろう、V群。

V群の一括資料

S K230 (55～57) 55は平口縁の深鉢、頸部にくびれる。くびれ部の沈線を境に上下に文様帯をもち、いわゆる波状入組文が施される。上段の文様は簡略化され、下段の波状入組文が2条で構成されるのに対し、1条の沈線で施文されている。56は内外面に赤色顔料が塗布された波状口縁深鉢の口縁部である。文様などの特徴から十腰内2式b類の台付深鉢の可能性が高い。57も十腰内2式b類に見られる台付深鉢と同様の土器の台部であろう。外面に塗布されているのは漆であると考えられる。56・57とも同じ器形の土器の破片であり、同じ造構からの出土でもあるので同一個体と推測することができる。つまり器部分は赤色顔料で、台部は漆で黒く彩られたと考えることもできるが、残念ながら資料はこの2点だけであり断定できない。3点ともV群。

S K232 (58～60) 3点とも小型の粗製深鉢、60の大きく開く口縁部は無文。

S K233 61は波状口縁の深鉢、口縁部無文、平行する沈線とその間に連続する刺突が施される。最上段の沈線には繩の側面圧痕が沿う。

S K247 (62) II群の小型深鉢の口縁部、波状口縁の波頂部には3条の櫛齒条線によるS字文が施される。

S K251 (63) 地文のみの壺。図は体部上半と底部から図上復元したものである。

S K252 (64) 直線的に外傾する平口縁の深鉢、55に近いが、上段はV字状文、下段は波状文になる、V群。

S K258 (65) 孔が開く浅鉢の口縁部。口唇部に跨る隆線をもつ。さらに口唇部から口縁部内面にかけて矢羽状の刻目が施される。

S K271 (66・67) 66はいわゆる宝ヶ峯型注口土器の破片資料。文様の全体像は不明だが、

半肉彫的手法により曲線文様が施される。外面は丁寧に研磨仕上げされ、黒色で光沢を有する、V群。

S K308 (68・69) 68は口縁部が無文で幅広の縄文帯をもつV群の深鉢。69は口縁部に平行沈線をもつIV群の深鉢。

S K361 (70) 口縁部にコの字状の文様が施された波状口縁深鉢、V群。

S K416 (71・72) 71は壺の口縁部。72は口縁部が強く屈曲し外反するIV群の波状口縁深鉢。波頂部は小突起状で内面に沈線が施文される。外面の口縁部には半截竹管状の工具による刺突文が連続する。

S K426 (73) V群の壺、頸部以上を欠損している。胴上半部の文様は55・64などに間連を有する曲線文様で構成される。また、胴上半部の内面には輪積痕が明瞭に残されており、粘土 明瞭な輪積痕組を1本ずつ積み上げた様子が確認できる(写真図版30参照)。

S K488 (74) 刷毛目状の条線文が施される粗製土器の口縁部。口縁部の内側にも沈線が1条施文される。外面の口縁部は無文で、横位の沈線以下が縦位の条線文である。

S K502 (75) III群の壺の体部である。3条の沈線による波状入組文が施される。

S K511 (76~78) 76は口縁部が強く外反する波状口縁深鉢、IV群。口縁部には多条沈線、体部には同じく多条沈線によるZ字文、連続刺突文が施される。77は76と同様の器形の粗製土器、口縁部のみ無文。78は77と同様に無文の口縁部をもつが体部が膨らむ器形である。

S K516 (79) 壺の口縁部のみである。口端は無文帯を有する。

S K614 (80~84) 80は平口縁深鉢、文様は64に近い、V群。81は胴上半部に平行沈線を施文する波状口縁深鉢、IV群。口縁部は無文、補修孔が2ヶ所開いている。82も64・80と同様の器形と文様をもつ、V群。83の波頂部は欠損のため明らかではないが、装飾突起が付くものと考えられる。器形は直線的に外傾する波状口縁深鉢、胴上半部と下半部と文様帯が二つに分かれる。上半部の複雑な曲線文には連続刺突文が沿う。十腰内2式b類の台付深鉢に類するものである、V群。84も上下に2段の文様帯をもつ小型の平口縁深鉢。地文はなく2~4条の沈線のみの施文である。

S K627 (85) 緩やかな波状口縁と頸部でくびれる器形の粗製深鉢。頸部の屈曲部のみ縄文が磨り消される。

vii 柱穴・ピット出土の土器 (第52~54図)

S P144 (89) くびれをもつ粗製深鉢で、頸部の屈曲部のみ縄文が磨り消される。

S P156 (88) 無文の鉢。器形は8に近いが、体部の立ち上がりはやや急である。

S P174 (88) 平口縁、頸部のくびれる粗製深鉢。

S P217 (87) 緩やかな波状口縁深鉢の口縁部。口縁部の凹線、刺突などはII群の特徴である。

S P219 (90) 体上半部に平行沈線が施文された波状口縁深鉢、IV群。

S P221 (98・99) 98は頸部が強く外反し、波頂部が鋭く伸びる6単位の波状口縁深鉢である。内2単位の波頂部は小突起が付き、内外面に肥厚する器形。補修孔が2ヶ所開く。文様は頸部に波状の磨消縄文、体部には上下に噛み合う弧線文が施される、V群。99は口縁部の小破片、波状口縁の粗製土器である。波頂部の内面に沈線が施される。

- S P256 (91)** 小型の台付深鉢の底部から台部にかけての資料、V群。
- S P268 (92)** 沈線が口縁部直下に1条のみ施文された壺の口縁部。内外面とも磨かれ光沢をもつ。
- S P320 (93)** 76と同様の頸部の強い外反を特徴とする波状口縁深鉢である。文様も多条沈線と刺突で構成される、IV群。
- S P372 (94)** 口縁部が肥厚し、沈線が施される深鉢、IV群か。
- S P402 (95)** 台部の資料、器部分は不明だが、台が付くのはV群に見られる特徴である。
- S P434 (96)** 発達した波頂部の装飾部、32などの口縁部に付く、V群。器面は丁寧に磨かれ、焼成も良く堅緻である。
- S P438 (97)** 口縁部が強く外反する波状口縁深鉢、文様は沈線による、IV群。
- S P441 (100)** 台部のみ、細長い台である。外面は丁寧に磨かれる。
- S P462 (101)** 十巻内1式に近い器形と文様をもつ小型の深鉢、III群。
- S P468 (102)** 内傾する器形、壺あるいは注口土器の口縁部であろう、V群。
- S P542 (103)** 波頂部に断面菱形の装飾部をもつ波状口縁深鉢、口縁部には平行沈線が施文される、IV群。
- S P557 (104)** 口縁部に繩文を施し、頸部を無文とする波状口縁深鉢、V群か。
- S P660 (105)** 100と同様の器形だが、やや大きく、作りが粗い。外面には繩文が施される。
- S P666 (106)** III群の波状口縁深鉢。口縁部と体部に入組文が施される。
- 例木底と考えられるものが多い
- vii 性格不明遺構出土の土器（第54・55図）
- S X11 (107~112)** 107は口縁部が強く外反する波状口縁深鉢、この器形には口縁部に連続刺突を多段に施文するものと、多条沈線を施文するものがあるが、この土器はその両者を左右に分けて施文している。また、波頂部には小突起が付く、IV群。109は短沈線を連続したうえ、多段に施文する、IV群。111は片口土器の片口部、IV群。112は小型の壺、IV群に含める。
- S X24 (113)** 簡型の深鉢の胴部、上下に畠み合う弧線文を2段施す、V群。
- S X62 (114)** 体部上半に最大径をもつ壺、連続するS字文を3単位施す。体部下半にはS字文に対応して3単位の弧線文が配される、IV群。
- S X65 (115・116)** 2点とも口縁部が強く外反し、連続刺突文を施す、IV群。
- S X70 (117~119)** 117は93と同様の口縁部の破片資料だが、波頂部内面にも沈線が施文される、IV群。118は台部の資料、V群の深鉢に付くもの。外面は無文。119は鉢の口縁部。文様は82に近い、V群。
- S X139 (120)** 口縁部に平行沈線を施す平口縁深鉢、IV群。
- S X222 (121)** 頸部に文様帶をもつ壺。文様は3条の沈線による曲線化したクランク状文、III群。
- S X250 (122~125)** 122はV群の台付深鉢の波頂部の装飾部である。123は口縁部が内側に屈曲する小型の浅鉢、IV群。124は注口土器の注口部。125は口縁部に沈線が1条施文される鉢。
- S X253 (126・127)** 126はV群の深鉢、沈線とそれに沿う刺突からなる文様。127は波状文が施される鉢、V群。
- S X296 (128)** 口縁部が内側に屈曲する粗製の鉢。

S X587 (129・130) 129は体部に平行沈線を施す波状口縁深鉢、IV群。130は無文で口縁部直下がくびれ、段を有する浅鉢、台が付く器形と考えられる。

S X646 (131) 224や225の器形に近い、口縁部が強く外反する波状口縁深鉢、IV群。口縁部が短く、体部がやや丸みを帯びており、IV群でも占い部類であろう。

B 旧河道S G21 出土の土器

旧河道S G21の土器も本来は遺構出土の土器として前節に含めるべきであろうが、この遺構からは特に多くの土器を報告するため、新たに節を起した。

I 群 中期中葉 (第56~63図)

出土した绳文時代中期の上器は、大木8a式上器が中心である。特徴として、口縁部にS字状や橋状の立体制的な突起が付され、文様は、口縁部に、縦位の縄の側面圧痕、小波状の隆帶、刻目がしばしば用いられ、体部には沈線や無調整の隆帶・隆沈線により、曲折文や渦巻文などが施される。器種は、深鉢と浅鉢がある。以下に、器種・器形別に内容を述べる。

深鉢 (第56図132~第62図150) 132~140は、体部が外反気味か直線的に立ち上がり、口縁部が内湾気味に開く深鉢である。132は、口縁部に4単位のS字状突起が付き、体部に隆沈線の曲折文と渦巻文を組み合わせた文様が施される。133・137も同様の文様構成と思われる。134は、口縁上部に橋状の突起が付き、突起上に連続して刻目が入る。縦位の連続した縄の側面圧痕も施される。136も類似した文様構成をとる。口縁部にS字状突起を5つ配置し、突起の1つは大型になる。体部には、3本1単位の沈線により曲折文を施す。135は小型の深鉢で、口縁部にS字状突起が付き、体部に2単位の曲折文が大きく展開する。138・139・140は、口縁部に大型の突起が無く、縦位に縄の側面圧痕が連続して施される。138の体部には、3本1単位の沈線により、曲折文や懸垂文が施される。140は、縦の橋状の突起が4単位付く。

141~145は、体部が膨らみ頭部で屈曲し、口縁部が内湾気味に開く深鉢である。141は小型の深鉢で、口縁部に隆帶を貼り付けて加飾した突起がある。体部に3本沈線による懸垂文が施される。145も同様の器形と思われ、体部に沈線の文様がある。142は、口縁部に4単位の突起が付き、突起の外側には縦に橋状の突起が付く。内面には、隆帶の渦巻文がある。口縁上部には連続した刻目を施し、その下に、L R縄文を施す後、縦のL Rの側面圧痕を加える。体部には沈線による懸垂文がある。143は、口縁部にS字状突起が1つ付される。口唇部に連続して刻目が入る。144は大型の深鉢で、口縁部に隆帶貼り付けの渦巻文が3単位展開する。隆帶上に沿って、押圧縄文が施される。

146~148は、体部に膨らみをもち、口縁部がキャリバー形になる深鉢である。146は小型の深鉢で、口縁部に隆帶の波状文を配する。隆帶の両脇に沿って縄の側面圧痕が施される。147は、隆沈線文により渦巻文状の文様が施される。頭部との境に隆帶を貼り付け、その上に連続して指頭圧痕状の刺突文が施される。148は、口縁部に縦のS字状文と曲折文を組み合わせた文様を規則的に配する。

150は、体部が膨らみ口縁部がすぼまる深鉢である。口縁部は無文で、稜状の隆帶貼り付けの下に、L R L縄文が縦位に回転施文される。時期的に大木8a式よりも下る可能性がある。

浅鉢 (第62図151~第63図157) 151・152・156は、口縁部がキャリバー形になる。151は、口

大木8a式土器

縁部にS字状の突起と橋状の突起が付く。連続して縦位の縄の側面圧痕が施される。体部は無文である。152の口縁部には、陸沈線による満巻文が施される。156の口縁部には、満巻文と、半截竹管による連続した刺突文が施される。

153～155・157は、体部から口縁部にかけて直線的に開く器形である。153・154は同一個体である。波状口縁となり、波頂部にS字状の突起が付く。口唇部に連続して角押文が施され、体部に3本沈線の満巻文がある。155は、口縁部に連続した刺突文を施す。体部は無文で、内外面にミガキが施される。157は楕円形を呈する浅鉢で、口縁部に波状の隆帯を貼り付け、その中に4単位のS字状の突起を配する。

南境1式土器 II群 堀之内1式に併行する土器群（第64図158～165）

深鉢（158～162・164・165） 口縁部に1条の凹線と体部に複数条からなる弧状や楕円形の沈線を施す土器群。160は口縁部に刺突が行われる。161は口縁部に段をもつ器形で、頭部を無文としている。164は肥厚する口唇部に沈線を施す。地文は撚糸文Rのほかに縄文も用いられる。

鉢（163） 深鉢と同じ口縁部に凹線と、体部に多条沈線による楕円形文をもつ。

南境2式土器 III群 堀之内2式に併行する土器群（第64図166～第69図222）

深鉢（166～212） 口縁部を欠損する資料以外では、166と212以外すべて波状口縁である。単位は4から6単位のものがある。体部は膨らみをもち、頭部がくびれ口縁部が外反する器形が多い。208はくびれをもたず口縁部が内湾する。209～212は直線的な立ち上がりを有する。

文様は多種多様であるが、基本的に3条の沈線により施文される。また、II群土器のように文様が縦位に展開するのではなく、横位に展開する。176～180・197・207は波頂部が小突起状になり、突起部分を巡るリング状の沈線が施される。これらはIV群土器に多く見られる特徴の一つであり、III群の中でも新しい部類にはいる。また、沈線と沈線の接点に刺突が加えられる土器が多いが、192と193のようにはぼ同じ器形・文様の土器でも刺突が行われるものと行われないものがある。199は体部下半の資料であり、III群かIV群か判然としないが、内面に漆と見られるものが付着しているので図示した。

浅鉢（213・214） 213は3単位の環状の突起が付く。口縁部内面に沈線、突起部分の内面には同心円文が施される。地文はなく、外面も無文である。214は内外面とともに無文、耳状の突起が付く。

壺（215～222） 215～218は小型で頭部の細い壺。180の深鉢などと同様の3条の沈線を基本とする入組文が施される。219～222は大型の壺、文様はやはり深鉢と同様である。

宝ヶ峯1式土器 IV群 加曾利B1式に併行する土器群（第70図223～第77図306）

深鉢（223～276） 2種類の系統が見られる。223～266まではIII群の深鉢の系統を継ぐが、267～276は加曾利B1式の深鉢に類似する土器群である。

223～266の土器はIII群に比べ口縁部の屈曲が強く、屈曲部の内面には明確な稜が見られる。また、文様もIII群が3条の沈線を基本とするのに対し、2条で施文されるものが多くなる。しかし、230・235・239・240などの体部文様は、多条の沈線を用い、2ないし3条で表される撚文帯と同様の文様構成を示している。

口縁部の文様では連続刺突を多段に施文するものや、多条沈線を施文するものなどがある。また、その両者を同時に施文する243などの土器もある。やはり波状口縁が多く単位数は3單

位か 6 単位が多くを占める。253～266は 3 単位の波状口縁が多い。波頂部の内面にも沈線が施文されるものや、小突起状になるものもある。

267～276は加曾利 B 1 式に類似する深鉢である。267は耳状の突起をもち、IV群でも古い部類に相当する。いずれも平行沈線を口縁部、あるいは体部にもつものである。269・270のようにやや発達した装飾をもつものも出現する。273～275は口縁部が無文で体部に平行沈線が施されるものである。276は内面にも平行沈線が施される。

鉢 (277～280) 器形はそれぞれだが、文様は平行沈線を施す。280はボール形の鉢。

浅鉢 (281～290) 289・290以外は内面に文様をもつ浅鉢である。281～284・289は口縁部が内側に屈曲する。内面の文様は連続刺突文と平行沈線で構成されるか、あるいはそのどちらかのみである。281は 4 単位波状口縁で、内面の平行沈線間に刻目で充填している。289は外側の口縁部に罫文を施すのみである。281・282には補修孔が開く。290は外側の口縁部に平行沈線を施文する浅鉢、3 単位波状口縁である。

壺 (291～301) 大型 (291～295・297・301) と小型 (296・298～300) のものがある。文様は深鉢と同様のもので、2 条の沈線で施文される。295の文様は 333 に近く、V 群の可能性がある。296の上下に囁み合う弧線文は V 群の 98 などに見られる文様であり、IV 群でも新しい部類に入る。298～300は文様では時期判別できないが、III 群の壺に比べて、IV 群の壺は最大径をもつ部分が下りてくる傾向があるため本群に含めた。

片口土器 (302～304) 口縁部の波頂部の一端が片口となる。ほかの波頂部は小突起が付く。文様は多条沈線と、沈線間に刺突を充填する構成である。303は片口部、304は頸部以下の資料だが、器形からここに含める。

注口土器 (305・306) 加曾利 B 1 式に見られる注口土器の突起部 (305) と口縁部 (306)。

V 群 加曾利 B 2 式に併行する土器群 (第78図307～第81図322)

宝ヶ峯 2 式土器

深鉢 (307～347) 4 種類の器形に大別できる。307・308は III 群の深鉢の系統を継ぐ。器形は異なるが 98 や 500 などの V 群の深鉢と同様に頸部に無文帯をもつ。307は 5 単位、308は 6 単位の波状口縁である。

309～318は同じく III 群の深鉢に連続するものだが、中でも IV 群の 253～266 の鋭利で内面にも沈線を施文し小突起状になる波頂部をもつ土器群が、もっとも近い。旧河道 S G21 からは破片資料のみだが、98 や 500 がこれらの典型である。

319～337は十櫻内 2 式 b 類の台付深鉢として知られる土器に類するものである。口縁部は 3 単位の波状口縁になることが多い。333は平口縁だが、504 のように 3 単位の突起が付く可能性がある。また、幅広の波頂部にはさらに発達した装飾部が載ることがある (319～323)。文様は沈線文と連続刺突文で表されることが多く、体部のくびれ部分を境に上下 2 段に文様帯を構成する。326は内外面に漆が塗布されている。336・337は台脚。

338～347は加曾利 B 2 式に類する土器。338・339は 32 と同様の土器である。339には赤色顔料が塗布されている。口縁部は無文で、体部に刻目を施した蔭帯を付すものもある (344)。345・346 のように体部に膨らみをもつ器形もこの段階で見られるようになる。341の平行沈線間には罫文が施されるが、一部罫文が不明瞭な部分に格子目状の細沈線を施している。罫文に擬していいるのだろうか。

鉢 (348・349) 348は口縁部が内湾し、文様は連続する弧線文を施す。349は直線的に外傾する器形にS字文を施す。

壺 (350・351) 350は体部が球形を呈す。文様は308同様で、幅広の縄文帯と無文帯からなる。縄文は2段LRとRLの異種原体を充填し羽状とする。351は口縁部のみであるが、幅広の縄文帯をもつてここに含めた。IV群の可能性もある。

注口土器 (352～356) 352の文様は半肉彫的手法による。355・356はこの時期に特徴的な壺形注口土器の底部で、356は非常に大きな注口土器になる。

台付浅鉢 (357) 3単位の波状口縁の浅鉢が載る、燭台形の土器。

台部・脚部 (358～362) いずれも本体部分は不明だが、台や脚が付くのはV群に見られる特徴であるため本群に含めた。358～360は小型の台部のみの資料、鉢か浅鉢が載ったのだろう。358には台部とわずかに残る体部に沈線が施されている。360の台部にも沈線が施される。361・362は高杯の脚状の土器、中実である。

V群 無文土器 (第82図363～第83図390)

文様をもたない土器を一括した。複数の時期の土器が混在している。器形からおおよその時期が判別できるだろうが、ここでは器種ごとに報告することとした。

深鉢 (363～373) 363～365はIII群の深鉢に見られる器形である。366は口縁部を折り返している。367～370はIV群の深鉢に近い器形。371～373はV群の深鉢に近い器形。373の外面には器面の調整に使用したと見られる工具の痕跡が条線文のように残る。

鉢 (374～381) 374・375は口縁部がわずかにくびれる。377の口唇部には刻目を施し、さらに短い隆線が付される。379は孔を境に左右で口縁部の高さが異なる。380は3単位波状口縁の鉢、波頂部に刻目が施される。V群の器形であろう。381はST3出土の8と同じ器形。

浅鉢 (382～384) 382はSX587出土の130と同じ器形。台付浅鉢と考えられる。

壺 (385～390) 385は口縁部に沈線が1条施されるがほかは無文、386も同じ器形。口縁部のみだが、壺の口縁部と考えられる。

VII群 粗製土器 (第84図391～第91図440)

刷毛目状条線文 原則として地文のみを施す土器を一括した。地文には縄文のほかに刷毛目状の条線文や網目状撚糸文などがある。無文土器と同様に器形からある程度分類は可能であろうが、ここでは器種ごとに報告する。

深鉢 (391～423・427～437・439・440) 391は撚糸文Rを地文とし、波頂部には刺突を施す。頸部がくびれる器形の深鉢には頭部のみ縄文を磨り消すものが多い。392・395・400・403・408・409・418・420はIII群の深鉢の器形に近い。393はさらに磨り消した部分の下端に縄の側面圧痕を施す。396・398・401・404にも縄の側面圧痕が見られる。398・399・401・402・407は口縁部を無文とする。407は網目状撚糸文を地文とする。410～412・421・422・428はIV群の深鉢の器形に近い。413～417は口縁部に小突起が付く。IV群あるいはV群に同様の器形が見られる。423・427・430は口縁部が内湾する器形。429・434は刷毛目状条線文を波状に施す。436はV群に見られる器形。437は波状口縁となる。439は小型で上半部を欠き、粗製土器ではない可能性がある。

鉢 (438) 地文のみ施される鉢。

壺 (424～426) いずれも地文のみ施す壺である。

V群 そのほかの土器 (第91図441～447)

ミニチュア土器 (441～445) これまでの器形に含められない小型の土器および、手づくねによるつくりの粗い土器をここに含めた。441は内湾する器形、442は平面形が方形の皿状の土器、443はやや底部が高い。444・445は台部。

異形土器 (446・447) 双口をもつが、体部以下欠損しており、詳細は不明。

C 遺物包含層出土の土器

旧河道 S G21出土の土器と同様に各群に分類した順で報告する。

II群 煙之内1式に併行する土器群 (第92図448～458・第93図459)

南境1式土器

深鉢 (448～456・459) 448は口縁部の沈線と体部の複数条からなる弧状や梢円形の沈線を特徴とする。450・454は頸部にくびれをもち、無文とする。448と449は同一個体、454と455も同じく同一個体。459は口縁部を無文、体部を捲糸文Rとする。体部には弧状の沈線を縦位に施文する。

鉢 (457・458) 457は448などと同様の文様をもつ鉢。458は小型で、文様は448などを簡略化したもの。

III群 煙之内2式に併行する土器群 (第93図460～463)

南境2式土器

460は小型の深鉢、文様は205に類似する。461は同じく深鉢の口縁部、174の口縁部と同様の文様。462は壺の口縁部から頸部の資料、2単位の波状部は221の口縁部に通じる。463はIV群の壺292などの文様に類似するが、頸部の沈線が3条であること、体部の沈線が2条であるが幅が狭いことからIII群とした。IV群の可能性もある。

IV群 加曾利B1式に併行する土器群 (第93図464～第97図499)

宝ヶ峯1式土器

深鉢 (464～487) いずれも加曾利B1式に類似する土器である。464～470は口縁部に平行沈線を施す波状口縁深鉢。474・485は同じく平口縁の深鉢。471～473・475～477・480・481は口縁部を無文とし、体部に平行沈線を施す。473は平行沈線間に連続刺突文を施す。478・479は装飾部をもつ。484は口縁部の無文帶の区間に刻目をもつ隆帯を付すIV群でも新しい様相をもつ。487は器形は471・472に近いが、外面全体に繩文を施し、口縁部付近に磨消繩文を施している。

浅鉢 (488) 直線的に外傾し立ち上がる器形。内面に平行沈線を施す。

壺 (489～499) 489～493は小型の壺。2条の沈線による繩文帶により文様を施す。

V群 加曾利B2式に併行する土器群 (第97図500～第99図525)

宝ヶ峯2式土器

深鉢 (500～521) 500～502は309～318と同様にIII群の深鉢の系統にあり、かつ波頂部が発達した土器である。500は3単位の波状口縁で波頂部は内側に肥厚し、小突起状になる。頸部には無文帶をもつ。

503～508は十櫻内2式b類の台付深鉢に類する土器群である。口縁部は3単位を基本とし、波状口縁と平口縁がある。また、発達した装飾突起をもつものこれら土器の特徴である。文様は沈線と連続刺突を併用して行われ、体部のくびれ部分を境とし、上下2段に文様帯を配する。

509～521は加曾利B 2式に類する土器群である。509～512は発達した装飾突起をもつ土器である。体部には平行沈線を施文する。513・514は口縁部を無文とし、体部に幅広の縄文帯をもつ。515・516は体部に連続する弧線文を施す。517～519は条線文を施す土器。517は口縁部を無文、体部に縄文を施した隆帶を付し、以下に弧状の刷毛目状条線文を施す。

520・521は沈線間に連続刺突文を施す土器、521の縄文は2段R Lの原体を異方向に転がし羽状としている。

台付鉢・台付浅鉢 (523・522) 523は台付鉢、522は台付浅鉢。

**宝ヶ峯型器
注口土器** (524・525) 524はいわゆる宝ヶ峯型注口土器で、半肉彫的手法でコ字状文を5単位配す。

VI群 無文土器 (第100図526～530)

526は平口縁の深鉢、無文土器に分類したが、破片下端部に沈線が見られる。口唇部には縄文。527は平口縁であろうが、一部突起状に伸びる。528・529は無文の鉢。530は壺。

VII群 粗製土器 (第100図531～535・第101図538)

531はIV群の深鉢に同様の器形である。口縁部を無文とする。532～534も口縁部が無文。533は無文部分の下部に縄の側面圧痕を施す。535・538は頭部にわずかにくびれをもつ器形、施文は縄文のみ。

VIII群 そのほかの土器 (第100図536・537 第101図539・540)

536は作りの粗いミニチュア土器の台部。537は底部のみでいずれにも分類できないためここに含めた。底部圧痕に網代痕と木葉痕の2種が認められる。木葉痕が後に付いたものと見られる。539・540は後期後半の土器で、刻目手法から瘤付土器第三段階に位置付けられる。

D 出土地点不明の土器 (第101図541～548)

遺物観察表中で出土地点を「X O」としたものがこれらにあたる。調査中に出土地点を失った土器である。中でも報告に必要なものを図示する。

541・542がIV群の深鉢、542の口縁部には半截竹管状の工具で連続刺突文を3段施す。543はIV群の加曾利B 1式に類する深鉢の口縁部、平行沈線間に刺突を施文する。544は地文のみの粗製鉢。545は口縁部に8字状の隆線を付す浅鉢、IV群。546は503と同じ器形の台付深鉢の口縁部、波頂部の口唇部にS字文を施す、V群。547は口縁部に幅広の縄文帯を施文する鉢、V群。548はV群のやや大型の注口土器の体部、半肉彫的手法で曲線文様を施す。

2 土 偶 (第102図549～567)

549～551は頭部、首部に刺突を充填する。顔はV字に粘土を貼り付ける。目は刺突で表す。552～557・559～562が体部、主に刺突を施文するが、556・560は沈線も併せて施文している。乳房は粘土を貼り付けて表現し、腹部の膨らみも粘土の貼り付けにより表す。腹部の膨らみは簡略化されるが妊娠を表すものと考えられる。558は右腕部分、552などのように腕を下げず、水平近くまで上げている。563～567は脚部、やはり刺突を施す。563は足裏に円文とその中心に深い刺突を施す。567は小型だが、刻目により足指の表現もなされている。

やはり完形での出土はなくすべて破片資料である。552では首部をソケット状に差し込んで

接合していた様子が認められた。

3 耳飾・スタンプ状土製品・土錘・そのほかの土製品

耳飾 (第102図568) 1点のみ出土した。内面外面とも凹面を呈し、無文、無孔である。

スタンプ状土製品 (569) 1点のみ出土した。類例は宮城県河北町宝ヶ峯遺跡で多く見られる。スタンプ面には溝巻きを描く。文様自体は粗雑である。

土錘 (570) 石錘は一定量出土しているが、土錘はこの1点のみである。中心に縱溝をもつ有溝土錘である。溝は両面に設けられるが、磨耗のため一部明瞭でない部分がある。

そのほかの土製品 (571~573) 571はコーヒーカップの把手状の土製品。どのような土器・上製品のものか不明である。572はやや扁平な球状を呈し中実である。573も中実の円錐状の上製品。どのような機能・用途を有したのか不明である。

4 円盤状土製品 (第103図574~604)

土器片を打ち欠き、あるものは破面を磨り成形している。一部は方形に近いものもある。

574・575・601は地文が撚糸文Rの土器を利用したものである。さらに沈線も施されII群の土器であることが分かる。576は沈線と刺突が施される253などのIV群の深鉢の口縁部を利用したもの。577は503などのV群の深鉢を利用している。585・586は入組文が施される部分を、587は浅鉢を、599は木葉痕をもつ底部、600は網代痕をもつ底部を利用する。588の中央部には2ヵ所貼り付けた粘土が剥がれた痕跡がある。591・593・595・598・601は周囲を研磨調整している。ほかにも部分的に側面を研磨するものには578・585・587・594・599・604がある。

5 石 器

石 錫 (第104図605~第106図728)

石錫はその形態により、凹基無茎錫・凹基有茎錫・平基有茎錫・凸基有茎錫・尖基錫・円基錫(鈴木1995)に分類した。石材は珪質頁岩・黒曜石・玉髓・鐵石英・流紋岩などを利用する。

凹基無茎錫 (605~625) 基部に抉入があり、茎部をもたない石錫である。605~616は基部の抉入が比較的小さいものである。605~607・611・613などの小型のものは裏面に剥離面を大きく残す。616は未製品の可能性がある。617~625は基部の抉入が大きく側縁が丸みをもつ。

凹基有茎錫 (626~642) 基部に抉入があり、茎部をもつもの。630・633・639・640は抉入部を整形する際に基部に十分な太さを残せなくなったものと考えられる。

平基有茎錫 (643~690) 基部が直線的で茎部があるもの。650・653・672は茎部が長く全長のほぼ半分を占める。689・690は刃部側縁が一方では内側に湾曲し、反対側では膨らみをもつ身の部分が鎌形を呈す。いずれも白色の玉髓製であり加工も丁寧である。

凸基有茎錫 (691~709) 基部が突出し、茎部をもつもの。697・699・703は裏面に剥離面を大きく残す。696・698・699・700・706・707は基部が丸みをもち、木葉形を呈す。

尖基錫 (710~713) 基部が尖るもの。凸基有茎錫のうちの基部の作り出しが明確ではないものも含まれると考えられる。

円基錫 (714~728) 基部が丸みを帯びるもの。714・715は木葉形の完形品であるが、ほかの

ものは形態もさまざままで器厚も大きく未製品の可能性がある。

尖頭器・有舌尖頭器（第107図729～739）

尖頭器（729～738） 729～737は形態は円基盤に類似するものが多いが、大型であり、器厚も大きいので尖頭器として分類した。横長削片を素材とし、両面加工を施すが、加工が両面とも全面に及ぶのは730と733のみである。738は大型で厚みのある尖頭器。細身で断面三角形を呈す。加工は両面とも全面に及ぶ。

有舌尖頭器（739） 1点のみ出土した。出土した性格不明遺構S X573は旧河道S G21の一部と考えられ、この有舌尖頭器も上流から流れ込んだものと考えられる。

石簾（第107図740）

同じく1点のみの出土である。短冊形で断面系は六角形を呈す。両側縁の表面・裏面とも加工が施される。刃部の加工は少ない。

搔器（第108図741～743）

741は矩形、742は両側縁が内側に湾曲する、743は台形を呈す搔器である。刃部および側縁の整形も急角度の加工による。

石匙（第108図744～第109図771）

主に綫長を呈する身部のどの部分につまみが設けられているかにより、横型・縦型・斜型の三つに分類した。石材はほとんどが珪質頁岩を利用している。

横型（744～749） 身部の長辺につまみが付くものを横型とした。身部は不整三角形を呈するものが多い。746のつまみ部分にはアスファルトの付着が認められる。

アスファルトが付着

縦型（750～762） 身部の短辺につまみが付くものを縦型とした。先端部は尖らず直線的なものが多い。やはり身部の形態は不整長方形が主体的である。761・762はつまみ部分にアスファルトが付着する。

斜型（763～771） 横型と縦型の中間形態として身部の角につまみをもつものを斜型とした。整形加工が全周に及び形態が整うものが主体である。763・766・768のつまみにはアスファルトが付着する。771はつまみを二つもつ特殊な石匙。

石錐（第110図772～第111図818）

分類は矢島國雄・前山精明による方法（矢島・前山1995）に従った。分類名もそれに習った。先端が摩滅するものが多いが、使用の痕跡をとどめないものもある。またA 1 a類については両先端が摩滅するものが主体的である。

A 1 a類（772～789） 全体の形状が棒状をなし、両端が尖り、円形・方形・菱形の断面形を呈すもの。円基盤・円基盤との判別が困難な資料であるが、A 1 a類の多くが両端とも摩滅していることから石錐として分類した。788・789は器体中央部に張り出した閥部を有する。

A 2類（790～792） 全体の形状が棒状をなし、錐部が一端のみに作られ、他端は鈍角をなすもの。器体全面に調整加工が施されるのを原則とする。3点を図示する。

B 1類（793～801） 明瞭なつまみ状の頭部をもち、錐部が長く、全面に調整加工が及ぶもの。793～797はT字形の精巧な石錐。799はつまみ部分が非常に小さい。800はつまみの両端が上方に屈曲する。801はT字形のつまみの上方がコブ状に隆起する。

B 2類（802～804） 明瞭なつまみ状の頭部をもち、錐部が長いが、頭部に素材の形状をとど

めるもの。802・803は錐部の調整はB 1類と同様に精緻であるが、804は錐部・頭部とも作りが粗い。

C 1類 (805・806) 調整加工の施された、明瞭なつまみ状の頭部をもち、錐部が著しく短いもの。805は表裏両面に、806は裏面に剥離面を大きく残す。

C 2類 (807) 素材剥片の形状をそのまま残し、明瞭なつまみ状の頭部をもち、錐部が著しく短いもの。総長剥片の末端部分に調整加工を施し錐部としている。

D 1類 (808~812) 錐部がしだいに太くなり、頭部との区分が不明瞭なもので、両面、もしくは片面の全体が調整加工を施されるもの。812は尖頭器の転用品の可能性がある。

D 2類 (813~814・816~818) 錐部がしだいに太くなり、頭部との区分が不明瞭なもので、錐部の両側縁に調整加工が施されるが、素材の形状をとどめるもの。5点とも素材剥片の先端部分を加工したものである。

E類 (815) 棒状あるいは長三角形の剥片の先端に微弱な調整加工を加えたもの。815は先端が細い剥片を利用している。

接合資料 (第112図819~826)

819+820 矩形の剥片が2点接合する。一方から打点を後退しながら連続して剥離されている。820の末端の主要剥離面には連続する二次加工が施される。

821+822 同じく矩形の剥片が2点接合する。2点とも一方から打点を後退させながら連続して剥離した剥片であるが、821の背面には右方向からの剥離痕を有する。また821には打面調整が施される。

823+824 矩形の剥片が2点接合する。823は左方向からの剥離による剥片。

825+826 剥片石核あるいは何らかの石器を製作する途上の資料である。826の表面に残る大きな剥離面は素材が剥片であることを示す。求心的な剥離を行う中で825が剥離されたが、825がおそらく意図した以上に大きく剥離されたために、その後の加工が施されなかったものと考えられる。

磨製石斧 (第113図827~第114図852)

827~829は両側縁が平行な短冊形のものである。いずれも刃部は弧状、上半部を欠損している。828はわずかに敲打痕が残る。刃部は破損後、再生されている。

刃 部 再 生

830~841は基部へ向かい幅が小さくなる分銅形を呈し、断面形が扁平なものである。刃部はいずれも弧状を呈する。また、上半部・下半部の欠損、刃部・基部の破損はいずれも使用によるものである。830・834は基部欠損後、再加工、再研磨され基部を作り直している。

基 部 再 生

842~845は分銅形で中央部が厚く断面形が梢円形を呈すものである。843は基部を破損後再研磨している。844には整形の際の敲打痕が残る。

846は両側縁に剥離痕を残す小型の磨製石斧、刃部は破損している。847~852も小型のもの、使用による欠損、刃こぼれも大型品と同様に認められる。

石鎌 (第114図853~867)

853~855は円錐をそのまま利用したもの。中央部に横位にアスファルトの付着が認められ、巻いた糸を固定したものと考えられる。856~861は円錐の上下に切り込みを施した切目石鎌と呼ばれるもの。858にはアスファルトが付着する。862は円錐の長軸に溝をもつ有溝石鎌。

溝内にアスファルトが付着する。863～865は全面研磨による調整を施し長方形に整形された有溝石錐。断面も長方形を呈す。溝は短軸・長軸双方に十字形に施される。866・867もやはり全面研磨により整形されるが、卵形の形状を呈す有溝石錐。断面も梢円形である。866は長軸のみに溝をもち、867は十字形に溝をもつ。

浮子 (第115図868～871)

輕石を利用した浮子と考えられている石製品である。いずれも分鏡形を呈す。868～870は上部に孔が開けられている。868の上部の凹部は本来は孔の部分で欠損したため凹部となった可能性がある。現状で孔として認められるものは再利用のため穿孔したものと考えられる。

砥石 (第115図872～876)

有溝砥石 ここで報告する砥石は有溝砥石と呼ばれるもので、石器や骨角器などの研磨に広く利用されたと考えられている。872は自然石を利用し、非常に細い砥面と考えられる線状底を有するものである。873・875も自然石素材で、表裏両面を凹石あるいは有溝砥石として利用したものである。874は表面に2条の溝をもつ。形態は研磨による整形である。上面の弧状の凹部は欠損ではなく、砥面であり石棒などの大型磨製石器を研磨する際に用いたものと考えられる。876も表面に複数の溝をもつ。

磨石 (第115図877～第116図893)

877～884は円形の磨石。片面あるいは両面に明瞭な擦痕がある。周縁の敲打痕は堅果類の加工の際に生じたものであると考えられる。また、881などは周縁に一様に敲打痕が見られるうえに、整った形態を示す。磨石でも敲打による整形を施した可能性がある。885～888は棒状の磨石で、断面には円形・梢円形・長方形などがある。889は断面長方形で後が顕著である。全面に明瞭な擦痕をもつ。890は断面台形で表裏の擦痕は顕著、側面はやはり擦痕が見られるが顕著ではなく整形によるものと考えられる。891は大型で扁平な磨石、裏面のみ擦痕が見られる。892は小型で薄型の磨石、全面に赤色顔料が付着している。顔料の材料を磨り潰したものと考えられる。893は裁頭円柱形を呈す。上面を有溝砥石として利用した痕跡がある。側面に顕著な擦痕を有する。

四石 (第116図894～第119図925)

894～909は両面あるいは片面に1カ所以上の凹部をもち、さらに磨石として利用され顕著な擦痕を有するものである。894～901は円形か梢円形を呈するもの。902～909は台形や方形、不整形を呈するものである。907の裏面には凹部が縦に連続する。910～925は凹部を持つが擦痕が認められないものと顕著でないものである。やはり複数の凹部をもつものが主体的である。また、凹部は縦に連続するものと、中央部に集中するものがある。918・919・920・921・924には有溝砥石として利用した痕跡もある。920・921・925には擦痕も認められるが顕著ではない。

石皿 (第119図926～第121図942)

926・927は長方形に整形され、皿部に縁をもつ石皿の破片資料である。926の表面は中央部が大きく凹む。裏面もやや凹む。928は台形で、縁を三方にもつ石皿、皿部に有溝砥石として利用した痕跡がある。929も縁をもち、中央部となる部分が大きく凹む。裏面には有溝砥石として利用した痕跡が認められる。930は下半部を欠損するが、両側縁には縁がある梢円形の石

皿。裏面には凹部をもつ。931・932は大型の三角形の石を利用した石皿。931の縁は一周するが、932の縁の一端は開いている。皿部に大きな凹みが2ヶ所見られる。

933～937は明確な縁をもたず、中央部に向かいながらかに凹む石皿である。933の表面の中央部は凹み周囲が高くなるが、左下部だけはほかより低く作られている。937の裏面には凹部が、935・936の裏面には有溝砥石として利用した痕跡がある。

938～942は大型扁平な石を用いた特に凹みをもたない石皿である。ただし擦痕は明瞭である。擦痕のほかに敲打痕をもつものも多い。940・941は中央部がわずかに凹むものである。

線刻標 (第122図943)

磨石、凹石として併用されものに線刻が施される。縦の線刻を柱に、上部の斜方向の線刻を屋根に見立て掘立柱建物³を表現した線刻と考えられる。

標 物 を 表 建 現

石刀 (第122図944)

一側縁が内反りの刃となる。頭部と下半部を欠損する。

石劍 (第122図945)

石劍の頭部部分である。両側縁に打ち欠きが施される。断面は凸レンズ状で両刃となる。

石棒 (第122図946)

無頭石棒で、下半部を欠損する。全面研磨調整を受ける。

そのほかの石製品 (第122図947・948)

947は卵形で石材は不明だが暗緑灰色の光沢を持つ石材を用いた石製品である。全面研磨による調整を受ける。948は安山岩製で梢円形の石製品、断面は長方形を呈す。やはり全面研磨による調整を受ける。

水晶 (第122図949)

堅穴住居S T 3出土の水晶である。加工は施されていない。

球状自然石 (第122図950～959)

球状を呈する自然石であるが、調査では多く出土している。前掲の水晶も含め、当時このような珍しい石を收集する行為があったという報告(見玉2002)があるため本書でも掲載した。一部には擦痕を有するものも見られるが顕著ではない。958・959はその中でもくびれ石と呼ばれるものである。

棒状自然礫 (第123図960～964)

立石遺構S P336・482に見られるように特に加工を施さない棒状自然礫を用いる立石遺構がある。960～964は擦痕や敲打痕が見られるが、このように石棒として利用された可能性があるものである。石棒としての明瞭な加工痕を持たないものであるが、このような棒状自然礫を石棒の可能性があるものと指摘する論考(長田2000)もある。

VI 調査のまとめ

これまで山形県内において、かっぱ遺跡と同時期の遺跡の調査は少なかった。一方隣接する地域ではまとまった調査例があり、土器編年を始めとした研究も盛んに行われている。今回かっぱ遺跡の豊富な資料を得たことで、県内でも他地域の当該期遺跡との比較検討が十分可能となつた。

県内初出 7棟確認された該期の掘立柱建物は県内では初出のものである。それぞれ柱穴は6基で、六角形に配される。S B15・16・17はほぼ同じ方角を向き3棟並んで検出された。S B1006も方角は同じだが、位置は約30m離れており、S G21の対岸である。ほかの3棟はそれぞれ異なる方角を向く。柱穴より出土した遺物はⅢ・Ⅳ群の土器である。遺物が少ないので断定はできないが、堀之内2式と加曾利B1式併行期、つまり後期前葉から中葉にかけて営まれたと考えられる。また、S B1006・1008の柱穴がほかの掘立柱建物に比して明らかに規模が小さく、建物の規模が一通りではないことが分かった。S B1006からは時期の分かる遺物は出土していないが、S B1008からはⅢ群の土器が出土し、ほかの規模の大きい掘立柱建物ではⅣ群の土器が出土することから、時期的な差とも考えられるが、なお遺物が少ないので検討を要する。あるいは建物の性格の違いが現れている可能性もある。

竪穴住居では遺存状態の良好なS T3・4が検出された。2基ともV群の土器を多く出土し、時期は加曾利B2式併行期と考えて良いだろう。またS T7でもV群の土器32が床面から出土しており、やはりS T3・4と同時期と考えられる。ほかの住居では遺物の出土に恵まれず時期を判断するに至らなかった。

ほかにも壁柱穴のみ検出された竪穴住居が多数存在する。その範囲は、埋没したS G21を含めて遺跡の中央一帯に広がる。掘立柱建物と重複するものも見られるが、S T3・4・7は時期的に混在しないであろう。しかしこれら以外の竪穴住居については、時期的な判断ができないので、掘立柱建物と共時に存在した可能性も考えられる。

土坑は貯蔵穴と考えられる円形のものは調査区全域から数多く検出されたが、墓壙と考えられる土坑は検出されなかった。調査区外、特に南側の削平を受けて調査の対象とならなかつた範囲に存在したのだろうか。それとも該期の村山市川口遺跡（阿部1990）で検出された“石組墓壙”に類する十坑が本来存在したとすれば、削平のため失われていたとも推定される。遺跡内からは人頭大の石が圓石・石皿として利用されたものを含め大量に出土しているが、配石遺構として認識できたのはわずか2基のみである。これらの石が遺跡内に持ち込まれた本来の要因の一つとして配石遺構の構築を想定するともできるだろう。

旧河道S G21の東岸から一括で出土した中期の土器群に相当する遺構は検出されなかった。調査区の東側に広がることも予想されたが、調査の対象区域とならなかつた。

本遺跡は西側の山裾から東側の鳥出川まで約160mという狭小な範囲内に形成された集落であり、当然集落の形態も地形に影響を受けたと考えられるため、環状集落のような広がりはなく、住居などは狭い範囲内に密集・重複して構築されている。

遺物では特に、縄文時代後期前葉・中葉に位置付けられている堀之内1・2式・加曾利B1・2式に併行する土器群が多く出土した。本報告ではそれを東北地方の土器型式として南境1・2式、宝ヶ峯1・2式と呼称^①した。分類ではII・III・IV・V群が対応する。

II群の土器は出土量は少いものの、土坑SK41から出土した50~52の良好な一括資料を得た。從来宮戸1b式として堀之内1式と併行関係（後藤1974）にあると考えられてきた土器群である。同じく最上町で調査された桶の裏遺跡でも出土している。ただし、桶の裏遺跡で出土した内面に格子目状に沈線を施す深鉢は、かっぱ遺跡では出土しなかった。

内面に沈線を施す深鉢

III群の土器は堀之内2式に併行すると指摘（後藤1974）されている。東北地方北部の十腰内1式の一部と類似するもので部分的に併行関係にあるものと考えられる。

IV群の土器は加曾利B1式に併行するものとして、十腰内1式の一部、2式の一部に類似するものも含めた。

V群の土器は加曾利B2式に併行するものとして、十腰内2式b類に類似するものも含めた。出土した土器はこのように分類したが、これらについては共伴関係や層位の把握に不十分な状態での分類であり、なお検討を要する。

剥片石器の石材は、珪質頁岩が多いが、そのほかに黒曜石・玉髓・鉄石英・流紋岩など多様である。特に石織など小型の石器にはより加工の施しやすい黒曜石や玉髓が多く利用されている。珪質頁岩が豊富な地域にあってもこのように選択的に石材が利用された様子がうかがえる。また、磨石などの種石器もコンテナで約100箱と大量に出土している。從来あまり指摘されなかったが、縁のない平らな石皿と断面形が丸くならない、平らな面をもつ板状や棒状をなす磨石も多く出土しており、縄文時代の石器組成に新たに加える必要があろう。

調査例の少なさから、その研究の遅滞が指摘される山形県の縄文時代後期であったが、今回の調査により、豊富な資料を提供することができた。最後に、当地域の数少ない調査事例と比較してのことだが、遺構の性格・規模・数量、遺物の数量・種類の豊富さなどから、かっぱ遺跡を向町盆地での拠点的な集落として位置付けたい。

註

- 1) 無立柱建物の上部構造については諸説あり、果たして持柱の名称が適当か否か疑問が残るが、本報告では便宜上、妻側に張り出す2本の柱を「横持柱」と呼称する。
- 2) これら南境1式および2式の型式名は小林圭一氏が提唱したものである。以下の文献による。『第14回縄文セミナー』後期後半の再検討・記録集・『縄文セミナー』の会 2001年 143頁。この中で小林氏は南境式について保留としているが、最近やはり堀之内1・2式に対応させ、南境1・2式として型式を設定すべきとの指摘を受けた。
- 3) 武藤康弘氏の指摘による。
- 4) 註2参照。

引用文献

- 山野井 敏 1998 「表装地質図」「土地分類基本調査「鳴子・薬菴山」」山形県企画調整部土地対策課
 鈴木道之助 1995 「石織」「縄文文化の研究 7 道具と技術」雄山閣
 矢島國雄・前山精明 1986 「石織」「縄文文化の研究 7 道具と技術」雄山閣
 児玉大成 2002 「くぐれ石考 縄文人の好奇心をくすぐる自然石」『海と考古学とロマン 市川金丸先生古希記念文献論文集』
 長田友也 2000 「石棒の製作遺跡」『季刊 考古学 第73号 特集 縄文時代研究の新動向』雄山閣
 阿部明彦 1990 『川口遺跡発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財調査報告書第151集) 山形県教育委員会
 後藤勝彦 1974 『縄文後期宮戸1b式周辺の吟味 - 南境貝塚出土の土器をもととして』『東北の考古歴史論集』平重道先生追贈記念会
 萩田徹 1991 『考古学のための岩石鑑定ミニ図鑑 - 王子ノ台遺跡出土石器をもとにした - 』『東海大学校地内遺跡調査報告書2』東海大学校地内遺跡調査委員会 東海大学校地内遺跡調査団

表1 繩文土器觀察表

※層位のFは覆土、Yは表面あるいは底面出土を表す。

器物の状態は残存高を、口径・底径の括弧は層上復元による推計値である。単位はmm。

番号	分類	形態	出土遺物	層位	グリッド	最高	日径	底径	残存部位	地文	備考	
1	V群 深鉢	EL206		ST 2	F 1	63-50	(50)	122	底部	不明	ST 2 の土器埋設切	
2	V群 深鉢	ST 2		ST 2	F 1	63-51	(46)		口縁部	2段LR		
3	V群 深鉢	ST 2		ST 2	F 1	64-50	(49)		口縁部～体部上半	2段LR		
4	V群 深鉢	ST 3		ST 3	F	69-49	(135)		口縁部	2段LR		
5	V群 深鉢	ST 3		ST 3		68-48	(50)		口縁部	2段LR		
6	V群 深鉢	ST 3		ST 3	F	69-47	(110)	216	口縁部～体部上半	2段LR		
7	V群 深鉢	ST 3		ST 3	F	68-48	(45)	(122)	口縁部	2段LR		
8	V群 鋏	ST 3		ST 3		68-48	71	149	59	口縁部～底部		
9	V群 深鉢	ST 3		ST 3	F	68-48	(36)		頸部	2段LR		
10	V群 注口土器	ST 3		ST 3		68-48	(43)		注口部		黒色	
11	V群 注口土器	ST 3		ST 3		68-48	(43)	(69)	口縁部			
12	V群 錐	ST 3		ST 3		68-48	(100)	82	口縁部～頸部	2段LR		
13	V群 深鉢	ST 3		ST 3		69-48	(120)	64	完形	2段LR		
14	V群 深鉢	ST 3		ST 3		69-48	(147)	(186)	口縁部～体部下半	1段L	ほか破片多数	
15	V群 深鉢	ST 4		ST 4	Y	58-42	(93)	61	体部下手	2段RL		
16	V群 鋏	ST 4		ST 4	Y	58-42	67	(90)	(42)	口縁部～底部		
17	V群 深鉢	SP-430		ST 4		59-43	(55)		口縁部	2段LR	ST 4 の柱穴	
18	V群 鋏	SP-290		ST 4		57-42	(58)		口縁部～体部上半	2段LR	ST 4 の柱穴	
19	V群 浅鉢	ST 4		ST 4	F 1	58-44	140	(250)	98	口縁部～底部	2段LR	
20	V群 鋏	ST 4		ST 4	F 2	57-42	(45)		口縁部	2段LR		
21	V群 深鉢	ST 4		ST 4	F 1	58-44	(94)		口縁部	2段LR		
22	V群 注口土器	ST 4		ST 4	F 2	58-45	86	25	33	完形	2段LR	
23	V群 錐	ST 4		ST 4		57-44	(93)	40	体部～底部	2段RL		
24	V群 深鉢	ST 4		ST 4	F 1	51-44	(53)		口縁部～体部上半	2段RL		
25	V群 注口土器	ST 4		ST 4	F 1	57-44	(28)		体部			
26	V群 鋏	ST 4		ST 4	F 2	58-45	48	72	34	完形		
27	V群 深鉢	ST 4		ST 4	F 2	50-43	36	(62)	(30)	口縁部～底部		
28	V群 深鉢	ST 4		ST 4	F 2	58-44	(44)		口縁部	R-右巻き		
29	V群 深鉢	ST 4		ST 4	F 2	58-45	180	143	76	完形	2段LR	
30	V群 鋏	ST 7		ST 7		25-46	(91)	(145)	52	口縁部～底部	2段LR	
31	V群 深鉢	ST 7		ST 7	F 1	73-46	(70)		口縁部～体部下半	2段LR		
32	V群 深鉢	ST 7		ST 7	Y	76-46	(239)	247	105	口縁部～底部	2段LR	
33	V群 深鉢	ST 15		ST 15	F 1	72-58	(25)		口縁部	2段LR		
34	V群 深鉢	ST 1004		ST 1004		82-30	(68)		口縁部～体部上半	2段LR		
35	V群 深鉢	ST 1004		ST 1004		82-30	(47)		口縁部	2段LR		
36	V群 深鉢	ST 1004		ST 1004		82-30	(63)		口縁部～体部上半	2段LR		
37	V群 深鉢	EU 27		EU 27		58-34	(111)	142	底部	2段LR	底部網代板	
38	V群 深鉢	EU 509		EU 509		82-46	(251)	115	体部～底部	2段LR	底部木葉板	
39	V群 錐	SP-203		SP-203		70-49	(89)	82	体部～底部	2段LR	SB 15の柱穴	
40	V群 深鉢	SP-112		SP-112		75-52	(43)		口縁部	2段LR	SB 15の柱穴	
41	IV群 注口土器	SP-199		SP-199		72-74	(50)		注口部		SB 17の柱穴	
42	IV群 深鉢	SP-561		SP-561		73-37	(47)		口縁部	2段RL	SB 1007の柱穴	
43	III群 深鉢	SP-619	F	SP-619	89-39	(51)			頸部～体部上半	2段RL	SB 1008の柱穴	
44	IV群 深鉢	SK 40	F 1	SK 40	76-60	(34)			口縁部		ほか破片あり、黒色	
45	V群 深鉢	SK 64		SK 64		78-53	(83)	51	台部	2段LR	台座90mm	
46	V群 深鉢	SK 64		SK 64		78-53	(93)		口縁部～体部下半	2段LR		
47	V群 深鉢	SK 63		SK 63		77-51	(197)		口縁部～体部下半	2段LR		
48	V群 深鉢	SP-482		SP-482		64-49	(272)	(370)	口縁部～体部下半	2段LR		
49	IV群 深鉢	SK 25		SK 25		60-43	(43)		口縁部	不明	外面焼付着	
50	II群 深鉢	SK 41		SK 41		79-58	(75)		口縁部			
51	II群 深鉢	SK 41		SK 41		75-58	(70)		口縁部	R-右巻き		
52	II群 深鉢	SK 41		SK 41		79-58	(369)	(252)	口縁部～体部下半	R-右巻き	外面焼付着	
53	V群 深鉢	SK 60		SK 60		72-59	(90)	100	口縁部～体部下半	2段LR		
54	V群 錐	SK 60	F	SK 60		72-59	(38)		口縁部	2段LR		
55	V群 深鉢	SK 200		SK 200		73-46	(208)	351	口縁部～体部下半	2段LR		
56	V群 深鉢	SK 200		SK 200		73-46	(43)		口縁部	2段LR	赤面顔料付着	
57	V群 深鉢	SK 220		SK 220		73-47	(72)	39	台部	2段LR	外山塗装跡、台座73mm	
58	V群 深鉢	SK 222		SK 222		59-42	(102)	(168)	口縁部～体部下半	2段LR		
59	V群 深鉢	SK 222	F	SK 222		93-41	(56)		口縁部～頸部	2段LR		
60	V群 深鉢	SK 222	F	SK 222		93-41	87	96	38	口縁部～底部	2段LR	
61	V群 深鉢	SK 223	F 1	SK 223		90-43	(52)		口縁部			
62	II群 深鉢	SK 247	F 2	SK 247		84-34	(27)		口縁部～体部上半	2段LR		
63	III群 錐	SK 251		SK 251		85-35	(220)	130	70	口縁部～体部上半	2段LR	ほか破片多数
64	V群 深鉢	SK 252		SK 252		87-44	(301)	(340)	口縁部～体部下半	2段LR	ほか破片多数	
65	IV群 深鉢	SK 256	F 1	SK 256		81-34	(26)		口縁部		半内鄭の手作	
66	V群 注口土器	SK 271		SK 271		39-51	(45)		底部			
67	V群 深鉢	SK 271		SK 271		39-51	(84)		口縁部～体部上半	2段LR		
68	V群 深鉢	SK 308		SK 308		60-45	(85)		口縁部	2段LR		
69	IV群 深鉢	SK 308		SK 308		60-45	(250)		口縁部～体部下半	2段LR		
70	V群 深鉢	SK 361		SK 361		66-47	(73)		口縁部	2段LR		
71	V群 錐	SK 416	Y	SK 416		78-47	(48)	107	口縁部	2段LR		
72	IV群 深鉢	SK 416		SK 416		78-47	(45)		口縁部	2段RL		
73	V群 錐	SK 420	F 1	SK 420		64-44	(142)	60	体部～底部	2段LR	内面輪積痕明瞭	
74	V群 深鉢	SK 488		SK 488		80-32	(36)		口縁部			
75	V群 錐	SK 502		SK 502		73-32	(117)		体部上半	2段RL		

番号	分類	形態	出土遺構	層位	グリッド	最高	口徑	底径	残存部位	地文	備考
76	IV群 深鉢	SK511			24-29	(132)	(284)		口縁部～体部下半	2段LR	
77	Ⅴ群 深鉢	SK511			24-29	(50)			口縁部	2段LR	
78	Ⅴ群 深鉢	SK511			24-29	(49)			口縁部	2段LR	
79	V群 盆	SK516			82-32	(84)	(146)		口縁部	2段LR	
80	V群 深鉢	SK614	F		20-27	(80)			口縁部～体部上半	2段LR	
81	IV群 深鉢	SK614	F		20-27	(72)			口縁部	2段LR	補修孔2ヶ所、外面埋付着
82	Ⅱ群 深鉢	SK614	F		20-27	(90)	(284)		口縁部～体部上半	2段LR	
83	V群 深鉢	SK614			20-27	(165)			口縁部～体部下半	2段LR	
84	V群 深鉢	SK614	F		20-27	111	(120)	(58)	口縁部～底部		
85	Ⅵ群 深鉢	SK627			74-32	(90)			口縁部～頸部	2段LR	
86	VI群 盆	SP156	F1		73-51	(68)			口縁部～体部上半		
87	II群 深鉢	SP217			51-62	(46)			口縁部		
88	Ⅷ群 深鉢	SP174			77-51	(202)			口縁部～体部下半	2段LR	
89	Ⅸ群 深鉢	SP144			71-47	(345)	(314)		口縁部～体部下半	2段LR	
90	IV群 深鉢	SP219			54-55	(48)			口縁部～体部上半	2段LR	
91	V群 深鉢	SP250	F1		84-44	(63)	25	台部		2段LR	台径50mm
92	IV群 釜	SP268			60-46	(50)	(880)		口縁部		
93	IV群 深鉢	SP320			74-37	(66)			口縁部～体部上半	不明	
94	IV群 深鉢	SP372			58-48	(54)			口縁部	2段LR	
95	V群 台部	SP402			60-45	(34)	52	台部			黒色、台径167mm
96	V群 深鉢	SP434			50-42	(97)			口縁部		
97	IV群 深鉢	SP438			26-46	(51)			口縁部	2段LR	
98	V群 深鉢	SP221			57-53	(200)	(278)		口縁部～体部下半	2段LR	補修孔2ヶ所
99	Ⅸ群 深鉢	SP221	F1		57-53	(56)			口縁部	2段LR	
100	V群 台部	SP441			25-42	(71)	22	台部			台径50mm
101	III群 深鉢	SP492			28-41	(70)	(76)		口縁部～体部下半	2段LR	
102	II群 泥口土器	SP498			25-33	(41)			口縁部	2段LR	蓋か泥口土器の口縁部
103	IV群 深鉢	SP542			28-34	(69)			口縁部	2段LR	
104	V群 深鉢	SP557			26-34	(56)			口縁部	2段LR	
105	V群 台部	SP650			28-43	(81)	33	台部		2段LR	類似被熱、台径72mm
106	III群 深鉢	SP656	F2		28-43	(143)			口縁部～体部下半	2段LR	
107	IV群 深鉢	SX11			28-42	(106)			口縁部～体部下半	2段LR	外面部削
108	IV群 深鉢	SX11			20-42	(65)			口縁部	2段LR	外面部削
109	IV群 深鉢	SX11			31-42	(46)			口縁部		
110	V群 深鉢	SX11			30-42	(60)			口縁部～体部上半		
111	IV群 泥口土器	SX11			30-42	(20)			注口部		
112	IV群 釜	SX11			30-42	(76)			腹部～体部	2段LR	
113	V群 深鉢	SK24			67-50	(149)	90	体部～底部	2段LR		
114	V群 釜	SN62	F		80-53	(111)	43	体部～底部	2段LR		
115	IV群 深鉢	SN65	F		28-52	(50)			口縁部～体部下半	2段LR	黒色
116	IV群 深鉢	SN65	F		28-51	(66)			口縁部	2段LR	
117	IV群 深鉢	SN70	F		27-63	(31)			口縁部	2段LR	
118	V群 深鉢	SN70	F		27-62	(95)	57	台部			外面部削、台径80mm
119	V群 釜	SN70			73-63	(47)			口縁部	2段LR	
120	IV群 深鉢	SX139	F1		69-51	(180)	(275)		口縁部～体部下半	2段LR	
121	III群 釜	SX222			52-50	(75)			頭部～体部上半	2段LR	
122	V群 深鉢	SX250			82-35	(104)			口縁部	2段LR	
123	IV群 深鉢	SX250			82-36	(25)			口縁部	2段LR	
124	IV群 泥口土器	SX250			82-36	(33)			注口部		
125	IV群 釜	SX250			82-36	(97)	(182)	60	口縁部～底部	2段LR	
126	V群 深鉢	SP253	F2		88-36	(96)			口縁部～体部上半	2段LR	
127	V群 釜	SP253			88-36	(44)			口縁部～体部上半	2段LR	
128	VI群 釜	SX296			65-53	(67)			口縁部～体部上半	2段LR	
129	IV群 深鉢	SK567			80-45	(203)			口縁部～体部	2段RL	
130	VI群 深鉢	SK567			80-45	(46)	195		口縁部～体部下半	2段LR	
131	IV群 深鉢	SK646			89-34	(210)			口縁部～体部下半	不明	
132	I群 深鉢	SG21			28-36	(338)	340		口縁部～体部下半	2段LR	
133	I群 深鉢	SG21	F1		23-30	(255)			口縁部～体部上半	2段RL	
134	I群 深鉢	SG21	F2		23-29	(192)			口縁部～体部上半	2段LR	
135	I群 深鉢	SG21			28-35	190	108		口縁部～体部下半	2段LR	
136	I群 深鉢	SG21	F2		23-29	238	245	148	口縁部～底部	2段LR	
137	I群 深鉢	SG21	F1		23-30	(129)			口縁部	2段LR	
138	I群 深鉢	SG21	F2		24-30	249	160	(104)	口縁部～底部	2段LR	
139	I群 深鉢	SG21	F1		24-30	(224)	(278)		口縁部～体部上半	2段RL	
140	I群 深鉢	SG21	F1		23-30	(224)	(320)		口縁部～体部下半	2段LR	
141	I群 深鉢	SG21	F2		24-30	164	122	78	口縁部～底部	2段LR	
142	I群 深鉢	SG21	F2		27-29	(203)	212		口縁部～体部下半	2段LR	
143	I群 深鉢	SG21	F1		24-30	272	249	100	口縁部～底部	2段LR	
144	I群 深鉢	SG21	F1		24-30	467	304	142	元形	2段LR	
145	I群 深鉢	SP542			28-34	(23)			口縁部	不明	
146	I群 深鉢	SG21	F1		25-34	(73)	(178)		口縁部～頸部	2段LR	
147	I群 深鉢	SG21	F1		24-30	(94)			口縁部	不明	
148	I群 深鉢	SG21	F2		24-30	428	286		口縁部～体部下半	2段LR	
149	I群 深鉢	SG21	F2		27-29	(400)	128		頸部～底部	2段LR	
150	I群 深鉢	SG21	F1		20-27	(57)			口縁部		
151	I群 深鉢	SG21	F2		82-43	(174)	(420)		口縁部～体部下半	2段LR	
152	I群 深鉢	SG21	F1		82-44	(65)			口縁部～体部上半		
153	I群 深鉢	SG21	F2		73-29	172	(345)	(105)	口縁部～底部	2段LR	154と同一個体
154	I群 深鉢	SG21	F2		73-30	(73)			口縁部	2段LR	153と同一個体

番号	分類	形態	出土場所	層位	グリッド	基高	口径	底径	残存部位	地文	備考
155	I群	深鉢	SG21	F2	23-36	(56)	口縁部～体部上半				
156	I群	深鉢	SG21	F2	23-30	(100)	口縁部～体部上半		2段LR		
157	I群	深鉢	SG21	F2	23-29	141 (362) (106)	口縁部～底部				
158	II群	深鉢	SG21	F2	80-92	(72)	口縁部		R-右巻き		
159	II群	深鉢	SG21	F2	26-46	(38)	体部上半		撫治文		
160	II群	深鉢	SG21	F1	87-49	(30)	口縁部				
161	II群	深鉢	SG21	F1	20-34	(62)	口縁部～頸部				
162	II群	深鉢	SG21	F1	74-43	(74)	口縁部～体部上半		2段LR		
163	II群	鉢	SG21	F2	52-62	(64)	口縁部～体部上半		不明		
164	II群	深鉢	SG21	F1	69-32	(51)	口縁部		R-右巻き		
165	II群	深鉢	SG21	F1	69-32	(53)	口縁部				
166	II群	深鉢	SG21	F1	26-34	(49)	口縁部		2段LR		
167	III群	深鉢	SG21	F2	23-44	(100)	口縁部～体部上半		2段LR		
168	III群	深鉢	SG21	F1	72-41	(107)	口縁部～体部上半		2段LR		
169	III群	深鉢	SG21	F2	23-34	(139)	口縁部～体部上半		2段LR		
170	III群	深鉢	SG21	F1	71-34	(142)	口縁部～体部下半		2段RL	ほか破片多枚	
171	III群	深鉢	SG21	F1	71-33	(51)	口縁部		2段LR		
172	III群	深鉢	SG21	F1	25-36	(110) (184)	口縁部～体部上半		2段RL		
173	III群	深鉢	SG21	F1	23-43	(150) (247)	口縁部～体部上半		2段RL		
174	III群	深鉢	SG21	F1	83-46	(95)	口縁部～体部上半		2段RL		
175	III群	深鉢	SG21	F	23-39	(131)	口縁部～体部下半		2段LR		
176	III群	深鉢	SG21	F2	20-34	(70) (134)	口縁部～体部上半		2段RL		
177	III群	深鉢	SG21	F2	67-32	(73)	口縁部～体部上半		2段LR		
178	III群	深鉢	SG21	F1	74-32	(67)	口縁部～体部上半		2段LR		
179	III群	深鉢	SG21	F1	20-33	(48)	口縁部～体部上半		2段LR		
180	III群	深鉢	SG21	F2	23-40	(128)	口縁部～体部下半		2段RL		
181	III群	深鉢	SG21	F2	26-44	(139) (172)	口縁部～体部下半		2段RL		
182	III群	深鉢	SG21	F2	68-31	(70)	頭部～体部				
183	III群	深鉢	SG21	F1	23-41	(90)	口縁部～体部上半		2段LR		
184	III群	深鉢	SG21	F1	23-40	(189)	口縁部～体部上半		2段LR		
185	III群	深鉢	SG21	F1	20-33	(216)	口縁部～体部下半		2段LR		
186	III群	深鉢	SG21	F1	71-33	334 246 130	完形		2段LR		
187	III群	深鉢	SG21	F2	71-34	(194) 94	体部～底部		2段LR		
188	III群	深鉢	SG21	F2	24-42	(185)	口縁部～体部上半		2段LR		
189	III群	深鉢	SG21	F2	29-41	(75)	口縁部～体部上半		2段LR		
190	III群	深鉢	SG21	F2	81-48	(190) (190)	口縁部～体部下半		2段LR	ほか破片多枚	
191	III群	深鉢	SG21	F1	23-39	(120) (254)	口縁部～体部上半		2段RL		
192	III群	深鉢	SG21	F2	81-38	(305) (35)	口縁部～体部下半		2段RL	外外面剥離	
193	III群	深鉢	SG21	F3	69-30	(296) (285)	口縁部～体部下半		2段RL		
194	III群	深鉢	SG21	F	29-42	106 135 57	口縁部～底部		2段RL	漆塗布	
195	III群	深鉢	SG21	F2	26-44	(70)	体部		2段RL		
196	III群	深鉢	SG21	F2	28-46	(46) (95)	口縁部～体部上半		2段RL		
197	III群	深鉢	SG21	F1	23-33	(91)	口縁部～体部下半		2段RL		
198	III群	深鉢	SG21	F1	68-33	(92)	口縁部～体部上半		2段RL		
199	III群	深鉢	SG21	F3	74-45	(101) 98	体部下半		2段RL	漆付帯	
200	III群	深鉢	SG21	F1	68-33	(227) (364)	口縁部～体部下半		2段RL		
201	III群	深鉢	SG21	F1	74-44	(112)	口縁部～体部上半		2段RL		
202	III群	深鉢	SG21	F1	24-44	(102)	口縁部～体部上半		2段RL		
203	III群	深鉢	SG21	F1	73-39	(105)	口縁部～体部上半		2段RL		
204	III群	深鉢	SG21	F2	24-39	(93)	口縁部		2段RL		
205	III群	深鉢	SG21	F2	23-40	(147)	口縁部～体部上半		2段RL		
206	III群	深鉢	SG21	F1	23-42	(51)	口縁部		2段RL		
207	III群	深鉢	SG21	F1	82-48	(166)	口縁部～体部下半		2段RL		
208	III群	深鉢	SG21	F2	26-41	(97)	口縁部～体部上半		2段RL		
209	III群	深鉢	SG21	F1	75-45	68 80 35	完形		2段RL		
210	III群	深鉢	SG21	F2	24-32	(59)	口縁部～体部上半		2段RL		
211	III群	深鉢	SG21	F1	23-39	(81)	口縁部～体部下半		2段RL		
212	III群	深鉢	SG21	F1	27-46	(111)	口縁部		2段RL		
213	III群	深鉢	SG21	F2	24-42	149 326 112	口縁部～底部				
214	III群	深鉢	SG21	F1	71-33	(42)	口縁部				
215	III群	壺	SG21	F2	81-41	(64) (78)	口縁部～頸部		2段RL		
216	III群	壺	SG21	F1	80-48	(80) 34	頸部～底部		外外面	外外面	
217	III群	壺	SG21	F1	75-45	133 57 40	完形		2段RL		
218	III群	壺	SG21	F2	80-43	(47)	体部上半		2段RL		
219	III群	壺	SG21	F1	78-39	(50) (130)	口縁部～頸部				
220	III群	壺	SG21	F1	29-39	(150)	体部		2段RL		
221	III群	壺	SG21	F1	73-41	(155) 112	口縁部～体部上半		2段RL		
222	III群	壺	SG21	F2	25-40	(85) 151	口縁部～頸部		2段RL		
223	IV群	深鉢	SG21	F2	24-42	(239)	体部		2段RL		
224	IV群	深鉢	SG21	F1	73-40	(194) 236	口縁部～体部下半		2段RL	外外面	
225	IV群	深鉢	SG21	F1	29-40	(174) 197	口縁部～体部下半		2段RL		
226	IV群	深鉢	SG21	F2	25-37	(188) 277	口縁部～体部下半		2段RL		
227	IV群	深鉢	SG21	F1	25-40	(233) 366	口縁部～体部下半		2段RL	外外面	
228	IV群	深鉢	SG21	F2	74-43	(75) (96) (36)	口縁部～底部		2段RL		
229	IV群	深鉢	SG21	F	25-43	(105) (182)	口縁部～体部下半		2段RL		
230	IV群	深鉢	SG21	F1	79-40	(178)	74 体部～底部		2段RL		
231	IV群	深鉢	SG21	F1	78-45	(66) (232)	口縁部～体部上半		2段RL		
232	IV群	深鉢	SG21	F2	26-38	(132)	頭部～体部上半		2段RL		
233	IV群	深鉢	SG21	F1	77-42	(144) (237)	口縁部～体部下半		2段RL		

番号	分類	形態	出土場所	層位	グリッド	最高	口徑	底径	残存部位	地文	備考
254	IV群 滑鉢	SC21	F1	77-44	(185)	(205)	口縁部～体部下半	2段L,R			
255	IV群 滑鉢	SC21	F1	79-40	231	263	90	完形	2段L,R		
256	IV群 滑鉢	SC21	F2	77-39	(94)	(130)	口縁部～体部下半	2段L,R			
257	IV群 滑鉢	SC21	F2	74-40	(63)		口縁部	2段L,R			
258	IV群 滑鉢	SC21	F1	25-34	(46)		口縁部	2段L,R			
259	IV群 滑鉢	SC21	F2	77-39	(102)	(280)	口縁部～体部上半	2段L,R			
260	IV群 滑鉢	SC21	F1	24-40	(229)		口縁部～体部上半	2段L,R			
261	IV群 滑鉢	SC21	F1	75-38	(180)	237	口縁部～体部下半	2段L,R			
262	IV群 滑鉢	SC21	F2	75-42	(86)		口縁部～体部上半	2段L,R			
263	IV群 滑鉢	SC21	F2	77-39	(50)		口縁部	2段L,R			
264	IV群 滑鉢	SC21	F2	74-40	(44)		口縁部	2段L,R			
265	IV群 滑鉢	SC21	F2	77-39	(51)		口縁部	2段L,R			
266	IV群 滑鉢	SC21	F1	26-38	(116)		口縁部～体部上半	2段L,R			
267	IV群 滑鉢	SC21	F1	78-43	(76)		口縁部～体部上半	2段L,R			
268	IV群 滑鉢	SC21	F2	75-38	(89)		口縁部～頸部	2段L,R			
269	IV群 滑鉢	SC21	F1	80-40	(83)		口縁部～体部	2段L,R			
270	IV群 滑鉢	SC21	-	28-38	(104)		頸部～体部上半	2段L,R	内外面剥離		
271	IV群 滑鉢	SC21	F2	76-44	(57)		頸部	2段L,R	外面剥離付着		
272	IV群 滑鉢	SC21	F2	83-39	(38)		口縁部～体部上半	2段L,R			
273	IV群 滑鉢	SC21	F1	79-40	(72)		口縁部～体部上半	2段L,R			
274	IV群 滑鉢	SC21	F	81-40	(48)		口縁部	2段L,R			
275	IV群 滑鉢	SC21	-	26-38	(66)		口縁部～体部上半	2段L,R			
276	IV群 滑鉢	SC21	F1	25-38	118	(140)	口縁部～底部	2段L,R			
277	IV群 滑鉢	SC21	F1	77-39	(53)		口縁部～体部上半	2段L,R			
278	IV群 滑鉢	SC21	F1	28-43	(24)		口縁部	2段L,R			
279	IV群 滑鉢	SC21	F1	-	(37)		口縁部	2段L,R			
280	IV群 滑鉢	SC21	F1	27-43	(28)		口縁部	2段L,R			
281	IV群 滑鉢	SC21	F1	28-37	(38)		口縁部	2段L,R			
282	IV群 滑鉢	SC21	F1	24-44	(34)		口縁部	2段L,R			
283	IV群 滑鉢	SC21	F1	28-36	(34)		口縁部	2段L,R			
284	IV群 滑鉢	SC21	F1	29-39	(60)	(164)	口縁部	2段L,R			
285	IV群 滑鉢	SC21	F2	74-40	(51)		口縁部	2段L,R			
286	IV群 滑鉢	SC21	F1	25-40	(72)	(225)	口縁部	2段L,R			
287	IV群 滑鉢	SC21	-	28-45	(62)		口縁部～体部上半	2段L,R			
288	IV群 滑鉢	SC21	F1	26-41	(71)		口縁部	2段L,R			
289	IV群 滑鉢	SC21	F1	28-38	(63)		口縁部	2段L,R			
290	IV群 滑鉢	SC21	F1	84-46	(61)		口縁部	2段L,R			
291	IV群 滑鉢	SC21	F1	26-35	(37)		口縁部	2段L,R			
292	IV群 滑鉢	SC21	F2	24-39	(41)		口縁部	2段L,R			
293	IV群 滑鉢	SC21	F1	24-41	(63)		口縁部	2段L,R			
294	IV群 滑鉢	SC21	F1	80-45	(324)		口縁部～体部下半	2段L,R			
295	IV群 滑鉢	SC21	F1	26-36	(82)		口縁部	2段L,R			
296	IV群 滑鉢	SC21	F1	29-42	(42)		体部	2段L,R			
297	IV群 鋼	SC21	F1	96-42	70	(146)	口縁部～底部	2段L,R			
298	IV群 鋼	SC21	F1	75-39	(92)	(240)	口縁部～底部	2段L,R			
299	IV群 鋼	SC21	F1	77-41	(44)		体部上半	2段L,R			
300	IV群 鋼	SC21	F1	26-41	(37)		口縁部～体部上半	2段L,R			
301	IV群 浅鉢	SC21	F1	81-39	(148)	(344)	口縁部～体部下半	2段L,R			
302	IV群 浅鉢	SC21	F1	77-37	(60)		口縁部～体部上半	2段L,R			
303	IV群 浅鉢	SC21	F1	29-38	(113)		口縁部～体部下半	2段L,R			
304	IV群 浅鉢	SC21	F1	86-46	(74)		口縁部～体部上半	2段L,R			
305	IV群 浅鉢	SC21	F1	26-46	(32)		口縁部	2段L,R			
306	IV群 浅鉢	SC21	F2	23-43	(37)		口縁部	2段L,R			
307	IV群 浅鉢	SC21	F1	28-45	(40)		口縁部	2段L,R			
308	IV群 浅鉢	SC21	F2	26-38	(23)		口縁部	2段L,R			
309	IV群 浅鉢	SC21	F3	20-27	(99)	(256)	口縁部～体部下半	2段L,R			
310	IV群 浅鉢	SC21	F2	26-43	80	(178)	口縁部～底部	2段L,R			
311	IV群 壺	SC21	F1	29-39	(127)	(114.5)	口縁部～体部下半	2段L,R			
312	IV群 壺	SC21	F1	25-38	(116)		頸部～体部上半	2段L,R			
313	IV群 壺	SC21	F3	59-49	(170)	95	体部～底部	2段L,R			
314	IV群 壺	SC21	F1	25-35	(135)	76	体部～底部	2段L,R			
315	IV群 壺	SC21	F2	20-27	(66)		体部	2段L,R			
316	IV群 壺	SC21	-	80-41	(103)	47	体部～底部	2段L,R			
317	IV群 壺	SC21	F1	81-39	(132)		体部	2段L,R			
318	IV群 壺	SC21	F1	77-42	(124)	44	頸部～底部	2段L,R			
319	IV群 壺	SC21	F2	25-39	(55)		体部上半	2段L,R			
320	IV群 壺	SC21	F2	28-44	(79)		体部	2段L,R			
321	IV群 壺	SC21	F1	81-39	(38)		口縁部～頸部	2段L,R			
322	IV群 月口土器	SC21	F1	24-41	(188)	110	口縁部～体部下半	2段L,R	黒色		
323	IV群 月口土器	SC21	F1	72-33	(25)		口縁部	2段L,R			
324	IV群 月口土器	SC21	F1	24-43	(104)	65	頸部～底部	2段L,R	外側剥離		
325	IV群 月口土器	SC21	F1	29-38	(46)		口縁部	2段L,R			
326	IV群 月口土器	SC21	F	80-39	(27)		口縁部	2段L,R			
327	V群 滑鉢	SC21	F1	80-41	(106)	(260)	口縁部～体部上半	2段L,R			
328	V群 滑鉢	SC21	F1	77-40	(189)	(246)	口縁部～体部下半	2段L,R	無く被熱		
329	V群 滑鉢	SC21	F1	78-39	(77)		口縁部	2段L,R			
330	V群 滑鉢	SC21	F	83-47	(93)		口縁部	2段L,R			
331	V群 滑鉢	SC21	F1	79-41	(37)		口縁部	2段L,R	不明		
332	V群 滑鉢	SC21	F1	75-40	(54)		口縁部	2段L,R			

番号	分類	形態	出土場所	層位	グリッド	基高	口径	底径	残存部位	地文	備考
313	V群 滑鉢	SC21		F1	84-48	(38)			口縁部	2段LR	
314	V群 滑鉢	SC21		F1	80-44	(53)			口縁部	2段LR	
315	V群 滑鉢	SC21			80-45	(47)			口縁部	2段LR	
316	V群 滑鉢	SC21		F1	77-41	(45)			口縁部	2段LR	
317	V群 滑鉢	SC21		F1	73-41	(51)			口縁部	不明	内外面剥離
318	V群 滑鉢	SC21		F1	79-37	(53)			口縁部	2段RL	
319	V群 滑鉢	SC21		F2	58-43	(136)			口縁部	不明	
320	V群 滑鉢	SC21		F1	81-48	(75)			口縁部	2段LR	
321	V群 滑鉢	SC21		F1	74-42	(92)			口縁部	不明	外面剥離
322	V群 滑鉢	SC21		F	55-48	(42)			口縁部		
323	V群 滑鉢	SC21		F1	86-46	(56)			口縁部	不明	
324	V群 滑鉢	SC21		F1	74-42	(68)			口縁部	2段LR	
325	V群 滑鉢	SC21		F3	20-27	(120)			口縁部	2段LR	
326	V群 滑鉢	SC21		F1	69-33	(68)			口縁部～頸部	2段LR	
327	V群 滑鉢	SC21		F	83-47	(71)			口縁部	2段LR	
328	V群 滑鉢	SC21		F2	26-41	(56)			口縁部	2段LR	
329	V群 滑鉢	SC21		F1	81-42	(45)			口縁部	2段LR	
330	V群 滑鉢	SC21		F1	73-31	(60)			口縁部	2段LR	
331	V群 滑鉢	SC21		F2	20-27	(78)			口縁部	不明	
332	V群 滑鉢	SC21		F1	82-45	(94)			口縁部	2段LR	補修孔1ヶ所
333	V群 滑鉢	SC21		F2	82-44	(121)			口縁部～体部下半	2段LR	
334	V群 滑鉢	SC21		F1	84-47	(160)			体部	2段LR	
335	V群 滑鉢	SC21		F1	20-38	(78)			体部下手	2段LR	
336	V群 滑鉢	SC21		F1	75-41	(78)			右部	2段LR	
337	V群 滑鉢	SC21		F3	23-46	(60)			右部		
338	V群 滑鉢	SC21		F2	80-45	(100) 306			口縁部～体部上半	不明	
339	V群 滑鉢	SC21		F1	24-42	(61)			口縁部	2段LR	赤色顔料
340	V群 滑鉢	SC21		F1	25-37	(34)			口縁部	2段RL	
341	V群 滑鉢	SC21		F1	24-40	(48)			体部上手	2段LR	
342	V群 滑鉢	SC21		F1	23-41	(115) (165)			口縁部～体部上半	2段LR	
343	V群 滑鉢	SC21		F2	25-41	(36)			口縁部		
344	V群 滑鉢	SC21		F2	25-42	(57)			口縁部～体部上半	2段LR	
345	V群 滑鉢	SC21		F1	24-44	(67)			頸部～体部上半	2段LR	
346	V群 滑鉢	SC21		F1	81-45	(89)			体部下手	2段LR	
347	V群 滑鉢	SC21		F3	20-27	(61)			口縁部～体部下半	2段LR	外面摩耗
348	V群 滑鉢	SC21		F1	77-38	(45)			口縁部	2段LR	
349	V群 釜	SC21		F1	20-31	(57)			口縁部～体部上半	2段LR	
350	V群 釜	SC21		F2	26-36	(125)	32		体部～底部	2段LR + RL	矢羽状觸査
351	V群 釜	SC21		F3	65-40	(47)			口縁部	2段LR	内外面赤色顔料付着
352	V群 (注口土器)	SC21		F	28-39	(64)			注口部		半内鄭の手去
353	V群 (注口土器)	SC21			21-42	(62)			注口部	2段RL	
354	V群 (注口土器)	SC21			28-45	(89)			口縁部～体部上半		
355	V群 (注口土器)	SC21		F1	82-45	(23)	40		底部		
356	V群 (注口土器)	SC21		F2	—	(48)	80		底部		
357	V群 台付浅鉢	SC21		F	73-32	95	77		完形		台径67mm, 缶台形土器
358	V群 台部	SC21			80-43	(47)	23		台部	2段LR	
359	V群 台部	SC21		F	73-45	(37)	32		台部		黒色, 台径57mm
360	V群 台部	SC21		F1	28-45	(31)	20		台部		台径50mm
361	V群 脚鉢	SC21		F2	25-42	(75)			台部		
362	V群 脚鉢	SC21		F1	26-36	(66)			台部		
363	V群 滑鉢	SC21		F2	71-33	349	294	134	完形		
364	V群 滑鉢	SC21		F1	26-42	(147)			口縁部～底部		注加破片多数
365	V群 滑鉢	SC21		F1	29-39	(214)			口縁部～体部下半		
366	V群 滑鉢	SC21			20-28	(45)			口縁部		
367	V群 滑鉢	SC21		F1	28-40	(65)			口縁部～体部上半		
368	V群 滑鉢	SC21		F1	29-42	(38)			口縁部～体部上半		
369	V群 滑鉢	SC21		F2	28-40	(67)			口縁部～体部上半		
370	V群 滑鉢	SC21		F1	24-43	(36)			口縁部		
371	V群 滑鉢	SC21		F1	69-48	(53) (134)			口縁部		
372	V群 滑鉢	SC21		F1	26-38	101	(90)	50	口縁部～底部		
373	V群 滑鉢	SC21		F1	29-37	(237)			口縁部～体部下半		
374	V群 釜	SC21		F1	68-33	(406) (203)			口縁部～体部下半		
375	V群 釜	SC21		F1	74-39	51	81	(32)	口縁部～底部		
376	V群 釜	SC21		F2	24-30	(57)			口縁部～底部		
377	V群 釜	SC21		F1	80-40	(71)			口縁部～体部上半		
378	V群 釜	SC21		F1	28-37	(57)			口縁部		
379	V群 釜	SC21		F1	28-38	(37)			口縁部～体部下半		
380	V群 釜	SC21		F1	25-40	61	(103)	36	完形		
381	V群 釜	SC21		F3	26-36	(55)	152		口縁部～体部下半		
382	V群 釜	SC21		F1	26-40	(39)	178		口縁部～体部下半		
383	V群 滑鉢	SC21		F1	82-37	(42)	32		体部～底部		
384	V群 滑鉢	SC21		F1	81-39	(51)	(40)		体部～底部		
385	V群 釜	SC21		F1	20-33	(85) (196)			口縁部		黒色
386	V群 釜	SC21		F1	26-39	(88) (177)			口縁部		
387	V群 釜	SC21		F1	28-39	(135)	70		移部～底部		
388	V群 釜	SC21		F1	75-41	(45)			頸部～体部上半		外面剥離
389	V群 釜	SC21		F1	26-42	(64)	53		口縁部～底部		
390	V群 釜	SC21		F2	26-38	76	52	28	完形		
391	V群 滑鉢	SC21		F	28-46	(40)			口縁部	R - 右脛骨	

番号	分類	形態	出土場所	層位	グリッド	基高	口徑	底径	残存部位	地文	備考
352	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	25-38	(280)	(263)	口縁部～体部下半	2段RL			
363	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 3	23-44	(47)		口縁部～頸部	2段RL			
384	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	69-33	(58)		口縁部～頸部	2段RL			
385	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F	74-32	(240)	265	口縁部～体部下半	2段RL	ほか破片多数		
386	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	20-33	(46)		口縁部	2段RL			
387	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	22-41	(102)		口縁部	2段RL			
388	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	82-47	(86)		口縁部～体部上半	2段RL			
389	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	68-33	(117)	(265)	口縁部～体部上半	2段RL			
400	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 2	73-33	319	200	130	口縁部～底部	2段RL		
401	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	68-32	(102)	(256)	口縁部～体部上半	2段RL			
402	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	75-39	(182)	(335)	口縁部～体部上半	2段RL			
403	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	68-32	143	(146)	(70)	口縁部～底部	1段L		
404	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 2	24-43	(45)		口縁部	2段RL			
405	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F	75-40	(110)		口縁部～体部上半	1段L			
406	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 2	26-38	(103)		口縁部～体部下半	2段RL	外面斑駁被熱		
407	Ⅷ群 深鉢	SG 21		25-35	(62)		口縁部		網目状条文		
408	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	69-33	(220)	240	口縁部～体部下半	2段RL	外面煤付着		
409	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	29-40	(303)	(264)	口縁部～体部下半	2段RL			
410	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	29-40	(46)		口縁部	2段RL			
411	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	83-46	(67)	(171)	口縁部～体部上半	2段RL			
412	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 2	71-34	(64)	(216)	口縁部～体部上半	2段RL			
413	Ⅷ群 深鉢	SG 21		77-45	(55)		口縁部～体部上半	2段RL			
414	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	28-41	(42)		口縁部	2段RL			
415	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 2	26-41	(55)		口縁部	2段RL			
416	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	72-42	(29)		口縁部	2段RL			
417	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	81-41	(66)		口縁部	2段RL			
418	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 2	24-43	(275)	244	口縁部～体部下半	2段RL	口縁煤付着		
419	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 3	79-39	(176)	(263)	口縁部～体部下半	2段RL	外面煤付着		
420	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	77-40	(249)	300	口縁部～体部下半	2段RL	外面煤付着		
421	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	25-38	(258)	(308)	口縁部～体部下半	2段RL	補修孔1ヶ所、外面被熱・網目		
422	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	24-43	(205)	275	口縁部～体部下半	2段RL			
423	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	71-34	(79)		口縁部	2段RL			
424	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 2	24-44	173	(110)	(90)	口縁部～底部	R-右巻き		
425	Ⅷ群 直	SG 21	F 2	69-32	(58)		体部	1段L			
426	Ⅷ群 直	SG 21	F 1	77-40	(82)	(160)	口縁部～頸部	2段RL			
427	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	24-31	255	210	116	口縁部～底部	2段RL	被熱	
428	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	29-40	(233)	(349)	口縁部～体部下半	2段RL			
429	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 2	20-34	(108)		口縁部～体部下半	刷毛目状条文			
430	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 2	24-40	(200)	(294)	口縁部～体部下半	2段RL	内外面被熱		
431	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	82-47	(74)		体部下半	不明			
432	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 2	74-44	(178)		口縁部～体部下半	2段RL			
433	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	74-40	(130)		侈部	2段RL	圓文の結節あり		
434	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	26-37	257	328	94	口縁部～底部	刷毛目状条文		
435	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	26-43	(240)	(300)	口縁部～体部下半	2段RL			
436	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	25-42	(59)		口縁部	2段RL			
437	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 1	73-43	(148)		口縁部～体部上半	2段RL			
438	Ⅷ群 直	SG 21	F 1	74-40	166	(256)	124	口縁部～底部	2段RL		
439	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 3	20-26	(47)	65	40	体部下半～底部	2段RL		
440	Ⅷ群 深鉢	SG 21	F 2	24-44	(50)		口縁部	2段RL			
441	Ⅷ群 ミニチュア土器	SG 21	F 2	28-37	77	45	7	口縁部～底部			
442	Ⅷ群 ミニチュア土器	SG 21		77-36	23		口縁部～底部				
443	Ⅷ群 ミニチュア土器	SG 21	F 1	20-33	(13)	(24)	口縁部				
444	Ⅷ群 ミニチュア土器	SG 21		84-39	(33)	27	台部		台径2mm		
445	Ⅷ群 ミニチュア土器	SG 21		69-32	(39)	28	台部		台径34mm		
446	Ⅷ群 瓢形土器	SG 21	F 1	73-43	(74)		口縁部～頸部	O段多条LR			
447	Ⅷ群 瓢形土器	SG 21	F 1	74-46	(77)			2段RL			
448	Ⅷ群 深鉢	田耕土	G 1-53	(145)			口縁部～体部上半	2段RL	449と同一個体		
449	Ⅷ群 深鉢	田耕土	G 1-53	(170)			140 体部下半～底部	2段RL	448と同一個体		
450	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 1-48	(51)			口縁部	R-右巻き			
451	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 2-56	(41)			口縁部	2段RL			
452	Ⅷ群 深鉢	田耕土	G 55	(60)			口縁部～体部下半	R-右巻き	ほか破片多数		
453	Ⅷ群 深鉢	田耕土	G 57-52	(96)			口縁部	2段RL			
454	Ⅷ群 深鉢	田耕土	G 51-55	(83)			口縁部～体部上半	L-右巻き	455と同一個体		
455	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 51-55	(83)			体部上半	L-右巻き	454と同一個体		
456	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 60-47	(22)			口縁部				
457	Ⅷ群 深鉢	田耕土	G 50-60	(66)			口縁部～体部上半	2段RL			
458	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 1-46	65	(99)	(48)	口縁部～底部	2段RL			
459	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 32-54	430	264	130	口縁部～底部	R-右巻き	外面剥離		
460	Ⅷ群 深鉢	旧耕土	G 56-54	(103)	(102)		口縁部～体部下半	2段RL			
461	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 39-46	(43)			口縁部	2段RL			
462	Ⅷ群 直	遺物包含層	G 37-48	(71)	(68)		口縁部～頸部	2段RL			
463	Ⅷ群 直	遺物包含層	G 62-51	(62)			頸部～体部上半	2段RL			
464	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 38-44	(65)			口縁部	2段RL			
465	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 58-43	(54)			口縁部	不明	外面剥離		
466	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 57-49	(168)	214		口縁部～体部下半	2段RL	口縁煤付着		
467	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 67-49	(52)			口縁部	2段RL			
468	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 57-49	(82)			口縁部	2段RL			
469	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 65-48	(56)			口縁部	2段RL			
470	Ⅷ群 深鉢	遺物包含層	G 62-50	(30)			口縁部	2段RL			

番号	分類	形態	出土場所	層位	グリッド	基高	口径	底径	残存部位	地文	備考
471	IV群 深鉢	遺物包含層	67-49	(230)		口縁部～体部下半	2段RL				
472	IV群 深鉢	遺物包含層	57-44	(218)	325	口縁部～体部下半	2段LR				
473	IV群 深鉢	遺物包含層	66-49	(43)		口縁部	2段RL				
474	IV群 深鉢	遺物包含層	58-47	(55)		口縁部	2段RL				
475	IV群 深鉢	遺物包含層	66-49	(104)		口縁部～体部上半	2段RL				
476	IV群 深鉢	遺物包含層	58-43	(57)		口縁部～体部上半	2段RL				
477	IV群 深鉢	遺物包含層	60-45	(83)		口縁部～体部上半	2段RL				
478	IV群 深鉢	遺物包含層	62-50	(77)		口縁部	2段RL				
479	IV群 深鉢	遺物包含層	58-43	(83)		口縁部	不明				外面部剥離
480	IV群 深鉢	遺物包含層	61-49	(226)	(296) (94)	口縁部～底部	2段RL				
481	IV群 深鉢	遺物包含層	58-46	(115)		口縁部～体部上半	2段RL				
482	IV群 深鉢	遺物包含層	58-47	(170)		口縁部～体部下半	2段RL				
483	IV群 深鉢	遺物包含層	62-50	133	145 54	完形	2段RL				
484	IV群 深鉢	遺物包含層	57-44	(213)		口縁部～体部下半	2段RL				
485	IV群 深鉢	遺物包含層	57-47	(46)		口縁部～体部上半	2段RL				
486	IV群 深鉢	遺物包含層	57-47	(46)		口縁部	2段RL				
487	IV群 深鉢	遺物包含層	57-49	(184)	376	口縁部～体部上半	2段RL				
488	IV群 浅鉢	田耕土	56-54	(60)		口縁部					
489	IV群 盆	田耕土	58-44	(70)	45	体部～底部	1段L				
490	IV群 盆	田耕土	60-47	(42)	96	口縁部				黒色	
491	IV群 盆	田耕土	53-55	(91)	43	体部～底部	2段LR				
492	IV群 盆	遺物包含層	58-32	(95)		体部	2段RL				被熱し外面部剥離
493	IV群 盆	田耕土	56-55	(35)	45	体部下半～底部	2段RL				内面漆付着
494	IV群 盆	田耕土	51-54	(242)		頸部～体部	2段RL				
495	IV群 盆	遺物包含層	57-45	(73) (158)		口縁部～頸部	2段RL				
496	IV群 盆	田耕土	61-45	(99)		体部上半	2段RL				
497	IV群 盆	遺物包含層	57-43	290		頸部～体部	2段RL				
498	IV群 盆	遺物包含層	61-48	(101) (201)		口縁部～体部下半	2段RL				
499	IV群 盆	遺物包含層	58-46	(124) (225)		口縁部～体部上半	1段R				
500	V群 深鉢	遺物包含層	72-56	289	240 76	完形	2段RL				
501	V群 深鉢	遺物包含層	59-55	(56)		口縁部	2段RL				
502	V群 深鉢	遺物包含層	77-52	(61)		口縁部	2段RL				
503	V群 深鉢	遺物包含層	57-55	(273) (216)		口縁部～体部下半	2段RL				
504	V群 深鉢	遺物包含層	61-47	233	225	口縁部～体部下半	2段RL				
505	V群 深鉢	遺物包含層	61-49	(76)		口縁部～体部下半	2段RL				
506	V群 深鉢	遺物包含層	54-54	(145)		口縁部	不明				
507	V群 深鉢	遺物包含層	58-49	(96)		口縁部					
508	V群 深鉢	遺物包含層	36-45	(90)		口縁部	2段RL				
509	V群 深鉢	遺物包含層	58-50	(86)		口縁部					
510	V群 深鉢	遺物包含層	38-47	(133)		口縁部					
511	V群 深鉢	遺物包含層	57-44	(116)		口縁部	2段RL				
512	V群 深鉢	遺物包含層	64-49	(60)		口縁部					
513	V群 深鉢	遺物包含層	66-47	(71)		口縁部	2段RL				
514	V群 深鉢	遺物包含層	63-50	104 98 -48	完形	2段RL	黒色				
515	V群 深鉢	遺物包含層	65-48	(70)		体部	2段RL				
516	V群 深鉢	遺物包含層	67-49	(229)		口縁部～体部下半	2段RL				
517	V群 深鉢	遺物包含層	57-48	(82)		口縁部	2段RL				漆ぬれ
518	V群 深鉢	遺物包含層	63-48	(46)		口縁部					
519	V群 深鉢	遺物包含層	59-45	(46)		口縁部					刷毛目状条線文
520	V群 深鉢	遺物包含層	64-48	(53)		口縁部					
521	V群 深鉢	田耕土	49-50	(67)		頸部	2段RL				
522	V群 台付浅鉢	遺物包含層	57-45	(40) (144) (132)		口縁部～底部	2段RL				
523	V群 台付鉢	田耕土	58-53	(38)	(64)	体部下半～台部	2段RL				
524	V群 注口土器	遺物包含層	58-48	75	(68) 30	口縁部～底部				黒色、半内彌の手法	
525	V群 注口土器	遺物包含層	59-45	(41)		注口部					
525	V群 深鉢	田耕土	58-53	(90)		口縁部	2段RL				
527	V群 深鉢	遺物包含層	67-49	(56)		口縁部～体部上半					
528	V群 鉢	遺物包含層	59-50	106	(160) (58)	口縁部～底部					内外面赤色顔料付着
529	V群 鉢	遺物包含層	81-37	(48)		口縁部～体部上半					
530	V群 盆	遺物包含層	57-47	(82)	54	体部～底部					
531	VI群 深鉢	遺物包含層	59-46	(118)		口縁部～体部上半	2段RL				
532	VI群 深鉢	遺物包含層	62-48	(188)		口縁部～体部上半	1段L				
533	VI群 深鉢	田耕土	56-55	(69)		口縁部～体部下半	2段RL				
534	VI群 深鉢	遺物包含層	59-49	(46)		口縁部～体部上半	2段RL				
535	VI群 深鉢	遺物包含層	57-44	155	149 58	完形	2段RL				
536	VI群 ミニチュア土器	遺物包含層	54-54	(38)	31	台部					台径50mm
537	VI群 深鉢	遺物包含層	59-44	(32)	114	底部	2段RL				耐火灰と木炭痕
538	VI群 深鉢	遺物包含層	66-46	(28)		口縁部	2段RL				
539	VI群 深鉢	田耕土	65-47	(68)		体部上半	2段RL				瘤付土器第Ⅱ段階
540	VI群 深鉢	X 0		(66)		口縁部	2段RL				瘤付土器第Ⅲ段階
541	IV群 深鉢	X 0		(39)		口縁部	2段RL				
542	IV群 深鉢	X 0		(31)		口縁部	2段RL				
543	IV群 深鉢	X 0		(40)		口縁部	不明				
544	IV群 鉢	X 0		(44)		口縁部	2段RL				
545	IV群 浅鉢	X 0		(61)		口縁部	2段RL				
547	V群 鉢	X 0		(51)		口縁部～体部上半	2段RL				
548	V群 注口土器	X 0		(37)		体部上半					半内彌の手法

表2 土偶・耳飾・スタンプ状土製品・土鉢・そのほかの土製品・円盤状土製品観察表

※肩位のFは覆土、Yは床面あるいは底面出土を表す。

長さ・幅・厚さの括弧は既存値を表す。

番号	種類	出土遺構	肩位	グリッド	長さ	幅	厚さ	備考
549	土偶	SG 21	F 1	70-31	(73)	-	-	頭部
550	土偶	SG 21	F 2	60-32	(53)	-	-	頭部、アスファルト封着
551	土偶	SG 21	-	83-38	(62)	-	-	頭部
552	土偶	SG 21	F 1	75-45	(61)	-	-	頭上半
553	土偶	SG 21	F	75-42	(73)	-	-	頭部
554	土偶	X 0	-	-	(46)	-	-	頭上半
555	土偶	遺物包含層	-	57-48	(46)	-	-	左胸部
556	土偶	SK 250	-	83-35	(52)	-	-	頭上半
557	土偶	SG 21	F	78-45	(133)	-	-	頭部
558	土偶	SG 21	F 1	72-40	(32)	-	-	右腕
559	土偶	SG 21	F 2	77-41	(72)	-	-	腰部
560	土偶	SG 21	F	80-42	(51)	-	-	腰部
561	土偶	SG 21	F 1	82-43	(45)	-	-	腰部
562	土偶	SK 500	-	72-35	(63)	-	-	腰部
563	土偶	SG 21	F 1	82-45	(56)	-	-	脚部
564	土偶	SG 21	F 1	78-45	(48)	-	-	脚部
565	土偶	SG 21	F 2	74-39	(46)	-	-	右膝
566	土偶	SG 21	-	-	(40)	-	-	右膝
567	土偶	SG 21	F 1	72-31	(20)	-	-	右膝
568	耳飾	SG 21	F 2	74-23	11	-	15	無文・無孔
569	スタンプ状土製品	SG 21	F 1	74-40	(20)	-	38	指手部分欠損
570	土鈴	SG 21	F 1	78-43	42	23	14	有墜子鍔
571	土製品	SG 21	F 1	79-36	(51)	-	(11)	把手
572	土製品	SG 21	F 2	77-36	33	27	22	球狀・中実
573	土製品	SP354	-	73-30	70	48	-	円錐形・中実
574	円盤状土製品	SG 21	F 1	72-40	36	38	9	無文
575	円盤状土製品	SG 21	F 1	68-32	41	44	8	無文
576	円盤状土製品	SG 21	F 1	80-46	31	26	7	一部研磨
577	円盤状土製品	SG 21	-	57-42	42	43	8	2段LR
578	円盤状土製品	SG 21	遺物包含層	65-46	30	28	8	一部研磨
579	円盤状土製品	SG 21	遺物包含層	61-50	32	32	6	2段LR
580	円盤状土製品	SG 21	遺物包含層	80-43	33	33	7	2段LR
581	円盤状土製品	SG 21	F	73-44	56	56	12	1段LR
582	円盤状土製品	SG 21	F 1	81-38	55	52	9	2段LR
583	円盤状土製品	SG 21	F	86-51	60	56	12	2段LR
584	円盤状土製品	SG 21	F 1	80-38	59	63	14	2段LR
585	円盤状土製品	SG 21	F 2	76-36	35	37	8	一部研磨
586	円盤状土製品	SG 21	F 2	73-35	47	44	12	-
587	円盤状土製品	SG 21	遺物包含層	63-44	39	38	10	一部研磨
588	円盤状土製品	SG 21	-	68-38	57	64	16	粘土貼付痕あり
589	円盤状土製品	SP268	F 1	60-46	38	43	11	側面圧痕・2段LR
590	円盤状土製品	SG 21	F 1	75-38	36	36	8	2段LR
591	円盤状土製品	SG 21	F 1	76-45	35	32	8	周辺研磨・2段LR
592	円盤状土製品	SG 21	F	78-40	31	32	10	2段LR
593	円盤状土製品	SG 21	F 1	78-43	46	47	8	周辺研磨・2段LR
594	円盤状土製品	SG 21	F 1	71-31	55	56	9	一部研磨・2段LR
595	円盤状土製品	SG 21	F 1	82-38	51	55	8	周辺研磨・2段LR
596	円盤状土製品	SK 47	-	78-54	53	50	10	2段LR
597	円盤状土製品	SG 21	-	-	25	27	7	2段LR
598	円盤状土製品	SG 21	F 1	76-44	38	35	7	周辺研磨・2段LR
599	円盤状土製品	X 0	-	-	31	39	12	一部研磨・底部木葉痕
600	円盤状土製品	SG 21	-	84-48	45	44	9	底面代板
601	円盤状土製品	SG 21	F 1	75-35	42	41	9	周辺研磨・撲条文R
602	円盤状土製品	SG 21	-	71-41	28	27	8	-
603	円盤状土製品	SG 21	-	75-38	38	36	9	-
604	円盤状土製品	SG 21	-	81-38	38	39	8	一部研磨

表3 石器観察表

※層位のFは覆土、Vは床面あるいは底面を表す。長さ・幅・厚さの単位はmm、重さはg。石材鑑定は筆者が行った(委田1991)。

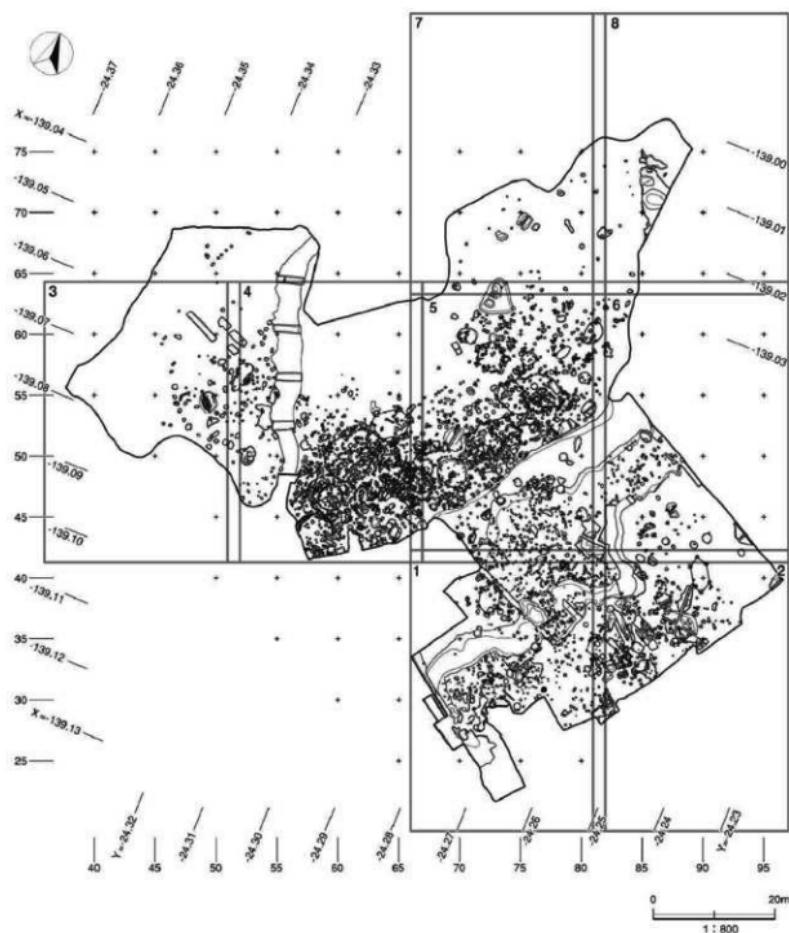
番号	器種	分類	出土地標	層位	グリッド	長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考
605	石器	四基無茎	S7.4	F2	56-45	17	10	4	0.74	珪質頁岩	
606	石器	四基無茎	S6.21	F1	80-41	14	11	2	0.27	珪質頁岩	
607	石器	四基無茎	S8.587		80-45	18	14	4	0.59	泥灰岩	
608	石器	四基無茎	S6.21	F1	74-43	15	11	3	0.33	黒曜石	両脚部欠損
609	石器	四基無茎	S6.21	F2	76-37	19	14	4	0.75	玉髓	
610	石器	四基無茎	S3.70	F	63-63	17	12	5	0.58	泥灰岩	先端部欠損
611	石器	四基無茎	S6.21	F1	76-43	15	10	4	0.32	泥灰岩	
612	石器	四基無茎	遺物包含層		63-48	20	12	4	0.50	黒曜石	
613	石器	四基無茎	S7.2		63-50	21	11	5	0.57	泥灰岩	
614	石器	四基無茎	S8.304		86-35	24	14	4	0.94	玉髓	
615	石器	四基無茎	S6.21		82-39	26	15	5	0.93	泥灰岩	
616	石器	四基無茎	S6.21	F1	77-35	27	21	6	2.27	珪質頁岩	
617	石器	四基無茎	S6.21	F1	76-38	25	13	4	0.88	玉髓	
618	石器	四基無茎	S6.21	F1	79-39	16	13	4	0.53	玉髓	
619	石器	四基無茎	S6.21	F1	78-41	19	13	4	0.50	泥灰岩	ガジリ
620	石器	四基無茎	S6.21	F1	80-45	20	13	3	0.46	玉髓	
621	石器	四基無茎	S8.11		81-42	17	12	3	0.25	玉髓	左脚部欠損
622	石器	四基無茎	S6.21		79-42	20	14	2	0.34	玉髓	左脚部欠損
623	石器	四基無茎	S6.21	F1	75-40	23	14	3	0.52	玉髓	左脚部欠損
624	石器	四基無茎	S8.11		80-42	24	13	3	0.37	玉髓	左脚部欠損
625	石器	四基無茎	S6.21		75-39	27	13	3	0.56	鈍石英	左脚部欠損
626	石器	四基無茎	S6.21	F1	76-44	15	11	4	0.33	玉髓	
627	石器	四基有茎	S6.21	F1	68-39	15	10	3	0.29	玉髓	茎部欠損
628	石器	四基有茎	S6.21	F1	74-44	15	10	3	0.25	玉髓	
629	石器	四基有茎	S6.21	F1	78-40	13	12	4	0.35	玉髓	先端部、茎部欠損
630	石器	四基有茎	S6.21	F2	77-42	17	10	4	0.46	珪質頁岩	
631	石器	四基有茎	S6.21	F2	77-42	16	12	2	0.35	玉髓	先端部、茎部欠損
632	石器	四基有茎	S6.21	F1	78-39	19	11	4	0.44	珪質頁岩	
633	石器	四基有茎	S6.21	F3	70-27	15	12	4	0.44	玉髓	
634	石器	四基有茎	S6.21		73-43	20	12	4	0.59	黒曜石	左脚部欠損
635	石器	四基有茎	S6.21	F1	78-38	18	12	4	0.64	玉髓	茎部欠損
636	石器	四基有茎	S6.21	F2	78-42	18	11	4	0.49	鈍石英	茎部欠損
637	石器	四基有茎	S6.21	F1	76-40	18	12	3	0.48	玉髓	茎部欠損
638	石器	四基有茎	S6.21	F2	74-43	24	12	5	0.81	玉髓	
639	石器	四基有茎	S6.21	F1	78-41	19	14	4	0.74	珪質頁岩	先端部欠損
640	石器	四基有茎	S7.7		77-45	25	14	4	0.68	玉髓	
641	石器	四基有茎	S7.4	F2	51-44	21	15	5	1.15	玉髓	左脚部欠損
642	石器	四基有茎	遺物包含層		60-45	23	18	5	1.32	珪質頁岩	
643	石器	平基有茎	S6.21		73-30	11	9	3	0.30	黒曜石	
644	石器	平基有茎	S6.21		82-38	13	10	3	0.19	黒曜石	
645	石器	平基有茎	S6.21	F1	81-39	14	10	4	0.39	泥灰岩	
646	石器	平基有茎	S7.4	F2	58-44	16	11	3	0.35	玉髓	
647	石器	平基有茎	S6.21	F2	82-36	15	10	4	0.32	黒曜石	
648	石器	平基有茎	S6.21	F2	76-44	16	10	3	0.35	泥灰岩	
649	石器	平基有茎	S6.21	F2	77-40	18	10	4	0.51	泥灰岩	
650	石器	平基有茎	S6.21	F1	74-33	21	11	4	0.47	玉髓	
651	石器	平基有茎	S8.587		80-45	16	13	3	0.34	鈍石英	先端部欠損
652	石器	平基有茎	S6.21	F1	82-45	17	14	4	0.54	泥灰岩	先端部欠損
653	石器	平基有茎	S6.21		69-33	21	11	4	0.63	黒曜石	
654	石器	平基有茎	S1.0		~	18	14	4	0.57	黒曜石	先端部欠損
655	石器	平基有茎	S8.62		80-54	18	13	4	0.32	泥灰岩	
656	石器	平基有茎	S6.21	F1	75-40	17	12	3	0.34	玉髓	
657	石器	平基有茎	S6.21	F1	79-38	19	12	3	0.36	玉髓	
658	石器	平基有茎	S6.21	F1	76-43	17	12	3	0.44	玉髓	アスファルト付着
659	石器	平基有茎	S6.21	F1	78-41	21	11	4	0.55	泥灰岩	
660	石器	平基有茎	S6.21	F2	77-41	21	11	4	0.56	玉髓	
661	石器	平基有茎	S6.21	F2	81-39	23	15	5	0.92	玉髓	
662	石器	平基有茎	S6.21	F1	72-32	18	10	3	0.40	玉髓	茎部欠損
663	石器	平基有茎	S6.21	F1	78-42	19	13	5	0.69	鈍石英	
664	石器	平基有茎	S6.21	F1	81-39	19	15	5	0.97	玉髓	
665	石器	平基有茎	S6.21	F1	70-34	21	13	4	0.66	鈍石英	
666	石器	平基有茎	S6.21		69-32	15	13	3	0.42	玉髓	先端部欠損
667	石器	平基有茎	S6.21	F1	80-38	22	11	5	0.61	珪質頁岩	アスファルト付着
668	石器	平基有茎	S6.21	F1	82-46	18	14	3	0.48	珪質頁岩	茎部、右脚部欠損
669	石器	平基有茎	S6.21	F1	82-38	23	16	7	1.63	黒曜石	
670	石器	平基有茎	S3.11		80-42	22	11	5	0.64	珪質頁岩	
671	石器	平基有茎	S6.21	F1	78-36	21	10	3	0.33	泥灰岩	
672	石器	平基有茎	S1.0		27	13	4	0.74	珪質頁岩		
673	石器	平基有茎	S6.21	F1	60-32	24	12	4	0.54	鈍石英	左脚部欠損
674	石器	平基有茎	S6.21		77-40	25	13	4	0.74	珪質頁岩	
675	石器	平基有茎	S6.21	F2	79-40	21	12	4	0.67	泥灰岩	茎部欠損、アスファルト付着
676	石器	平基有茎	S6.21	F1	72-31	25	14	5	0.70	黒曜石	
677	石器	平基有茎	遺物包含層		59-43	24	14	5	1.22	珪質頁岩	
678	石器	平基有茎	S3.03		71-35	22	13	6	1.12	泥灰岩	茎部欠損
679	石器	平基有茎	S8.304		62-45	23	16	4	0.76	玉髓	
680	石器	平基有茎	S6.21	F1	77-44	25	12	4	0.61	珪質頁岩	

番号	器種	分類	出土構造	層位	グリッド	長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考	
081	石獅	平底有蓋	S621	F1	74-41	23	12	3	0.44	波紋岩		
082	石獅	平底有蓋	S621	F2	67-32	17	14	3	0.50	珪質頁岩	アスファルト付着、先端部・茎部欠損	
083	石獅	平底有蓋	X0	-	-	19	16	4	0.73	玉髓	先端部欠損	
084	石獅	平底有蓋	S621	F1	78-38	19	15	3	0.63	玉髓	先端部欠損	
085	石獅	平底有蓋	S77	-	-	75-45	22	16	4	0.81	珪質頁岩	左脚部・茎部欠損
086	石獅	平底有蓋	S73	-	-	68-49	27	14	4	0.78	珪質頁岩	
087	石獅	平底有蓋	X0	-	-	-	23	12	5	1.31	珪質頁岩	
088	石獅	平底有蓋	SP405	-	-	76-54	25	15	6	1.30	黑曜石	
089	石獅	平底有蓋	S74	F	58-44	32	21	9	4.50	玉髓		
090	石獅	平底有蓋	S621	F1	76-43	31	22	7	3.58	玉髓		
091	石獅	凸底有蓋	-	-	-	51-44	19	11	3	0.46	珪質頁岩	
092	石獅	凸底有蓋	S79	-	-	59-51	20	12	5	1.00	波紋岩	
093	石獅	凸底有蓋	S621	F1	69-33	20	16	4	0.91	黑曜石		
094	石獅	凸底有蓋	X0	-	-	-	19	13	4	0.63	玉髓	
095	石獅	凸底有蓋	-	-	-	81-53	21	11	5	0.70	珪質頁岩	
096	石獅	凸底有蓋	-	-	-	67-49	22	12	3	0.46	波紋岩	
097	石獅	凸底有蓋	S74	F1	58-44	20	14	4	0.85	珪質頁岩		
098	石獅	凸底有蓋	X0	-	-	-	22	13	4	0.79	玉髓	
099	石獅	凸底有蓋	X0	-	-	-	22	13	4	0.71	波紋岩	
100	石獅	凸底有蓋	-	-	-	64-50	23	12	3	0.56	玉髓	右脚部欠損
701	石獅	凸底有蓋	SK222	-	-	90-43	22	13	3	0.72	波紋岩	
702	石獅	凸底有蓋	S621	F1	77-41	24	16	5	1.16	珪質頁岩		
703	石獅	凸底有蓋	S621	F3	70-27	24	13	5	1.22	波紋岩		
704	石獅	凸底有蓋	S621	F2	72-31	30	15	7	2.32	珪質頁岩		
705	石獅	凸底有蓋	-	-	-	58-42	27	18	7	2.65	珪質頁岩	
706	石獅	凸底有蓋	SP288	-	-	60-46	26	14	4	0.88	黑曜石	
707	石獅	凸底有蓋	S621	F	75-40	26	15	3	1.02	珪質頁岩	茎部欠損	
708	石獅	凸底有蓋	S621	F1	77-39	32	16	4	1.47	珪質頁岩		
709	石獅	凸底有蓋	-	-	-	58-49	33	17	5	1.73	波紋岩	
710	石獅	尖基	S621	F2	72-41	15	7	4	0.45	黑曜石		
711	石獅	尖基	S621	F1	70-33	26	10	5	0.58	玉髓		
712	石獅	尖基	S621	F1	-	-	25	12	4	0.69	珪質頁岩	
713	石獅	尖基	SK296	-	-	65-53	27	9	4	0.85	玉髓	
714	石獅	円基	S621	F3	70-27	19	12	4	0.88	玉髓		
715	石獅	円基	S621	F	78-43	22	13	4	0.80	黑曜石		
716	石獅	円基	S621	F1	77-46	21	18	6	1.99	石英		
717	石獅	円基	SP223	-	-	57-53	22	17	8	2.14	黑曜石	
718	石獅	円基	S621	F3	70-27	25	19	7	2.80	石英		
719	石獅	円基	S621	F2	80-40	24	16	9	2.64	玉髓		
720	石獅	円基	S621	F1	75-38	24	14	5	1.49	珪質頁岩		
721	石獅	円基	S74	F2	58-43	22	14	4	1.15	玉髓		
722	石獅	円基	S73	-	-	69-48	24	17	7	2.31	珪質頁岩	
723	石獅	円基	S621	F1	82-45	24	17	4	1.70	玉髓		
724	石獅	円基	S621	F1	78-39	25	15	6	2.05	珪質頁岩		
725	石獅	円基	S74	F2	58-44	25	16	5	1.91	玉髓		
726	石獅	円基	S621	F1	82-46	22	17	7	2.11	玉髓		
727	石獅	円基	S621	F2	69-32	26	20	8	2.77	波紋岩		
728	石獅	円基	S621	F1	66-30	28	19	7	3.20	波紋岩		
729	尖頭器	尖頭器	S621	F1	81-40	30	24	10	5.40	鐵石英		
730	尖頭器	尖頭器	SX70	F	80-42	30	23	11	7.67	鐵石英		
731	尖頭器	尖頭器	SX70	F	72-63	34	25	8	6.21	波紋岩		
732	尖頭器	尖頭器	-	-	-	77-36	36	28	9	7.38	珪質頁岩	
733	尖頭器	尖頭器	SK614	F1	70-27	37	27	13	10.11	玉髓		
734	尖頭器	尖頭器	S621	F1	80-48	44	29	13	13.11	玉髓		
735	尖頭器	尖頭器	S621	F	79-31	44	33	14	15.15	珪質頁岩		
736	尖頭器	尖頭器	S621	F2	79-43	30	25	9	5.82	珪質頁岩		
737	尖頭器	尖頭器	S621	F	78-38	32	25	6	2.79	波紋岩	下部欠損	
738	尖頭器	尖頭器	S621	F	84-46	120	23	18	44.40	石英		
739	尖頭器	尖頭器	SX573	F	71-28	18	8	4.33	玉髓	上部部分欠損		
740	石劍	石劍	S621	F	79-36	88	37	20	53.60	石英		
741	縄器	縄器	SX70	F	71-63	56	70	17	60.10	珪質頁岩		
742	縄器	縄器	SP638	-	-	79-96	49	50	19	43.60	珪質頁岩	
743	縄器	縄器	S621	F1	80-44	40	48	12	19.80	珪質頁岩		
744	石器	横型	S621	F	79-42	40	69	12	17.09	珪質頁岩		
745	石器	横型	S621	F1	78-56	47	52	13	17.13	珪質頁岩		
746	石器	横型	SK23D	-	-	73-46	45	22	11	16.56	珪質頁岩	下部欠損、アスファルト付着
747	石器	横型	S621	F1	78-45	40	56	11	16.75	珪質頁岩		
748	石器	横型	SX70	-	-	72-62	37	58	6	11.74	波紋岩	
749	石器	横型	S621	F1	79-38	46	50	10	17.67	珪質頁岩		
750	石器	横型	S621	F3	69-29	54	23	8	5.73	珪質頁岩		
751	石器	横型	S621	F1	73-30	65	34	13	13.78	珪質頁岩		
752	石器	横型	S621	F1	81-39	58	30	11	16.99	珪質頁岩		
753	石器	横型	S74	F1	57-44	44	24	10	7.73	波紋岩		
754	石器	横型	S621	F2	77-36	58	36	15	21.22	波紋岩		
755	石器	横型	SX387	-	-	80-45	36	30	7	6.39	珪質頁岩	
756	石器	横型	日暮土	-	-	59-46	48	38	13	17.63	珪質頁岩	
757	石器	横型	SK614	F1	70-27	52	36	16	20.92	珪質頁岩		
758	石器	横型	S621	F1	82-46	51	17	7	4.01	珪質頁岩		
759	石器	横型	S621	F	81-39	52	9	8	2.93	玉髓		

番号	品種	分類	出土遺構	層位	グリッド	長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考
760	石器	鍬型	S621	F1	71-35	67	36	12	23.63	珪質頁岩	
761	石器	鍬型	S621	F1	70-34	73	36	14	17.63	珪質頁岩	先端部欠損
762	石器	鍬型	S621	F3	70-44	87	35	15	31.96	珪質頁岩	
763	石器	鍬型	S621	F1	76-39	65	40	10	15.87	珪質頁岩	
764	石器	鍬型	S760	F	80-57	57	23	12	9.62	泥灰岩	
765	石器	鍬型	S621	F1	77-39	48	42	10	12.76	珪質頁岩	
766	石器	鍬型	X 0	-	-	62	34	11	15.67	珪質頁岩	
767	石器	鍬型	S621	F1	75-38	58	41	17	23.85	泥灰岩	
768	石器	鍬型	S621	F1	70-34	70	38	17	29.84	珪質頁岩	
769	石器	鍬型	S621	F2	79-42	75	42	17	37.96	珪質頁岩	
770	石器	鍬型	X 0	-	-	62	63	12	28.83	珪質頁岩	
771	石器	鍬型	SX 587	-	80-45	54	46	11	19.61	珪質頁岩	つまみが二つ
772	石器	A は	S621	F2	69-33	24	5	3	0.34	玉髓	
773	石器	A は	S7 3	-	65-48	21	6	5	0.54	玉髓	
774	石器	A は	遺物包含層	-	62-52	29	10	6	1.83	玉髓	
775	石器	A は	S7 3	-	62-49	36	10	7	2.11	泥灰岩	
776	石器	A は	S621	F1	78-40	40	10	7	2.57	珪質頁岩	
777	石器	A は	S621	F2	80-45	42	8	7	2.33	珪質頁岩	
778	石器	A は	X 0	-	-	48	10	7	3.31	珪質頁岩	
779	石器	A は	SX 587	-	80-45	43	9	9	2.55	泥灰岩	
780	石器	A は	S621	-	75-31	48	10	6	2.90	珪質頁岩	
781	石器	A は	S621	F1	79-37	48	9	8	3.33	珪質頁岩	
782	石器	A は	S621	-	77-46	42	9	5	1.49	珪質頁岩	
783	石器	A は	S621	F1	77-42	49	15	8	6.15	珪質頁岩	
784	石器	A は	X 0	-	-	48	12	11	5.69	玉髓	
785	石器	A は	遺物包含層	-	64-48	51	13	7	4.53	珪質頁岩	先端部欠損
786	石器	A は	S621	F1	79-41	58	11	9	5.79	珪質頁岩	
787	石器	A は	S621	F1	76-43	57	10	8	3.81	珪質頁岩	
788	石器	A は	S621	F2	74-42	23	11	6	1.53	泥灰岩	陶部あり
789	石器	A は	S621	F2	69-33	33	12	7	2.04	泥灰岩	陶部あり
790	石器	A 2	S621	F2	75-36	27	13	10	2.74	玉髓	
791	石器	A 2	S621	F2	69-30	31	10	9	2.34	玉髓	
792	石器	A 2	SX 249	-	85-32	38	14	7	3.77	泥灰岩	
793	石器	B 1	S621	F1	76-38	30	18	4	1.00	玉髓	
794	石器	B 1	S621	F2	76-38	41	16	6	1.56	珪質頁岩	
795	石器	B 1	S7 4	Y	58-42	44	18	6	2.22	玉髓	
796	石器	B 1	S621	F2	73-41	41	13	4	1.08	泥灰岩	
797	石器	B 1	S621	F1	80-36	41	19	5	1.71	玉髓	先端部欠損
798	石器	B 1	S621	F1	70-34	21	12	4	1.28	珪質頁岩	先端部欠損
799	石器	B 1	S621	F2	70-34	36	7	4	0.76	珪質頁岩	
800	石器	B 1	S621	F2	75-38	34	15	5	0.92	玉髓	
801	石器	B 1	EU 309	-	81-46	42	22	5	1.62	珪質頁岩	
802	石器	B 2	遺物包含層	-	61-44	36	24	9	5.17	珪質頁岩	先端部欠損
803	石器	B 2	SP278	F	59-45	41	25	9	3.74	珪質頁岩	
804	石器	B 2	遺物包含層	-	82-44	63	19	7	4.73	玉髓	
805	石器	C 1	遺物包含層	-	61-48	29	26	6	3.77	泥灰岩	
806	石器	C 1	S621	F1	66-33	21	18	5	1.78	珪質頁岩	
807	石器	C 2	SK 432	-	59-42	33	23	9	4.82	珪質頁岩	
808	石器	D 1	S621	F	75-40	33	12	7	2.09	玉髓	
809	石器	D 1	SX 11	-	80-42	36	10	8	2.22	珪質頁岩	
810	石器	D 1	S621	F1	76-38	56	21	11	10.77	珪質頁岩	先端部摩滅
811	石器	D 1	遺物包含層	-	57-48	60	22	12	14.70	珪質頁岩	アスファルト付着
812	石器	D 1	S621	F2	60-32	34	21	10	5.84	泥灰岩	
813	石器	D 2	S7 3	-	69-48	32	20	7	2.54	珪質頁岩	
814	石器	D 2	SX 11	-	80-42	24	20	9	2.59	泥灰岩	
815	石器	E	SK 490	-	77-45	32	16	8	2.82	玉髓	
816	石器	D 2	SX 11	-	80-42	42	17	10	4.41	珪質頁岩	
817	石器	D 2	S621	F2	77-46	63	55	21	34.57	珪質頁岩	
818	石器	D 2	遺物包含層	-	77-45	84	35	18	39.66	珪質頁岩	
819	剥片	-	ST 1004	Y	82-31	32	31	8	4.50	珪質頁岩	RSDと接合
820	剥片	-	ST 1004	Y	82-31	30	35	9	7.50	珪質頁岩	R19と接合
819+820	接合資料	-	ST 1004	Y	82-31	32	33	16	12.00	珪質頁岩	2点接合
821	剥片	-	ST 1004	Y	82-31	35	36	10	9.20	頁岩	R22と接合
822	剥片	-	ST 1004	Y	82-31	32	32	8	8.40	頁岩	H21と接合
821+822	接合資料	-	ST 1004	Y	82-31	35	36	17	17.60	珪質頁岩	2点接合
823	剥片	-	ST 1004	Y	82-31	28	32	8	8.58	頁岩	R24と接合
824	剥片	-	ST 1004	Y	82-31	36	39	13	14.20	頁岩	R22と接合
825+824	接合資料	-	ST 1004	Y	82-31	39	42	21	22.70	珪質頁岩	2点接合
825	剥片	-	ST 1004	Y	82-31	28	28	11	7.30	珪質頁岩	R25と接合
825	剥片	-	ST 1004	Y	82-31	43	28	12	10.40	珪質頁岩	R25と接合
825+824	接合資料	-	ST 1004	Y	82-31	45	30	16	17.70	珪質頁岩	2点接合
827	磨製石斧	短柄形	S621	F2	76-36	80	41	17	不明	基部欠損	
828	磨製石斧	短柄形	S621	-	72-39	98	50	30	不明	縫隙片岩	基部欠損、刃部再生
829	磨製石斧	短柄形	X 0	-	114	60	28	28	不明	基部欠損	
830	磨製石斧	分瓣形	S621	F1	79-41	68	37	16	不明	基部欠損、基部再生	
831	磨製石斧	分瓣形	S621	F2	72-34	99	51	19	不明	基部欠損	
832	磨製石斧	X 0	-	-	32	29	16	16	不明	縫隙片岩	刃部欠損
833	磨製石斧	分瓣形	X 0	-	108	46	23	23	不明	刃部・基部欠損	
834	磨製石斧	分瓣形	S621	F	77-40	76	44	19	不明	基部欠損、基部再生	

番号	器種	分類	出土層	層位	グリッド	長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考
835	磨製石斧	分脚形		遺物包含層	73-58	58	39	23	不明	刃部欠損	
836	磨製石斧	分脚形	SG 21	F1	77-36	85	45	24	無泥片岩	基部欠損	
837	磨製石斧	分脚形		遺物包含層	72-36	63	37	17	不明	基部欠損	
838	磨製石斧	分脚形	SG 21	F2	77-38	64	40	23	無泥片岩	基部欠損	
839	磨製石斧	分脚形	SP 000		83-55	61	46	14	不明	基部欠損	
840	磨製石斧	分脚形	SG 11		80-42	67	42	18	不明	基部欠損	
841	磨製石斧	分脚形	SG 21	F1	76-40	132	57	31	不明	基部・刃部欠損	
842	磨製石斧	分脚形	SG 70	F	72-63	83	43	24	不明	基部欠損	
843	磨製石斧	分脚形	SG 21	F1	71-31	88	45	23	不明	基部欠損、基部再生	
844	磨製石斧	分脚形	SP 61	F1	81-55	103	40	24	不明	刃部欠損	
845	磨製石斧	分脚形	SG 11	F	81-43	116	48	29	不明	刃部欠損	
846	磨製石斧	小型	SG 21	F1	73-42	45	23	8	蛇紋岩		
847	磨製石斧	小型		遺物包含層	57-49	28	18	7	不明	基部欠損	
848	磨製石斧	小型	ST 3		76-46	25	22	8	綠泥片岩	基部欠損	
849	磨製石斧	小型	SG 21	F1	73-39	50	28	12	不明	刃部欠損	
850	磨製石斧	小型	SG 21	F1	77-55	57	32	11	不明	基部欠損	
851	磨製石斧	小型	SG 21	F1	75-59	47	27	10	不明		
852	磨製石斧	小型	SG 21	F	85-48	75	25	12	綠泥片岩		
853	石鍬		SG 21	F1	78-36	40	32	14	不明		
854	石鍬		SG 21	F1	69-34	51	34	16	不明	アスファルト付着	
855	石鍬		SG 21	F1	70-34	56	37	14	不明	アスファルト付着	
856	石鍬		SG 21	F1	68-31	45	33	18	不明	アスファルト付着	
857	石鍬		SG 21	F1	74-43	45	29	13	不明	切目石鍬	
858	石鍬		SG 21	F1	74-43	45	27	18	不明	切目石鍬、アスファルト付着	
859	石鍬		SG 21	F2	56-52	47	35	14	不明	切目石鍬	
860	石鍬		SG 21	F2	69-32	57	42	14	不明	切目石鍬	
861	石鍬		SG 21	F2	75-31	43	38	18	不明	切目石鍬	
862	石鍬			遺物包含層	61-51	47	35	16	不明	有溝石鍬、アスファルト付着	
863	石鍬		SG 21	F1	74-40	51	27	8	不明	有溝石鍬	
864	石鍬		SG 70	F	72-63	57	27	9	不明	有溝石鍬	
865	石鍬			遺物包含層	73-58	63	35	9	不明	有溝石鍬	
866	石鍬		SG 21	F1	78-38	38	23	10	不明	有溝石鍬	
867	石鍬		SG 21	F1	78-42	41	22	15	不明	有溝石鍬	
868	浮子		SP 027		79-33	58	33	15	鰐石	有孔	
869	浮子		SG 21	F2	77-44	83	43	16	鰐石	有孔	
870	浮子			遺物包含層	82-30	88	47	17	鰐石	有孔	
871	浮子			遺物包含層	57-47	107	63	28	鰐石		
872	鐵石		SG 21	F1	79-40	135	67	55	安山岩	下半部欠損	
873	鐵石		SP 005		62-50	134	150	53	安山岩	同石兼用	
874	鐵石		ST 4	F2	59-43	104	80	35	安山岩		
875	鐵石		SG 21	F2	80-46	148	142	80	安山岩	同石兼用	
876	鐵石			遺物包含層	64-43	297	162	108	安山岩		
877	磨石		SG 21	F3	73-36	56	51	29	安山岩	敲打痕あり	
878	磨石			遺物包含層	57-44	79	71	38	安山岩	敲打痕あり	
879	磨石		SG 21	F3	77-36	83	79	43	安山岩		
880	磨石		SG 70	F	72-62	68	38	39	安山岩		
881	磨石		SG 21	F1	77-44	102	93	50	閃雲岩	敲打痕あり	
882	磨石		ST 2	F	63-50	113	89	55	安山岩	敲打痕あり	
883	磨石		SP 108		74-52	115	93	69	安山岩		
884	磨石		SG 21	F1	72-29	126	128	100	閃雲岩		
885	磨石		SG 21	F2	69-31	118	41	30	安山岩	梯状磨石	
886	磨石		SG 21	F2	76-43	115	55	25	安山岩	梯状磨石	
887	磨石		SG 21	F2	75-37	218	64	48	安山岩	梯状磨石	
888	磨石		SG 21	F2	80-48	180	56	44	安山岩	角状磨石	
889	磨石		ST 1004	F	82-29	99	79	46	安山岩	角状磨石	
890	磨石	X 9	-		99	77	52	32	安山岩		
891	磨石	SG 21	F1		75-35	152	95	65	安山岩		
892	磨石	SG 21	F		80-38	103	53	13	赤色顔料付着		
893	磨石	SG 21	F1		78-42	126	128	143	安山岩	円柱状、有溝砥石兼用	
894	圓石	SG 21	F		78-38	90	73	52	安山岩	磨石兼用	
895	圓石	SG 21	F1		75-38	93	87	53	安山岩	磨石兼用、敲打痕あり	
896	圓石	SG 21	F1		76-40	109	91	85	安山岩	磨石兼用	
897	圓石	SP 479			60-47	106	95	64	安山岩	磨石兼用、敲打痕あり	
898	圓石	SG 21	F3		82-40	119	92	52	安山岩	磨石兼用	
899	圓石	SG 21	F		75-46	120	99	58	閃雲岩?	磨石兼用、敲打痕あり	
900	圓石	SG 21	F2		77-42	121	95	63	安山岩	磨石兼用	
901	圓石	SG 21	F1		80-48	120	86	48	安山岩	磨石兼用、敲打痕あり	
902	圓石	SG 21	F2		75-37	92	73	39	安山岩?	磨石兼用	
903	圓石	SG 21	F3		70-27	110	88	36	砂岩	磨石兼用、板状	
904	圓石	SG 21	F3		57-48	128	99	37	安山岩	磨石兼用	
905	圓石		SG 21	遺物包含層	57-43	100	96	40	安山岩	磨石兼用	
906	圓石	SG 21	F1		76-48	158	119	53	安山岩	磨石兼用	
907	圓石	SG 21	F2		76-40	176	82	58	安山岩	磨石兼用	
908	圓石	SG 21	F2		71-34	121	73	28	安山岩	磨石兼用	
909	圓石	SG 21	F		76-40	120	95	49	安山岩	磨石兼用	
910	圓石	SG 21	F1		76-35	115	72	37	安山岩		
911	圓石	SG 21	F2		72-29	125	84	54	安山岩		
912	圓石	SG 21	F1		80-38	123	63	46	安山岩		
913	圓石		SG 21	遺物包含層	51-44	131	89	29	安山岩		

番号	器種	分類	出土遺構	層位	グリッド	長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考
914	圓石		SG21	F3	77-36	120	63	41		安山岩	
915	圓石		ST4	F1	56-44	211	108	35		安山岩	敲打痕あり
916	圓石		ST3	F	70-48	239	85	64		安山岩	
917	圓石		SG21	F1	76-42	284	116	97		安山岩	敲打痕あり
918	圓石		SG21	F2	75-37	101	118	88		安山岩	有磨砥石兼用
919	圓石		SK488		80-32	159	167	69		安山岩	有磨砥石兼用
920	圓石		SG21	F1	76-41	178	150	85		安山岩	有磨砥石兼用
921	圓石		SG21	F2	83-39	233	145	69		安山岩	有磨砥石兼用
922	圓石		ST28		58-50	235	143	90		安山岩	
923	圓石		SX25		60-43	308	173	97		安山岩	配石遺構に再利用
924	圓石		SG21	F1	74-43	345	210	151		安山岩	有磨砥石兼用
925	圓石		SG21	F1	75-43	286	189	122		安山岩	
926	石皿		ST4	F1	58-44	122	125	41		安山岩	縁あり
927	石皿		X0		-	112	94	78		砂岩	縁あり
928	石皿		SG21	F1	77-44	300	206	62		安山岩	縁あり
929	石皿		SG21	F2	77-41	247	107	40		安山岩	縁あり、有磨砥石兼用
930	石皿		SG21	F1	82-45	269	182	66		安山岩	縁あり
931	石皿		SG21	F1	72-41	423	377	151		安山岩	縁あり
932	石皿		SX253		88-36	450	377	136		安山岩	縁あり
933	石皿		ST4		57-44	335	175	56		安山岩	縁なし、圓石兼用
934	石皿		SG21	F1	75-45	72	113	45		安山岩	縁なし
935	石皿		SK245		83-37	119	121	35		安山岩	縁なし、有磨砥石兼用
936	石皿		SG21	F1	70-33	85	114	46		安山岩	縁なし、有磨砥石兼用
937	石皿		SP78		81-55	176	147	104		安山岩	縁なし、有磨砥石兼用
938	石皿		SP206		73-48	429	225	68		安山岩	重部平頭
939	石皿		SG21	F2	78-38	498	382	110		安山岩	重部平頭
940	石皿		SP159		73-54	300	215	70		安山岩	重部平頭
941	石皿		ST3	F	68-47	345	287	90		安山岩	重部平頭
942	石皿		SP193		76-62	365	287	97		安山岩	重部平頭
943	段刻繩		SG21	F1	76-38	88	153	48		安山岩	磨石・回石兼用
944	刀石		SG21	F1	85-46	96	25	12		粘板岩	
945	石劍		SG21	F1	80-47	90	27	13		粘板岩	
946	石棹		田耕土		65-54	82	27	28		安山岩	
947	石製品		SG21	F1	57-48	39	93	9		不明	全面研磨調整
948	石製品		SX249	F2	84-32	42	99	9		安山岩	全面研磨整形
949	水晶		ST3		69-48	21	9	7		水晶	自然石
950	球狀自然石		SG21	F1	79-39	21	20	20		安山岩	部分的に研磨
951	球狀自然石		SG21	F1	77-37	26	28	23		安山岩	
952	球狀自然石		SG21	F1	72-32	38	38	36		安山岩	部分的に研磨
953	球狀自然石		SP647		79-30	32	31	30		安山岩	
954	球狀自然石		田耕土		53-57	30	30	25		安山岩	
955	球狀自然石		SG21	F1	76-46	60	53	52		安山岩	部分的に研磨
956	球狀自然石		SG21	F1	77-36	89	75	75		安山岩	全面研磨整形
957	球狀自然石		SG21	F1	71-42	68	64	61		安山岩	
958	球狀自然石		SP302		57-49	70	47	43		安山岩	くびれ石
959	球狀自然石		SK304		62-45	71	39	39		安山岩	くびれ石
960	球狀自然石		SG21	F3	70-27	215	70	75		安山岩	擦痕・敲打痕あり
961	球狀自然石		SG21		69-28	271	60	50		安山岩	擦痕あり
962	球狀自然石		SG21	F1	75-42	480	142	103		安山岩	擦痕・敲打痕あり
963	球狀自然石		SX223		54-35	453	195	153		安山岩	
964	球狀自然石		SG21	F	65-33	549	172	150		安山岩	擦痕・敲打痕あり

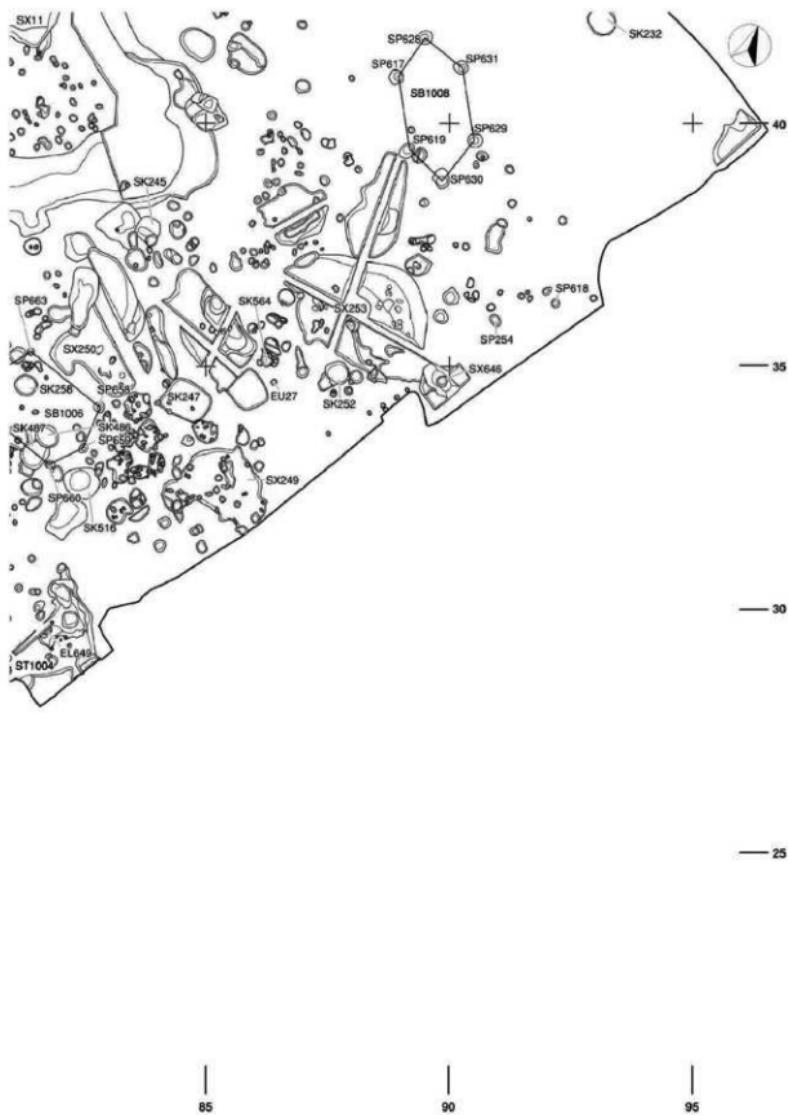


*これらを結合した図は付図に収録。

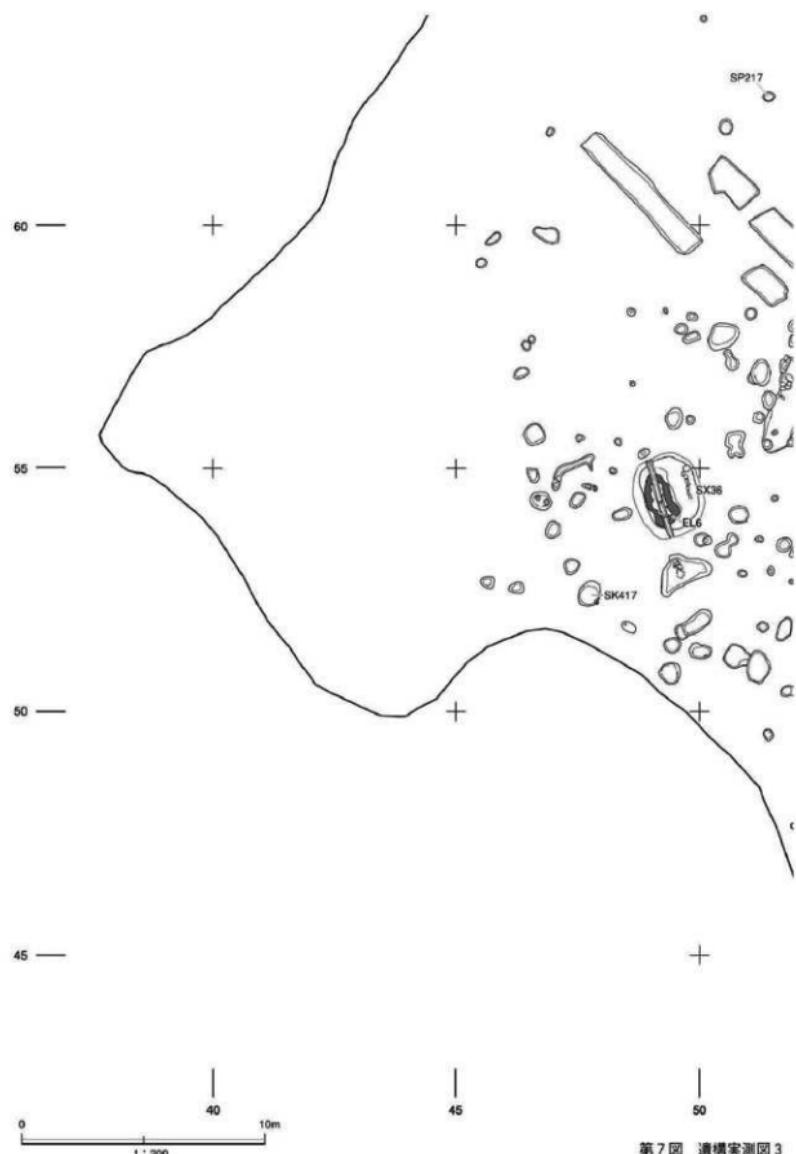
第4図 遺構実測図の割付図



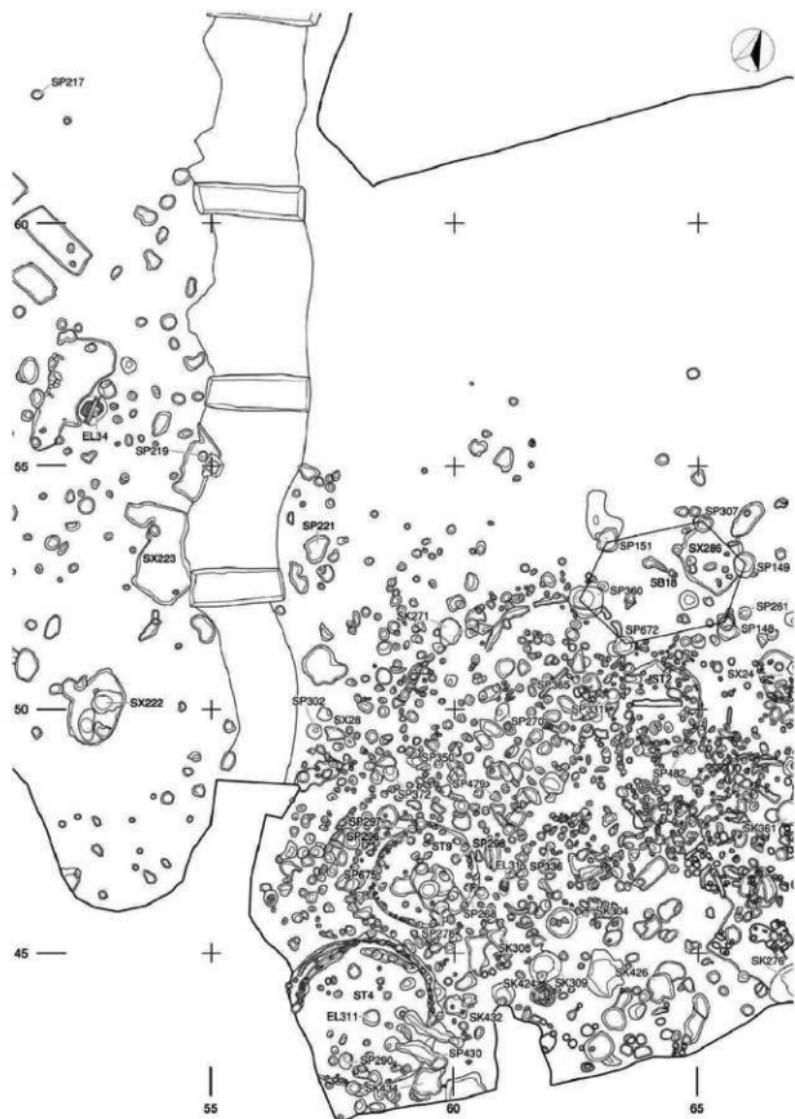
第5図 造構実測図 1



第6図 造構実測図2

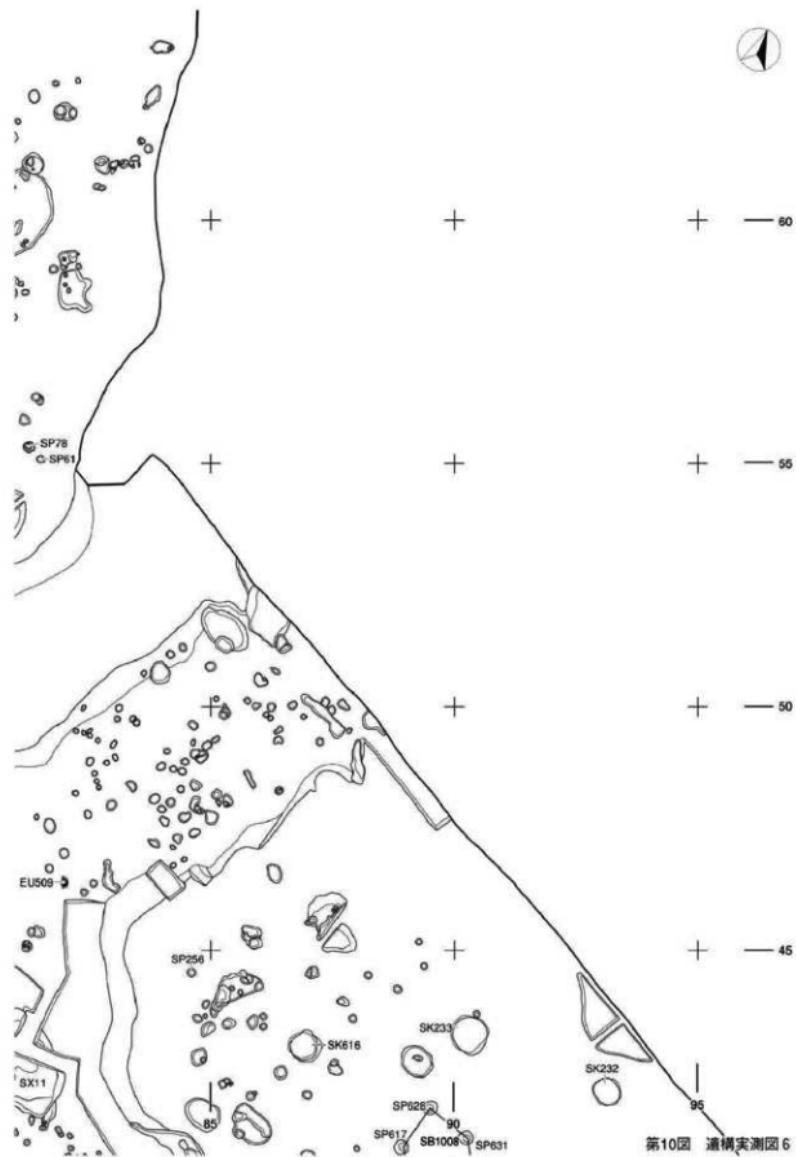


第7図 遺構実測図3

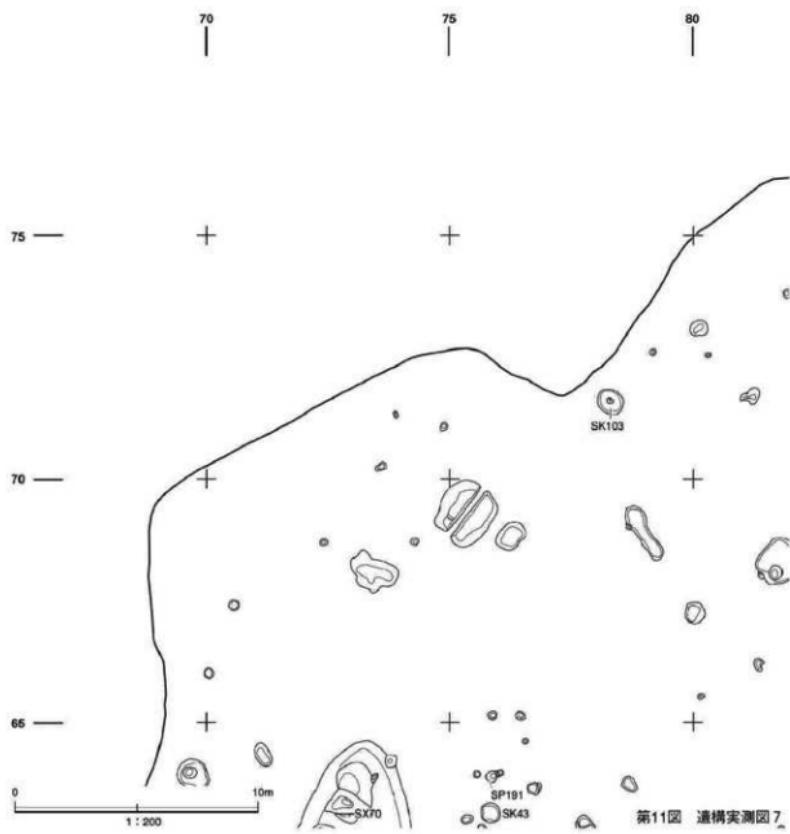


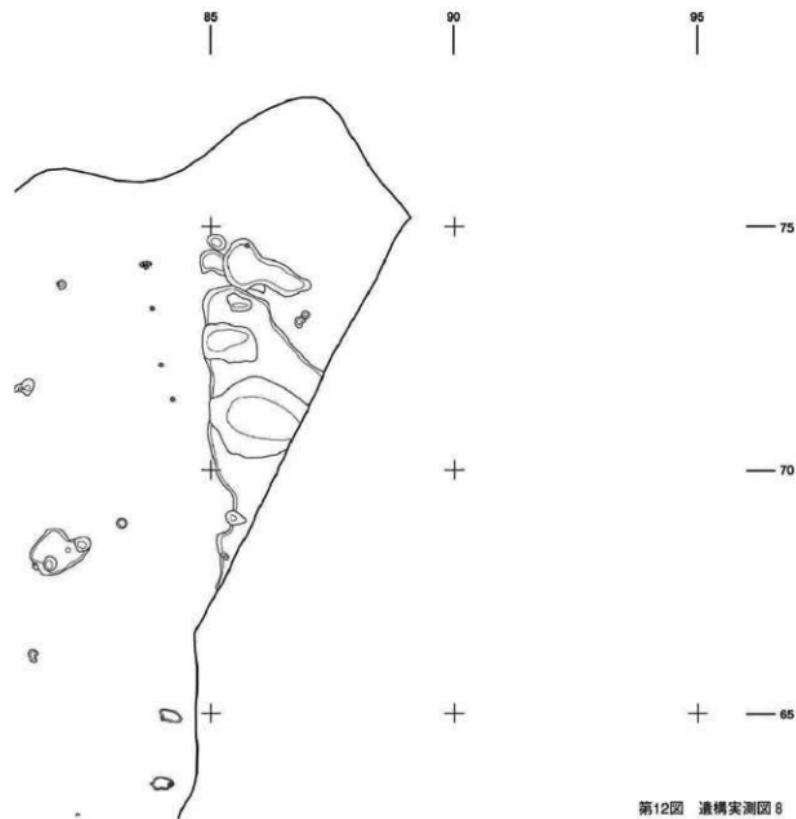
第8図 遺構実測図4



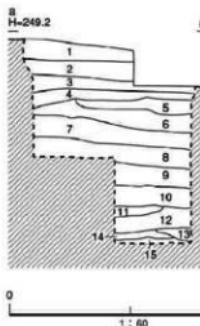


第10図 造橋実測図 6





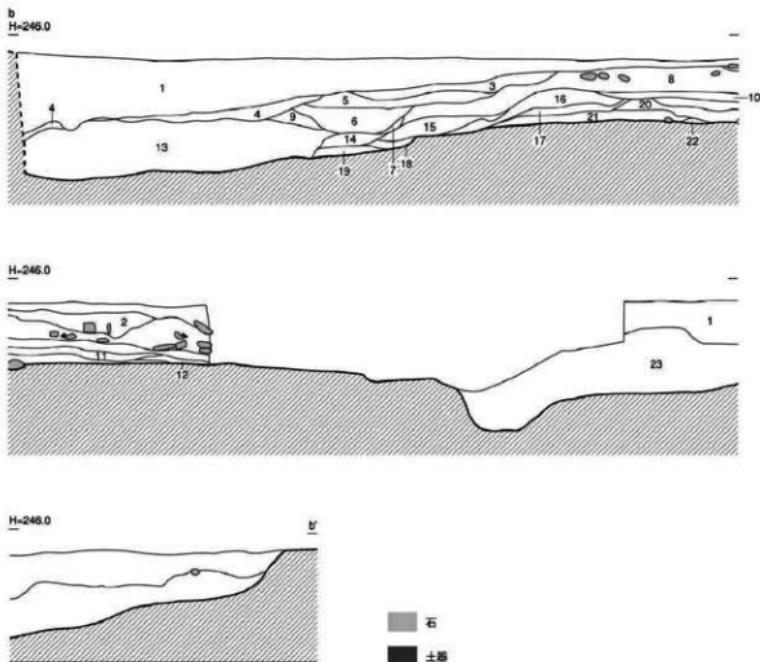
第12図 造橋実測図 8



基本層序 (a - a')

- | | |
|---------------------|------------------------------------|
| 1. 10YR3/4暗褐色シルト | 風化礫を多く含む、10YR3/3暗褐色シルトを含む。以下
地山 |
| 2. 10YR6/4にぶい黄褐色シルト | 風化礫を多く含む |
| 3. 10YR4/5褐色シルト | 風化礫、砂質を含む |
| 4. 10YR5/5黄褐色色沙質土 | 風化礫を少し含む |
| 5. 10YR5/6黄褐色色沙質土 | 風化礫を少し含む |
| 6. 10YR4/6褐色シルト | 風化礫を多く含む |
| 7. 10YR5/6黄褐色色シルト | 風化礫を含む |
| 8. 10YR4/6褐色シルト | 風化礫を含む |
| 9. 10YR4/6褐色シルト | 風化礫を含む。しまり弱い |
| 10. 10YR4/4褐色シルト | 風化礫を含む |
| 11. 10YR4/6褐色シルト | 径3cm程度の風化礫を含む |
| 12. 10YR5/6黄褐色色シルト | 風化礫を少し含む |
| 13. 10YR5/6黄褐色色シルト | 風化礫を含む |
| 14. 10YR5/6黄褐色色シルト | 風化礫を少しある |
| 15. 10YR5/6黄褐色色沙質土 | |

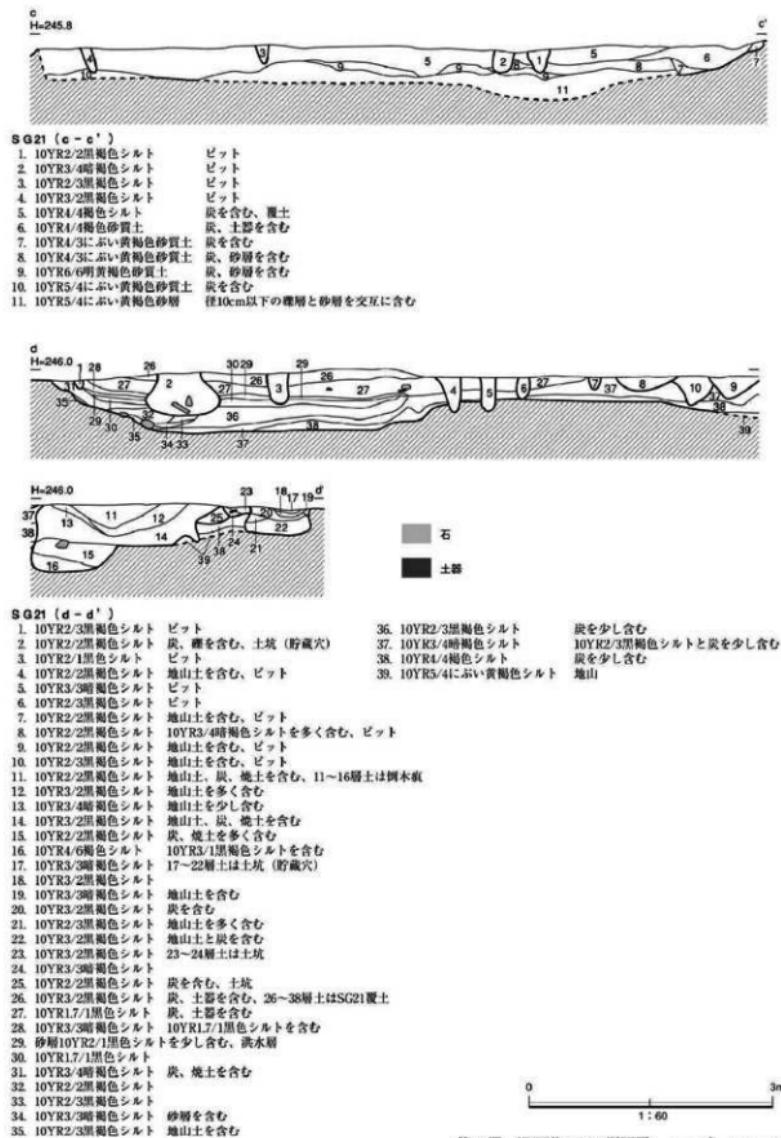
第13図 旧河道 S G21基本層序



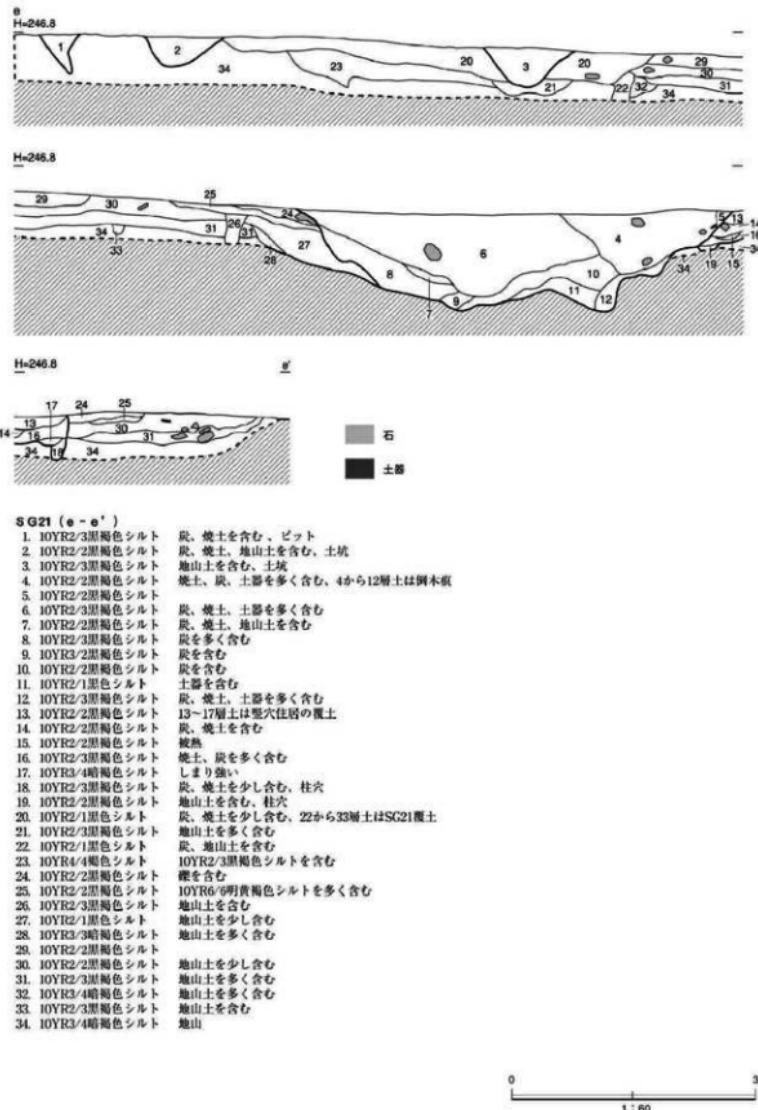
- S G21 (b - b')**
- | | |
|----------------------|---------------------------------|
| 1. 2SY6/4L ぶい黄色シルト | 以TSG21の覆土 |
| 2. IOYR2/2黒褐色シルト | 灰、土器、礫を含む |
| 3. IOYR2/3黒褐色シルト | 1層土を含む |
| 4. IOYR4/2灰黄褐色シルト | 灰と1層土を含む |
| 5. IOYR2/1黒褐色シルト | |
| 6. IOYR2/2黒褐色シルト | IOYR4/4褐色シルトと灰を含む |
| 7. IOYR2/2黒褐色シルト | IOYR4/2灰黄褐色粘質土を含む |
| 8. IOYR2/2黒褐色シルト | IOYR5/4にぶい黄褐色シルトと炭、灰土、土器、礫を多く含む |
| 9. IOYR3/2黒褐色シルト | |
| 10. IOYR2/1黒褐色シルト | IOYR3/3暗褐色シルトを含む |
| 11. IOYR3/4暗褐色シルト | IOYR2/2黒褐色シルトを含む |
| 12. IOYR3/3暗褐色砂質土 | |
| 13. IOYR3/3暗褐色砂質土 | 砂層、径5cm以下の礫層を交互に含む |
| 14. IOYR2/2黒褐色シルト | IOYR4/3にぶい黄褐色シルトを含む |
| 15. IOYR4/4褐色砂層 | 径3cm以下の礫層を含む |
| 16. IOYR3/3暗褐色シルト | 灰を含む |
| 17. IOYR3/4暗褐色シルト | 灰を含む |
| 18. IOYR4/3にぶい黄褐色シルト | 径10cm以下の礫層を交互に含む |
| 19. IOYR4/4褐色砂質土 | |
| 20. IOYR4/4褐色シルト | IOYR3/2暗褐色シルトを含む |
| 21. IOYR4/4褐色シルト | 灰を含む |
| 22. IOYR4/4褐色砂質土 | |
| 23. IOYR4/4褐色砂層 | |

第14図 旧河道S G21断面図 b - b'

遺構大測圖

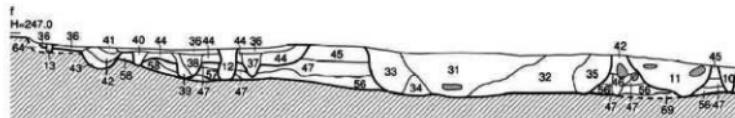


第15図 旧河道SG21断面図 c-c'・d-d'



第16図 旧河道 SG21断面図 e - e'

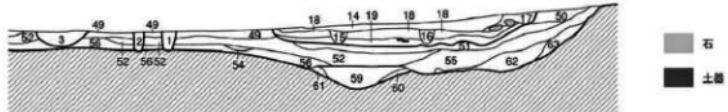
遺傳家譜圖



H-247.D



H-247.0

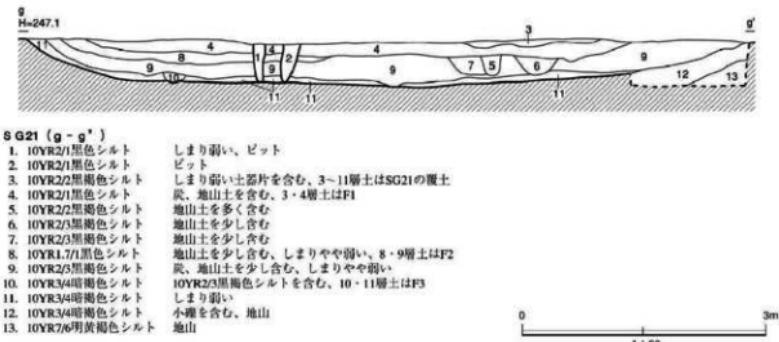


SG21 (t - t')

- | | | | |
|-------------------|----------------------|---------------------|----------------------|
| 1. IOYR3-2黒褐色シルト | 1~10層土はピット | 33. IOYR17/1黒色シルト | 地山土を含む |
| 2. IOYR3-2黒褐色シルト | | 34. IOYR2/3暗褐色シルト | 炭を含む |
| 3. IOYR3-3暗褐色シルト | | 35. IOYR2/2暗褐色シルト | 地山上、炭、焼土を多く含む。 |
| 4. IOYR3-2黒褐色シルト | | 36. IOYR2/1褐色シルト | |
| 5. IOYR2/3黒褐色シルト | 地山土を含む | 36~44層土は堅穴住ST | |
| 6. IOYR2/3暗褐色シルト | | 37. IOYR17/1黒色シルト | 柱穴 |
| 7. IOYR2/3黒褐色シルト | | 38. IOYR2/2暗褐色シルト | 炭、焼土を含む、38~39層土は柱穴 |
| 8. IOYR3-2黒褐色シルト | | 39. IOYR2/2暗褐色シルト | 地山土を含む |
| 9. IOYR2/2黒褐色シルト | | 40. IOYR3/3暗褐色シルト | 地山土を含む、柱穴 |
| 10. IOYR3-2黒褐色シルト | | 41. IOYR3/3暗褐色シルト | 地山土を含む、41~43層土は柱穴 |
| 11. IOYR17/1黒色シルト | 炭、焼土を含む、土坑 | 42. IOYR3/3暗褐色シルト | 炭を含む |
| 12. IOYR17/1黒色シルト | 地山土を含む、ピット | 43. IOYR3/4暗褐色シルト | 地山土を含む |
| 13. IOYR17/1黒色シルト | 地山土を含む、ピット | 44. IOYR3/2暗褐色シルト | 地山上、炭を含む、掘方 |
| 14. IOYR3/3暗褐色シルト | 炭、焼土を含む、14~19層土は堅穴住居 | 45. IOYR17/1黒色シルト | 地山土、炭を少し含む、 |
| 15. IOYR3/2黒褐色シルト | 柱穴 | 45~63層土は柱穴G2の覆土 | |
| 16. IOYR3/2黒褐色シルト | 柱穴 | 46. IOYR2/2暗褐色シルト | |
| 17. IOYR3/3暗褐色シルト | 炭を含む、覆土 | 47. IOYR17/1黒色シルト | 炭を少し含む |
| 18. IOYR3/2黒褐色シルト | 炭を含む、掘方 | 48. IOYR2/1褐色シルト | 炭、土器を多く含む、楕木痕 |
| 19. IOYR2/1墨色シルト | 炭を含む、掘方 | 49. IOYR2/3暗褐色シルト | 10YR3/3暗褐色シルトを含む |
| 20. IOYR2/1墨色シルト | 炭を含む、20~25層土は堅穴住居 | 50. IOYR3/3暗褐色シルト | 地山土を含む |
| 21. IOYR2/2黒褐色シルト | 炭を含む、21~24層土は地床G3 | 51. IOYR2/2暗褐色シルト | 10YR17/1黒色シルトを含む |
| 22. IOYR2/2黒褐色シルト | 炭を含む、21~24層土は地床G3 | 52. IOYR2/1褐色シルト | 10YR3/2黒褐色シルトを含む |
| 23. IOYR2/1墨色シルト | 炭、焼土を含む | 53. IOYR2/2暗褐色シルト | しまり面 |
| 24. IOYR3/2黒褐色シルト | 炭、焼土を含む | 54. IOYR2/1褐色シルト | 地山土を多く含む |
| 25. IOYR3/2黒褐色シルト | | 55. IOYR17/1黒色シルト | 10YR3/3暗褐色シルト、炭を多く含む |
| 26. IOYR3/3暗褐色シルト | 地山土を含む、土坑 | 56. IOYR3/4暗褐色シルト | 地山土多く含む |
| 27. IOYR2/2黒褐色シルト | 地山土を含む、柱穴 | 57. IOYR3/3暗褐色シルト | 地山土、風化層を含む |
| 28. IOYR3/2黒褐色シルト | 炭を含む、柱穴 | 58. IOYR4/6褐色シルト | 10YR2/2黒褐色シルトを含む |
| 29. IOYR2/2黒褐色シルト | 炭を含む、土坑 | 59. IOYR3/2暗褐色シルト | |
| 30. IOYR3/2黒褐色シルト | 土坑 | 60. IOYR3/2暗褐色シルト | 地山土を含む |
| 31. IOYR2/2黒褐色シルト | 地山土を含む、31~35層土は楕木痕 | 61. IOYR4/4暗褐色砂質シルト | 縄文時代中期の土器を含む |
| 32. IOYR4/4墨色シルト | | 62. IOYR3/2暗褐色シルト | 10YR2/2褐色シルトを含む |
| 33. IOYR17/1墨色シルト | 10YR3/3暗褐色シルトを少し含む | 63. IOYR3/3暗褐色シルト | 地山土を含む |



第17圖 旧河道SG21断面 $f = f'$



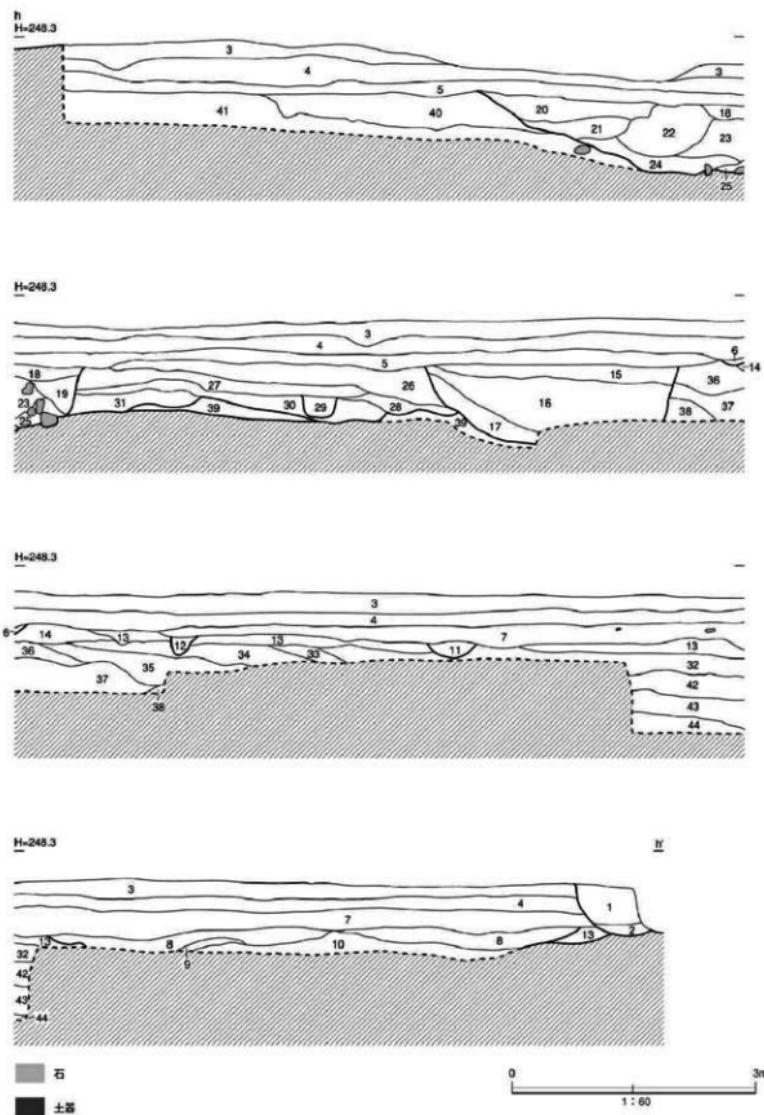
第18図 旧河道 S G21断面 g - g'



旧河道 S G21検出（南から）



旧河道 S G21作業状況（西から）



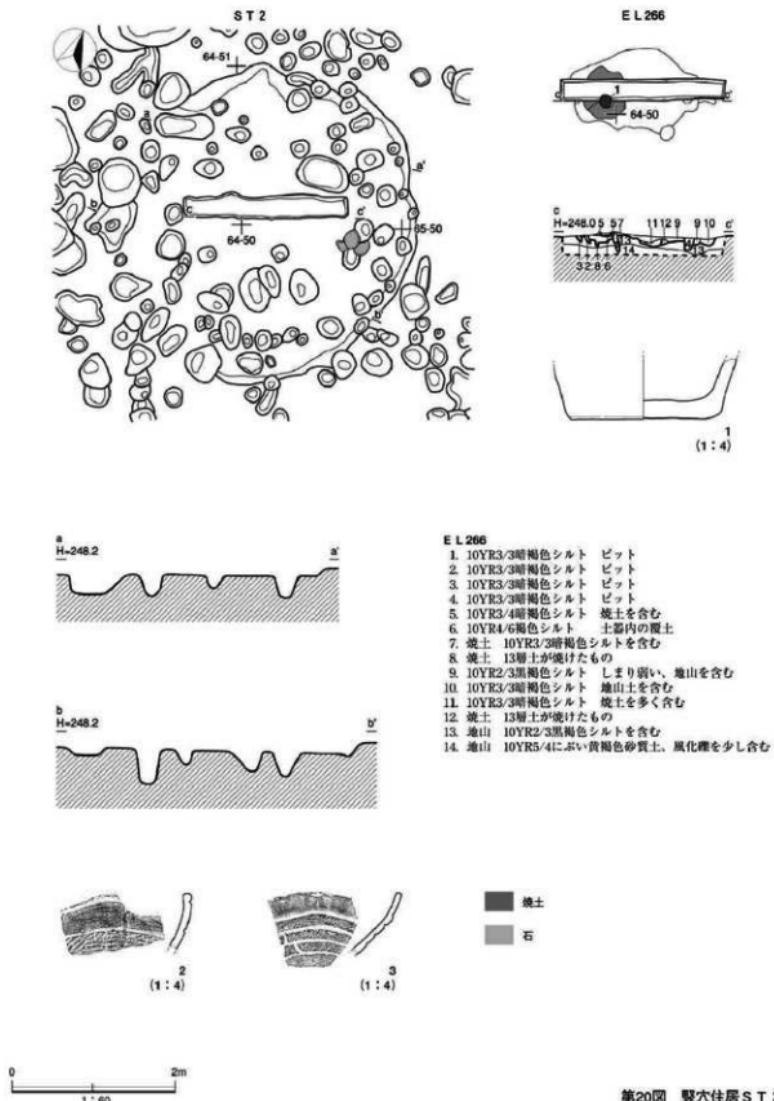
第19図 旧河道S G21断面図 $h-h'$

S G21 (h - h')

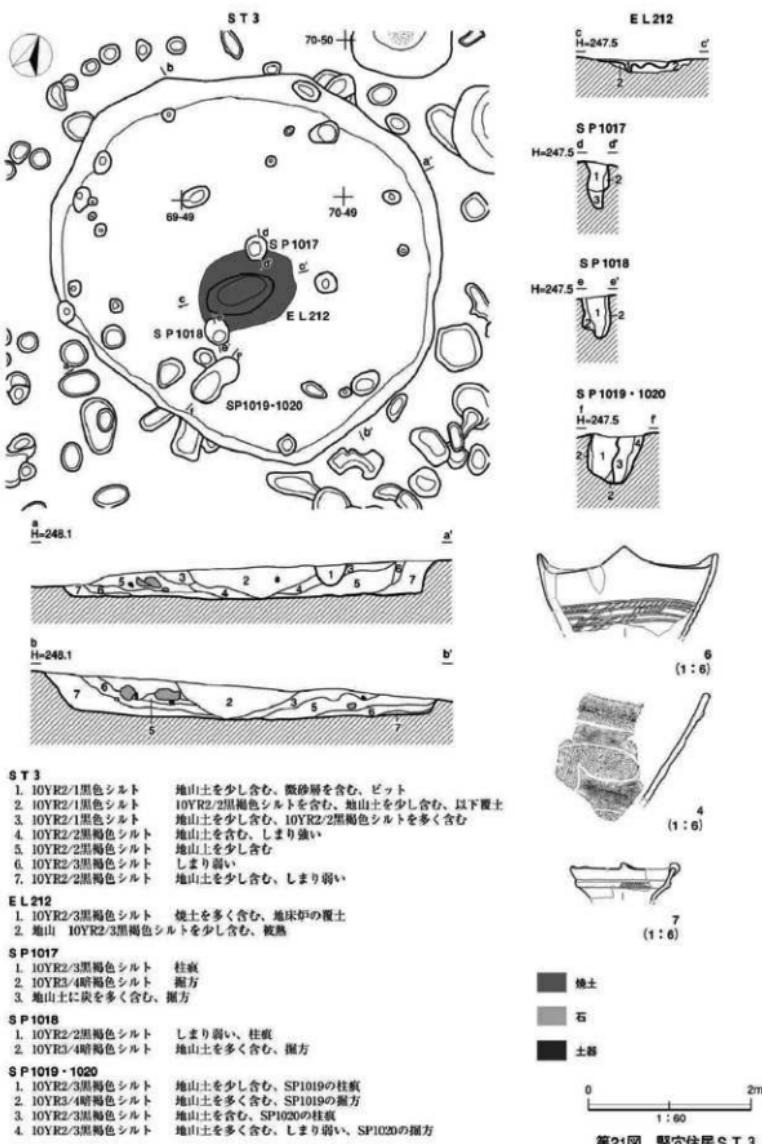
1. 敷土
2. 旧耕土
3. 耕土
4. 10YR3/3暗褐色シルト 旧耕土
5. 10YR2/3黒褐色シルト 旧耕土
6. 10YR2/3黒褐色シルト 小礫を含む、ピット
7. 10YR2/2黒褐色シルト 灰、土器を含む、遺物包含層
8. 10YR2/2黒褐色シルト 灰を含む、8~10層土は倒木痕
9. 10YR4/4褐色シルト 8層土を含む
10. 10YR4/6褐色シルト 9層土を含む
11. 10YR3/4暗褐色シルト 灰、堆山土を含む、ピット
12. 10YR3/3暗褐色シルト ピット
13. 10YR4/3(ニエ)・黄褐色シルト 地山上土を多く含む、遺物包含層
14. 10YR2/3黒褐色シルト 10YR4/6褐色シルト、小礫を含む、遺物包含層
15. 10YR2/2黒褐色シルト 地山上土を含む、15~17層土は倒木痕
16. 10YR4/6褐色シルト
17. 10YR2/2黒褐色シルト
18. 10YR4/6褐色シルト 18~25層土は倒木痕
19. 10YR2/1黑色シルト 地山上土を含む
20. 10YR2/1黑色シルト 10YR3/1黒褐色シルト、地山上土を含む
21. 10YR2/1黑色シルト 地山上土を多く含む
22. 10YR1/7(ニエ)・黒色シルト 10YR2/2黒褐色シルトを含む
23. 10YR4/4褐色シルト 堆山土を含む
24. 10YR2/2黒褐色シルト 灰を含む
25. 10YR3/3暗褐色シルト 灰を含む
26. 10YR1/7(ニエ)・黒色シルト 26~31層土はSG21
27. 10YR2/1黑色シルト 風化繊を含む
28. 10YR2/2黒褐色シルト 地山上土を多く含む
29. 10YR3/3暗褐色シルト ピット
30. 10YR2/2黒褐色シルト 灰、地山上土を含む
31. 10YR2/3黒褐色シルト 地山上土を多く含む
32. 10YR3/4暗褐色シルト 10YR2/3黒褐色シルトを含む、32層以下は地山
33. 10YR4/6褐色シルト 径5cm以下の繊を多く含む
34. 10YR4/6褐色シルト
35. 10YR5/6黃褐色シルト 径5cm以下の繊を多く含む
36. 10YR2/3黒褐色シルト 径5cm以下の繊を多く含む
37. 10YR3/3暗褐色砂砾 38. 10YR4/6褐色シルト 径5cm以下の繊を少し含む
39. 10YR4/6褐色シルト 10YR2/3黒褐色シルト、灰を含む
40. 10YR4/6褐色シルト 10YR3/3暗褐色シルト、小礫、灰を含む
41. 10YR5/6黃褐色砂土 径5cm以下の繊を含む
42. 10YR6/6黄褐色粘質シルト
43. 10YR5/6黃褐色シルト
44. 10YR5/6黃褐色砂質土



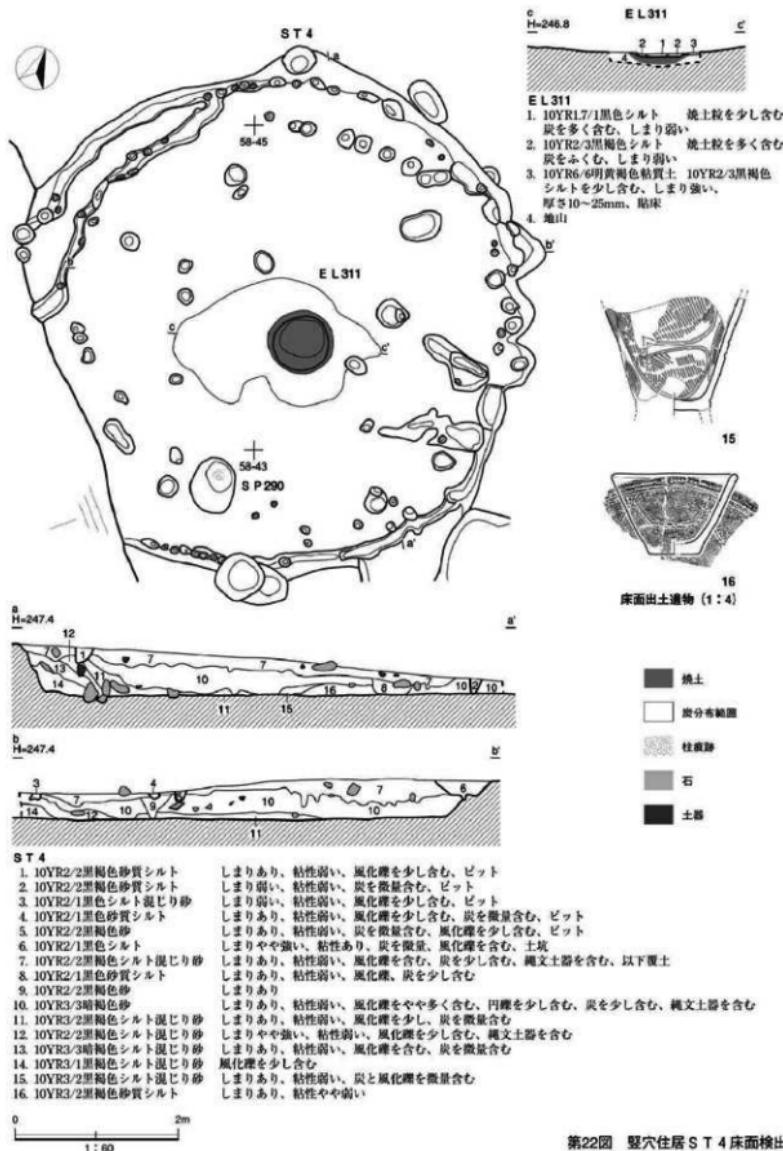
現地説明会



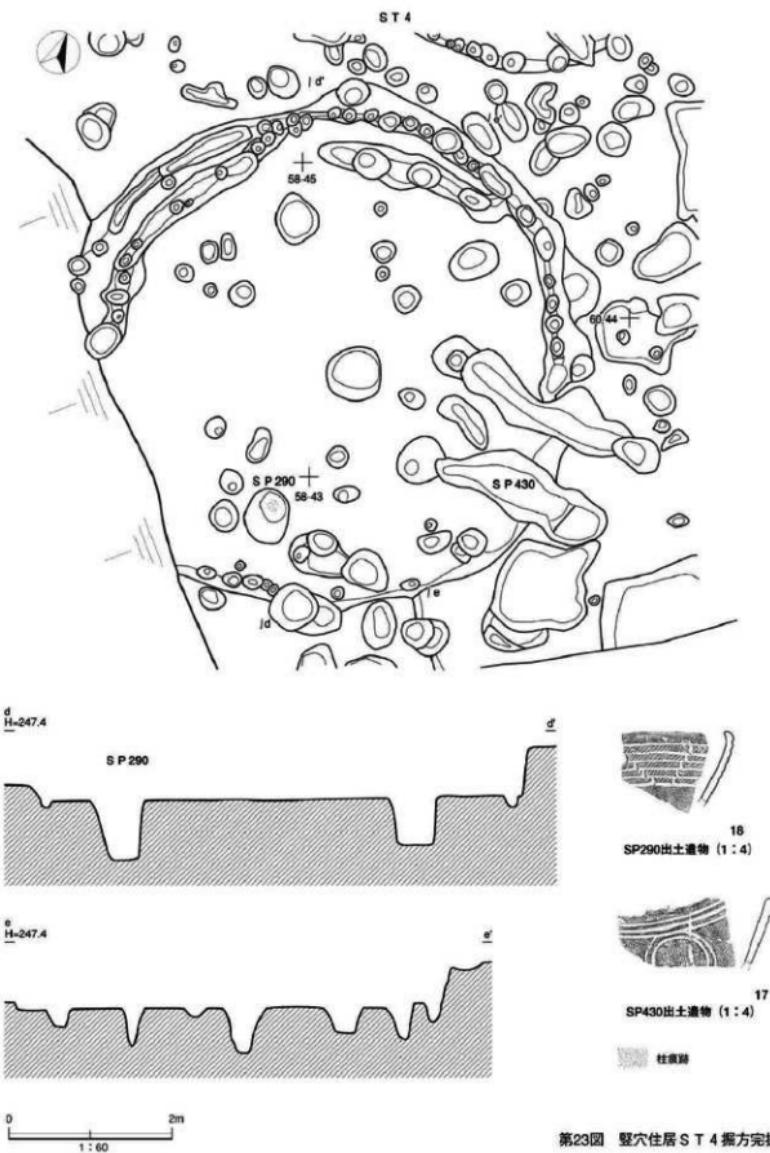
第20図 窪穴住居 S T 2



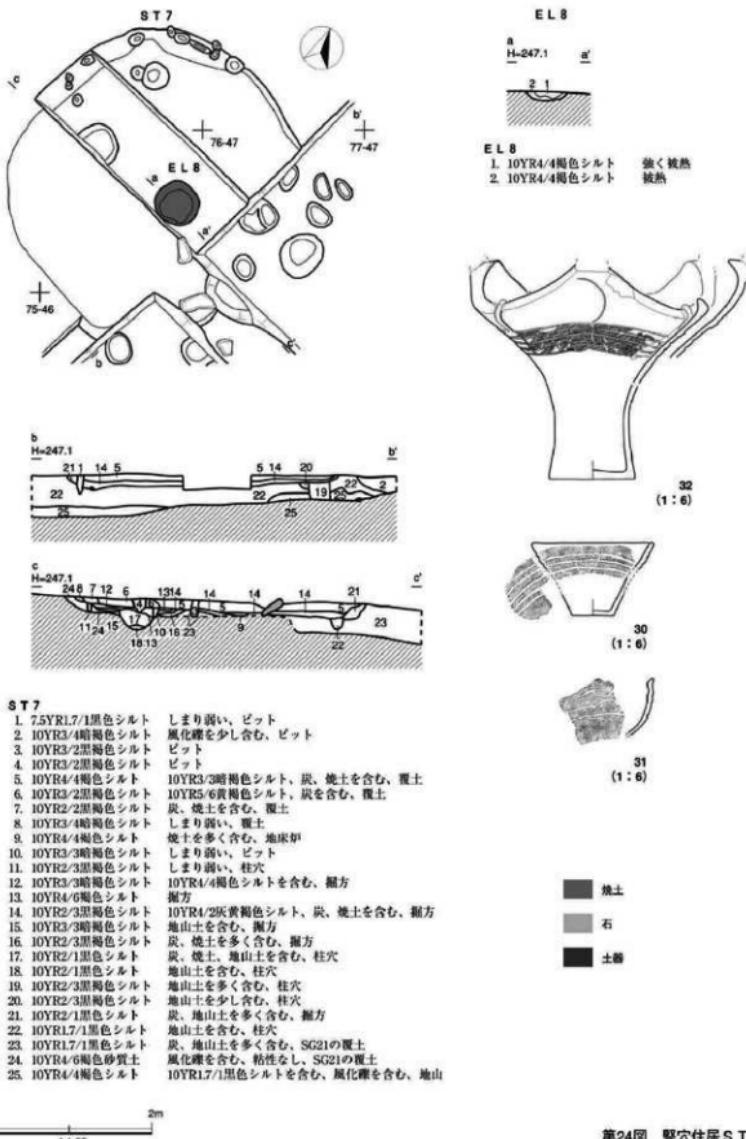
第21図 壁穴住居ST 3



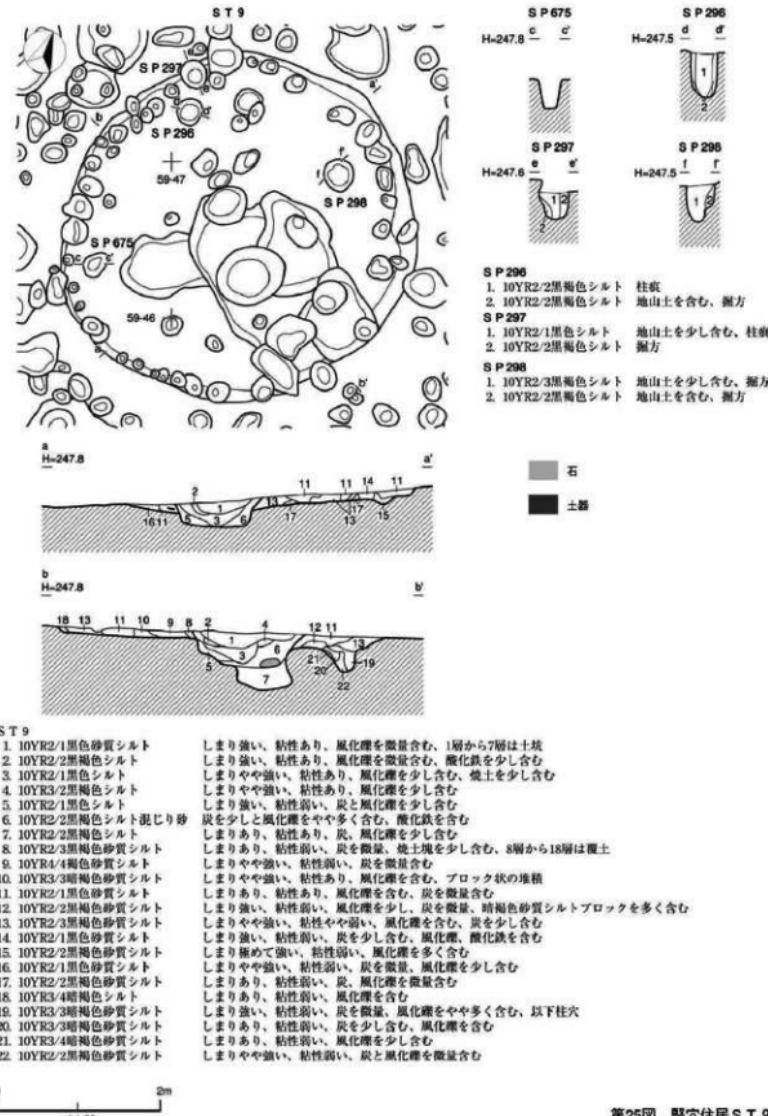
第22図 壁穴住居 S.T.4 床面検出



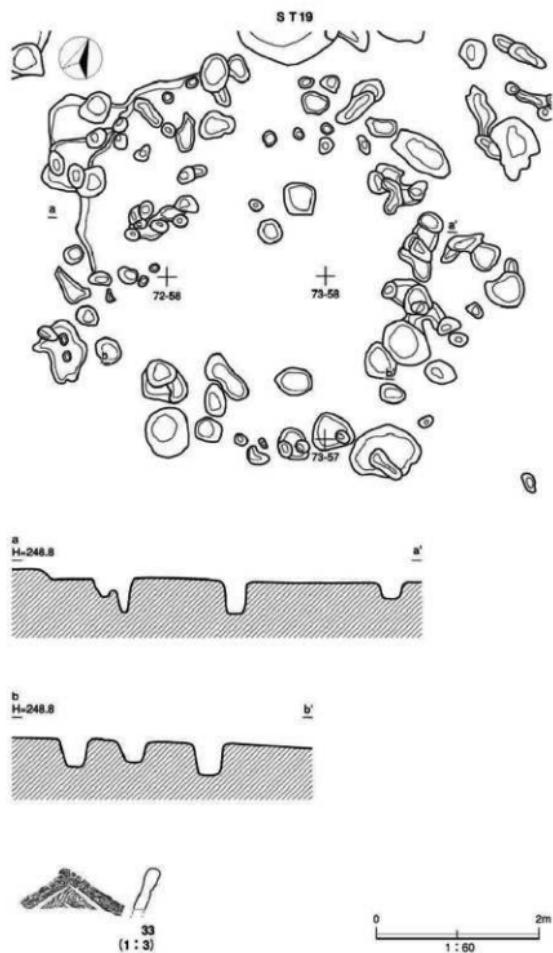
第23図 竪穴住居 S T 4 掘方完掘



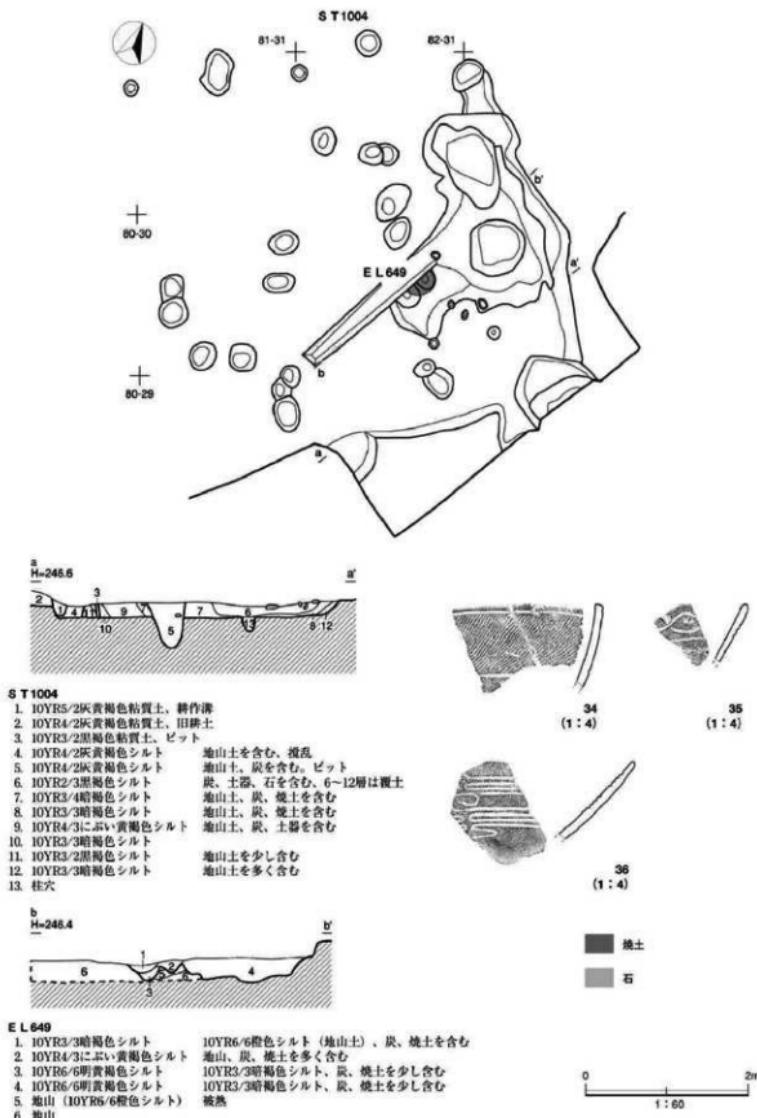
第24図 穴住居 ST 7



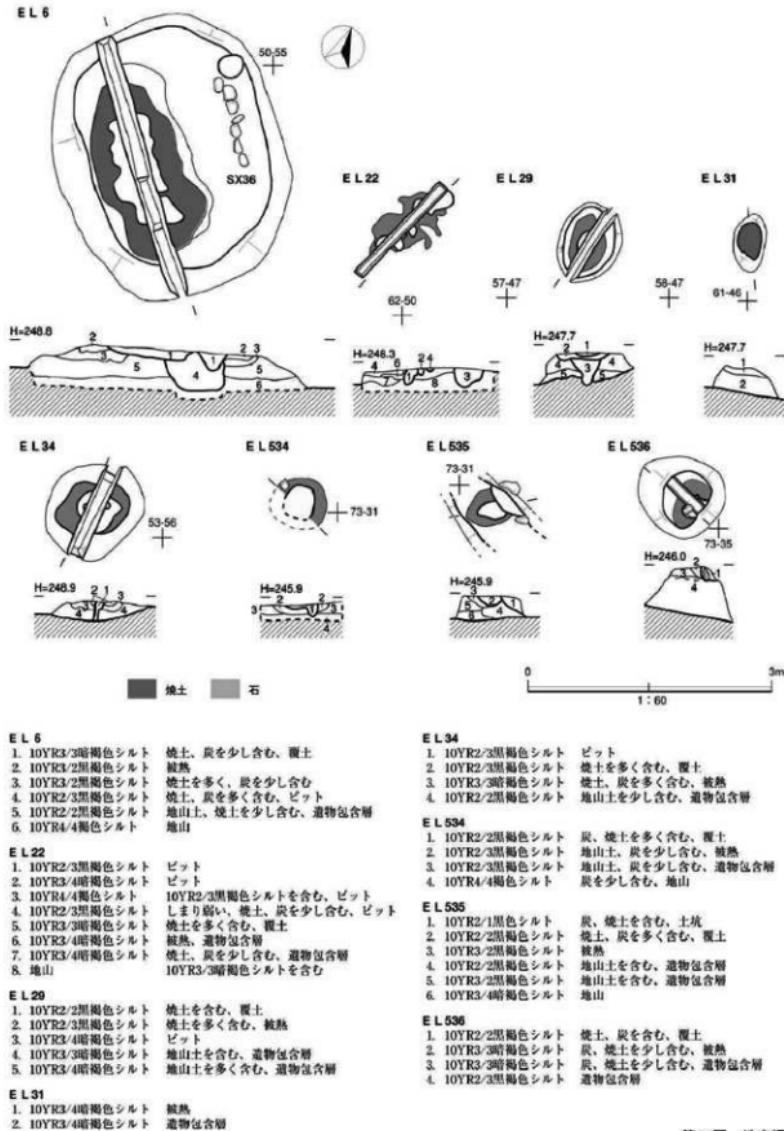
第25図 穫穴住居 S T 9

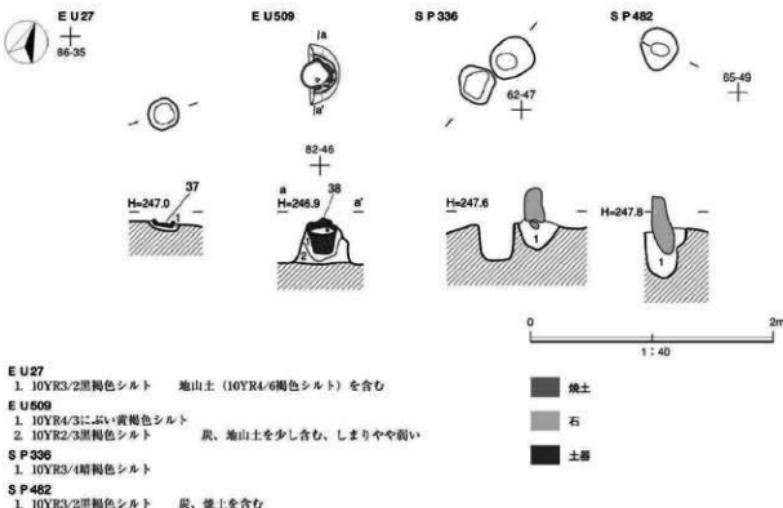
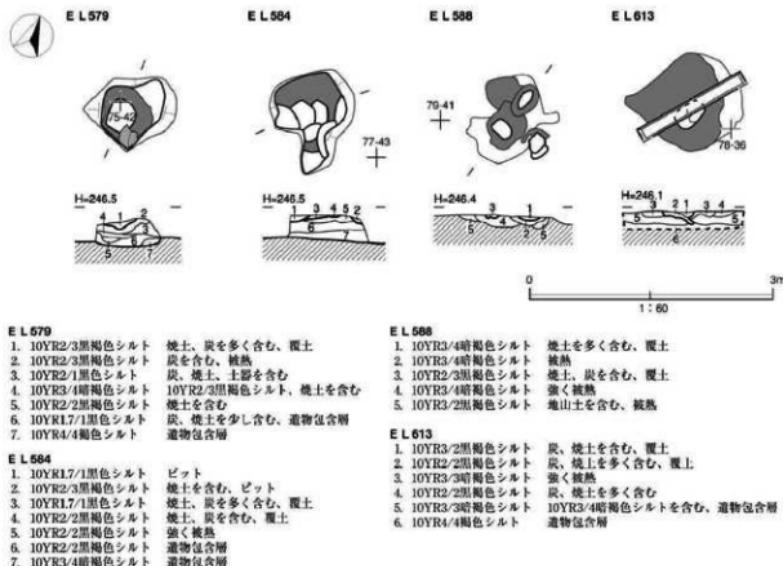


第26図 積穴住居 S T 19

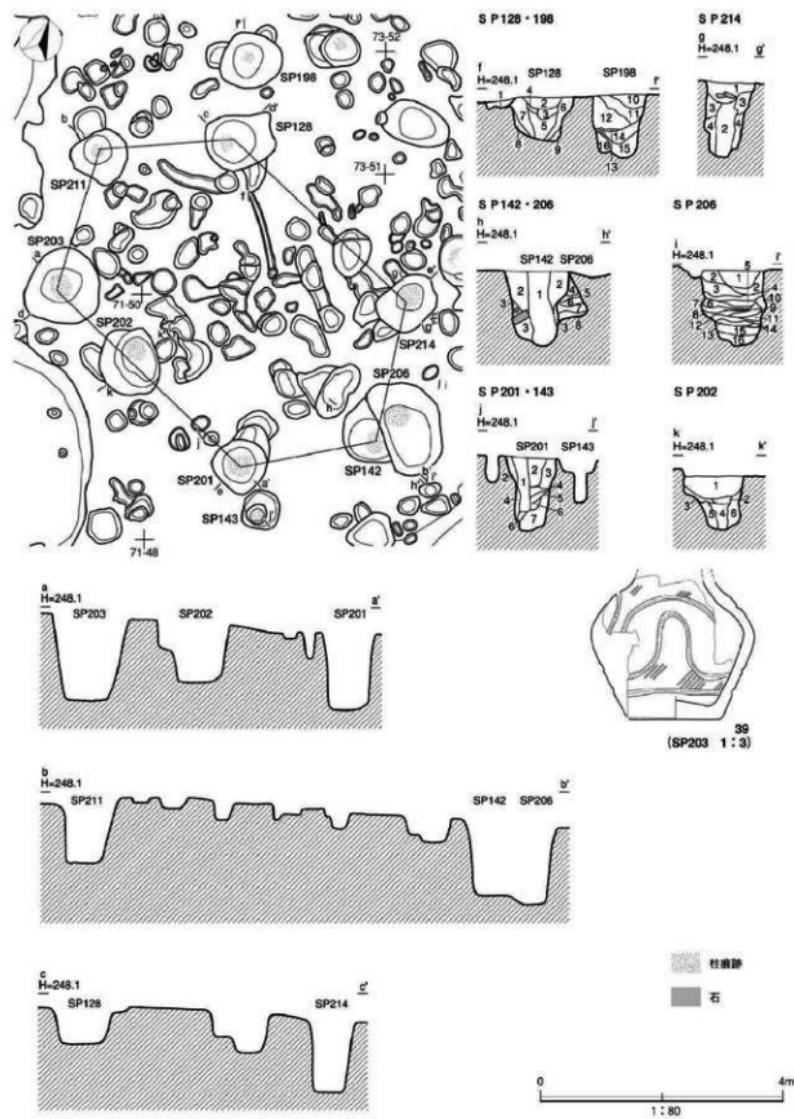


第27図 穴住居 S T 1004

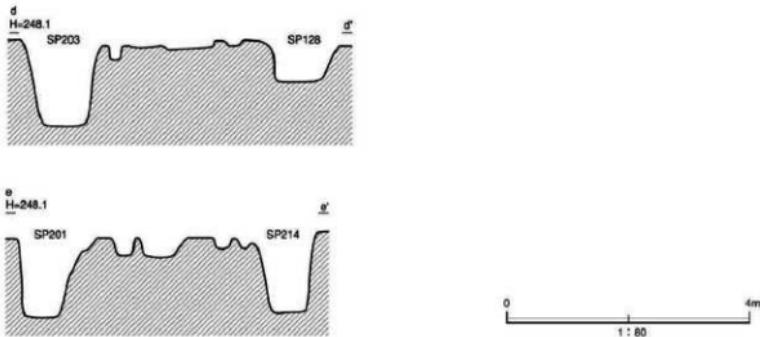




第29図 地床炉 埋設土器遺構 立石遺構



第30図 据立柱建物 S B 15

**S P 128 - 196**

1. 10YR3/4暗褐色砂質シルト ピット
2. 10YR3/2黒褐色シルト 2~9層土がSP128、2~5層土が柱痕 地山土を含む
3. 10YR3/4暗褐色シルト
4. 10YR3/4暗褐色シルト
5. 10YR3/2黒褐色シルト 炭を少し含む
6. 10YR3/3暗褐色シルト 6~9層土が掘方
7. 10YR3/4暗褐色シルト
8. 10YR3/4暗褐色シルト 地山土をブロック状に含む
9. 10YR4/4褐色色シルト
10. 10YR3/4暗褐色砂質シルト 以下SP198の掘方
11. 10YR4/4褐色色質シルト 硫を含む
12. 10YR3/3暗褐色シルト 下部に10YR4/4褐色シルトを含む
13. 10YR2/1黒褐色シルト
14. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト
15. 10YR3/1 黒褐色シルト やや粘性あり
16. 地山土に10YR4/3にぶい黄褐色シルトを少し含む

S P 214

1. 10YR2/2黒褐色シルト しまり弱い、硫を含む、抜取
2. 10YR2/3黒褐色シルト 地山土を少し含む、しまり弱い、柱痕
3. 10YR2/3黒褐色シルト 地山土を含む、掘方
4. 10YR2/3黒褐色シルト 地山土を多く含む、掘方

S P 142 - 206

1. 10YR3/3暗褐色シルト 地山土を含む、しまり弱い、柱痕
2. 10YR3/4暗褐色シルト 地山土を含む、掘方
3. 10YR3/4暗褐色シルト 地山土を多く含む、掘方
4. 地山土に10YR3/3暗褐色シルトを少し含む、4~8層土はSP206の掘方
5. 地山土に10YR3/4暗褐色シルトを含む
6. 10YR2/3暗褐色シルト 地山土を少し含む
7. 10YR2/3黒褐色シルト 地山土を多く含む
8. 10YR2/2黒褐色シルト 地山土を少し含む

S P 201 - 143

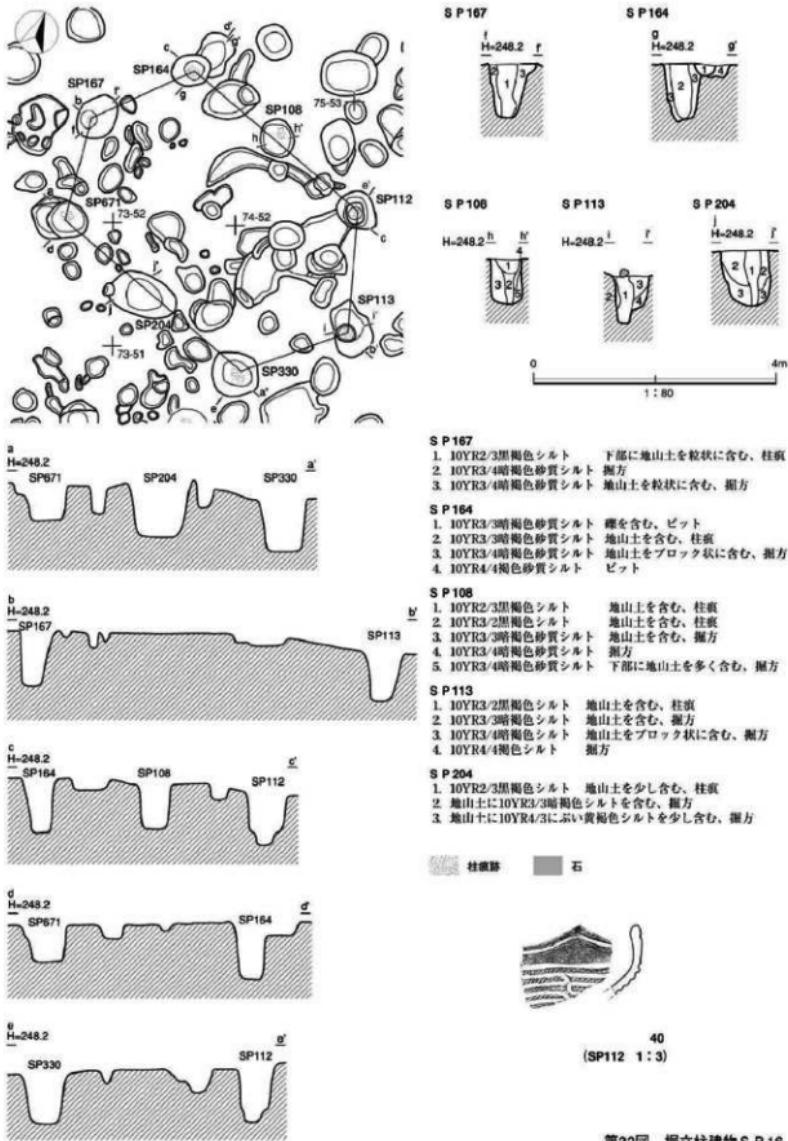
1. 10YR3/3暗褐色シルト 地山土を少し含む、柱痕
2. 10YR3/3暗褐色シルト 地山土を多く含む、以下掘方、2~7層土はしまり強い
3. 地山土に10YR3/3暗褐色シルトを少し含む
4. 地山土に10YR3/3暗褐色シルトを含む
5. 地山土に10YR3/2黒褐色シルトを少し含む
6. 10YR3/4暗褐色シルト 地山土を少し含む
7. 地山土に10YR3/4暗褐色シルトを少し含む

S P 202

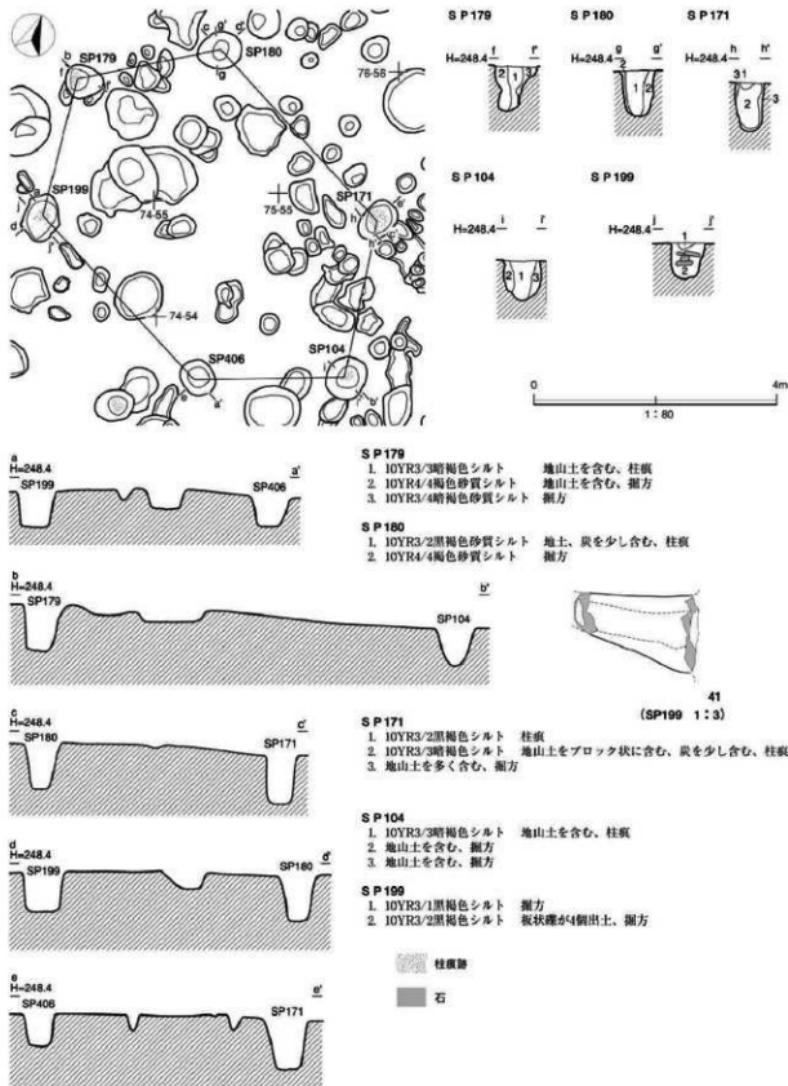
1. 10YR3/4暗褐色砂質シルト 抜取
2. 10YR3/3暗褐色砂質シルト 下部に4層土を含む、抜取
3. 10YR3/3暗褐色シルト 抜取
4. 10YR3/1黒褐色シルト 杜痕
5. 10YR3/4暗褐色砂質シルト 地山土を多く含む、しまり弱い、掘方
6. 10YR4/4褐色シルト 地山土を含む、掘方

S P 206

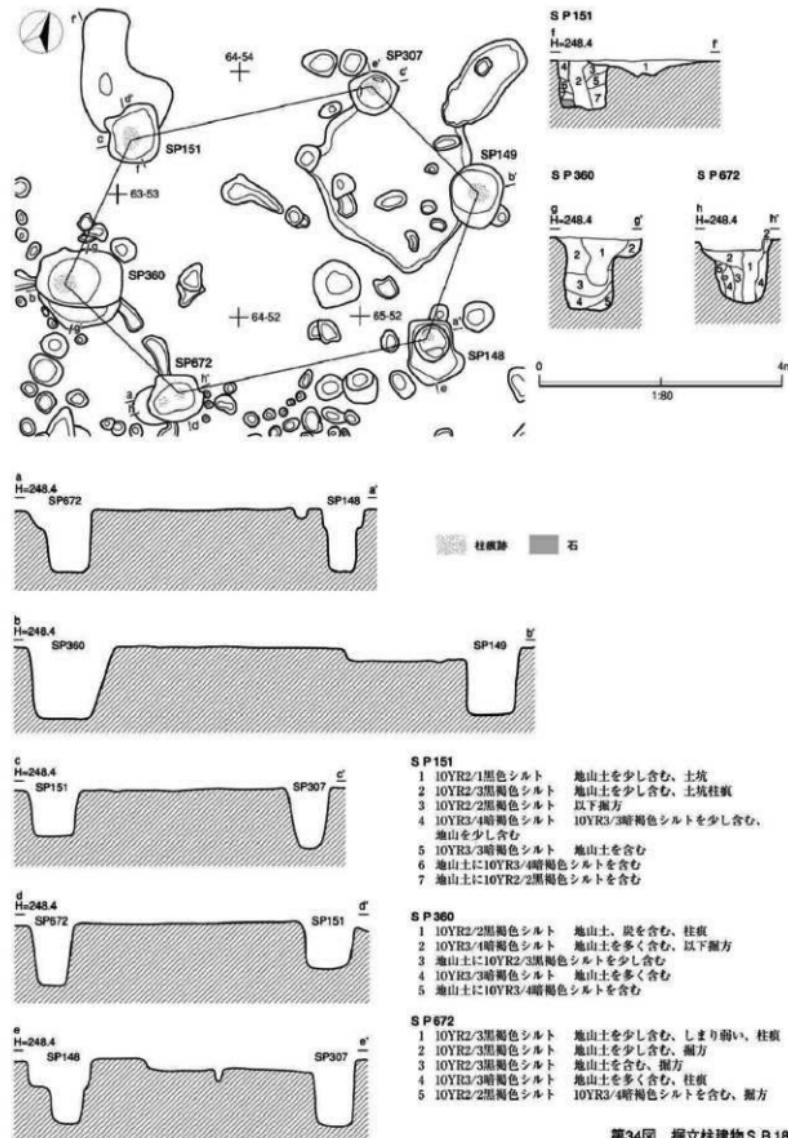
1. 地山土に10YR2/3黒褐色シルトを少し含む、以下掘方
2. 地山土に10YR3/4暗褐色シルトを少し含む
3. 地山土に10YR3/3暗褐色シルトを少し含む
4. 10YR2/3黒褐色シルト 地山土を含む
5. 10YR2/2黒褐色シルト 地山土を含む
6. 10YR2/2黒褐色シルト 地山土を含む
7. 10YR2/3黒褐色シルト 地山土を多く含む、硫を含む、焼土を含む
8. 10YR2/2黒褐色シルト 地山土を少し含む、焼土を含む
9. 10YR2/2黒褐色シルト 地山土を少し含む
10. 地山土に10YR3/3暗褐色シルトを含む
11. 10YR2/3黒褐色シルト 地山土を少し含む
12. 10YR2/2黒褐色シルト 地山土を多く含む
13. 地山土に10YR2/2黒褐色シルトを含む
14. 10YR2/1黒褐色シルト 地山土を含む
15. 地山土に10YR2/2黒褐色シルトを少し含む、しまり強い
16. 地山土に10YR2/1黒褐色シルトを少し含む、しまり強い



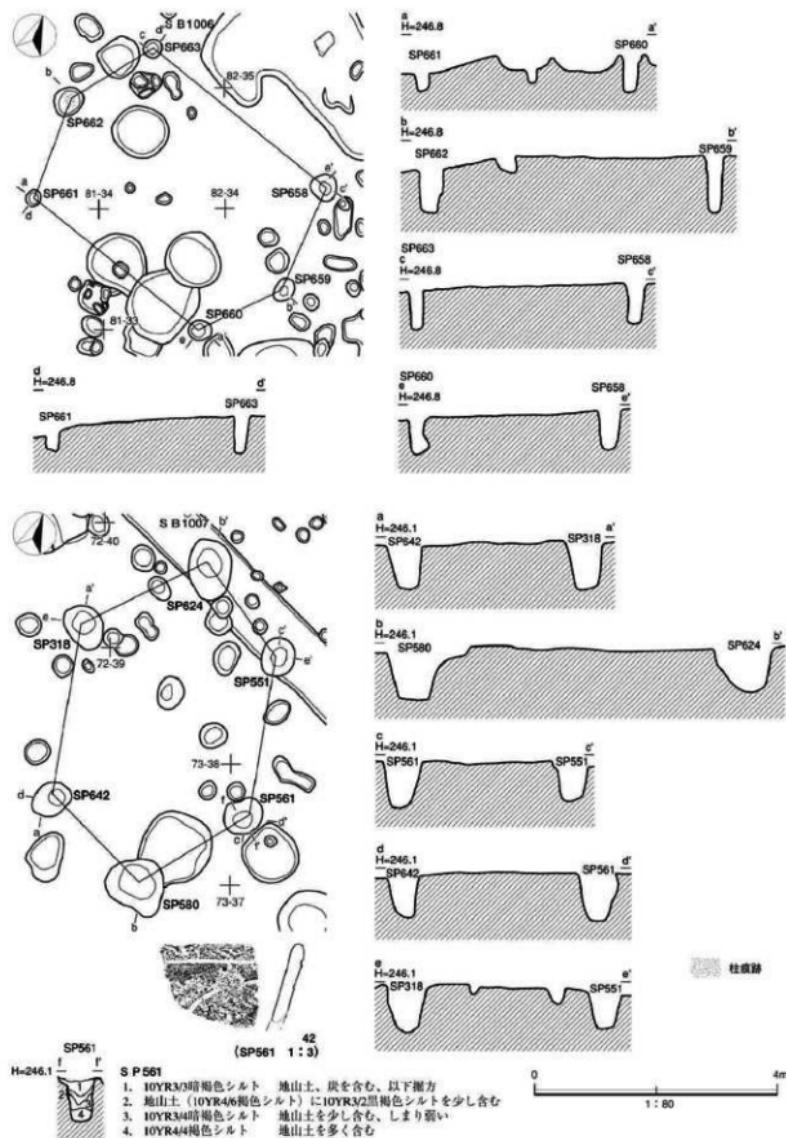
第32図 捩立柱建物 S B 16



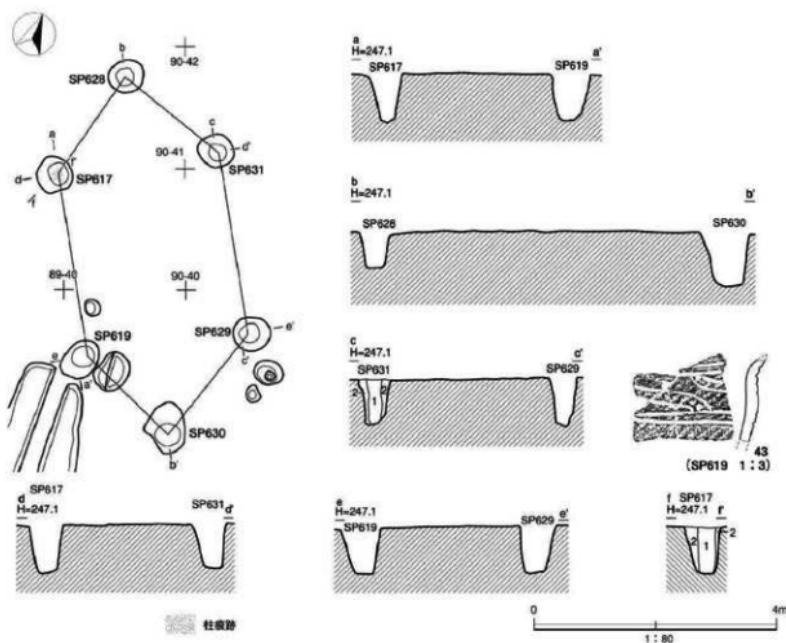
第33図 挖立柱建物 S B 17



第34図 据立柱建物S B 18



第35図 挖立柱建物 S B 1006・1007

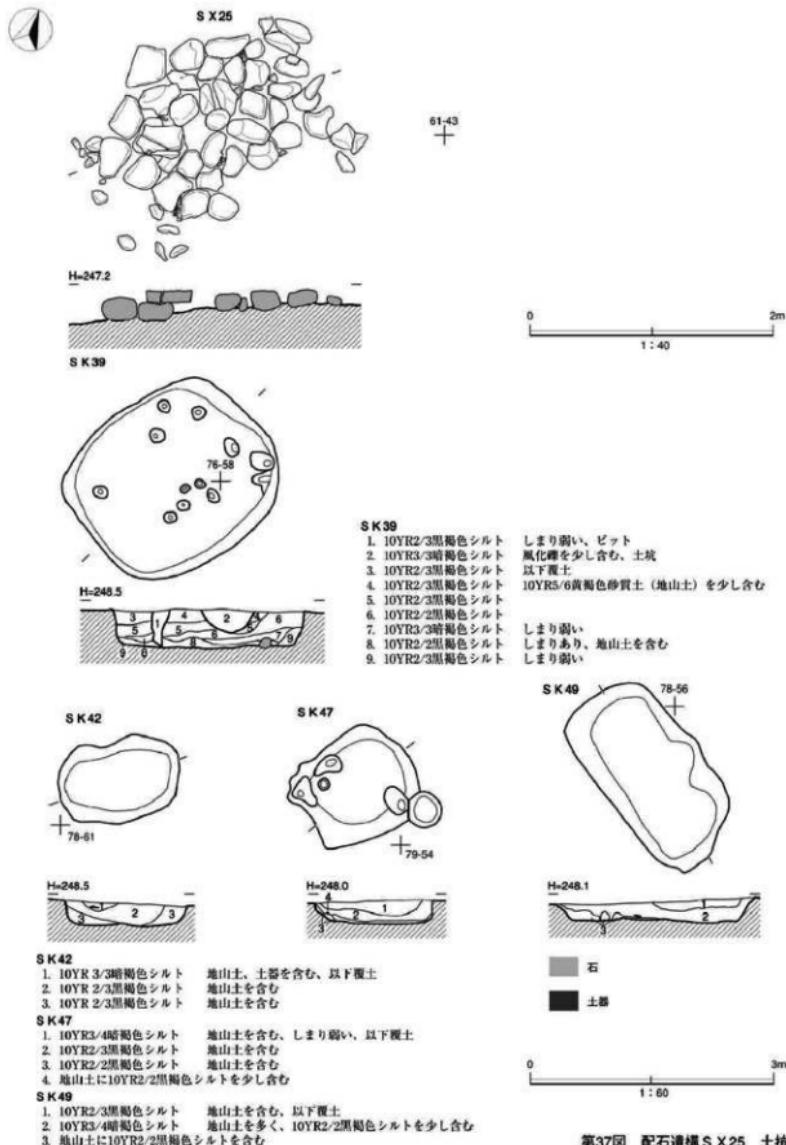
**SP631**

1. 10YR4/4褐色シルト 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(地山土)と炭を多く含む。しまり弱い、柱根地山土を多く含む、側方
2. 10YR4/6褐色シルト

SP617

1. 10YR3/3暗褐色シルト 地山土、炭を含む、柱根
2. 10YR4/4褐色シルト 10YR3/3暗褐色シルトを多く含む、側方

第36図 据立柱建物 S B 1008



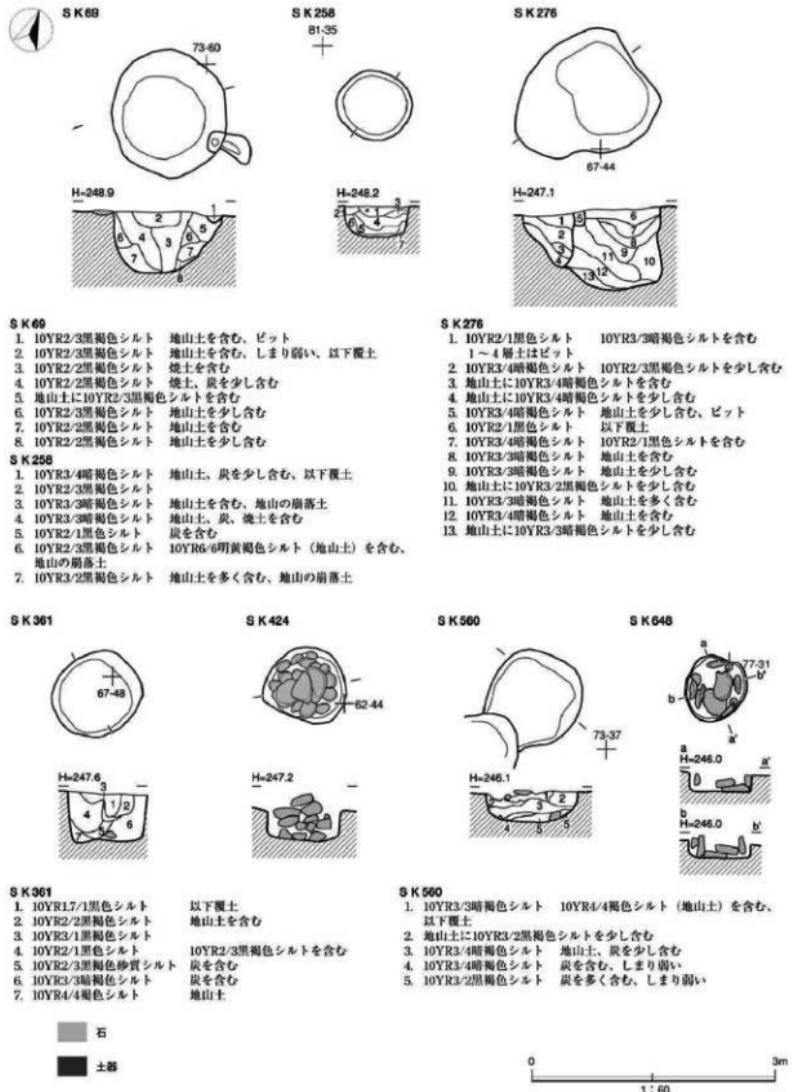
第37図 配石造構 S X25 土坑



第38回 土抗



第39図 土坑





第41回 土坑



第42圖 土坑

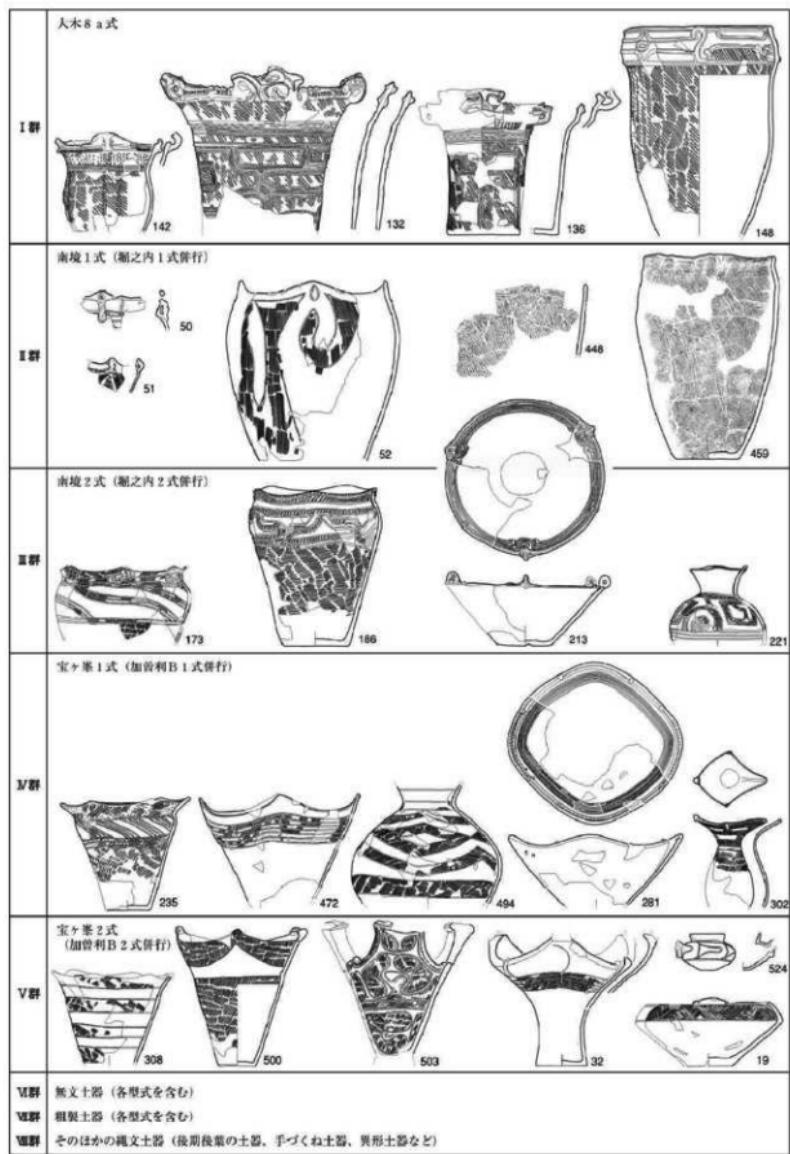


第43回 柱穴

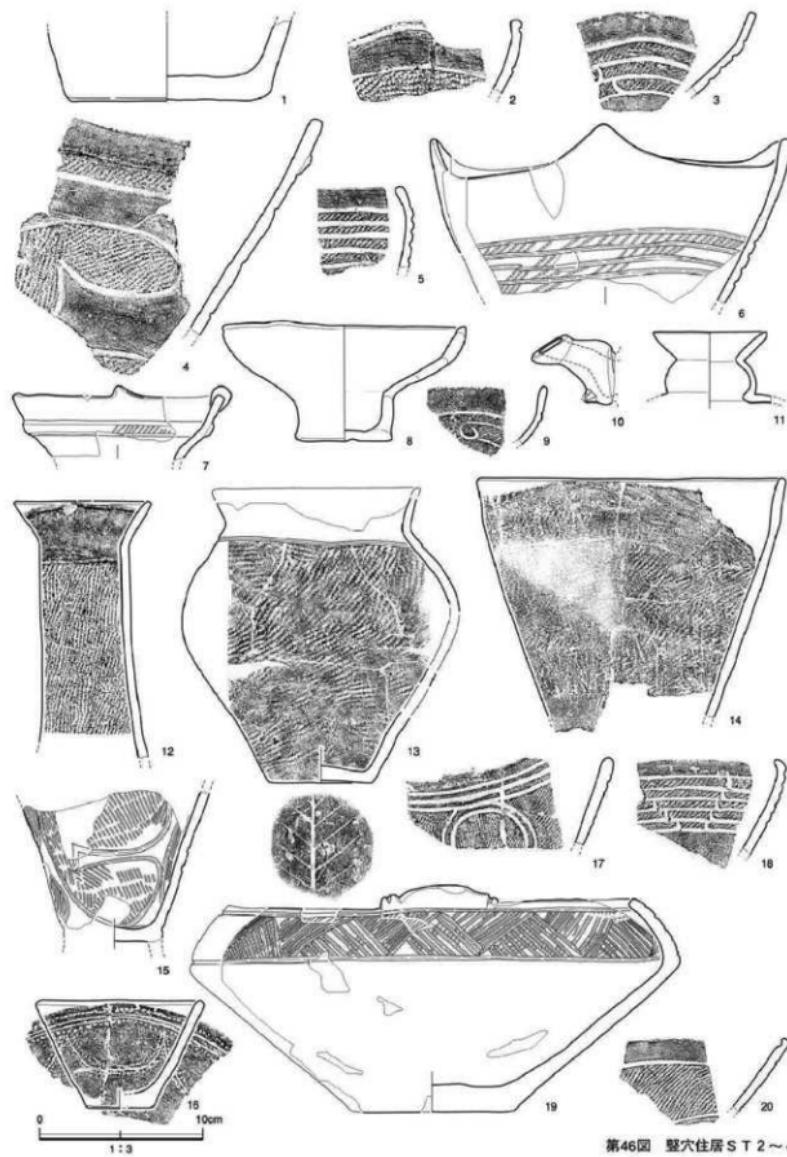
柱跡 石



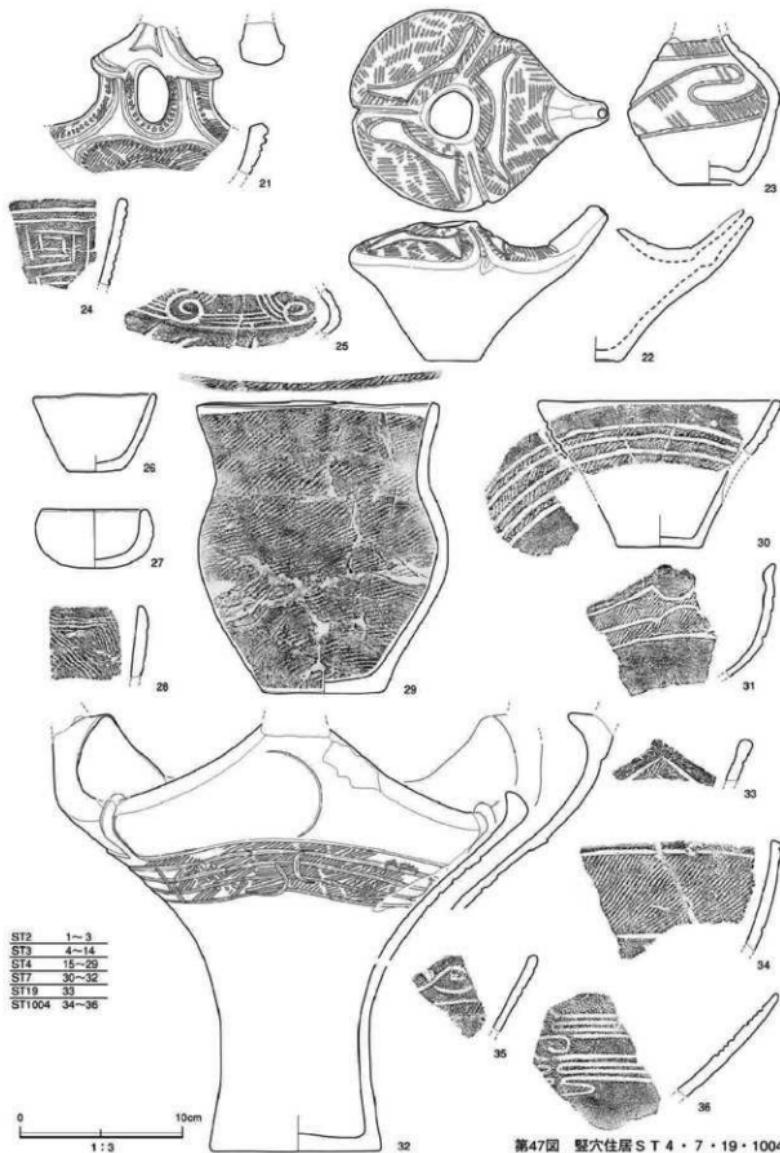
第44図 柱穴



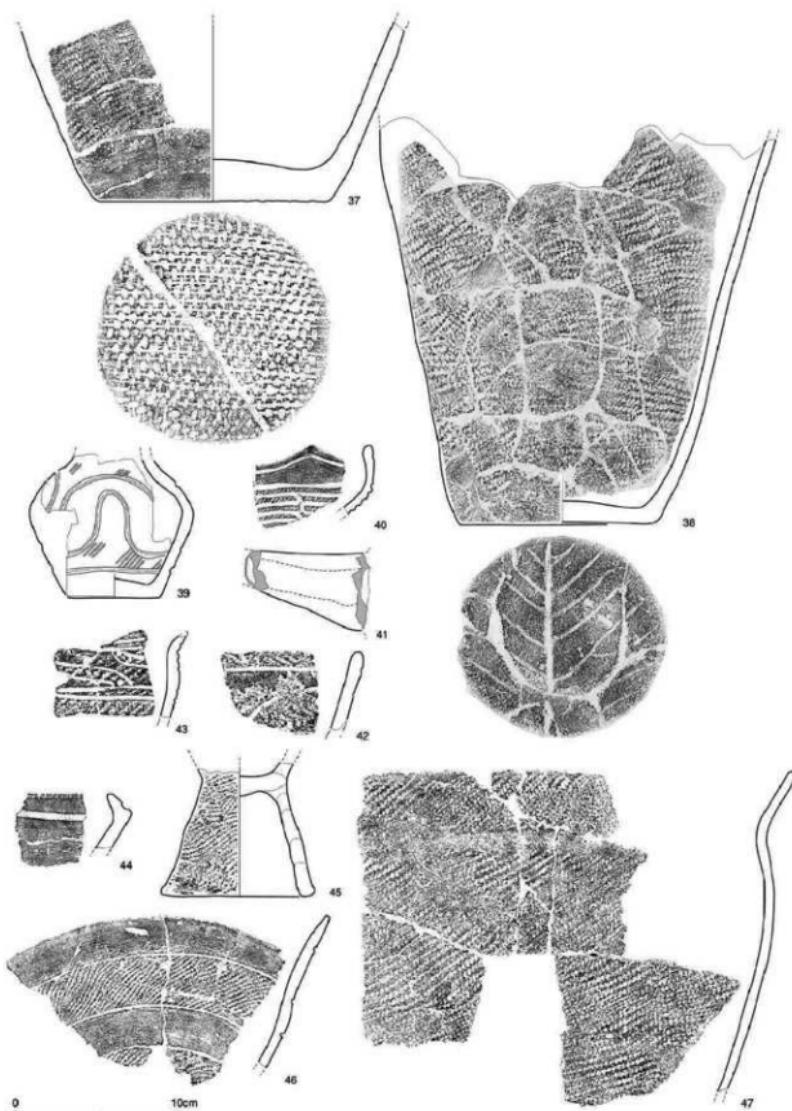
第45図 土器分類図 (1 : 10)



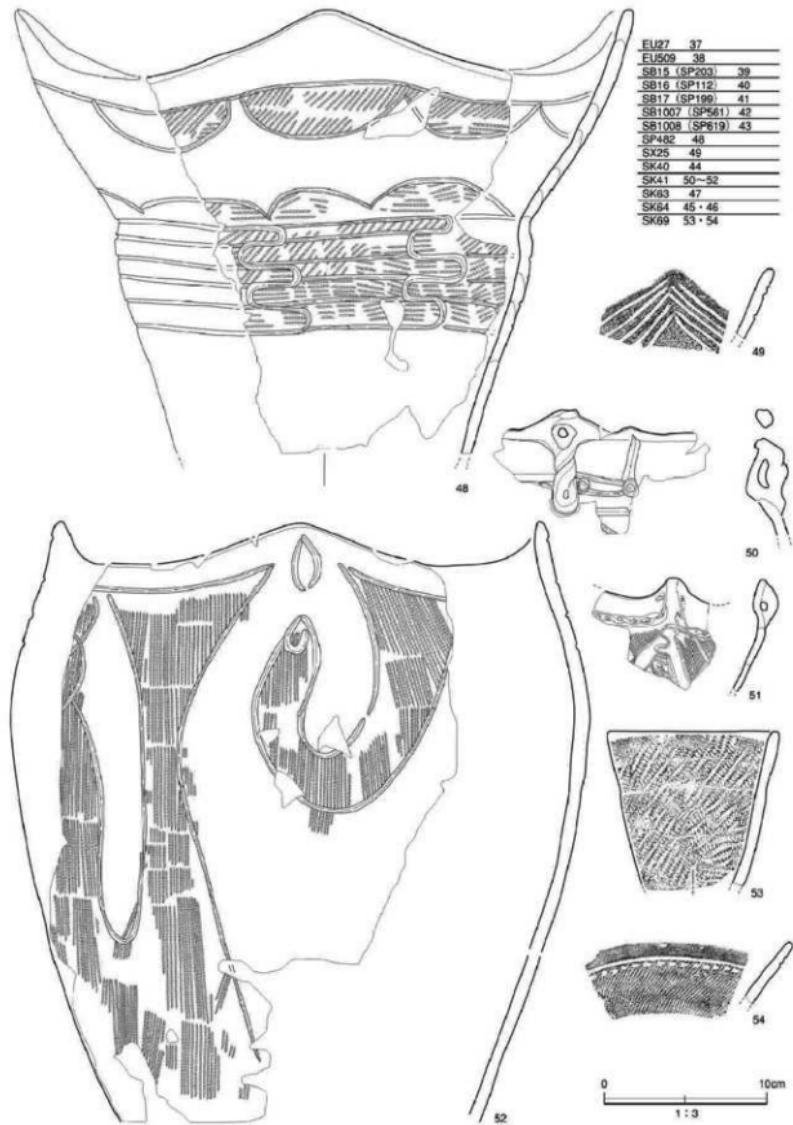
第46図 壁穴住居 S T 2~4



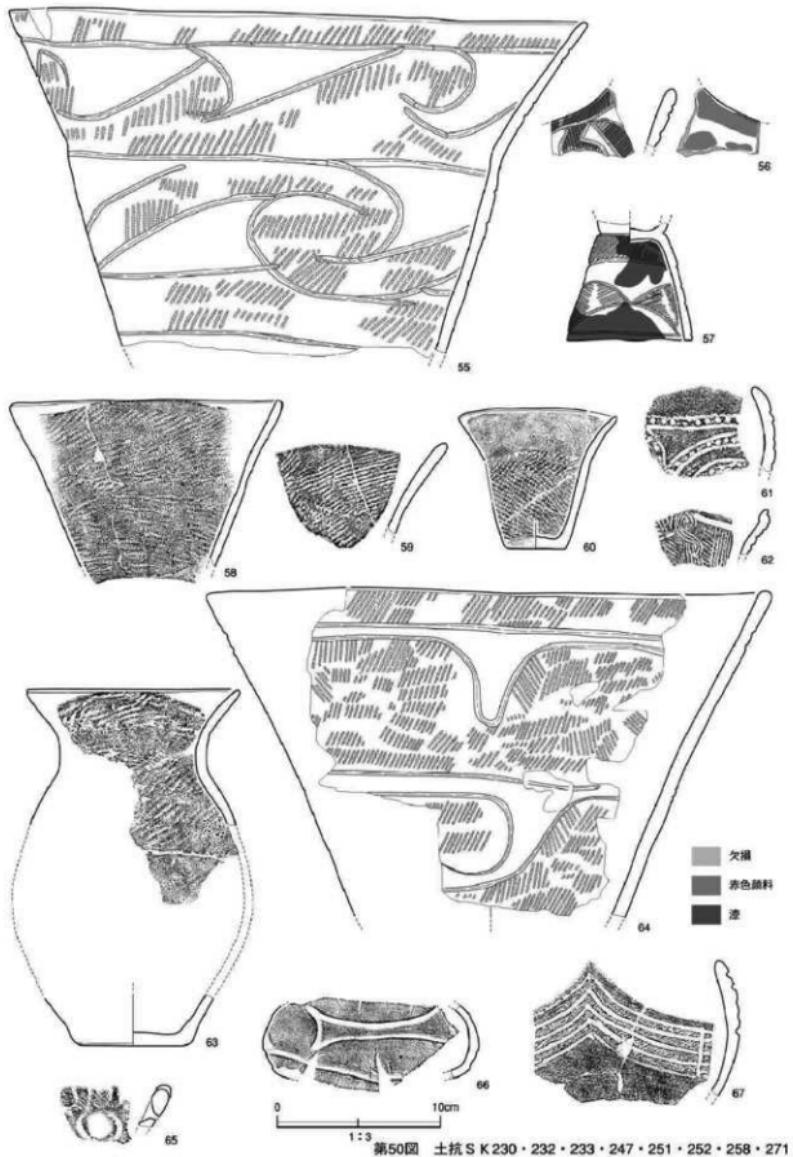
第47図 整穴住居 ST 4・7・19・1004



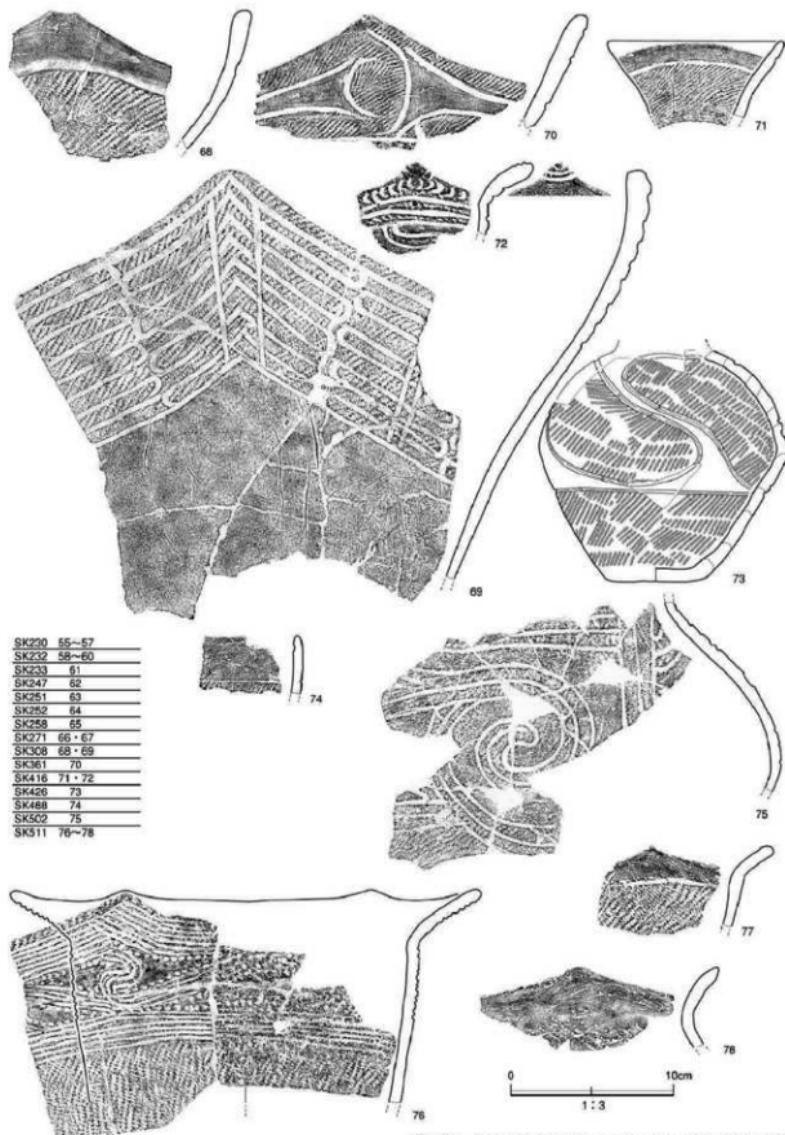
第48図 埋設土器遺構 E U27・509 捩立柱建物 S B15・16・17・1007・1008 土坑 S K40・63・64



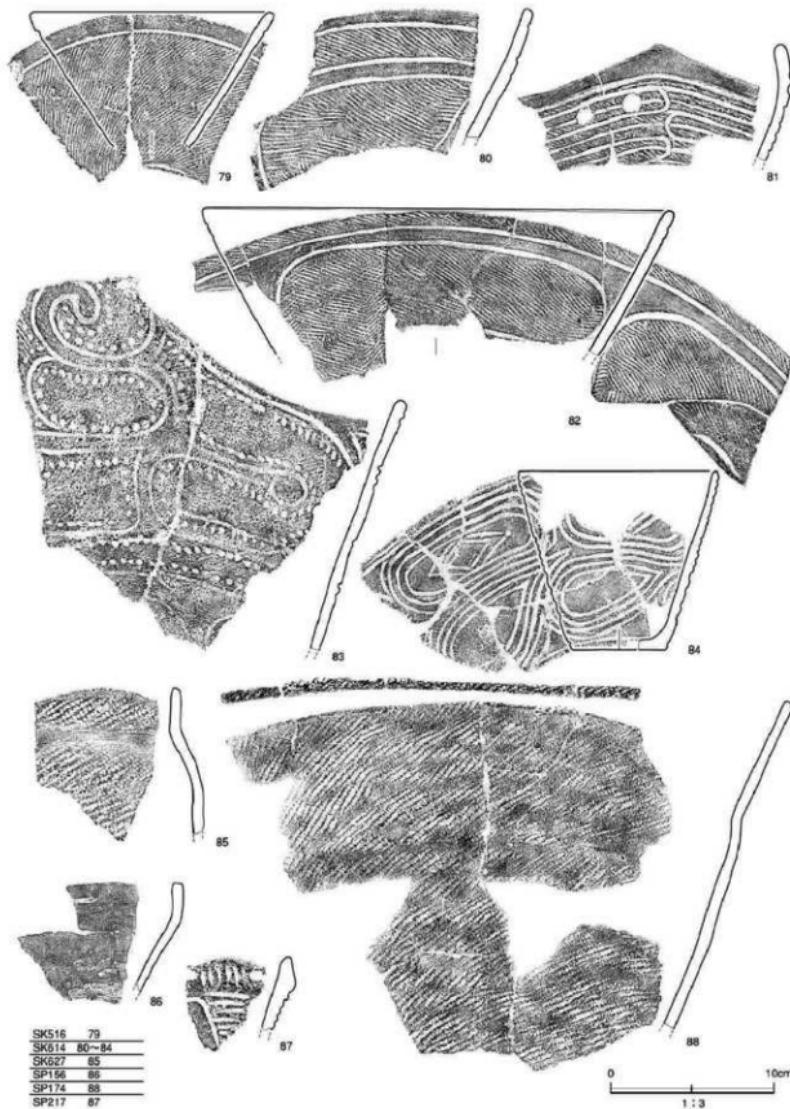
第49図 立石造構 S P 482 配石造構 S X25 土坑 S K41・69



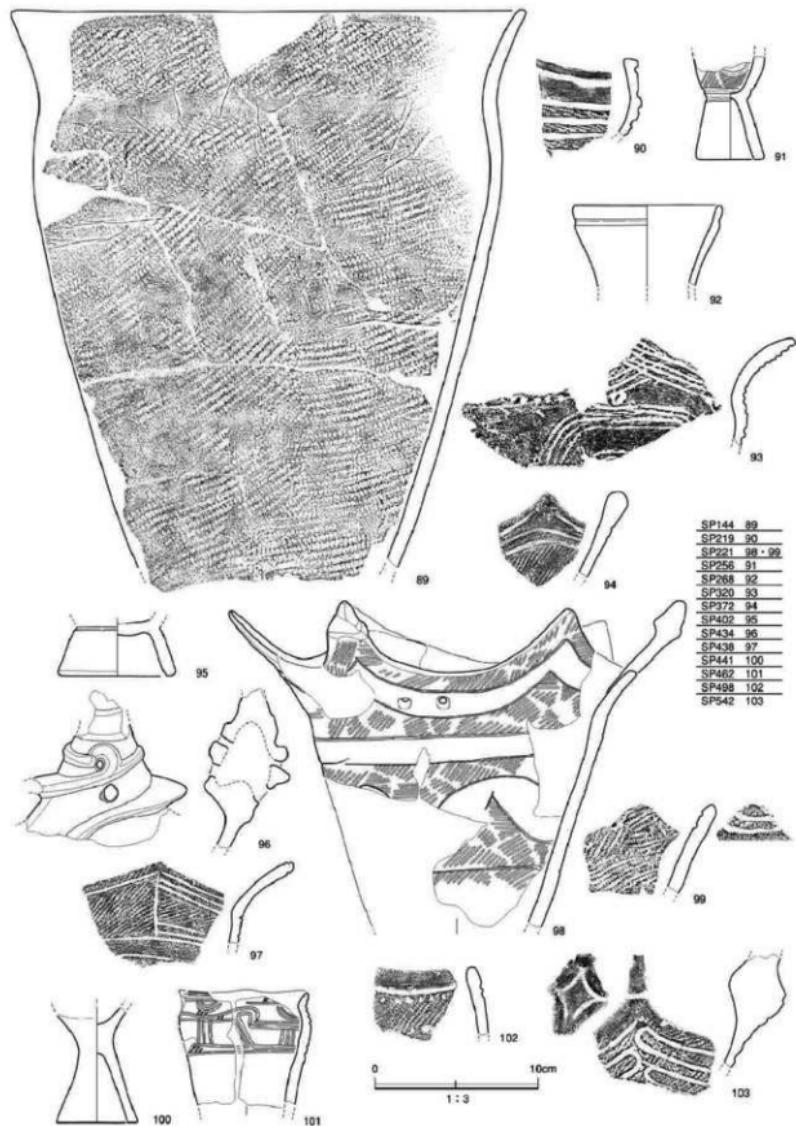
第50図 土抗 S K 230・232・233・247・251・252・258・271



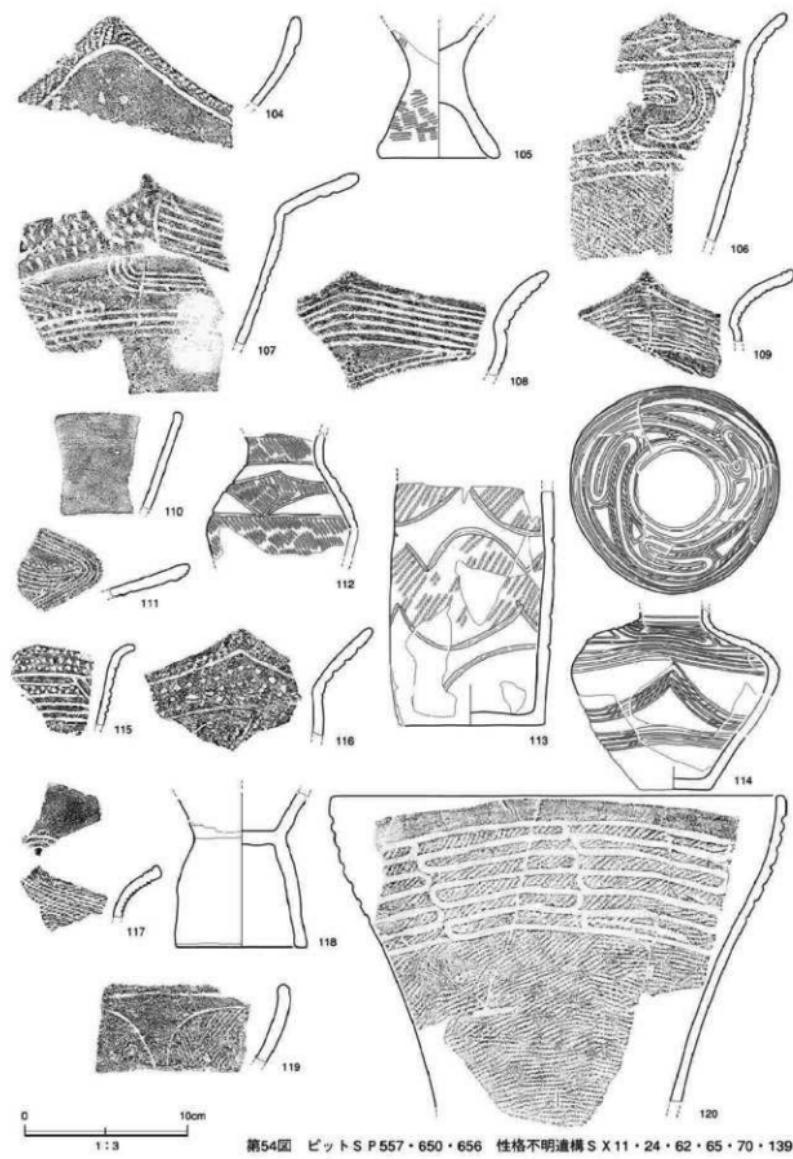
第51図 土抗 S K 308・361・416・426・488・502・511



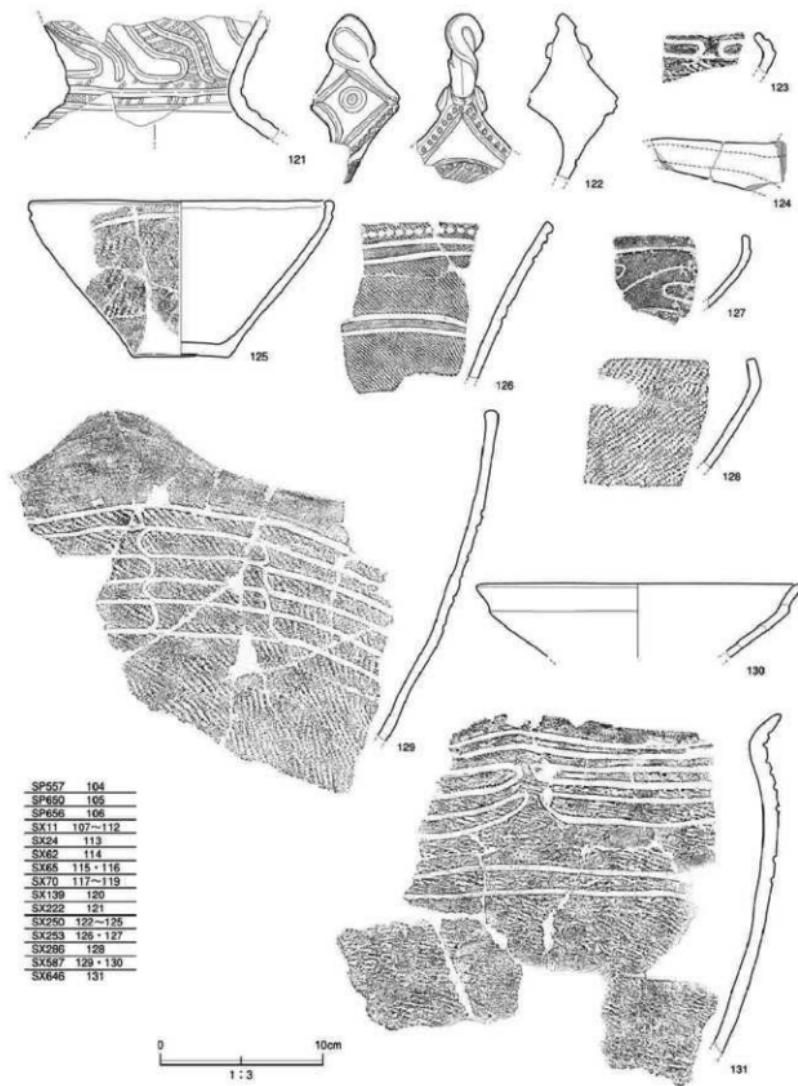
第52図 土坑 SK516・614・627 ピット SP156・174・217



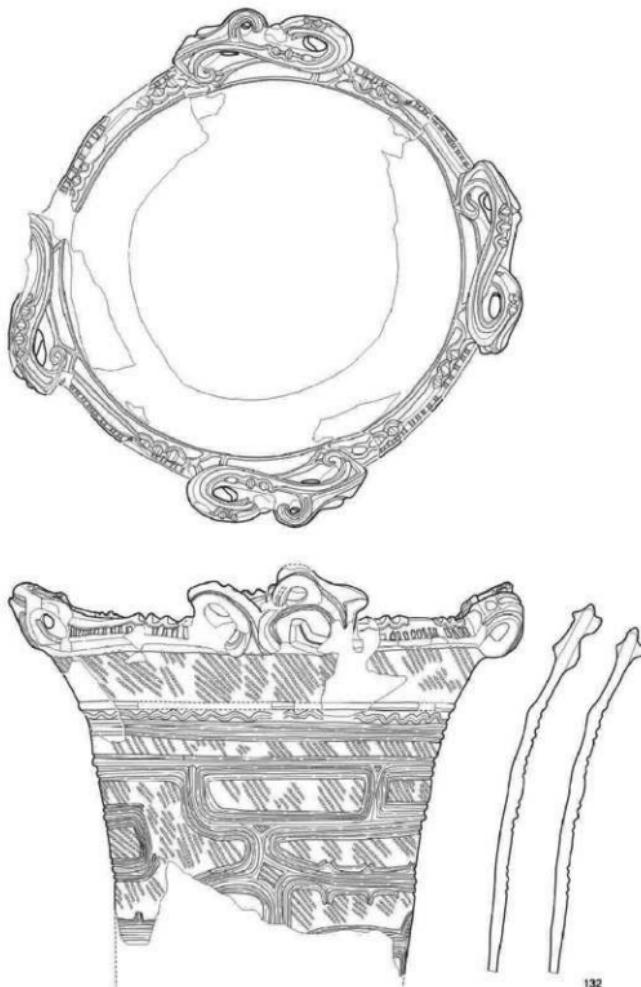
第53図 柱穴 S P 144 ピット S P 219・221・256・268・320・372・402・434・438・441・462・498・542



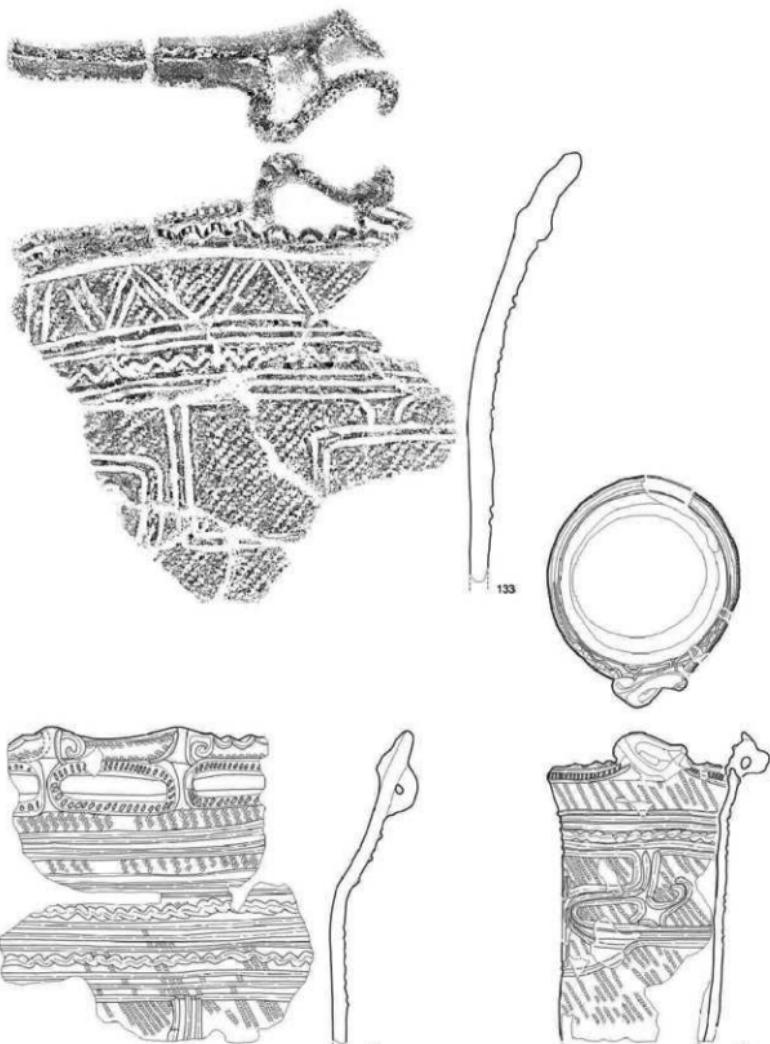
第54図 ピットSP 557・650・656 性格不明遺構S X 11・24・62・65・70・139



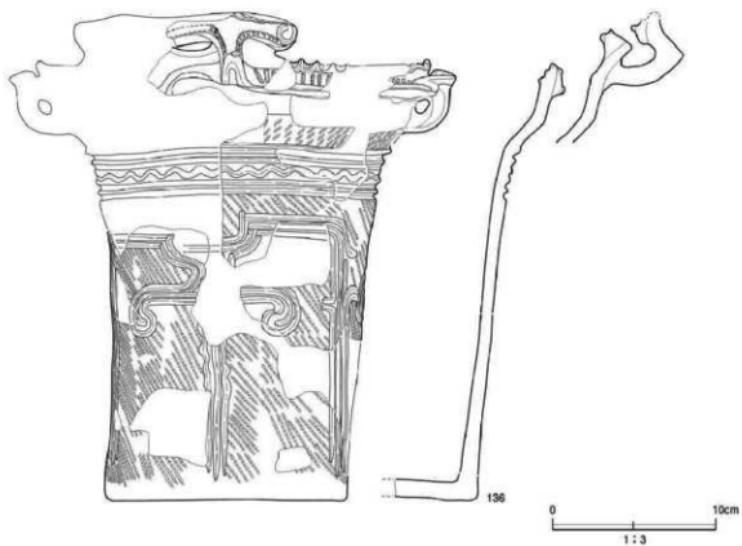
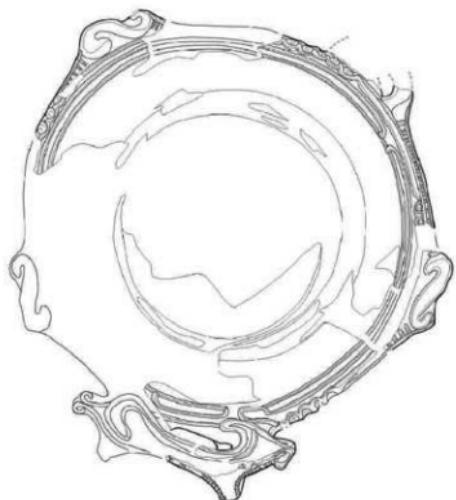
第55图 性格不明造構 S X222·250·253·286·587·646



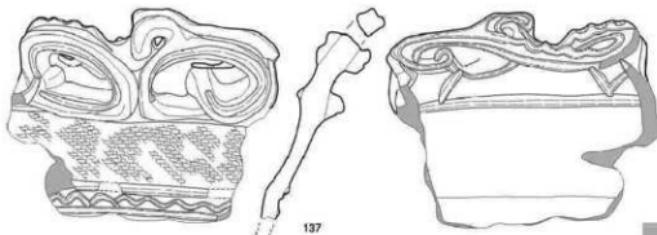
第56図 I群 旧河道S G21



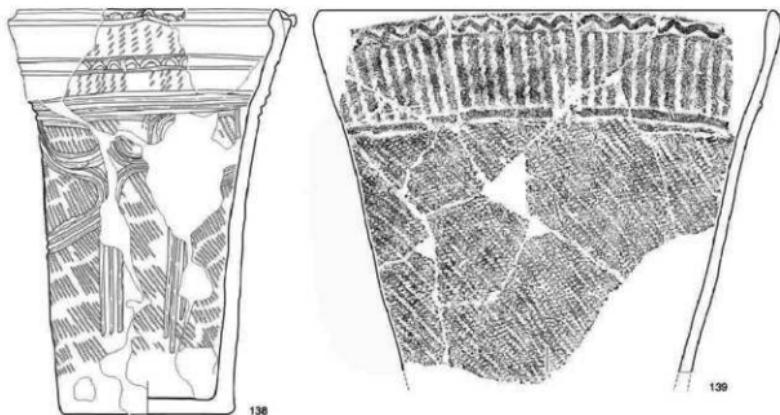
第57図 I群 旧河道 S G 21



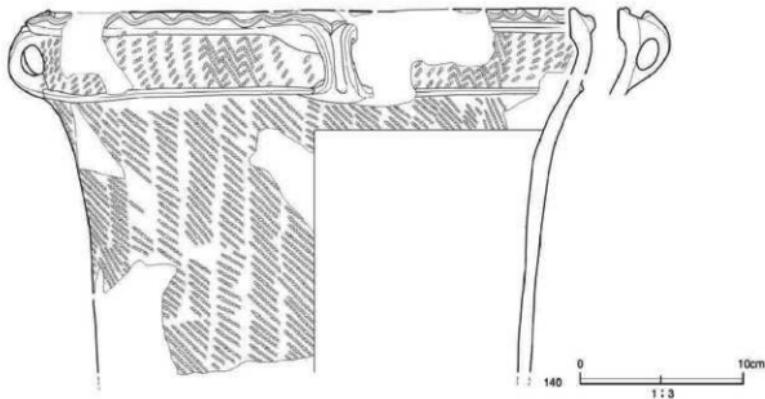
第58図 I群 旧河道 S G21



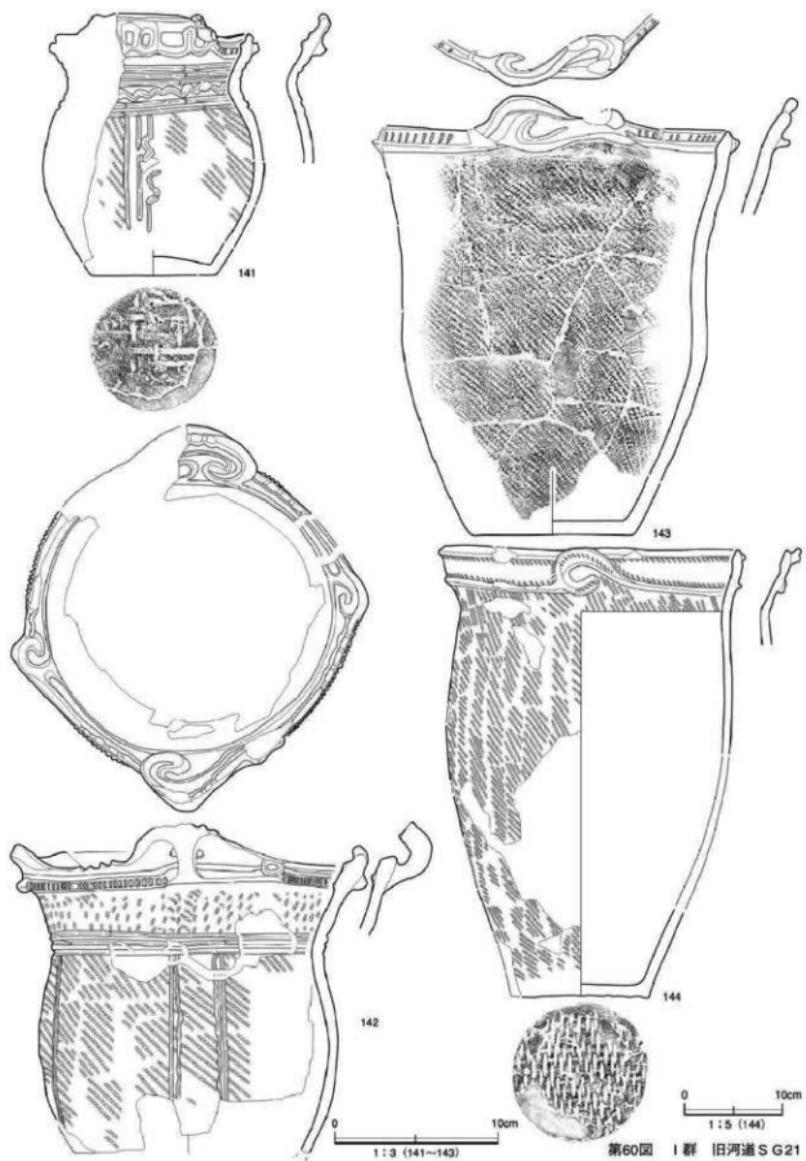
文様



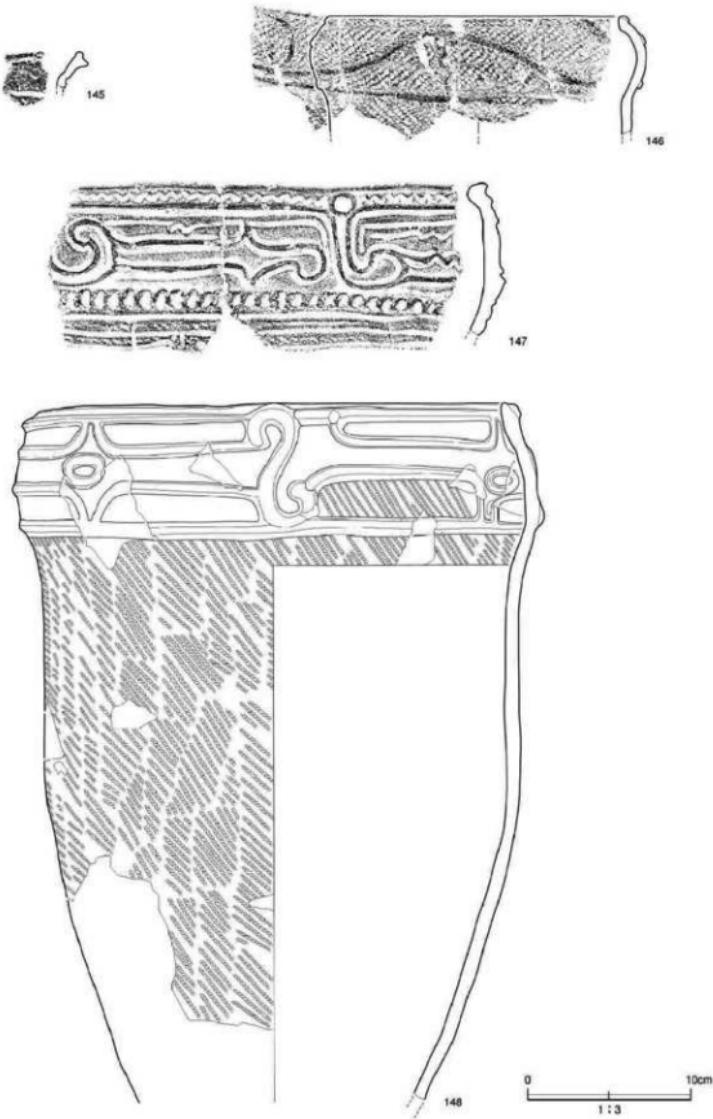
139



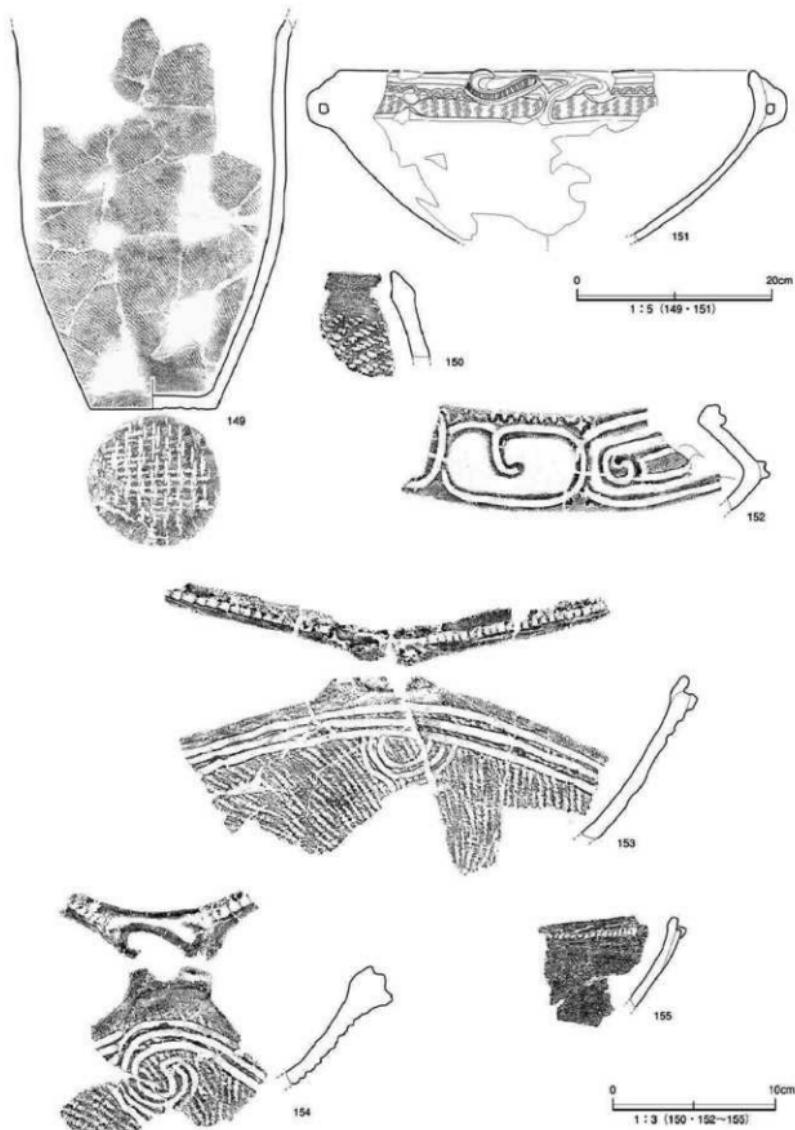
第59図 I群 旧河道 S G 21



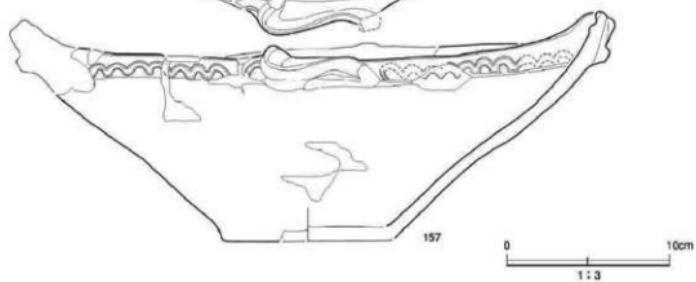
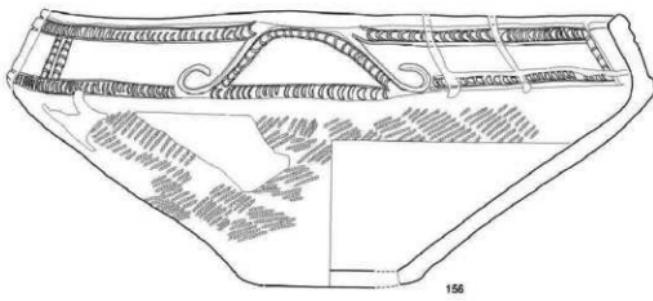
第60図 I群 旧河道 SG21



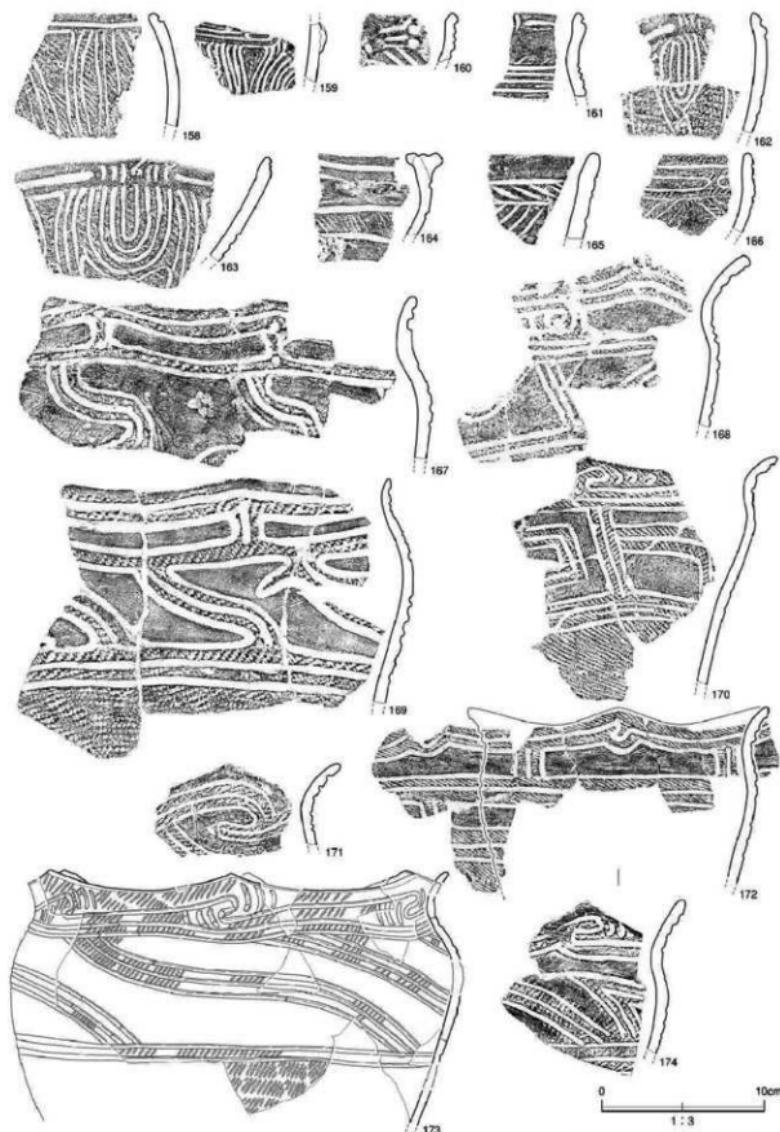
第61図 I群 旧河道SG21・ピットSP542



第62図 I群 旧河道 S G21



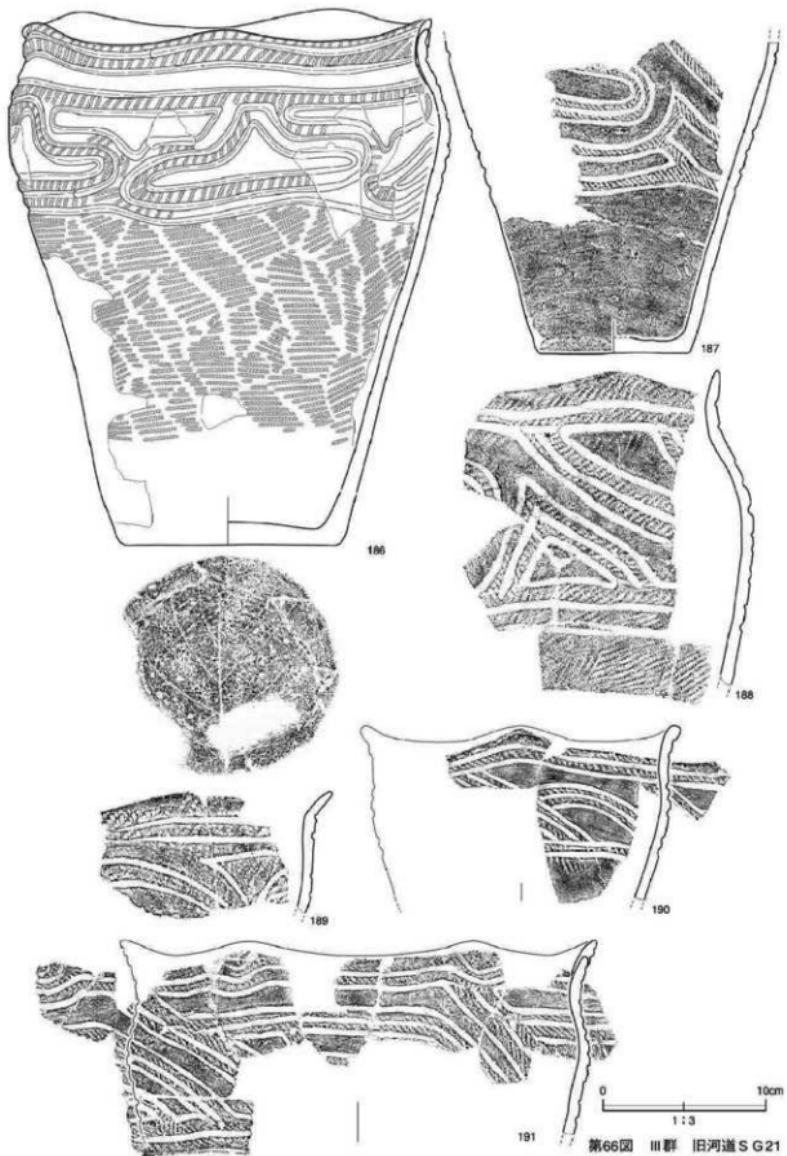
第63图 I群 旧河道 S G21



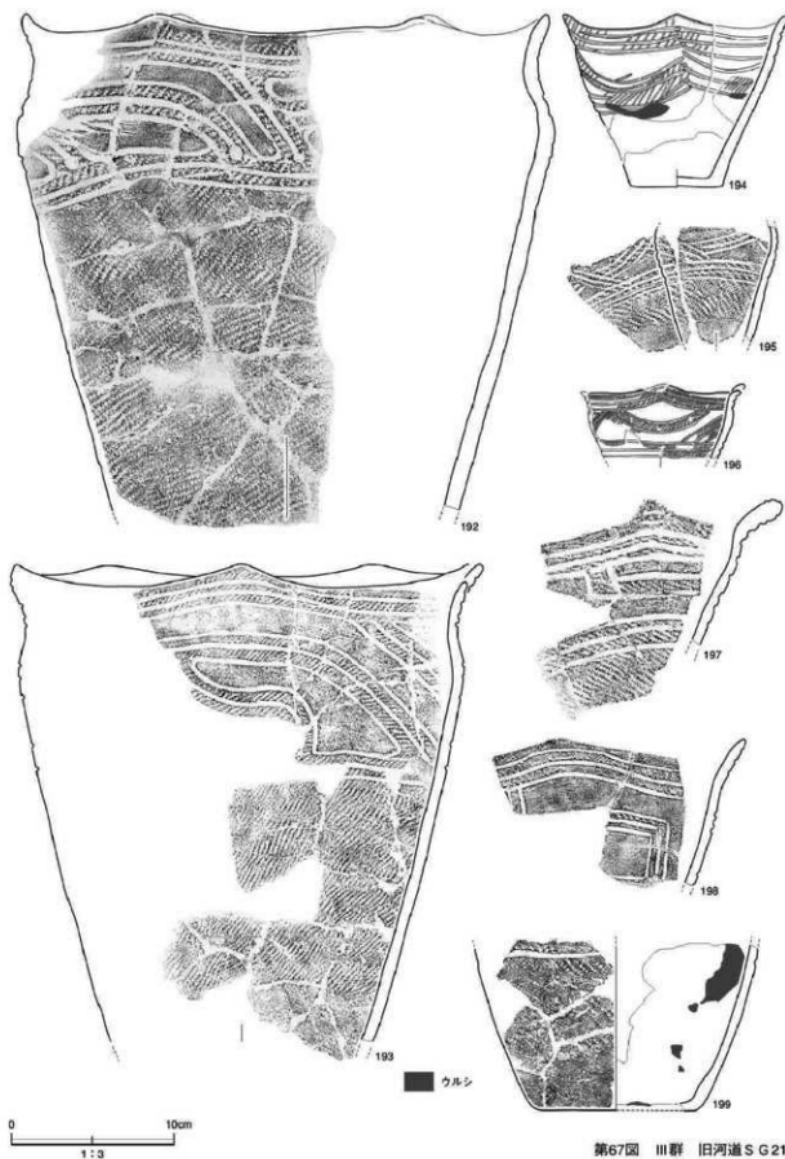
第64図 II・III群 旧河道S G21



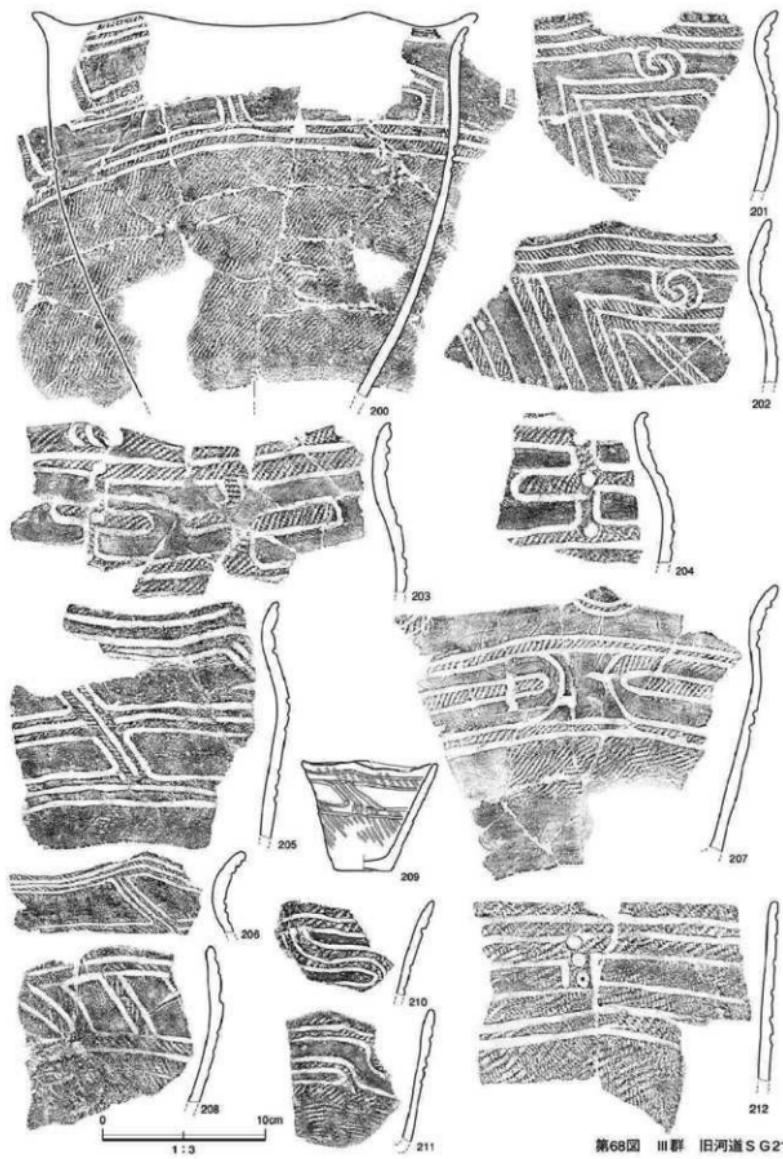
第65図 III群 旧河道 S G 21



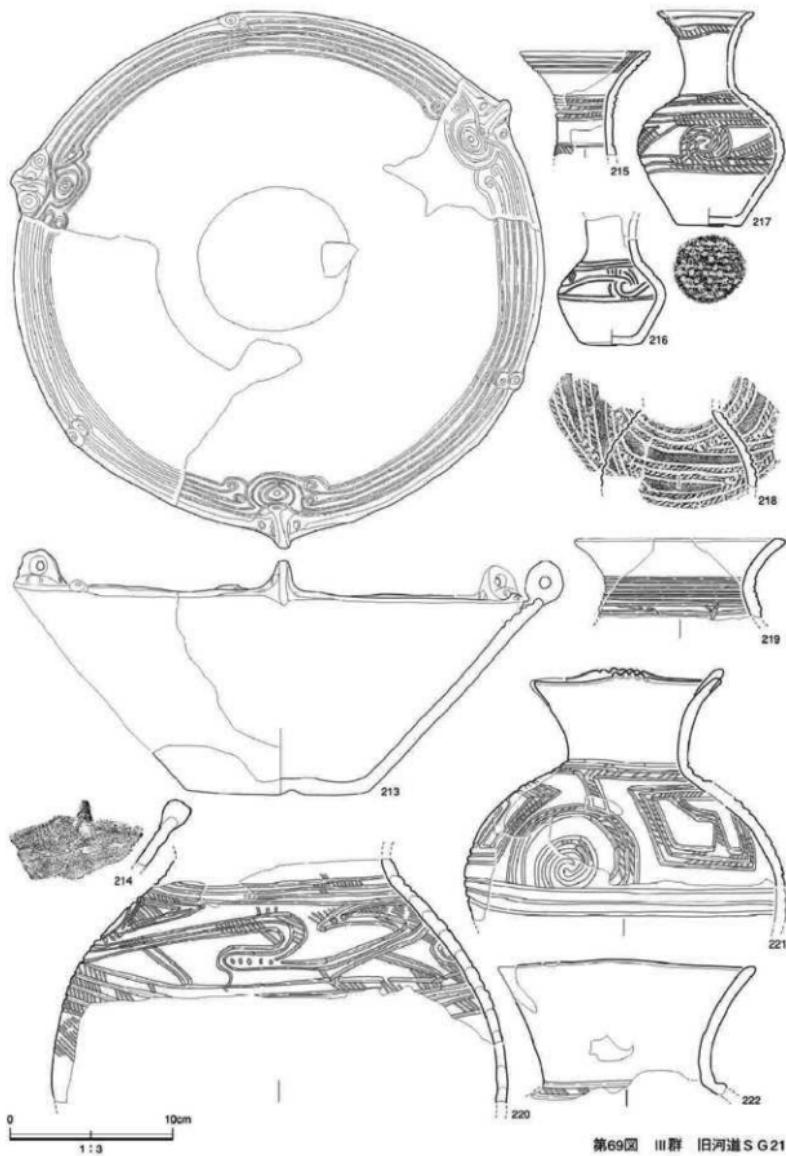
第66図 III群 旧河道S G 21



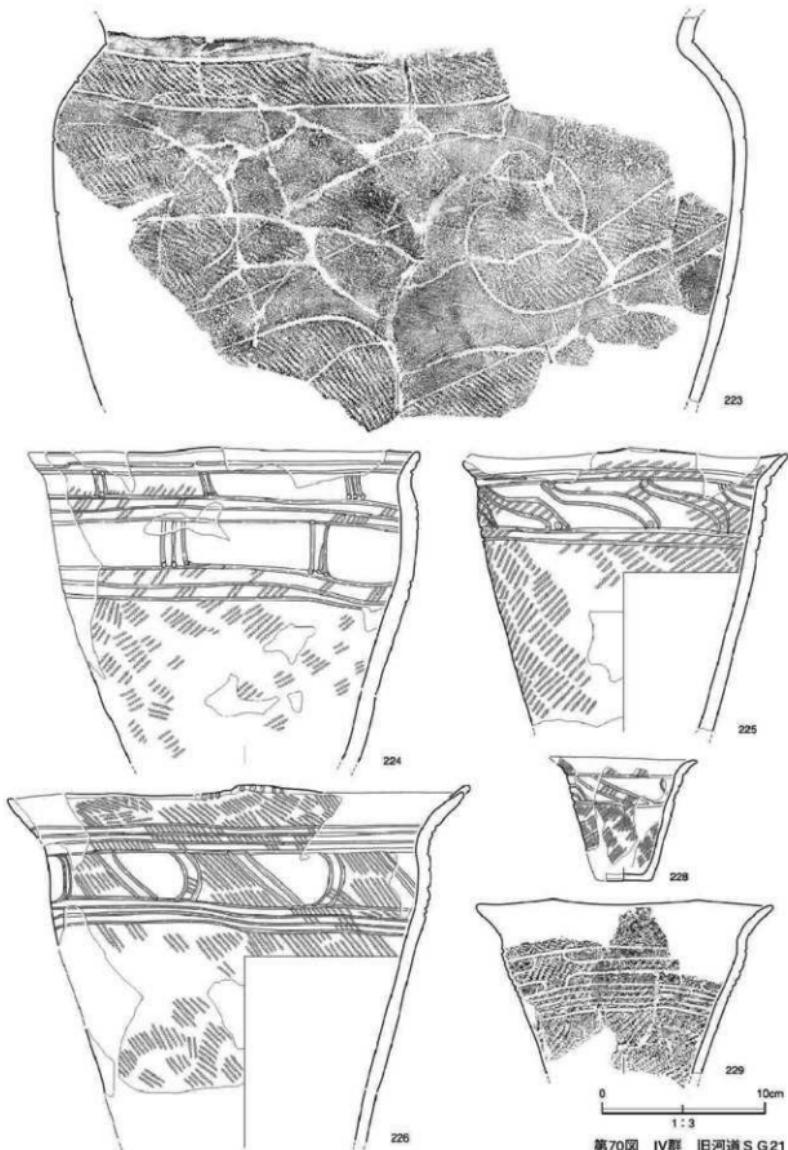
第67図 III群 旧河道S G 21



第68図 III群 旧河道S G21



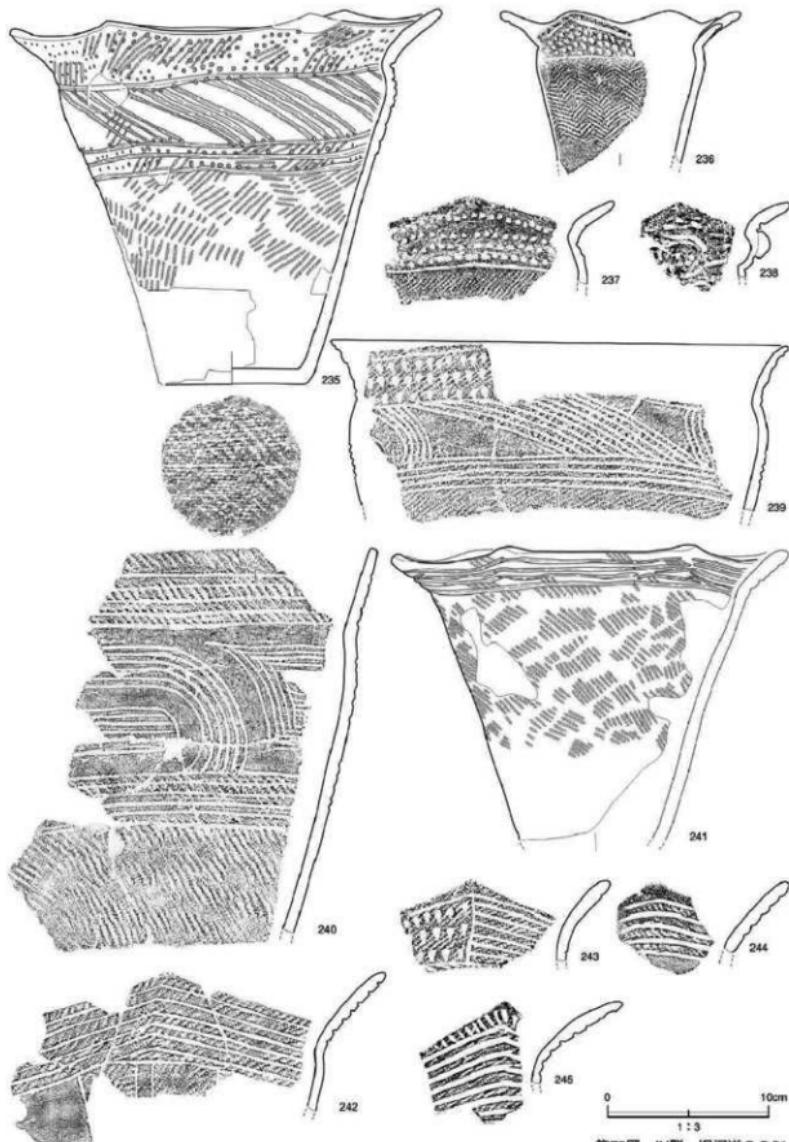
第69図 III群 旧河道 S G 21



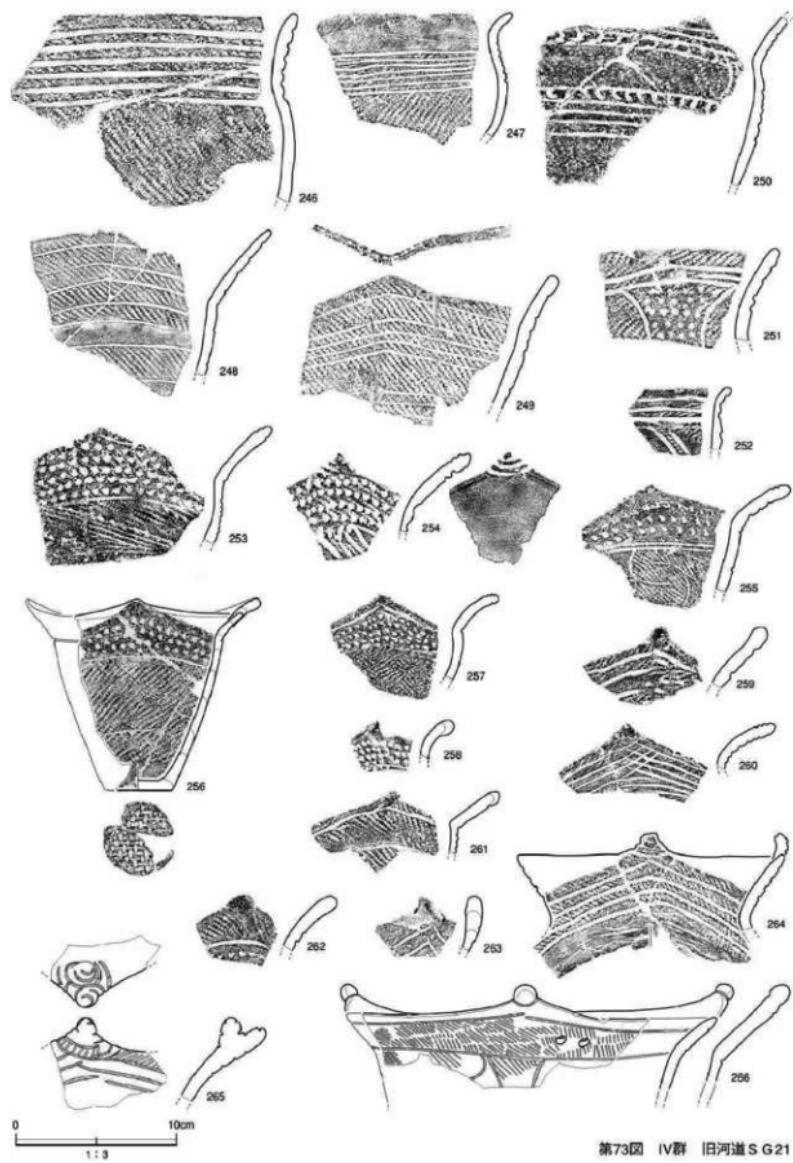
第70図 IV群 旧河道S G21



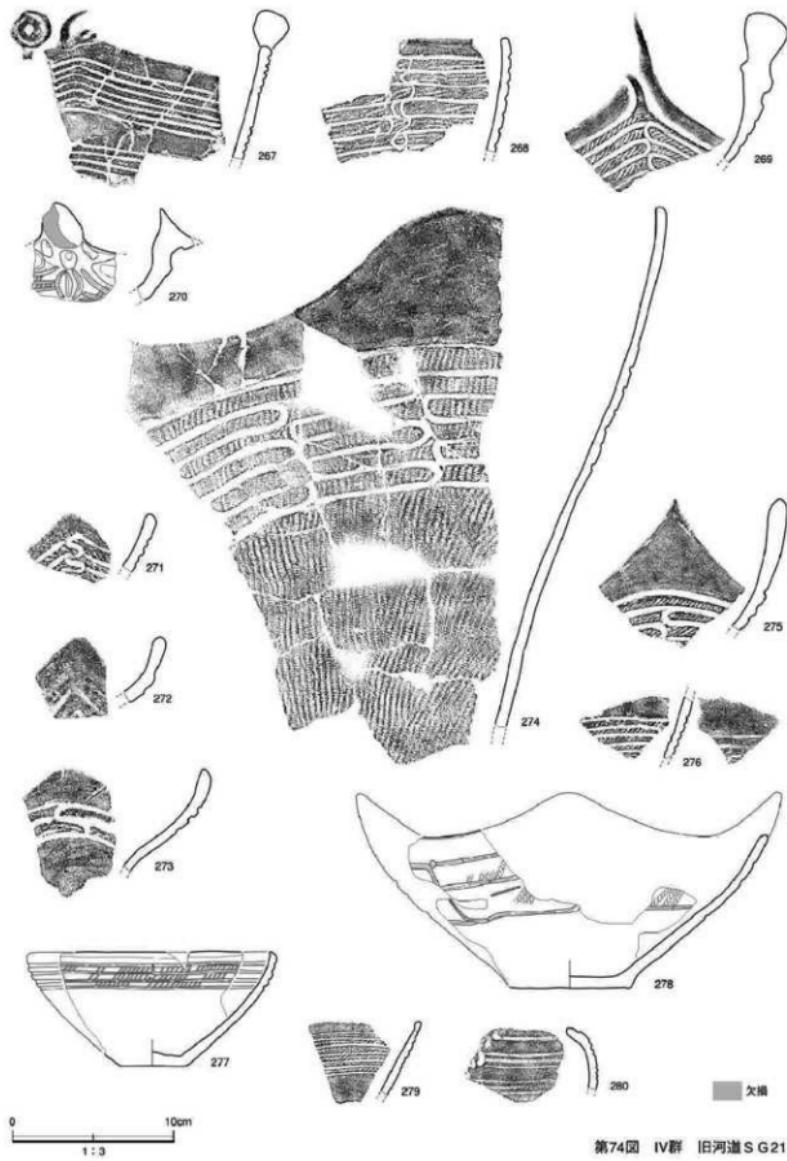
第71図 IV群 旧河道 S G 21



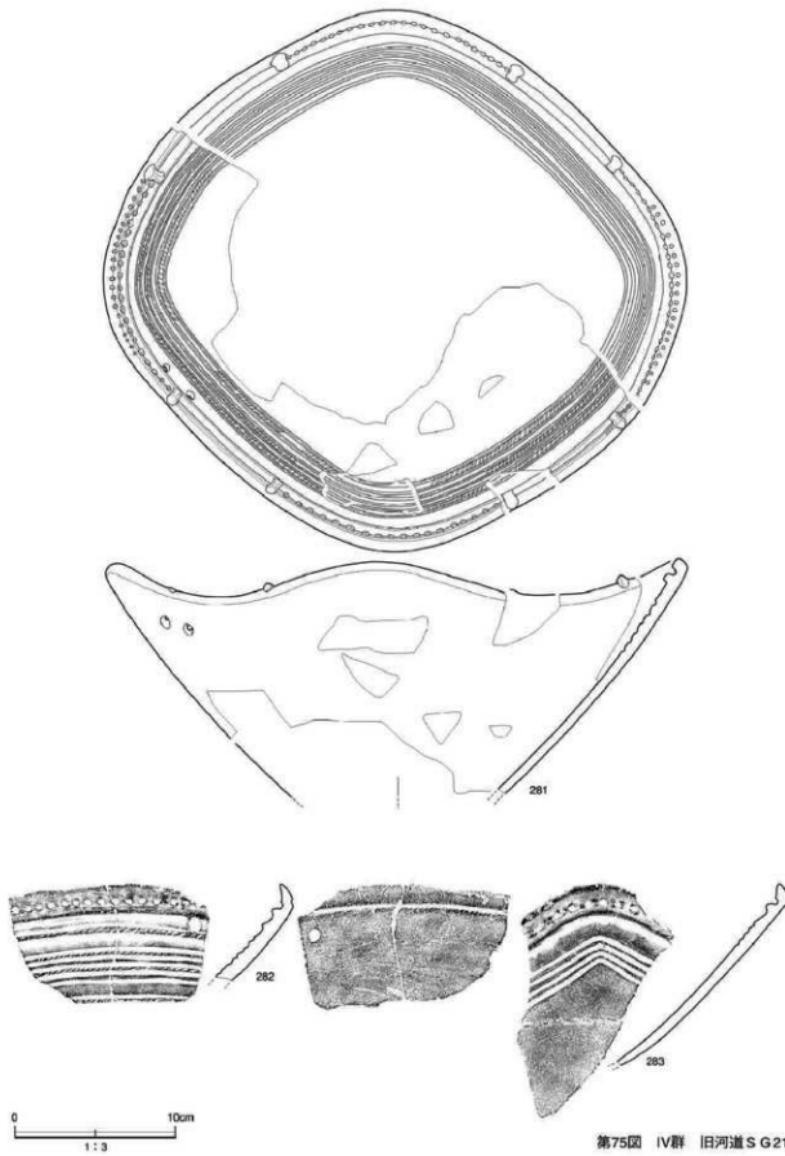
第72図 IV群 旧河道S G 21



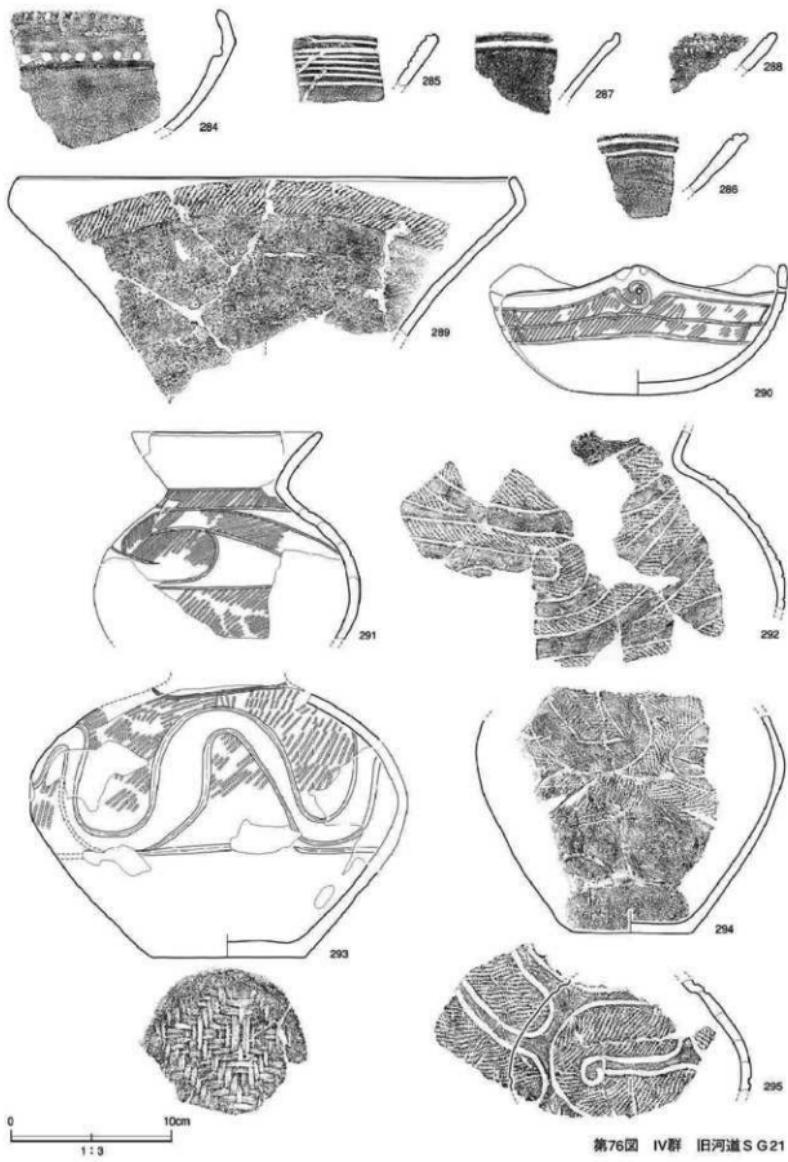
第73図 IV群 旧河道 S G 21



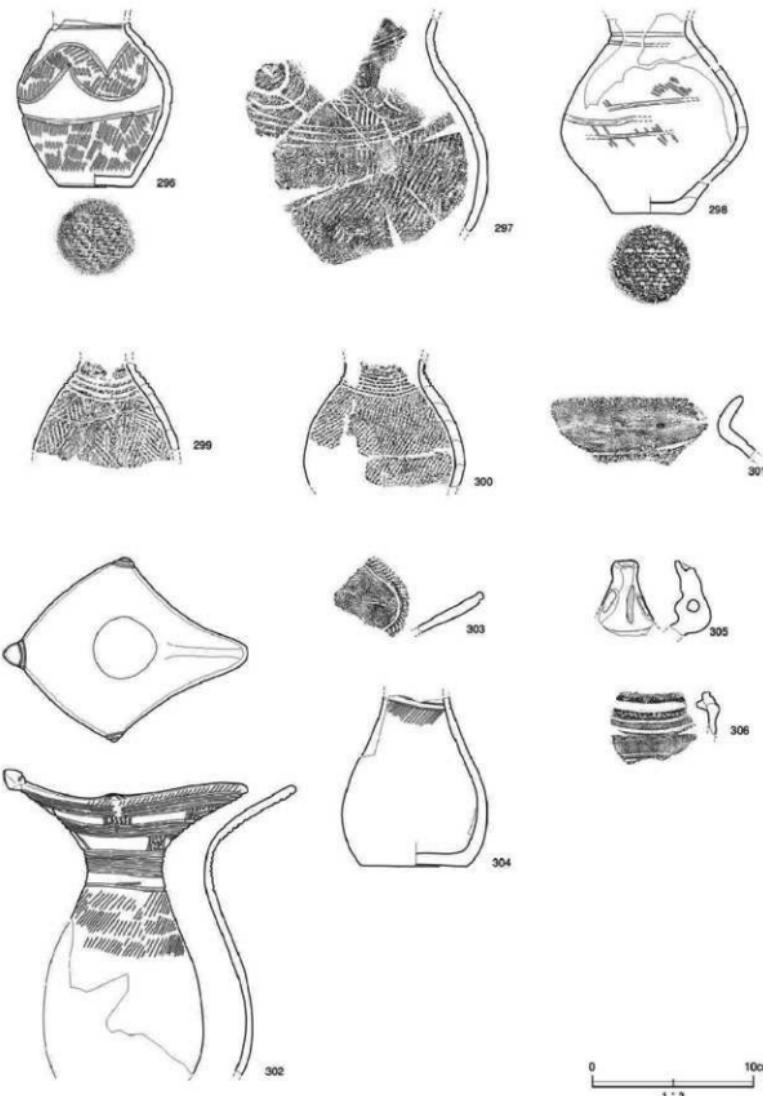
第74図 IV群 旧河道 S G21



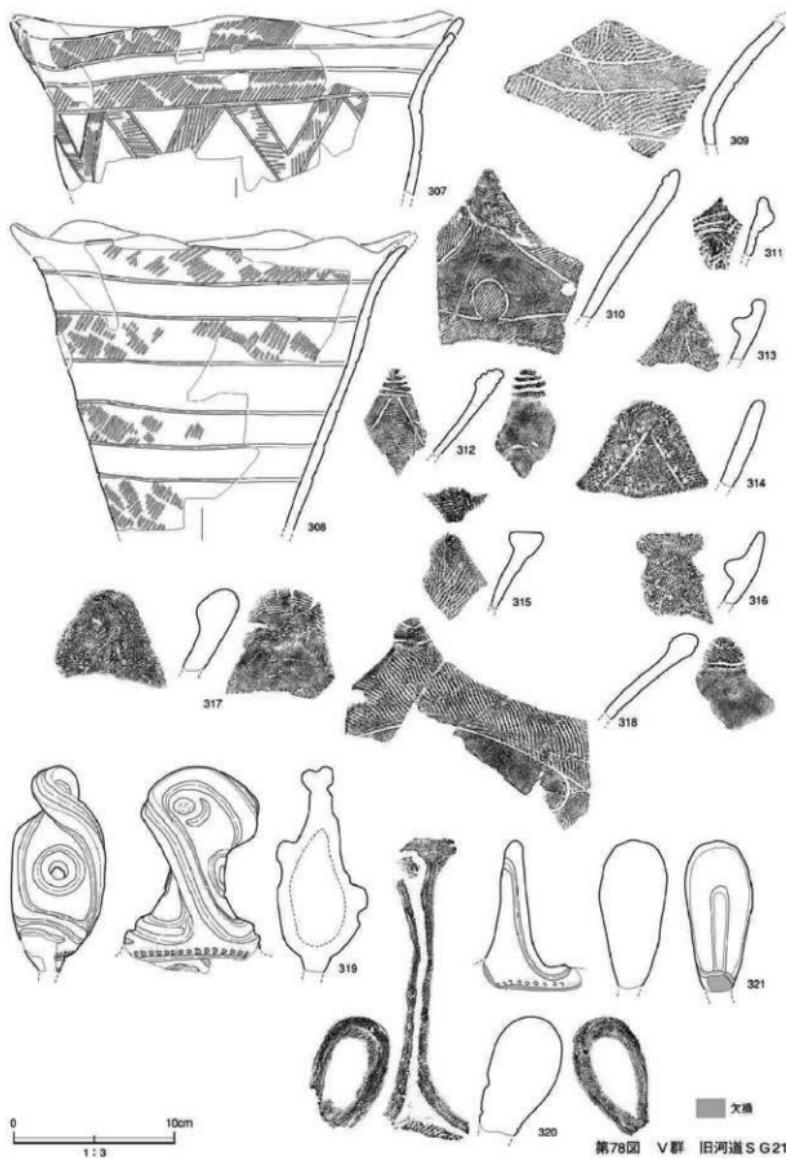
第75图 IV群 旧河道 S G 21



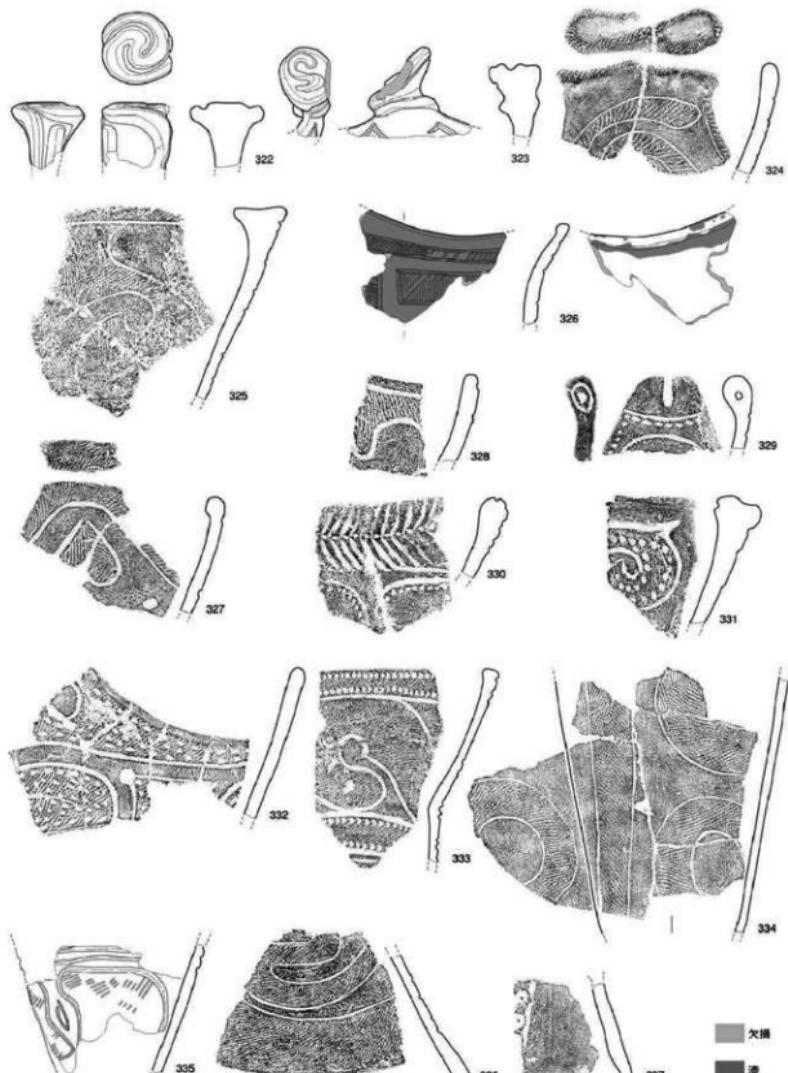
第76図 IV群 旧河道S G21



第77図 IV群 旧河道 S G 21

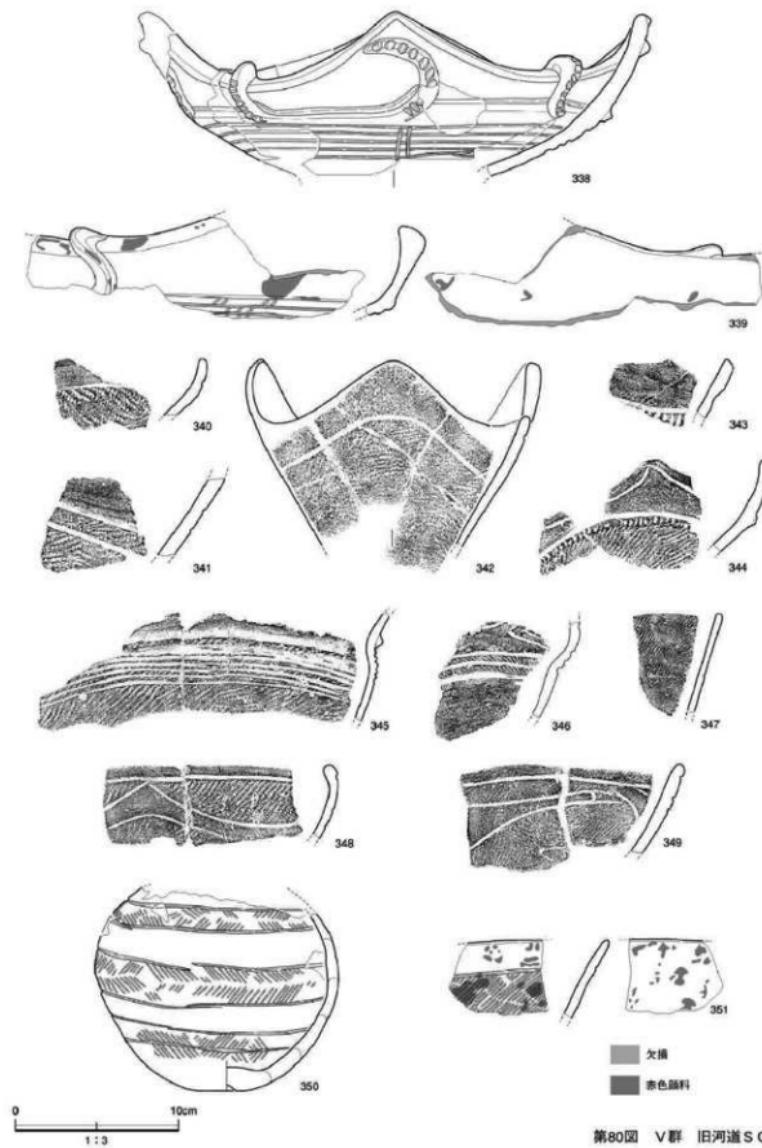


第78図 V群 旧河道 S G21

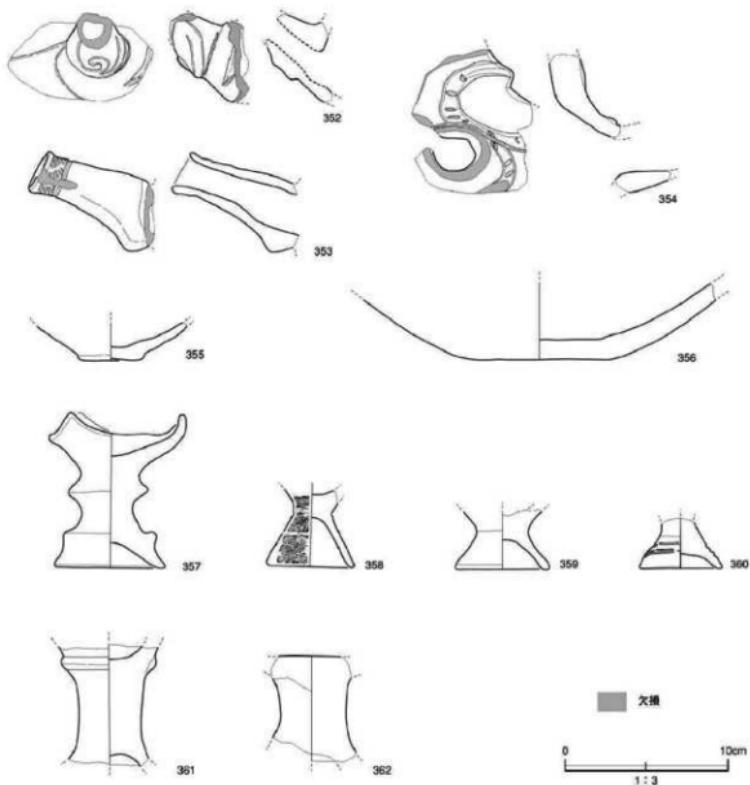


0
1:3 10cm

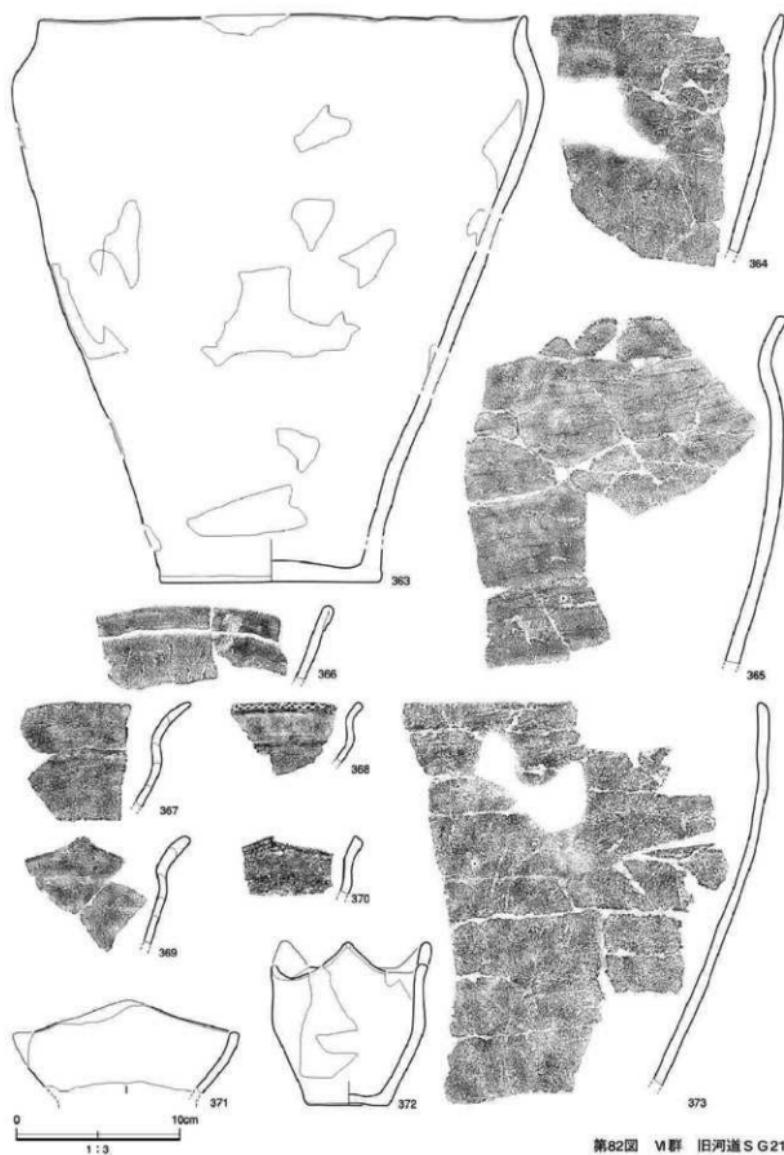
第79图 V群 旧河道 S G 21



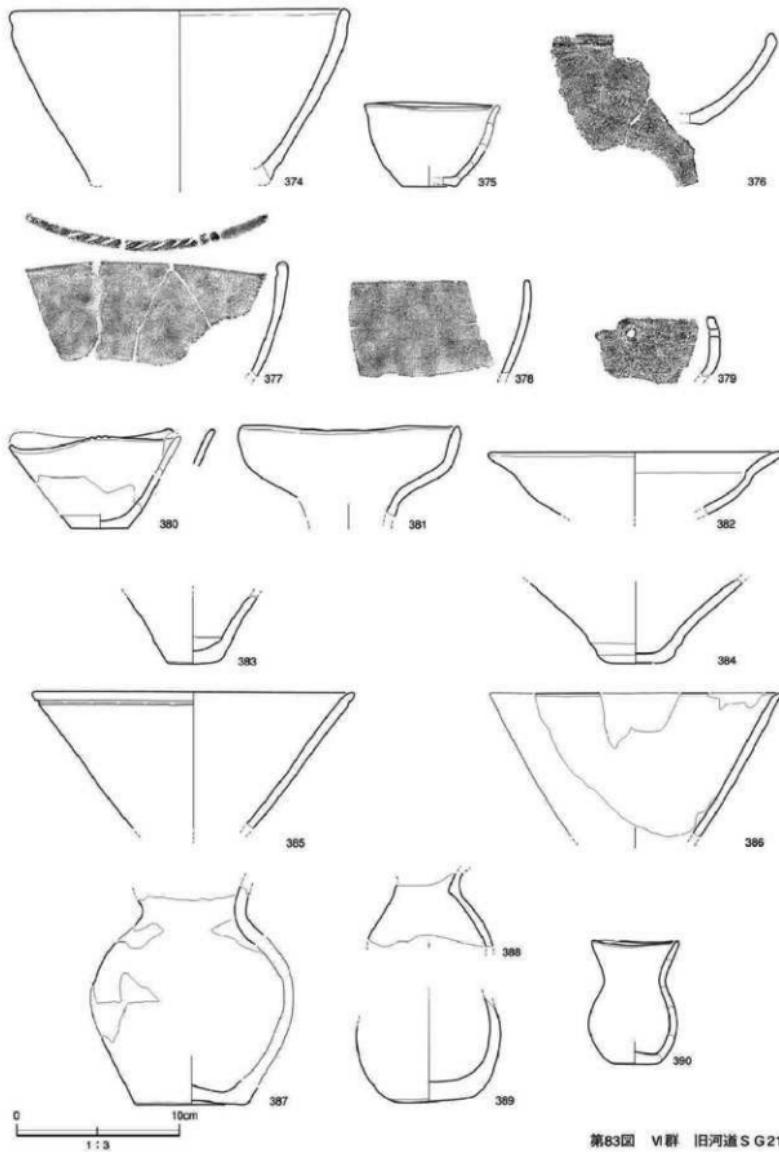
第80図 V群 旧河道 S G21



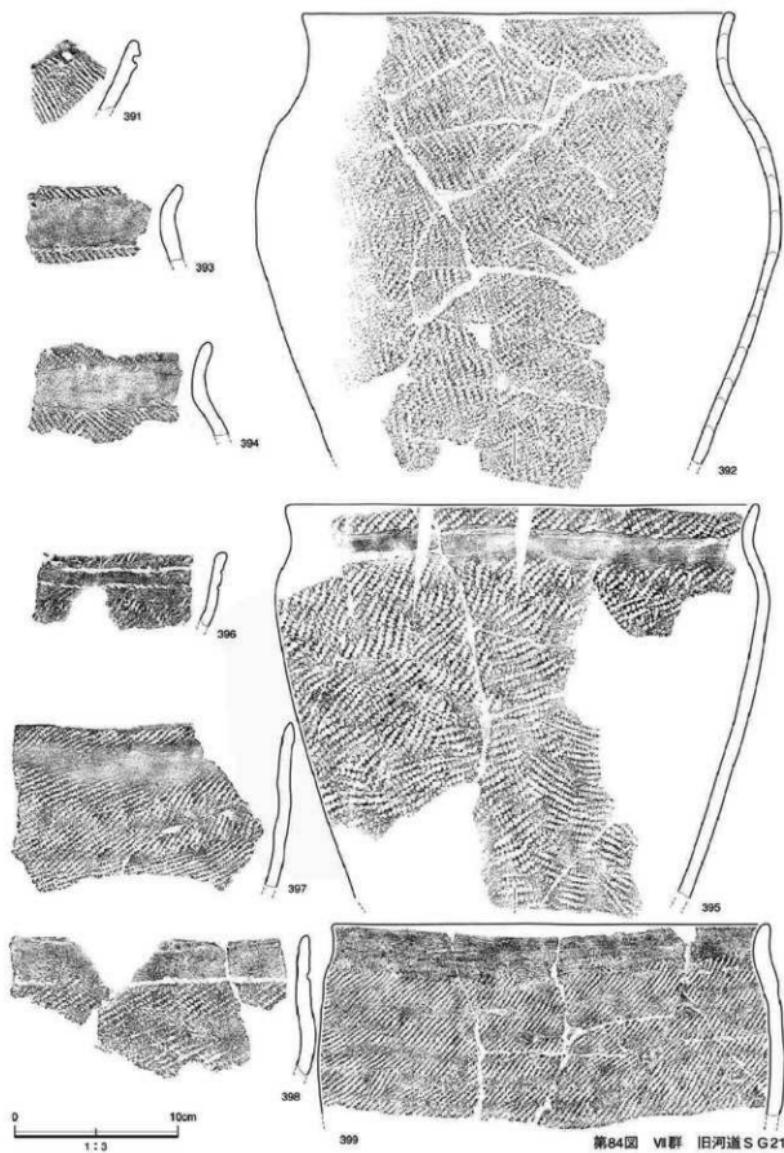
第81図 V群 旧河道S G 21



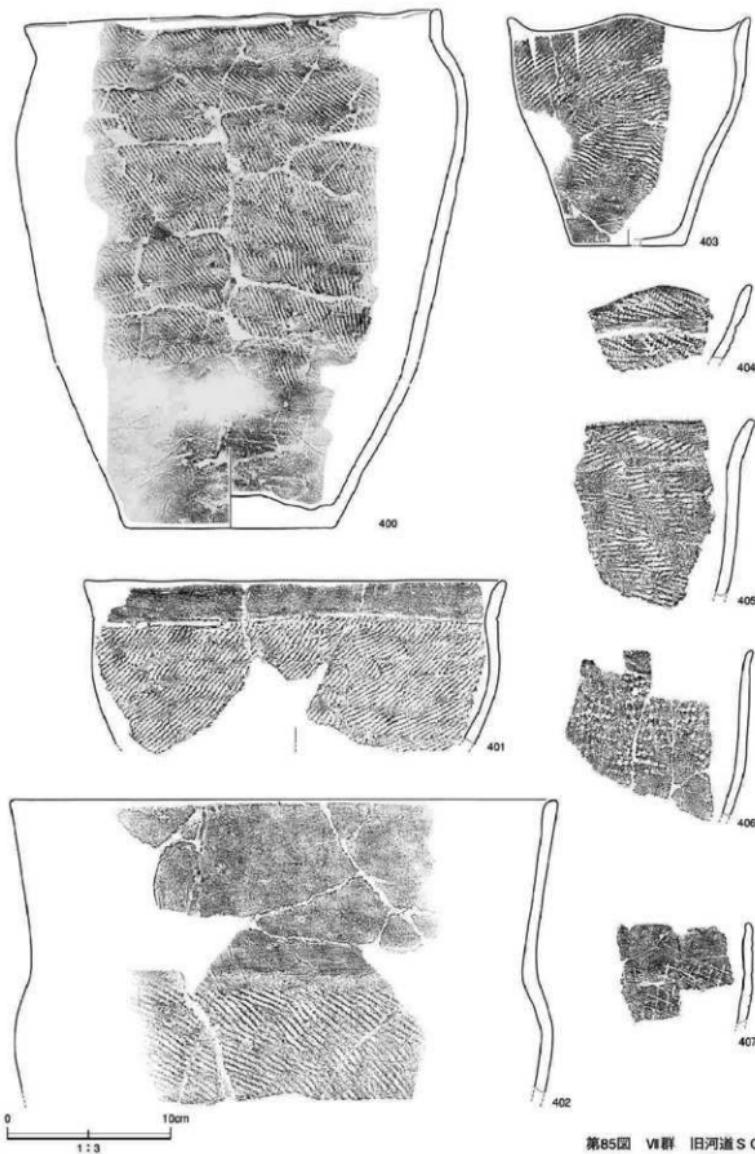
第82図 VI群 旧河道 S G21



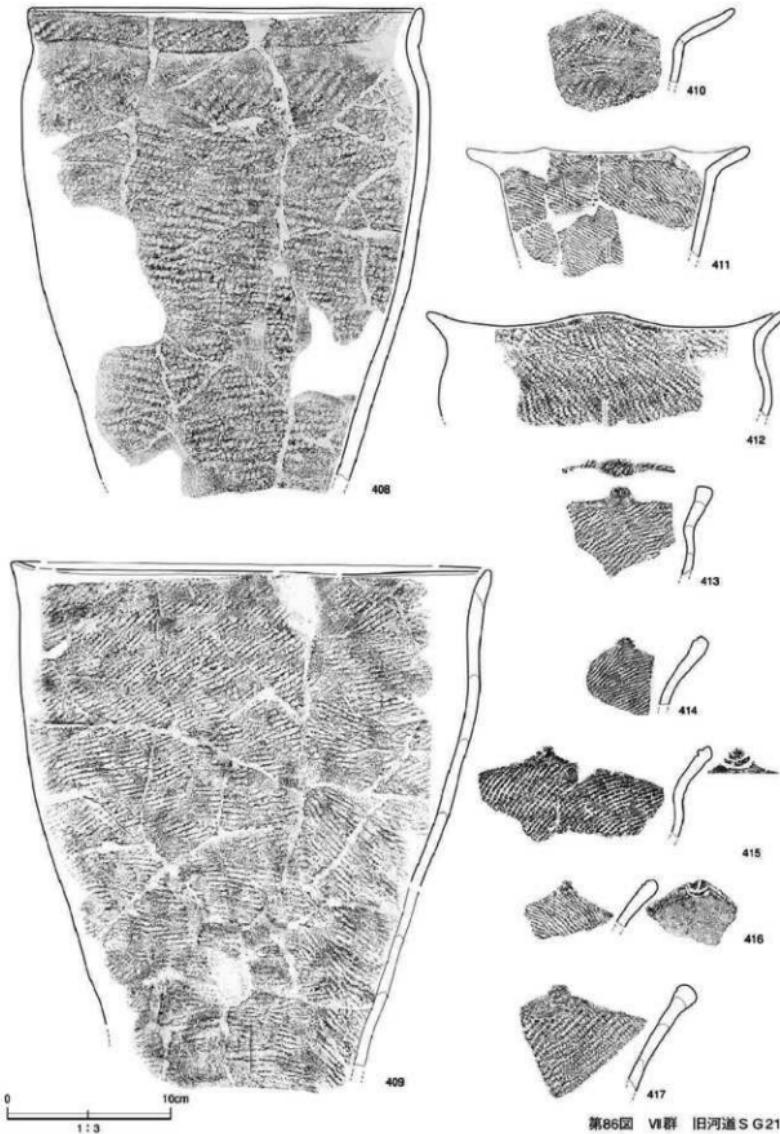
第83図 VI群 旧河道 S G 21



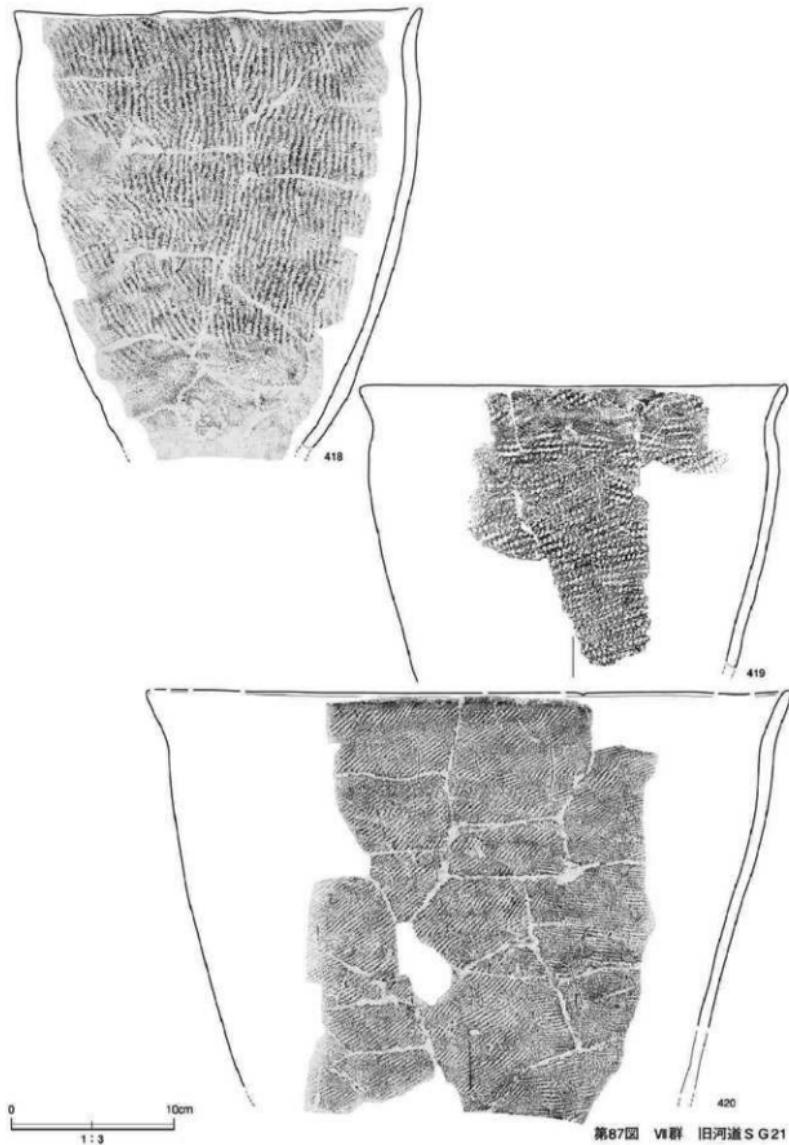
第84図 VI群 旧河道S G 21



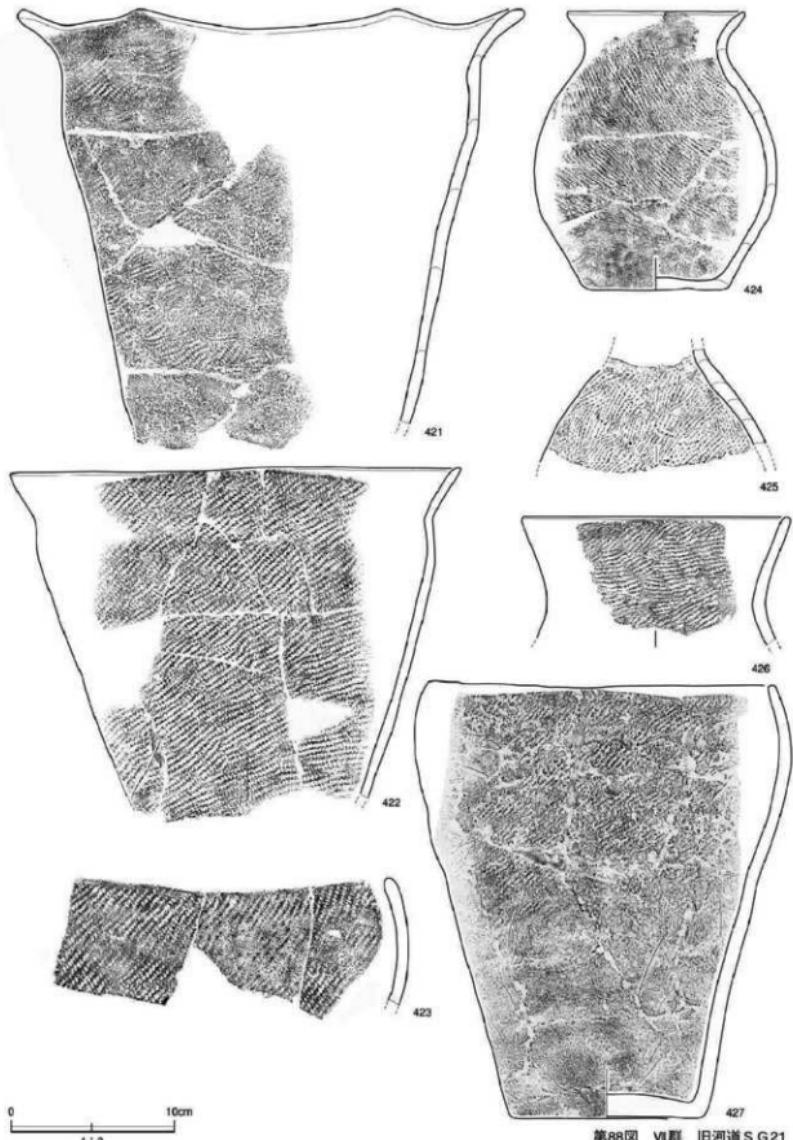
第85図 VI群 旧河道 S G 21



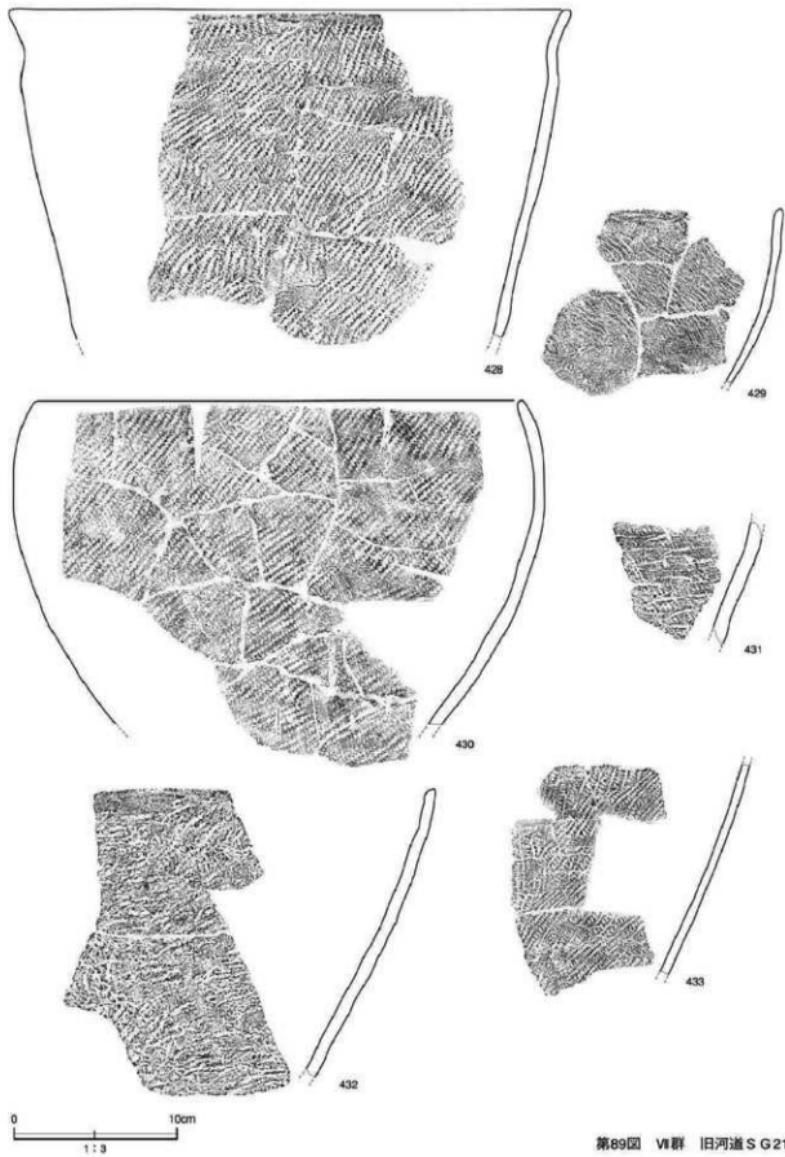
第86図 VI群 旧河道S G 21



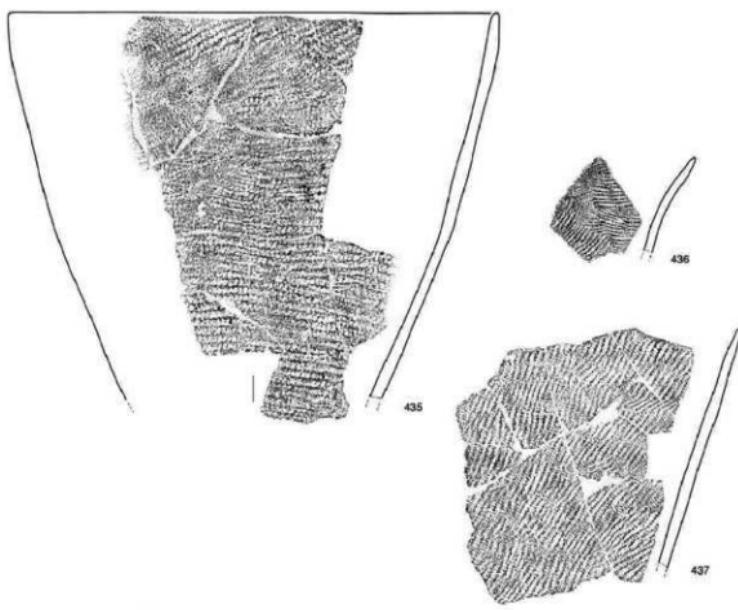
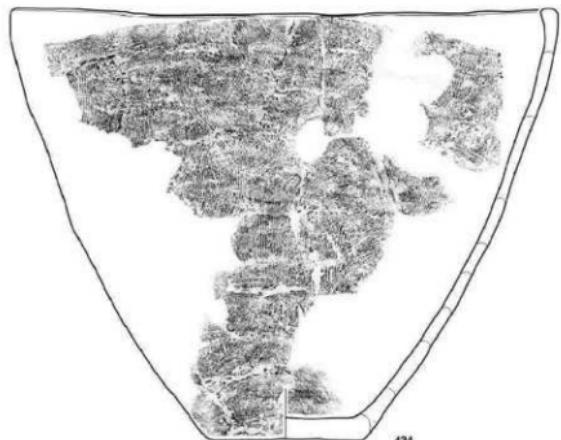
第87図 VI群 旧河道S G 21



第88図 VI群 旧河道S G21

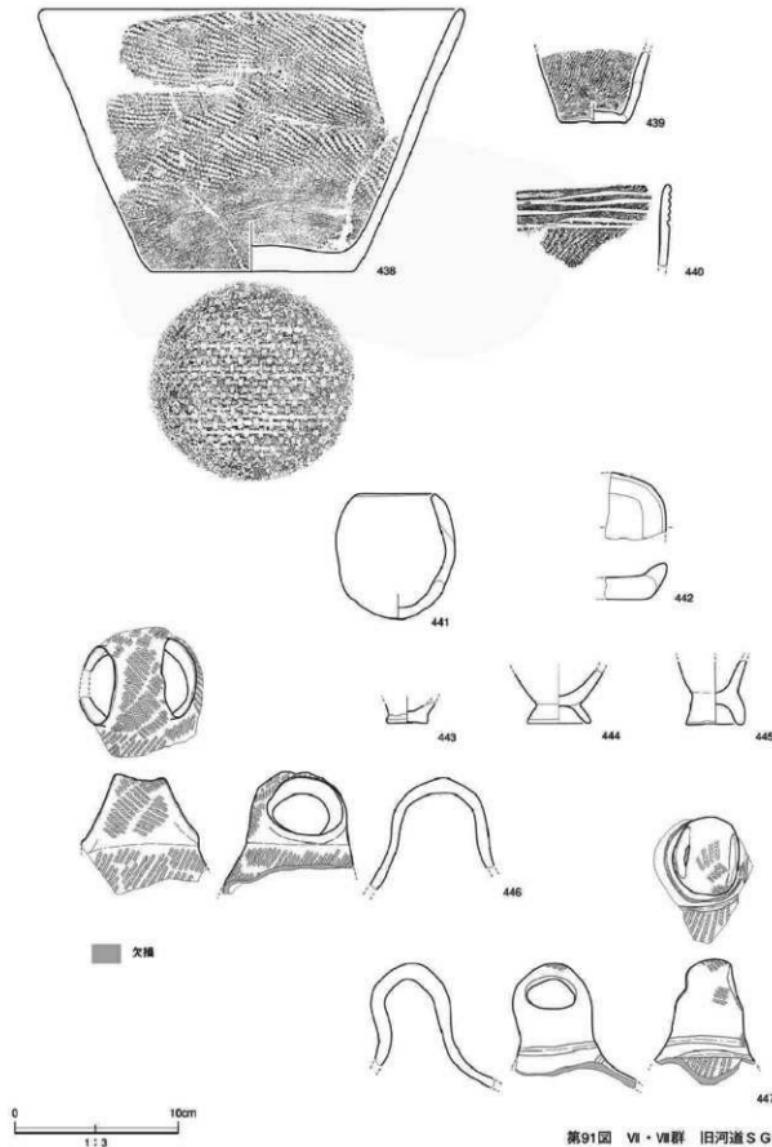


第89図 VI群 旧河道 S G 21

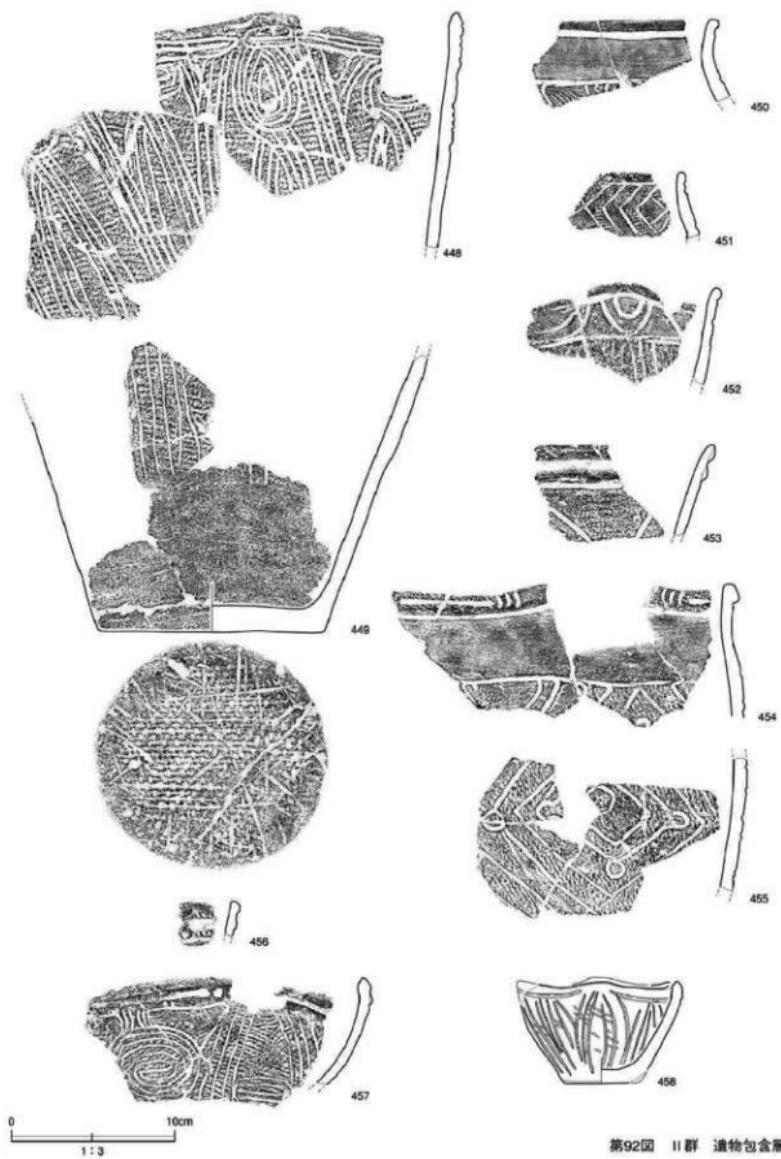


0
1 : 3
10cm

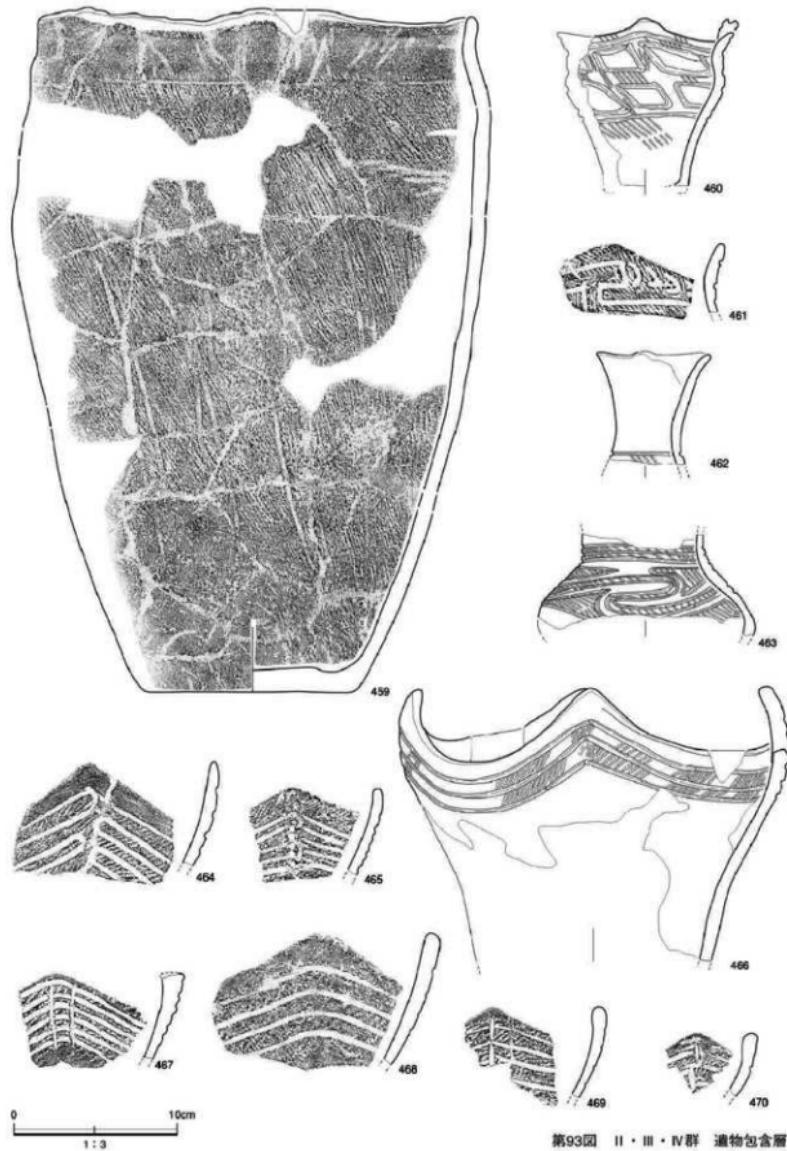
第90図 VI群 旧河道S G21



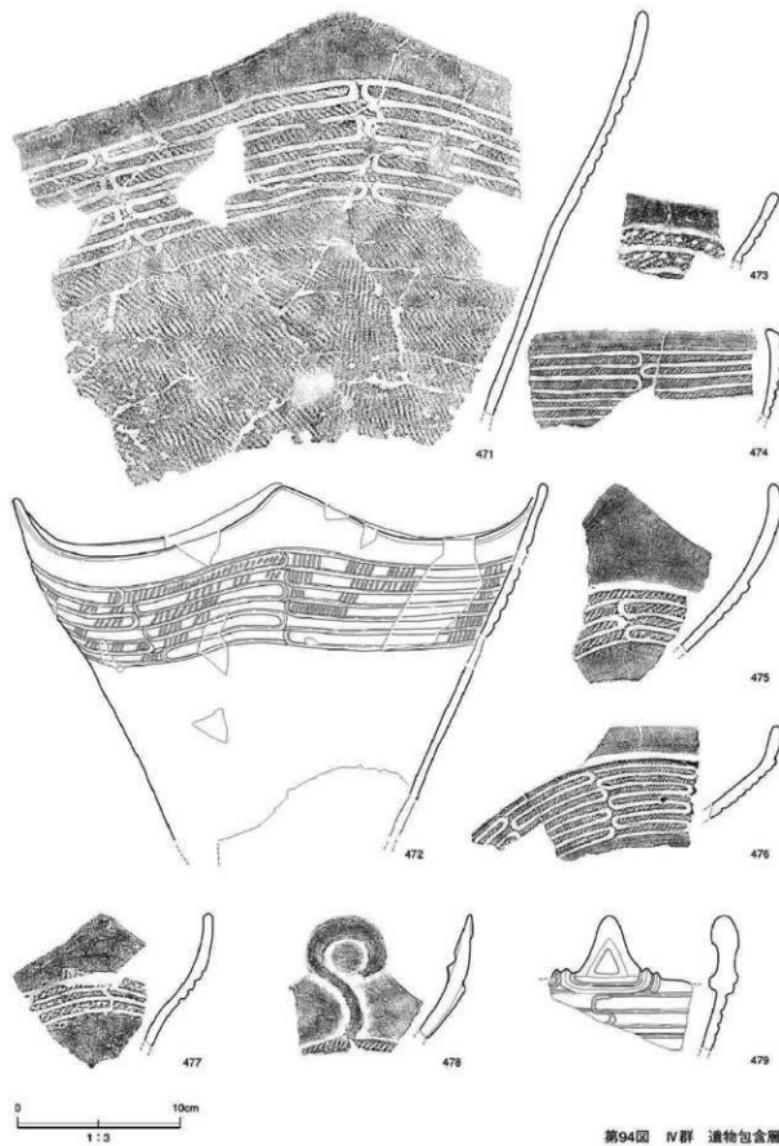
第91図 VII・VIII群 旧河道 S G 21



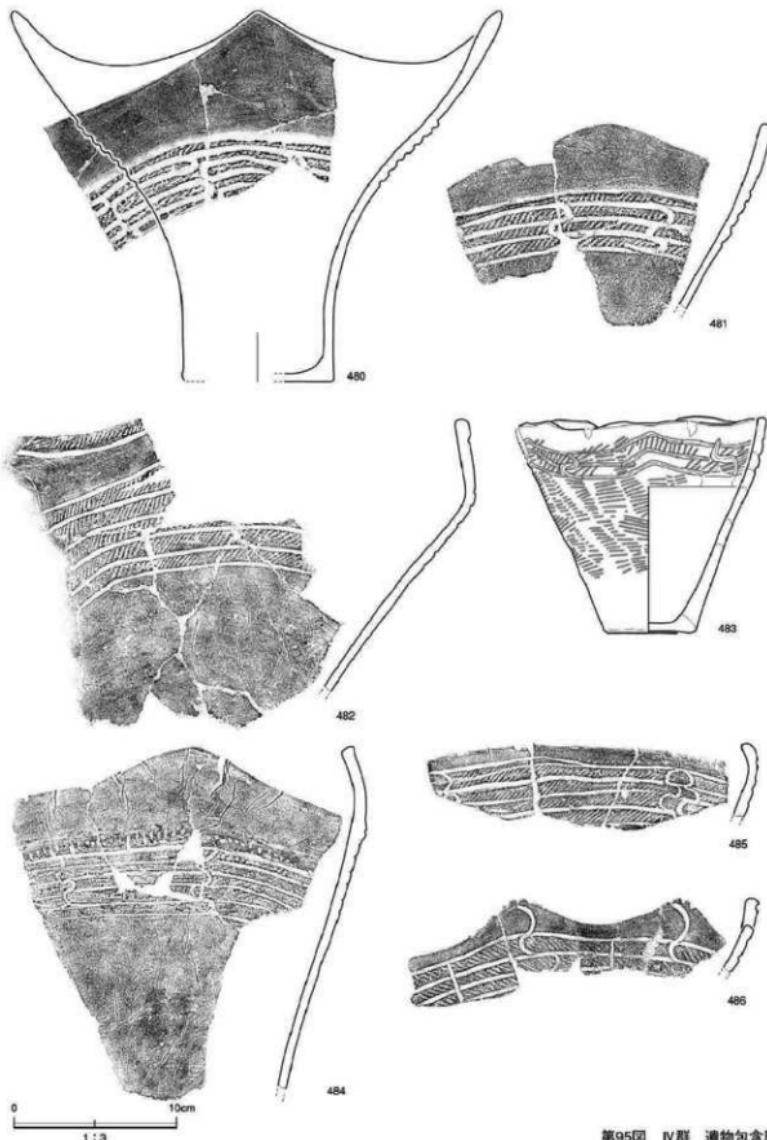
第92図 II群 遺物包含層



第93図 II・III・IV群 遺物包含層



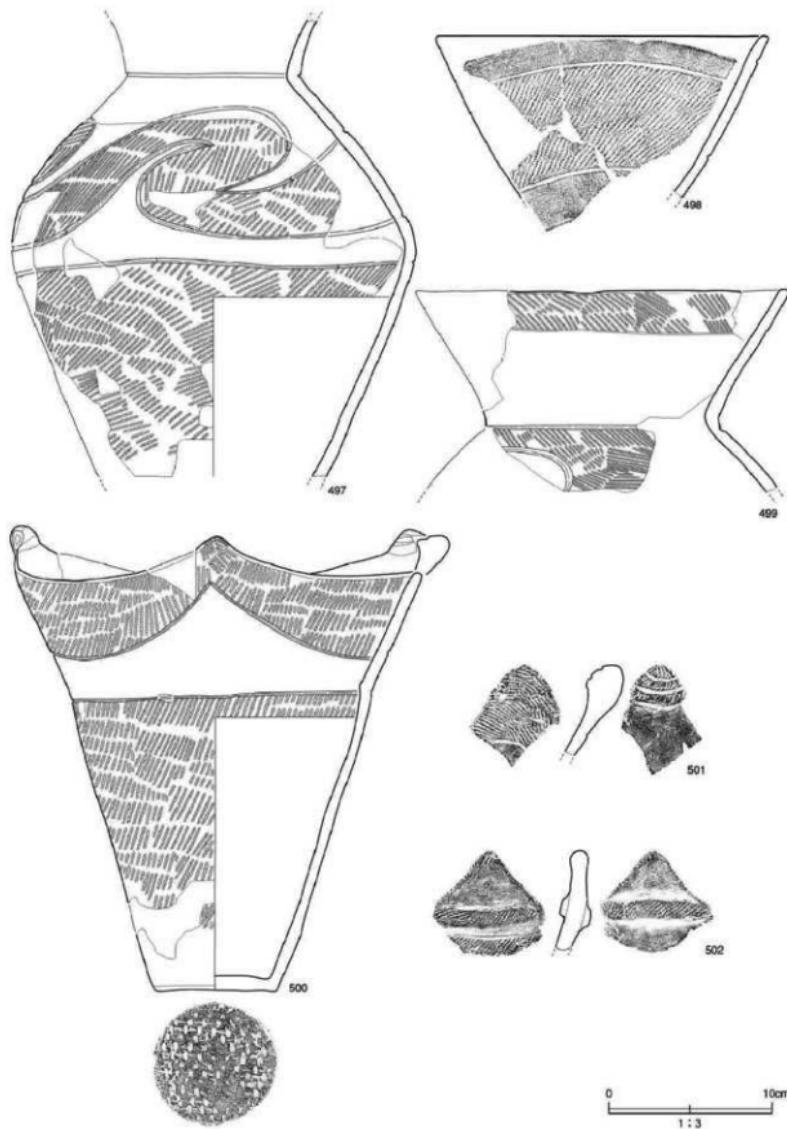
第94図 IV群 遺物包含層



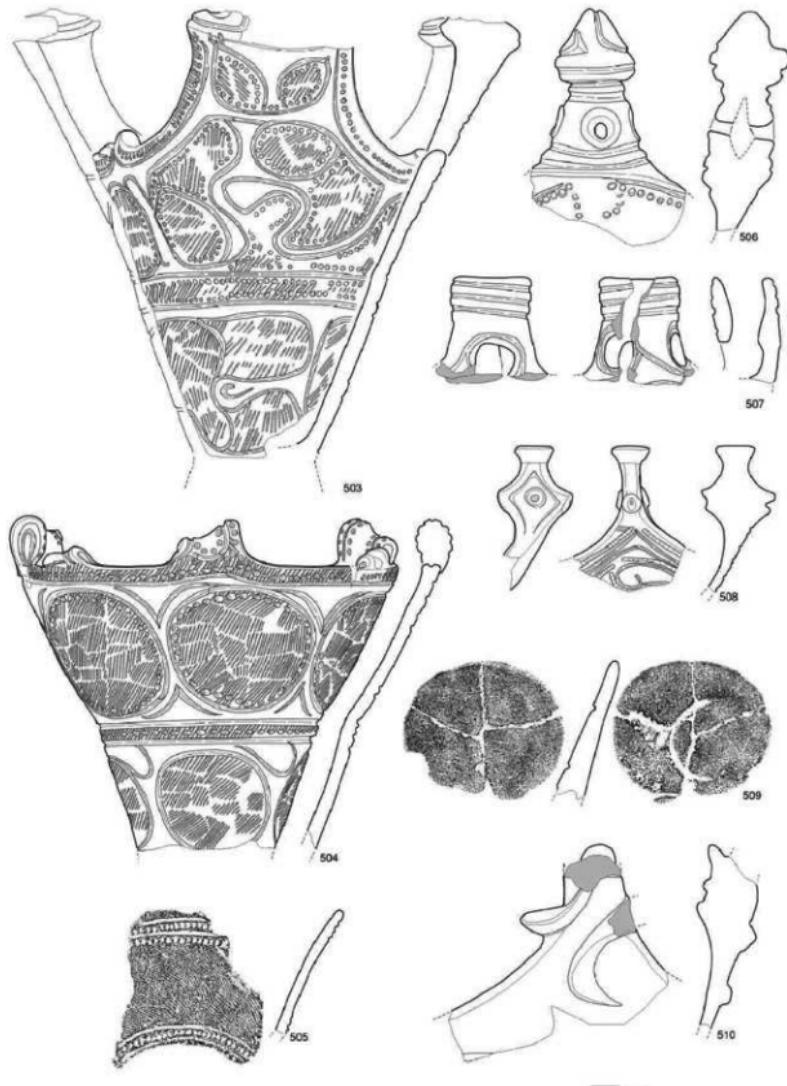
第95图 IV群 遗物包含层



第96図 IV群 遺物包含層

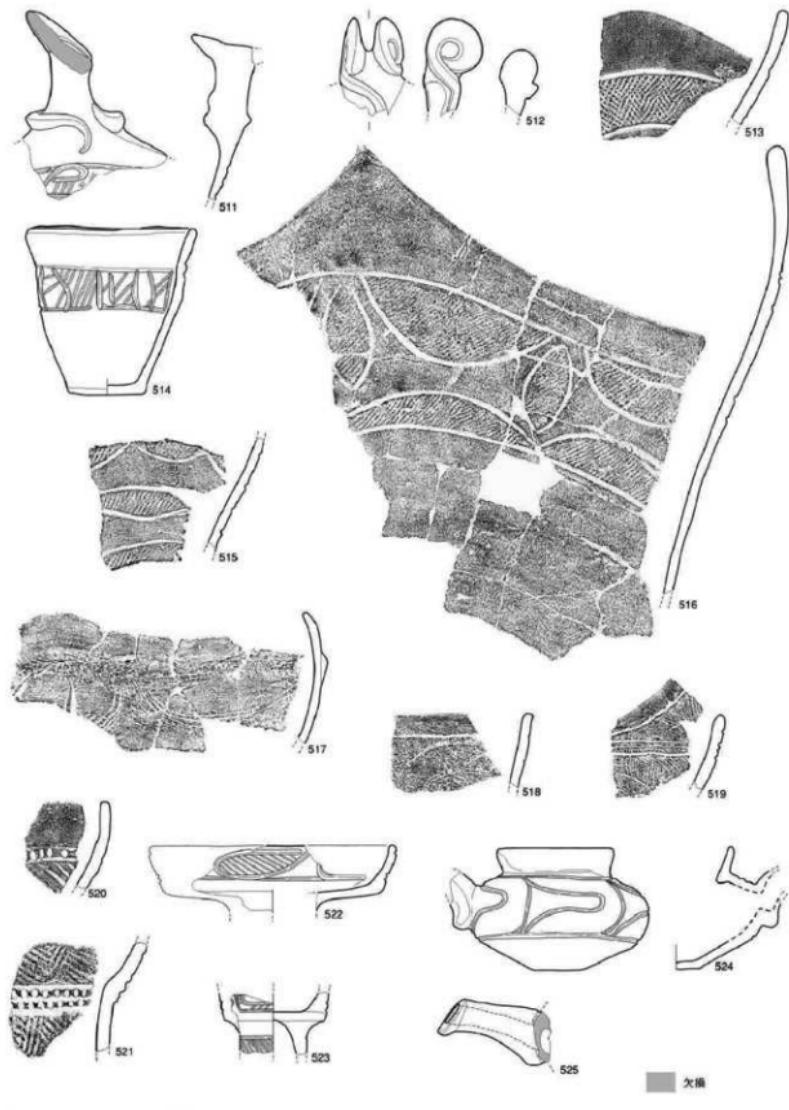


第97图 IV・V群 遗物包含层



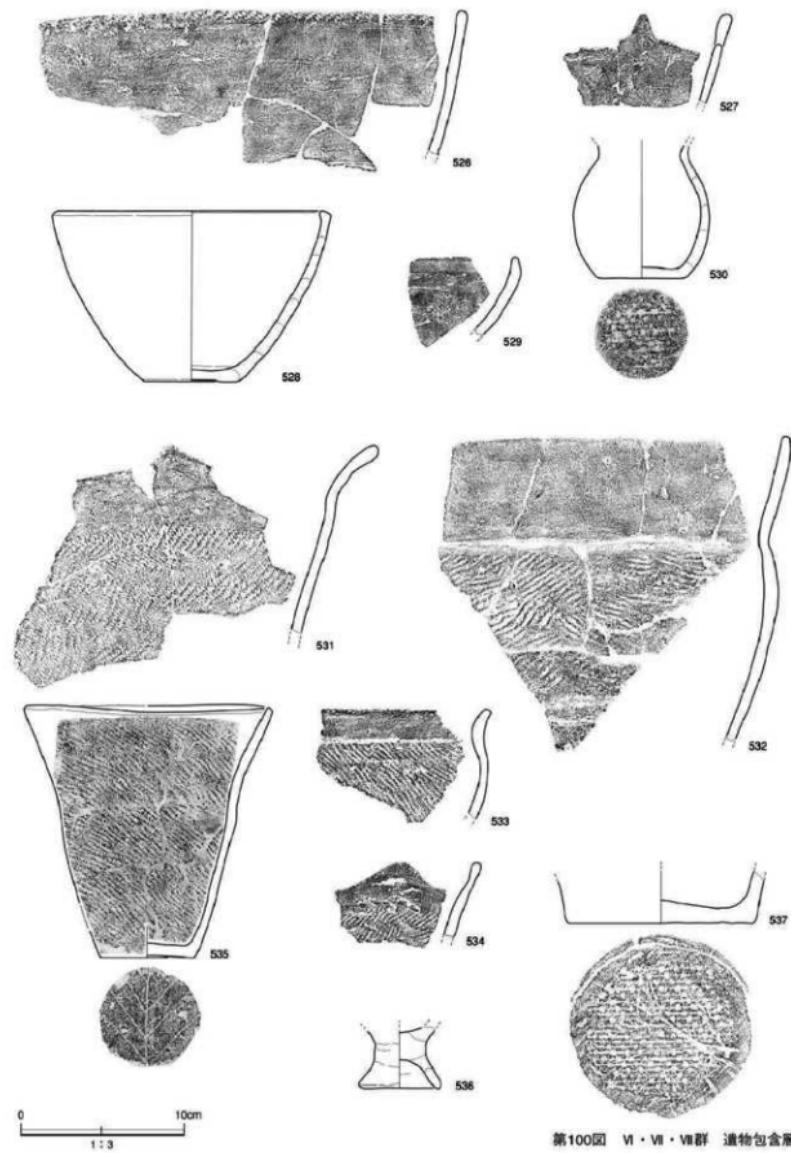
0 10cm
1:3

第98図 V群 遺物包含層

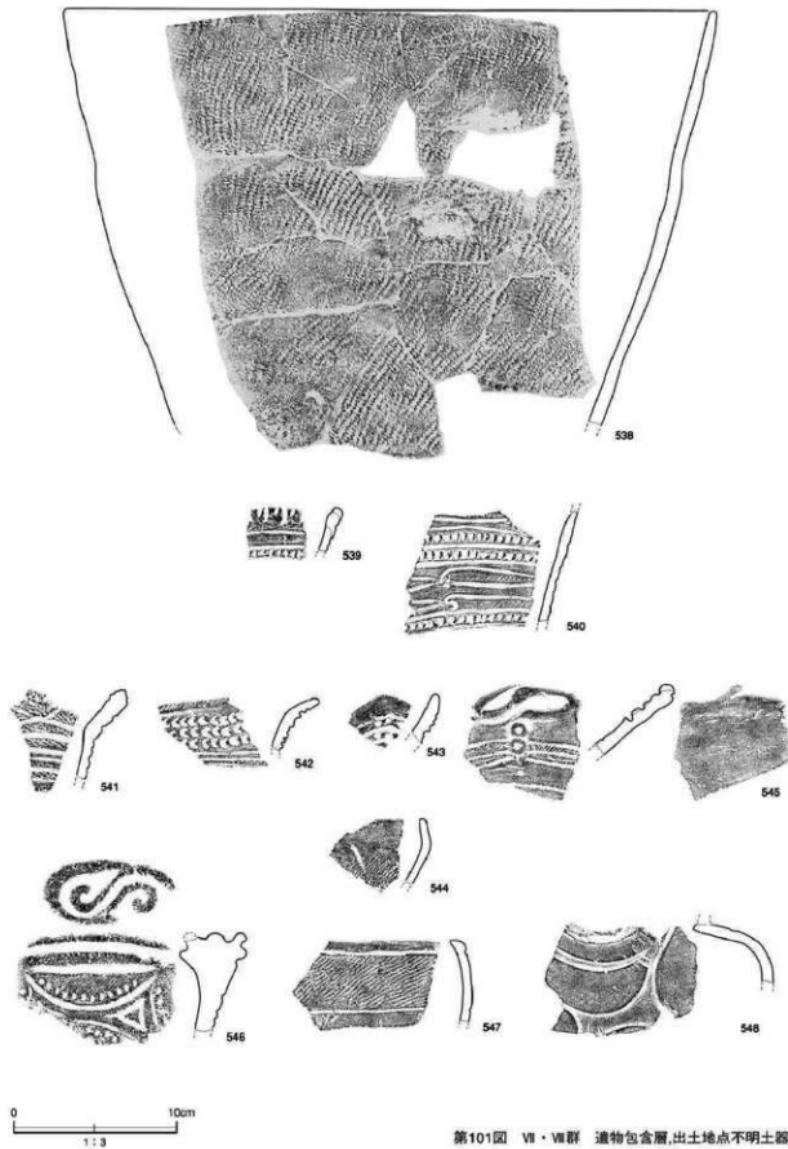


0
1:3
10cm

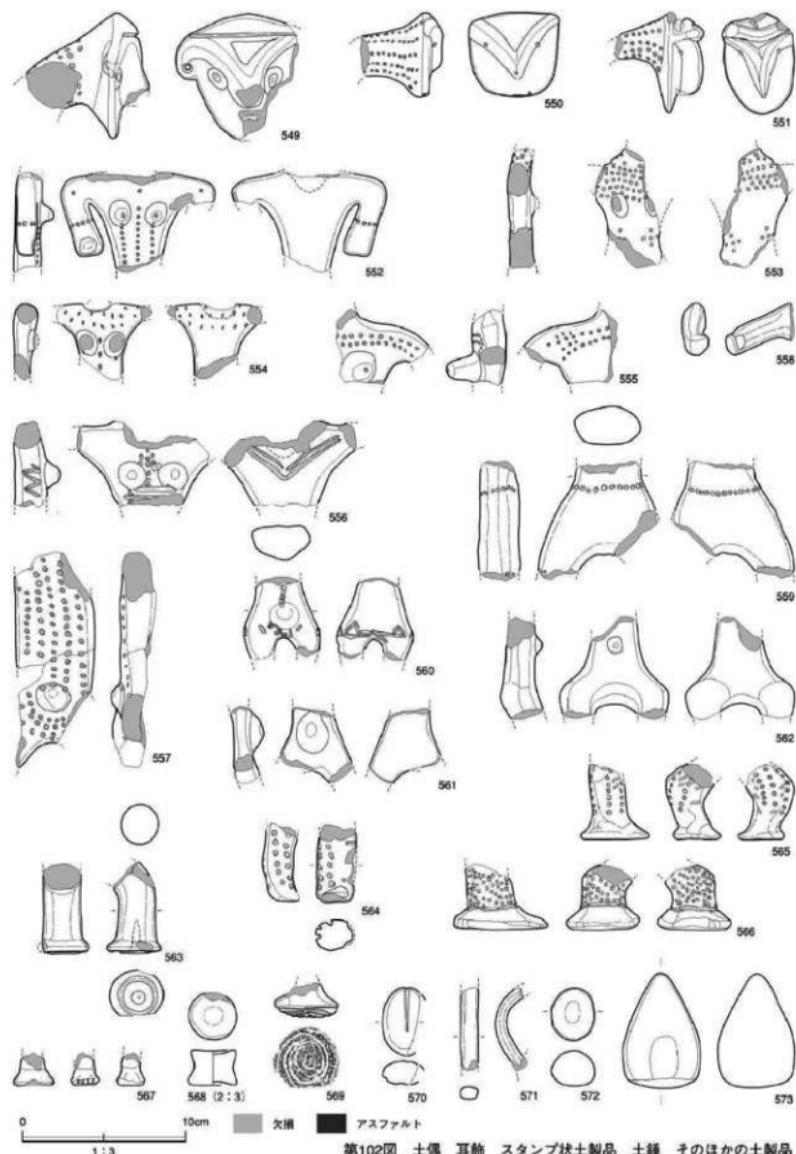
第99图 V群 遗物包含层



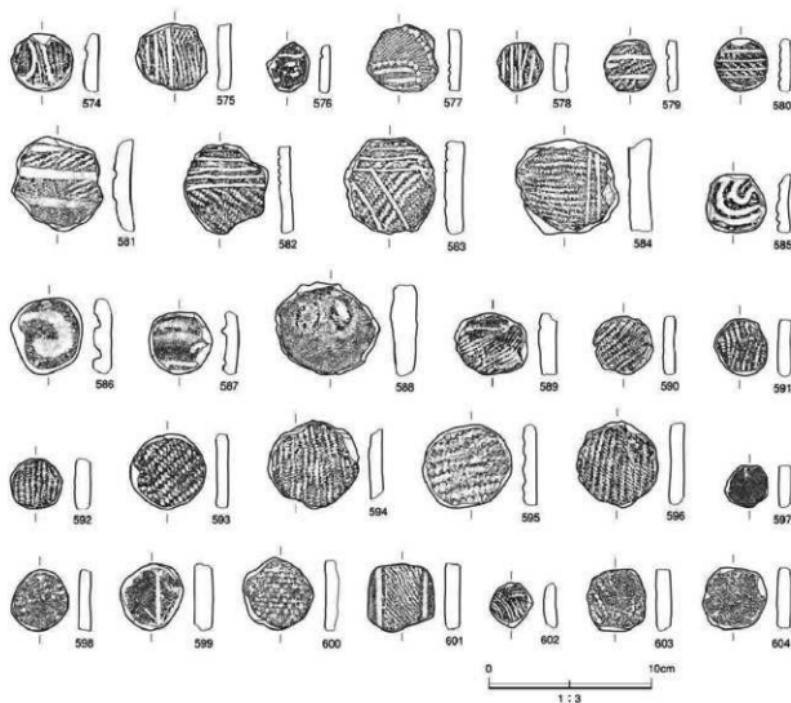
第100図 VI・VII・VIII群 遺物包含層



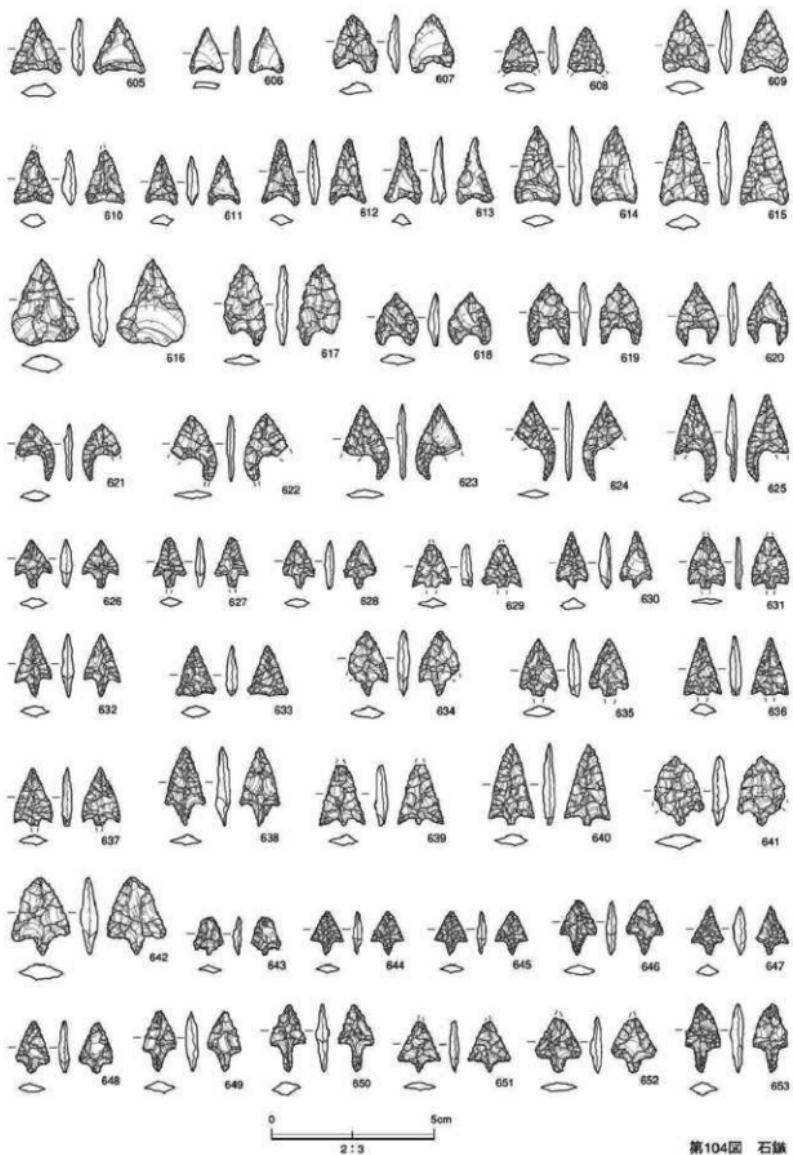
第101図 VII・VIII群 遺物包含層出土地点不明土器



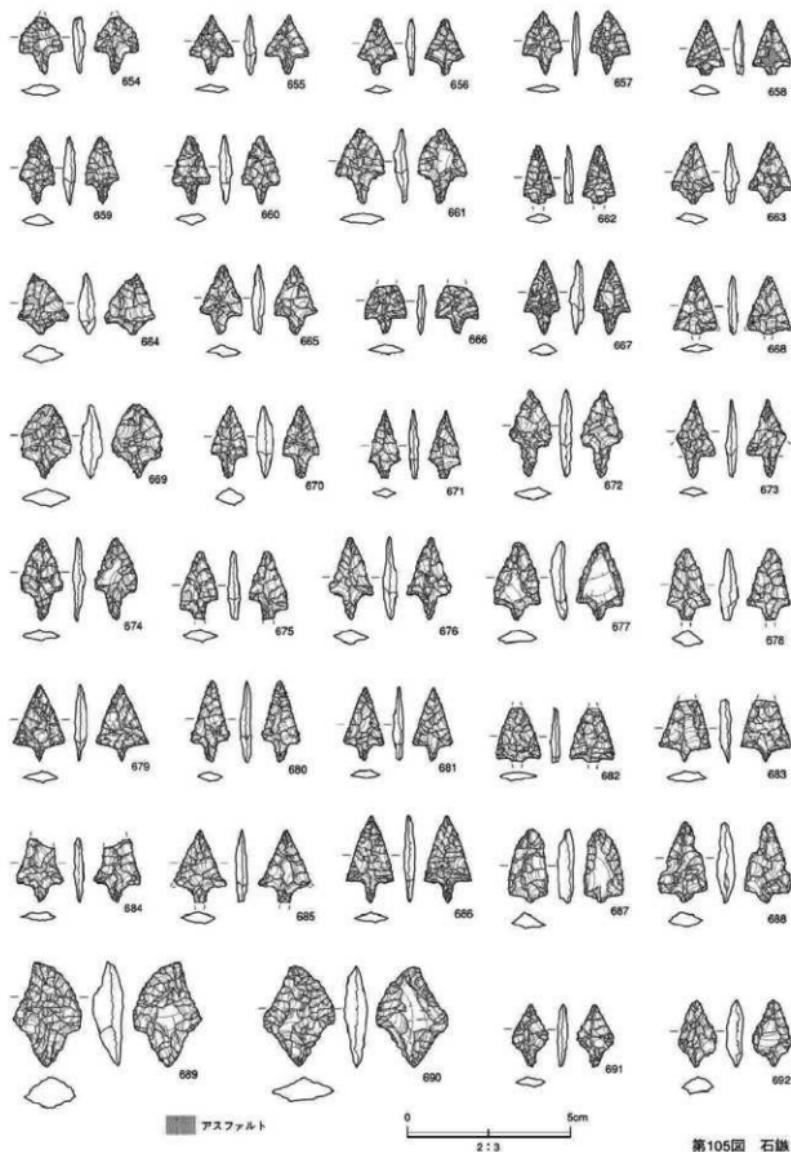
第102図 土偶 耳飾 スタンプ状土製品 土錘 そのほかの土製品



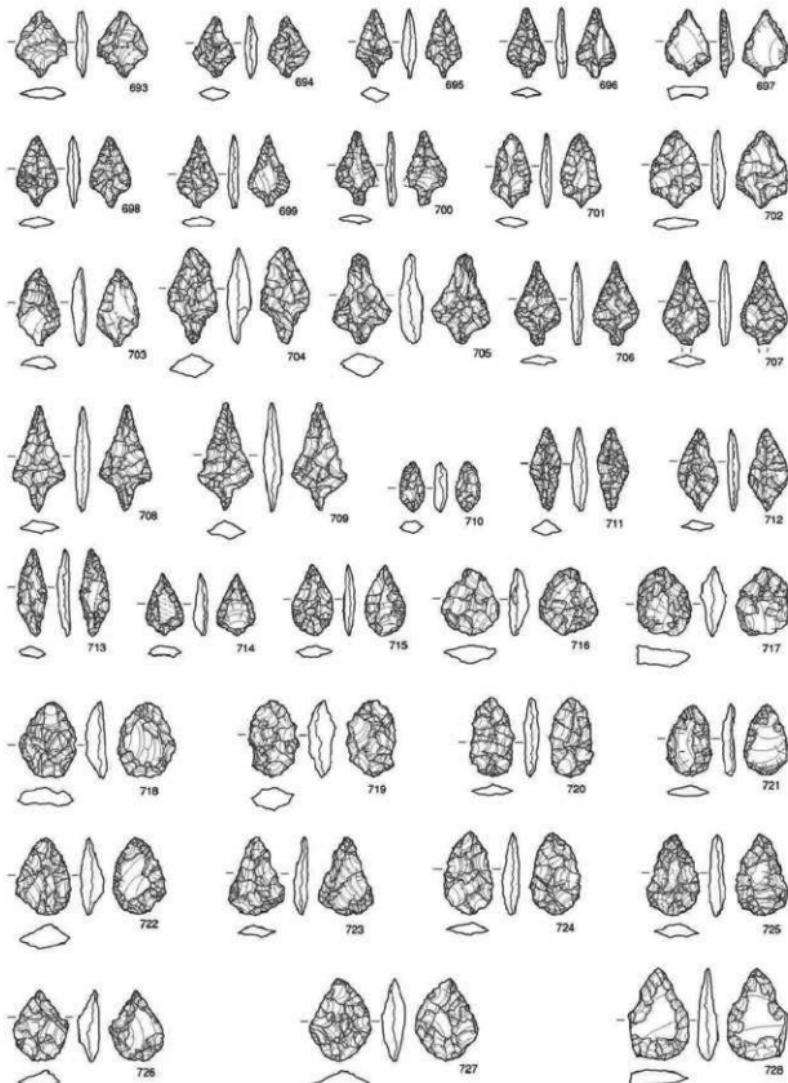
第103図 円盤状土製品



第104図 石器

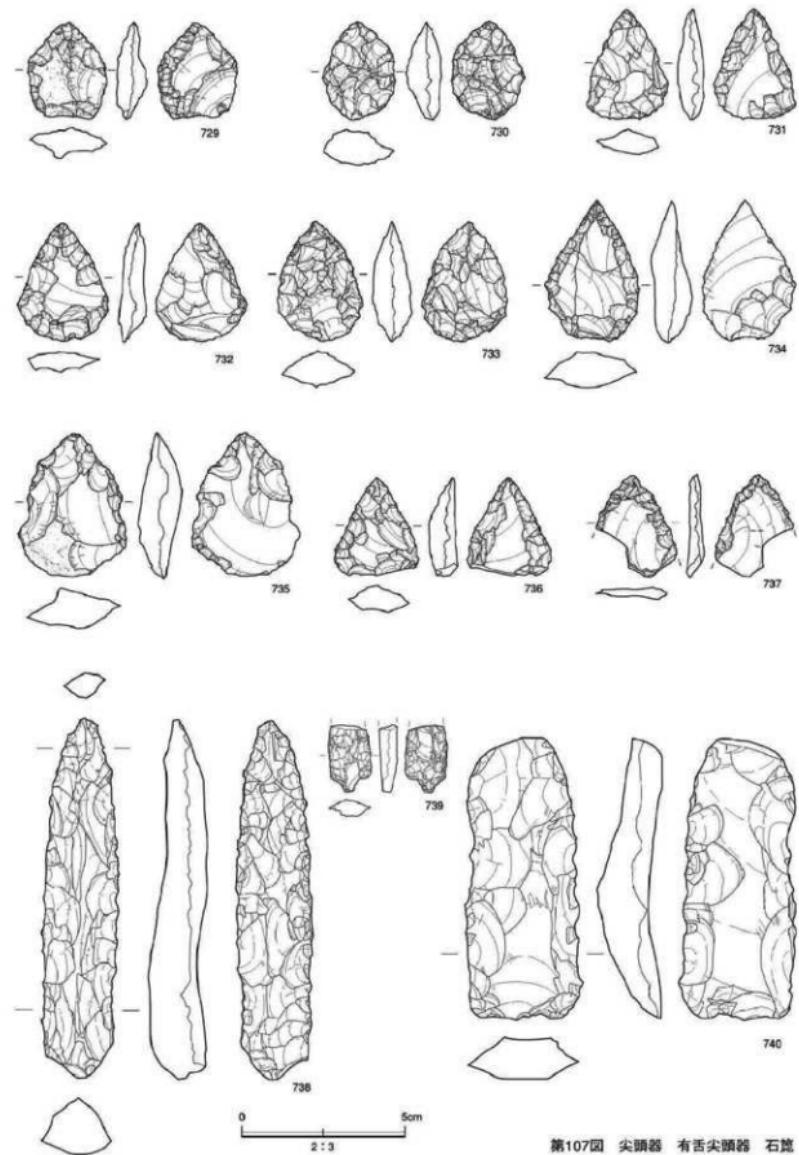


第105図 石器

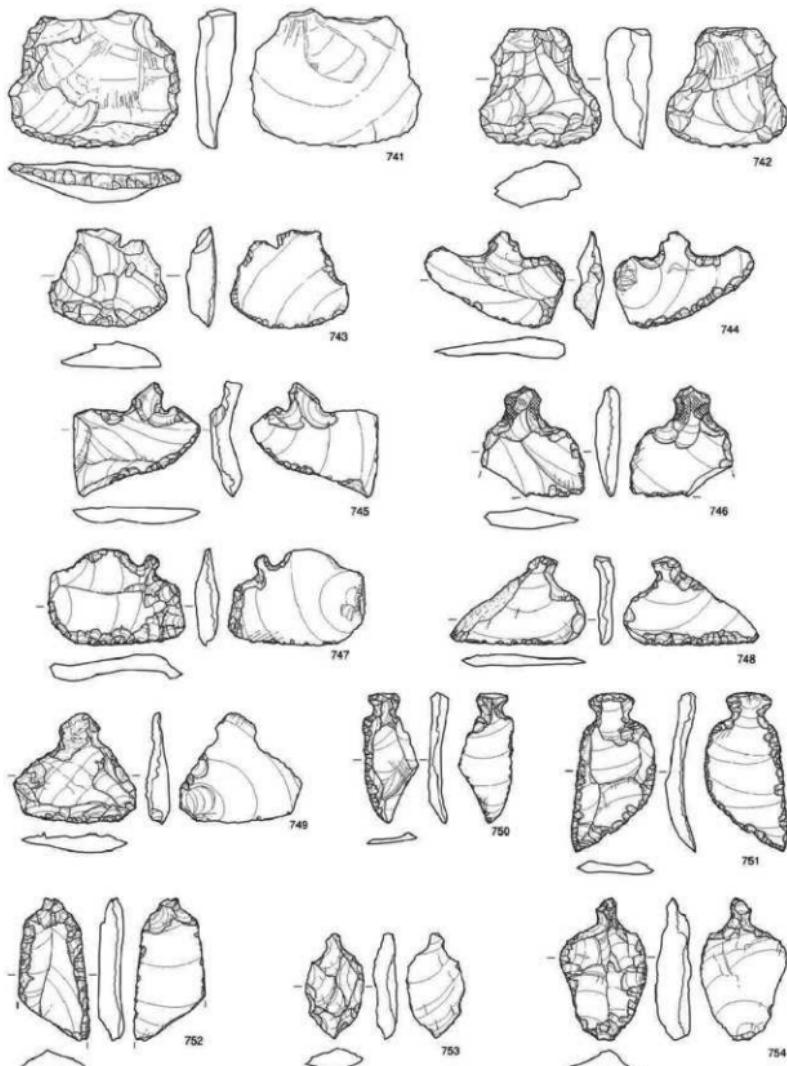


0
5cm
2:3

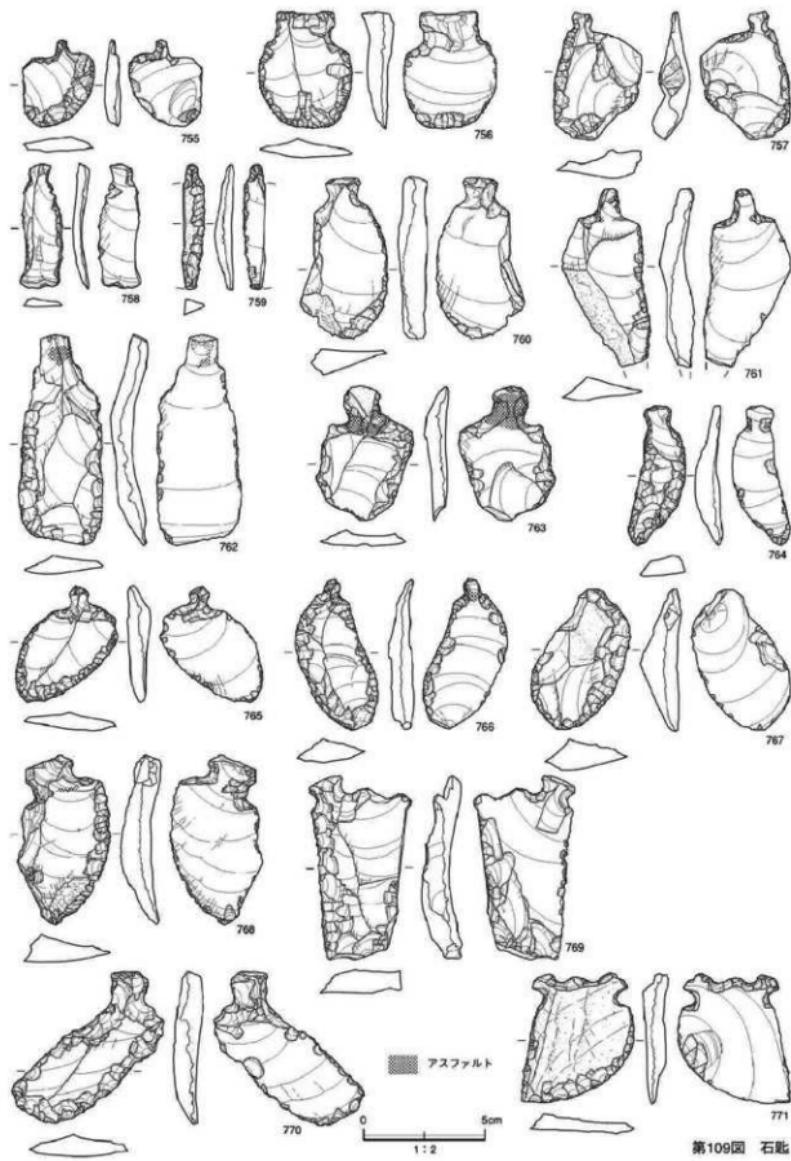
第106図 石鏃



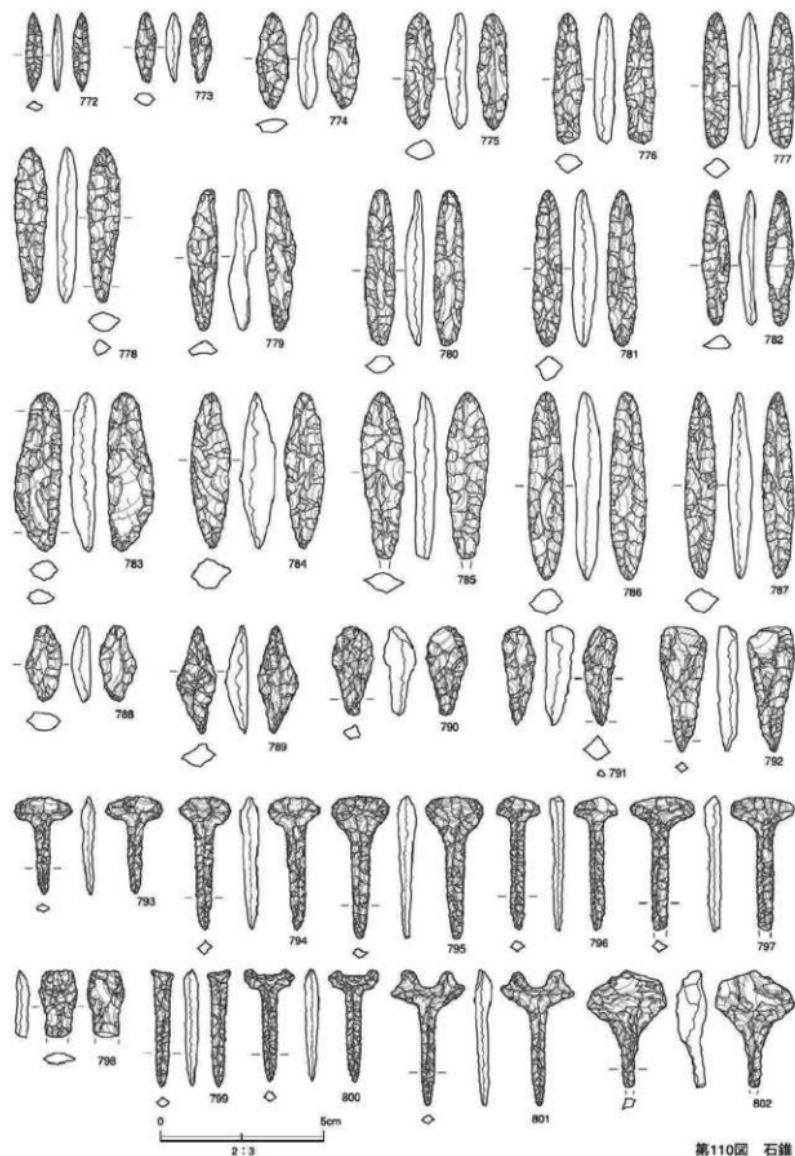
第107図 尖頭器 有舌尖頭器 石箋



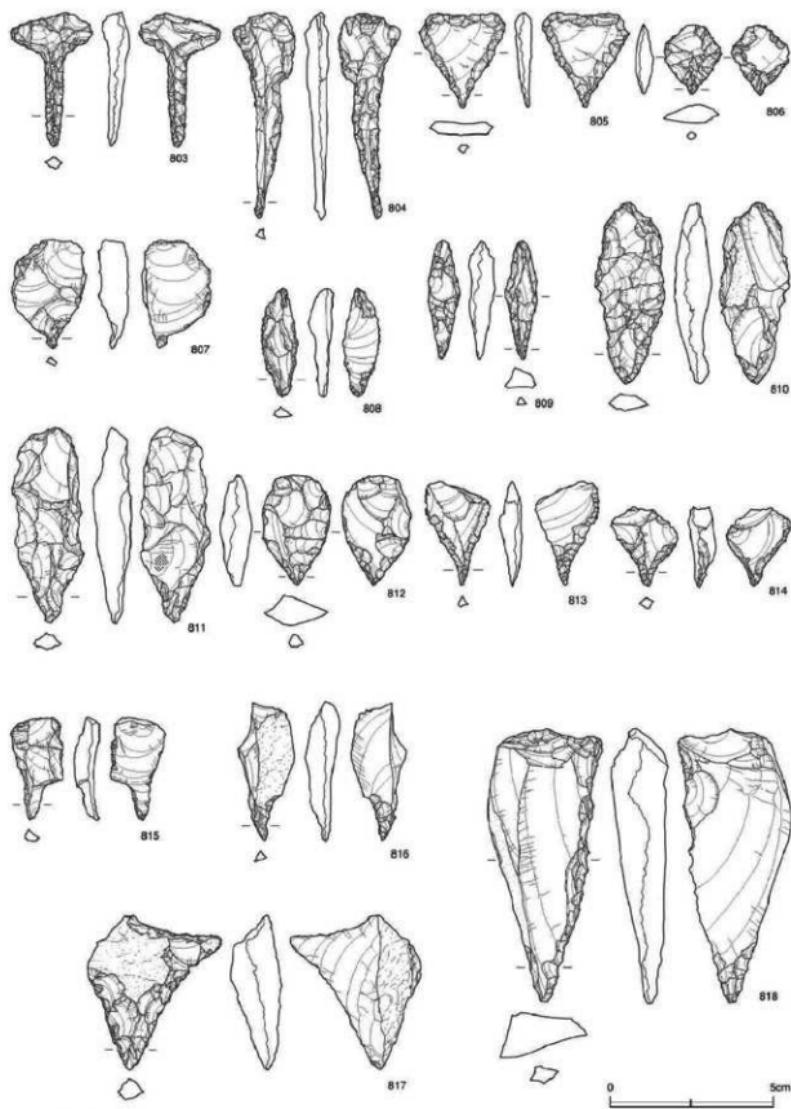
第108図 搢器 石匙



第109図 石器

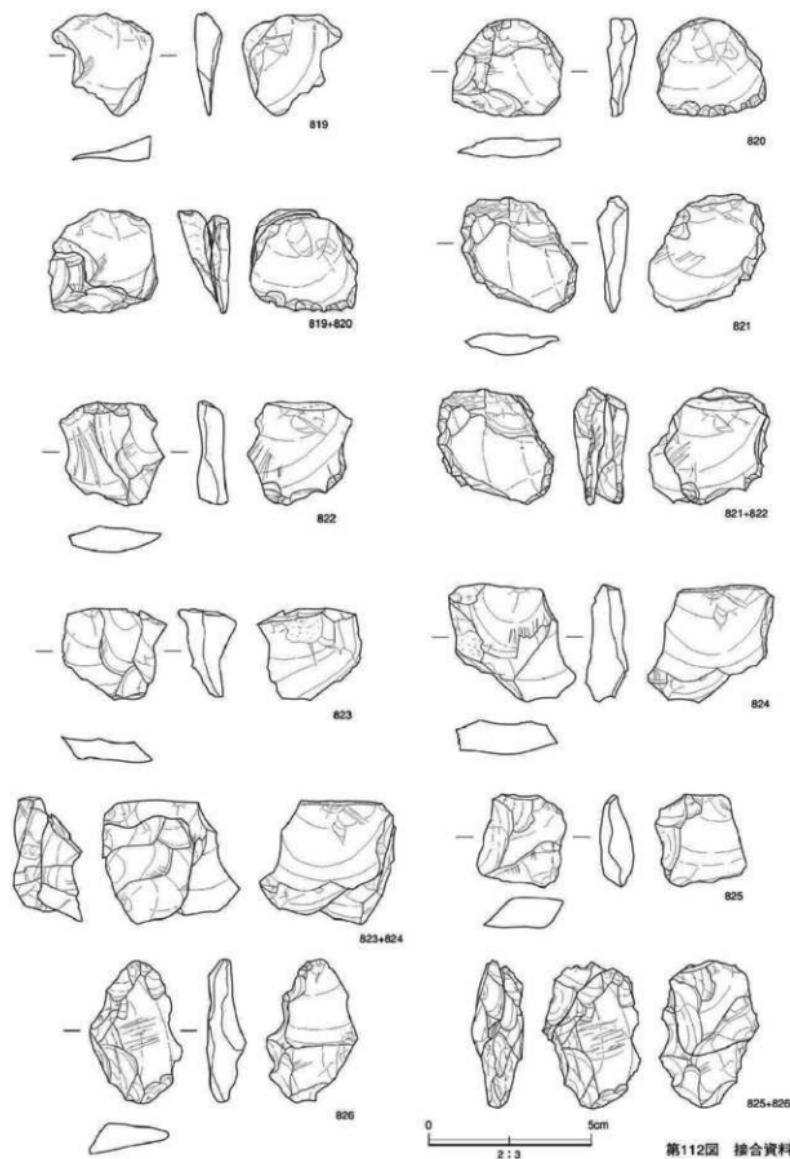


第110図 石錐



アスファルト

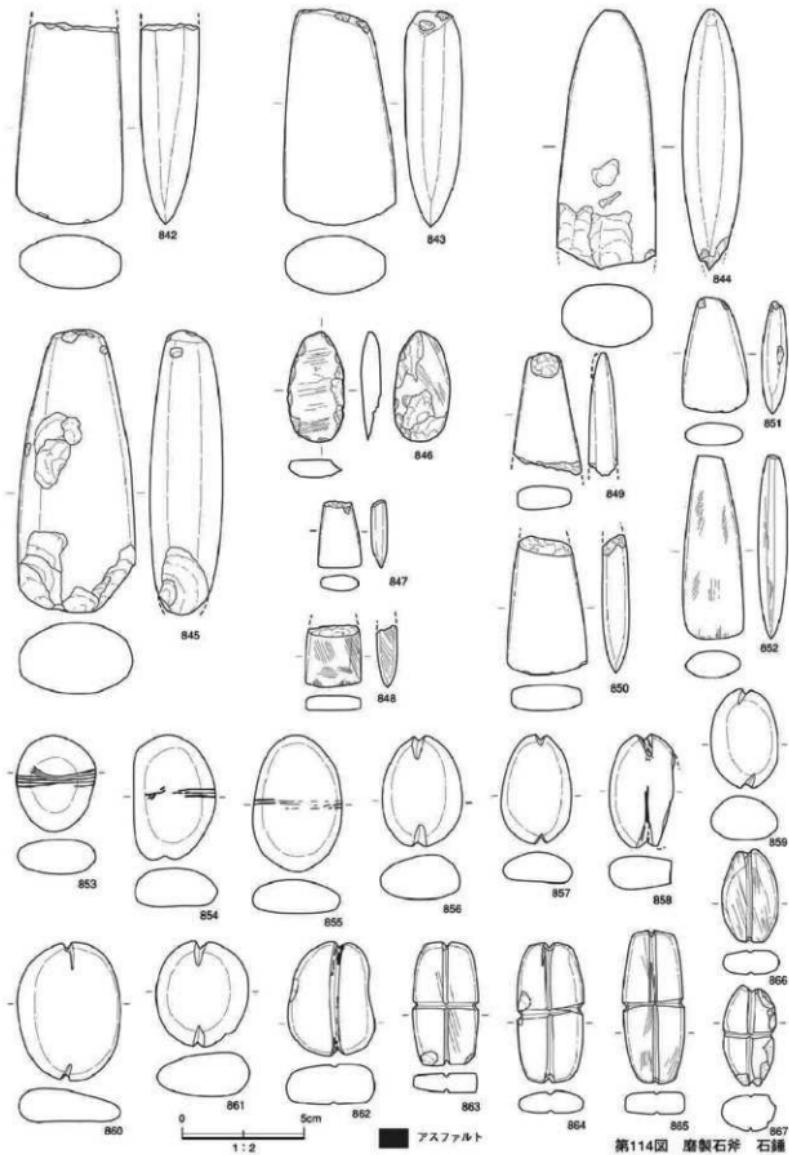
第111図 石錐



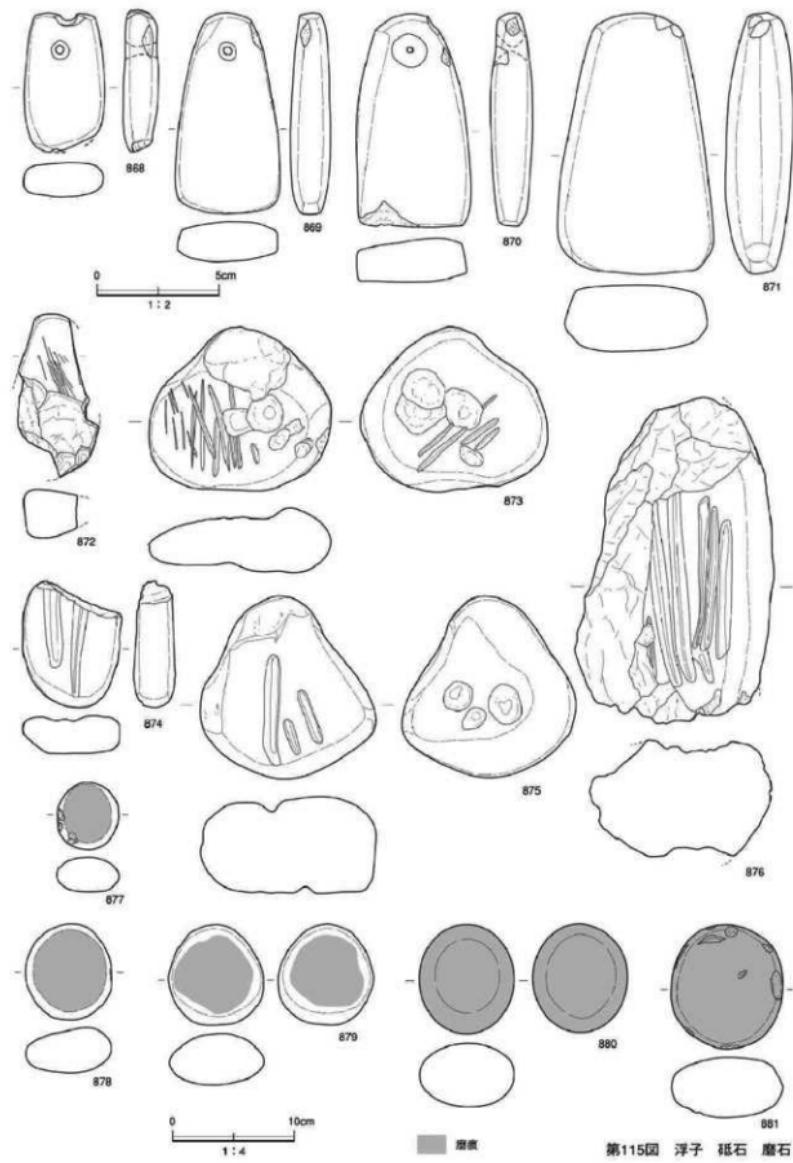
第112図 接合資料



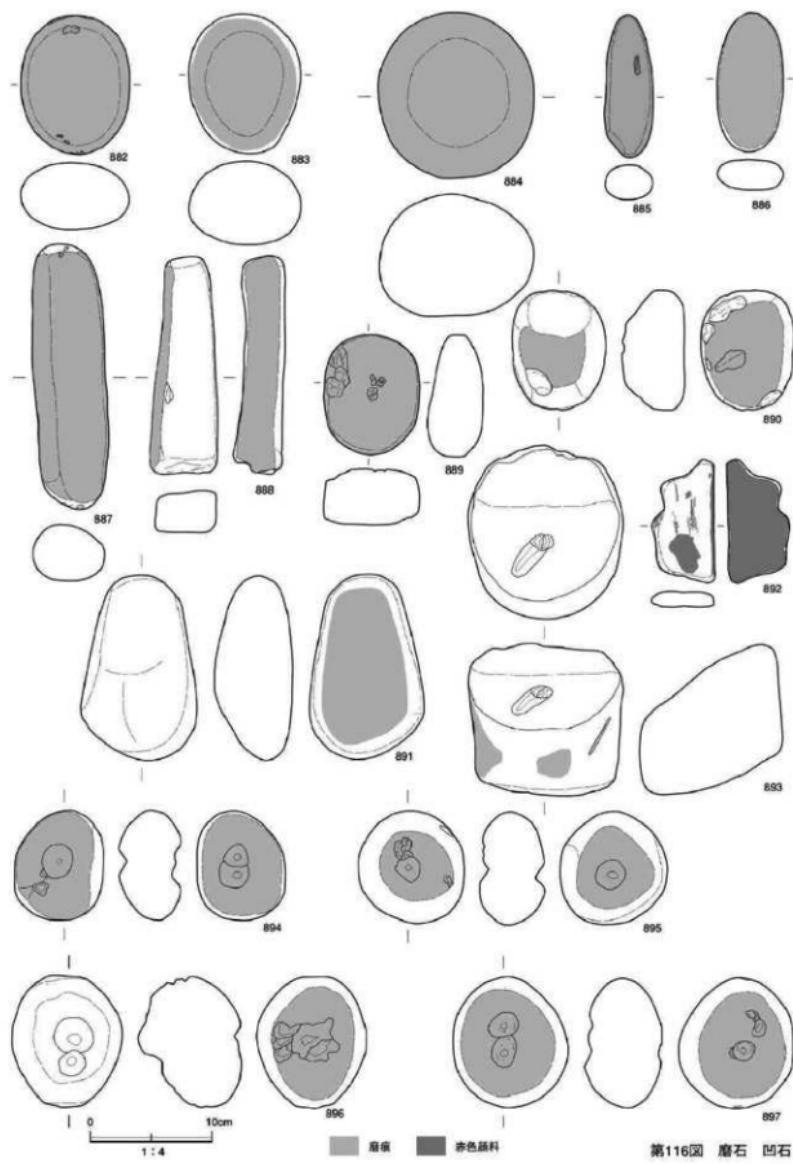
第113図 磨製石斧



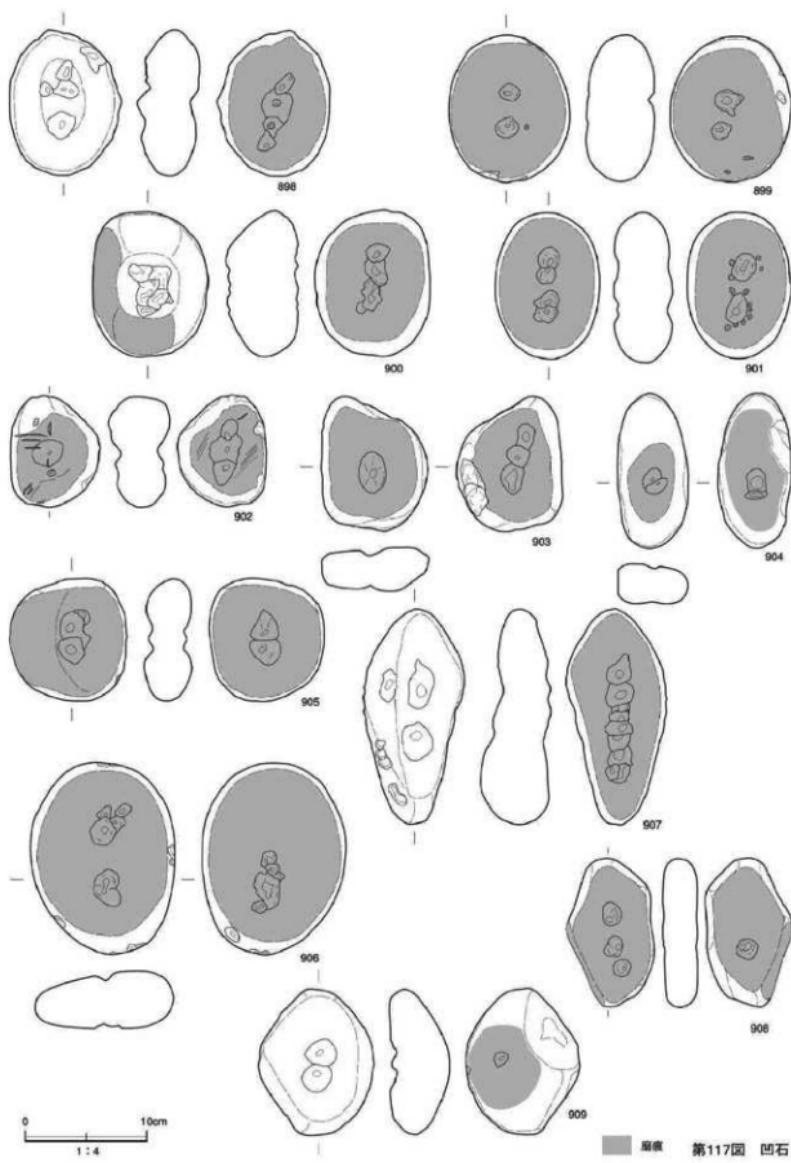
第114図 磨製石斧 石錐



第115図 浮子 砧石 磨石

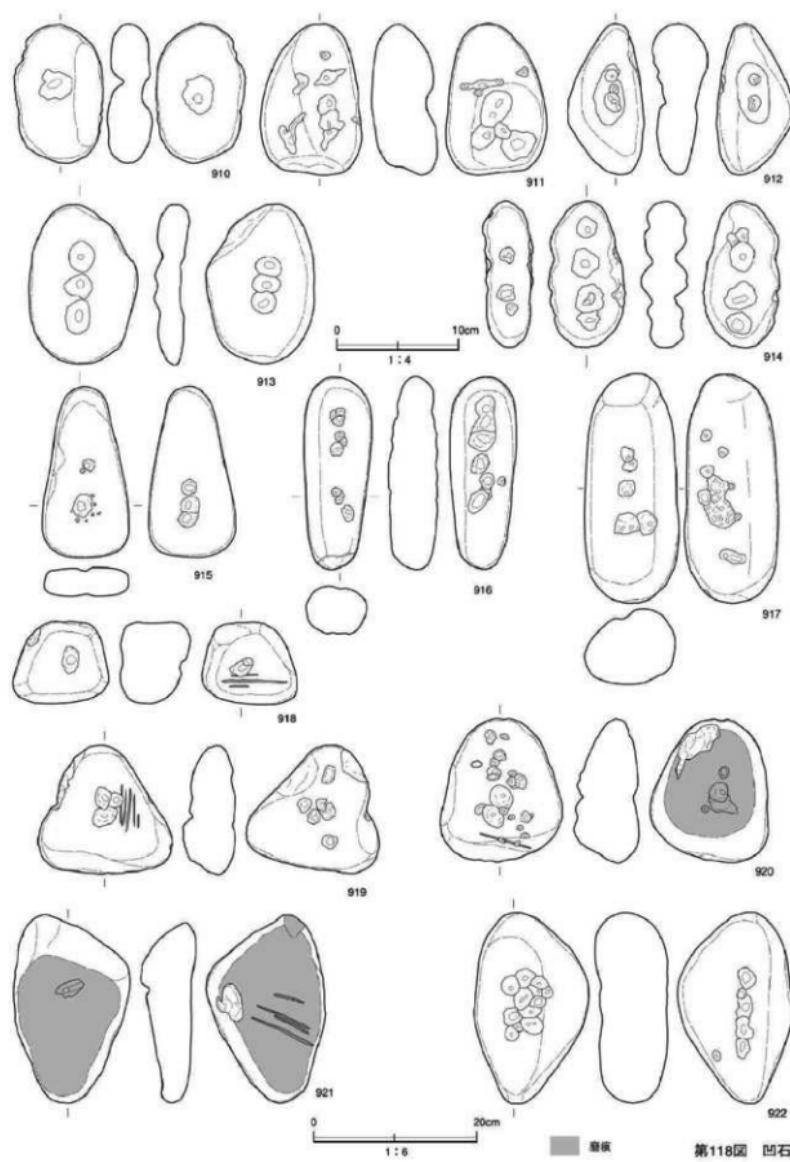


第116図 磨石 凹石

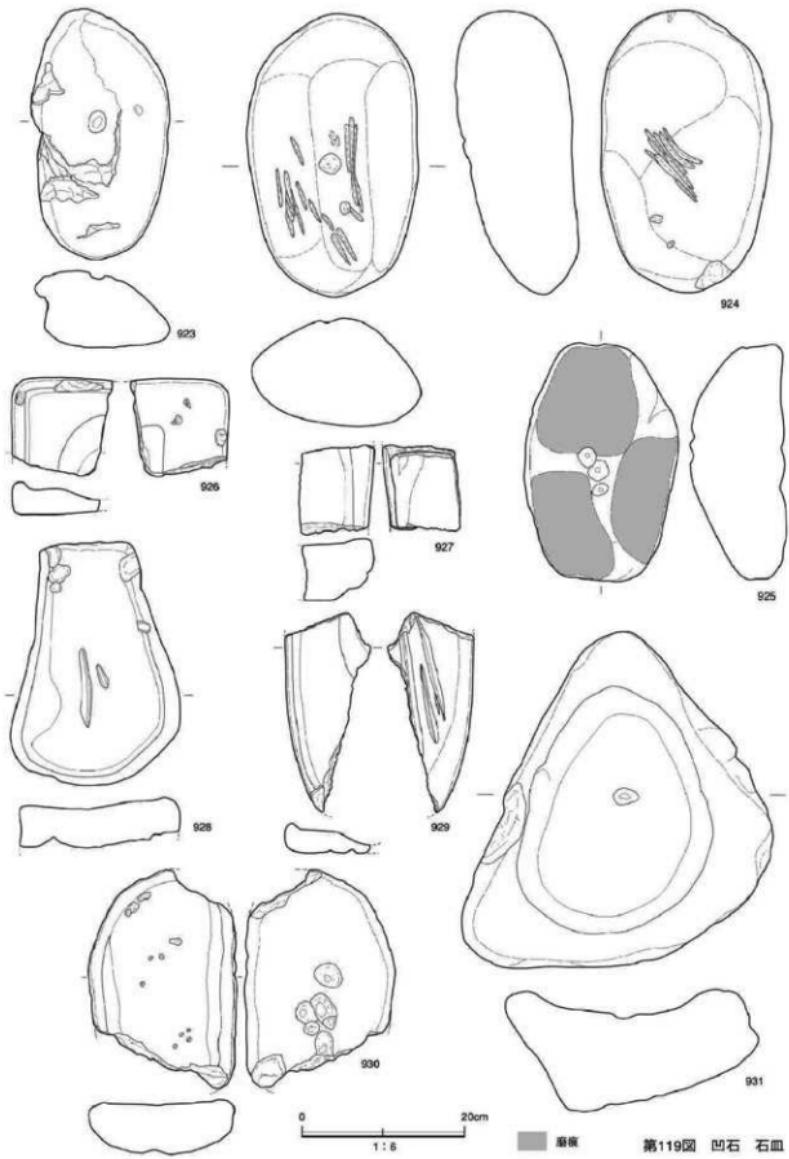


0
1 : 4
10cm

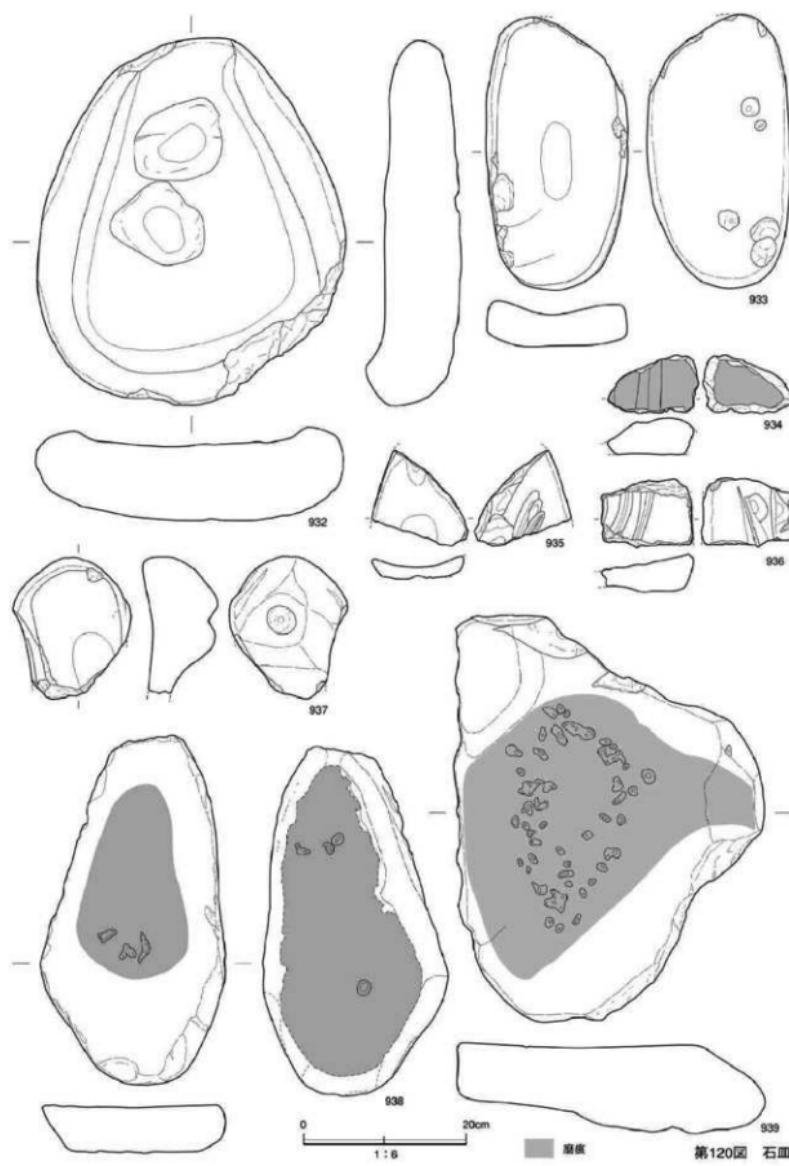
■ 層理 第117回 四石

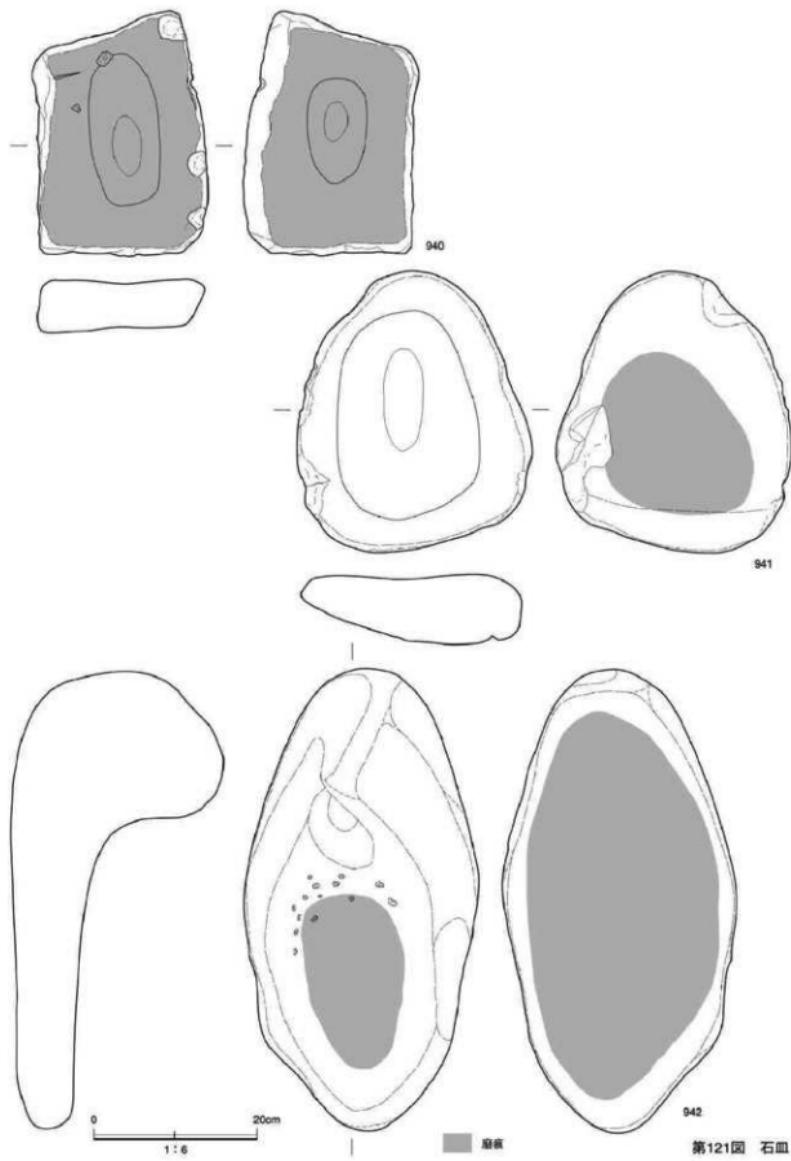


第118図 凹石

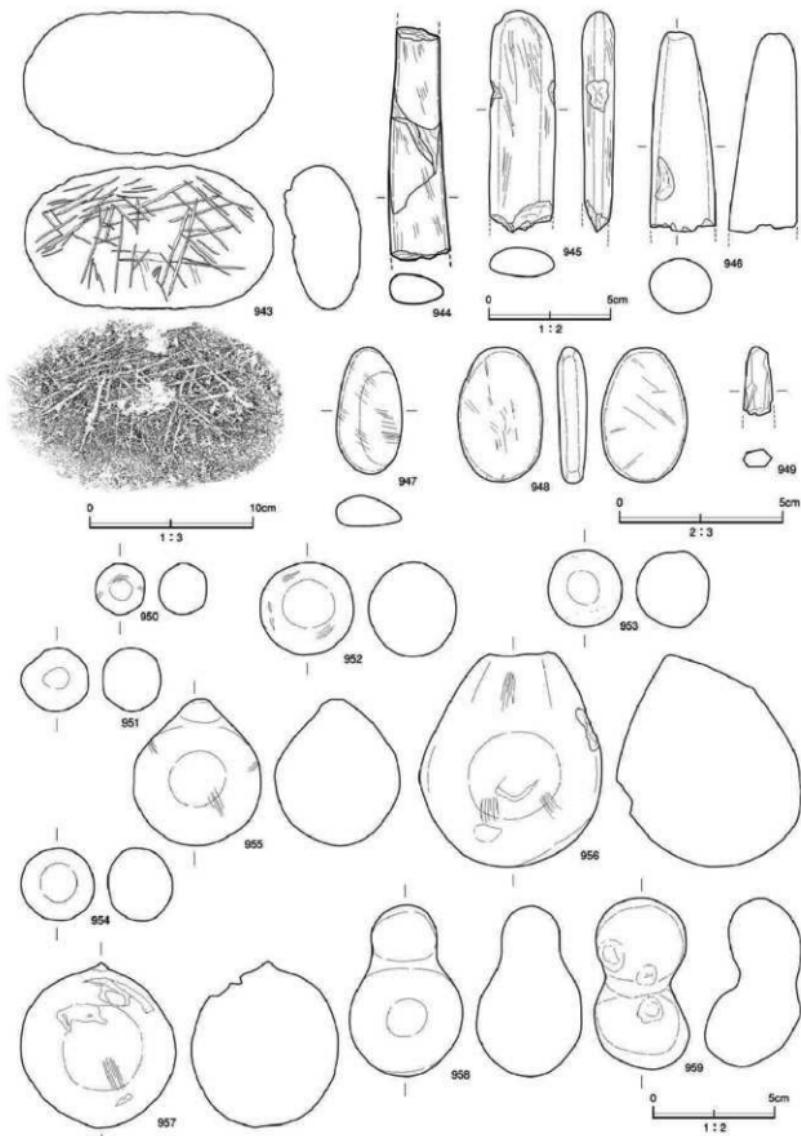


第119図 凹石 石皿

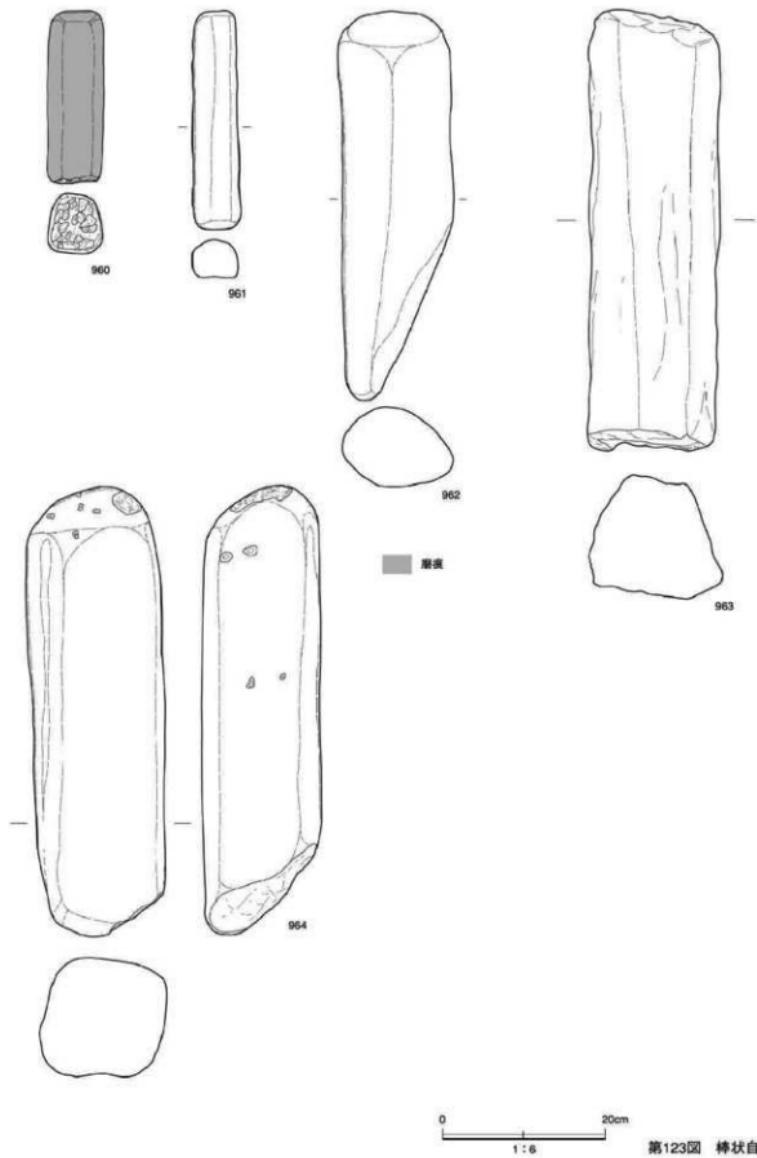




第121図 石皿

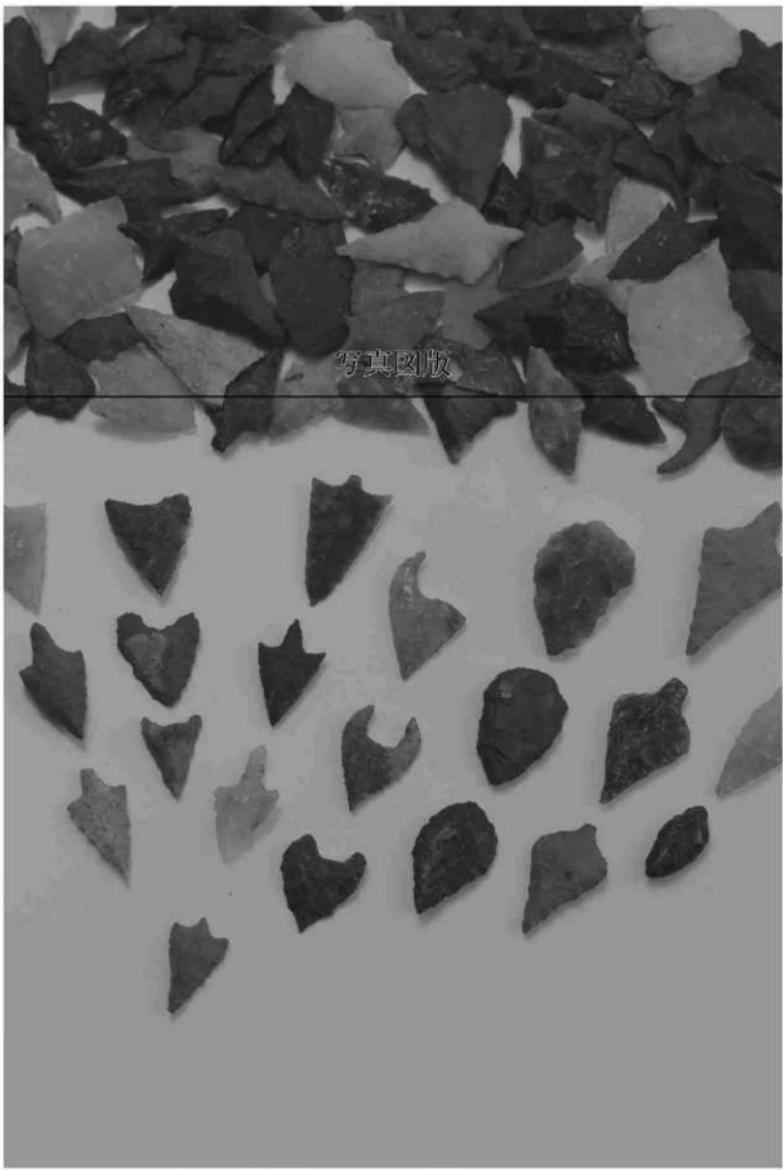


第122図 線刻硃 石刀 石劍 石棒 そのほかの石製品 水晶 球状自然石



第123図 棒状自然砾

写真図版





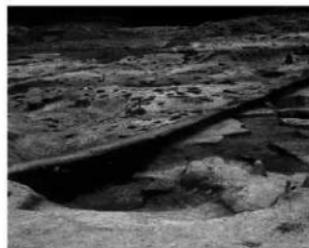
旧河道 S G21 (南から)



S G21検出 (北から)



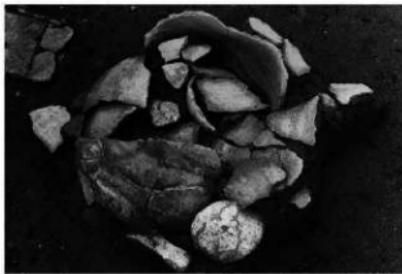
断面 b - b' (S G21 北から)



断面 f - f' (S G21 東から)



遺物出土状況（旧河道 S G21 西から）



深鉢363 (S G21 西から)



壺220 (S G21 東から)



片口土器302 (S G21 北から)



深鉢 (S G21 北西から)



大木8a式土器（旧河道 S G21 東から）



深鉢144（S G21 南西から）



断面d-d'（S G21 東から）



断面h-h'（S G21 西から）



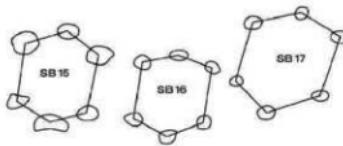
竪穴住居群（北から）



竪穴住居群（北東から）

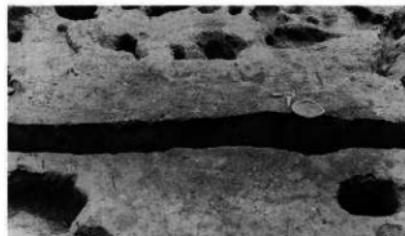


掘立柱建物SB15・16・17（南から）





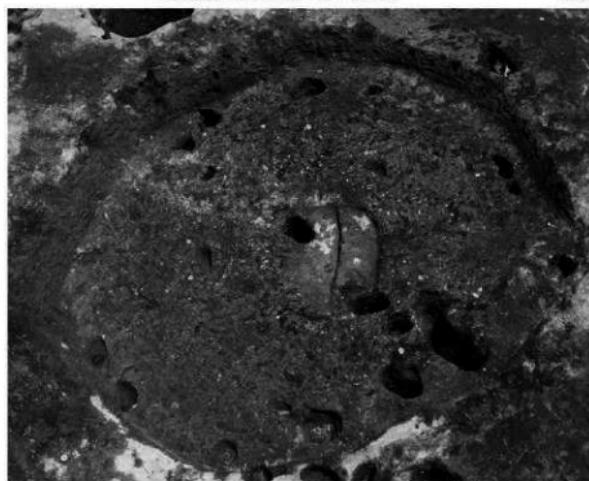
竪穴住居S T 2
(北東から)



土器埋設炉E L266 (S T 2 北から)



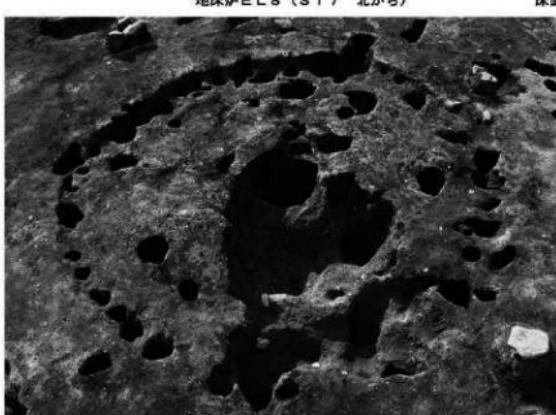
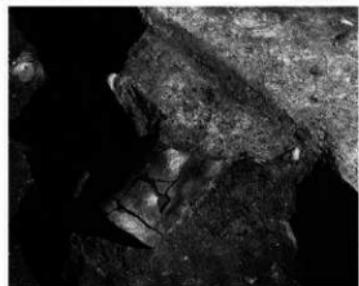
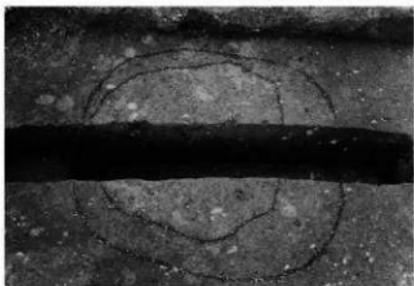
地床炉E L212 (S T 3 北から)

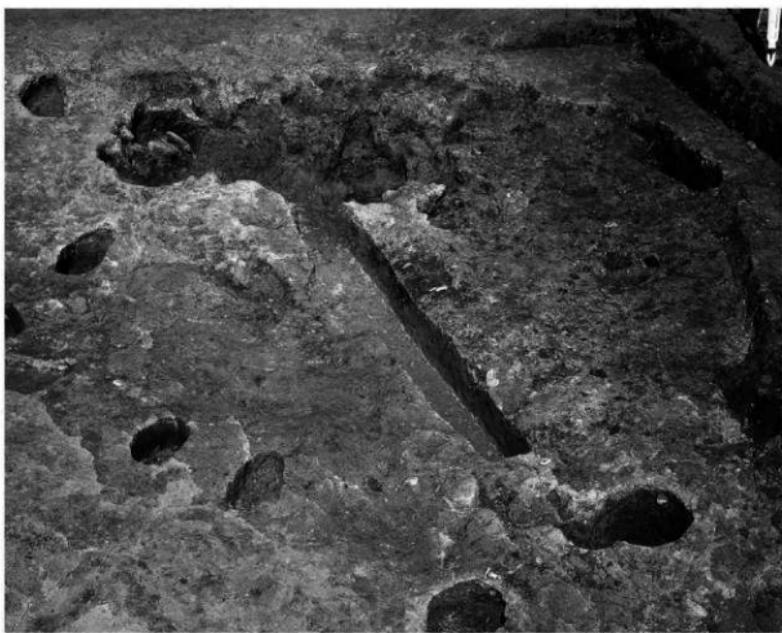


竪穴住居S T 3 (西から)



鉢8 (S T 3 北から)

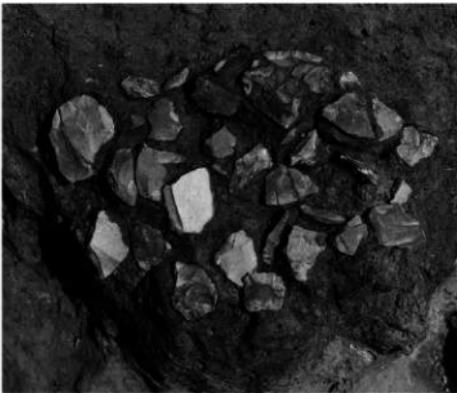




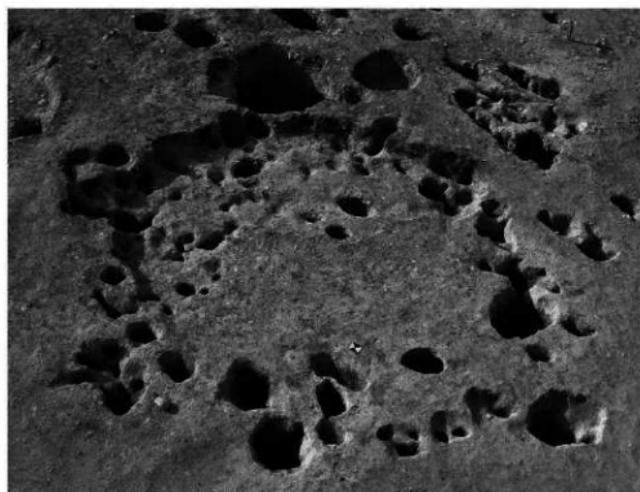
堅穴住居 S T 1004 (西から)



地床炉 E L 640 (S T 1004 北東から)



接合資料819~826 (S T 1004掘方 西から)



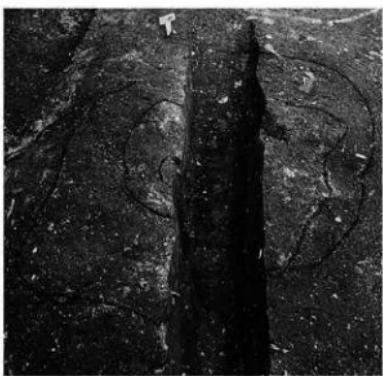
堅穴住居 S T 19
(南から)



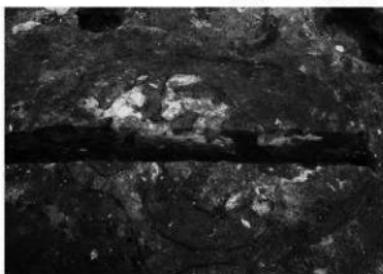
配石造様 S X 25 (南西から)



地床炉E L 6 (南から)



地床炉E L 34 (南から)



地床炉E L 22 (北西から)



地床炉E L 536 (北東から)



地床炉E L 31 (西から)



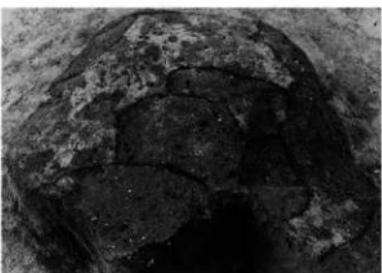
地床炉E L 29 (南から)



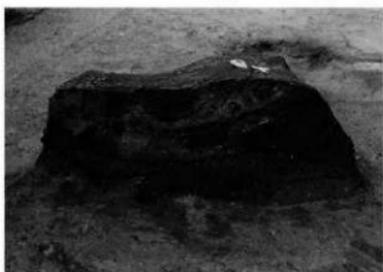
地床炉E L 534 (南から)



地床炉 E L 535 (北東から)



地床炉 E L 584 (南西から)



地床炉 E L 579 (西から)



地床炉 E L 613 (東から)



地床炉 E L 588 (東から)



埋設土器遺構 E U 27と深鉢37 (北から)



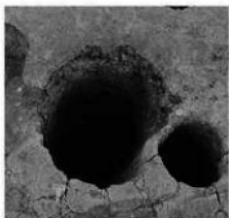
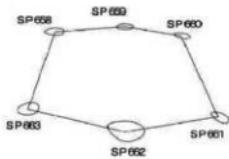
埋設土器遺構 E U 509と深鉢38 (西から)



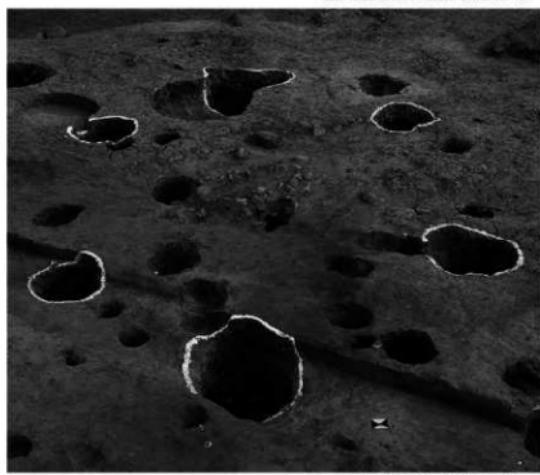
立石遺構 S P 482 (西から)



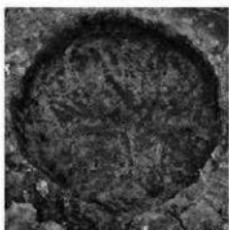
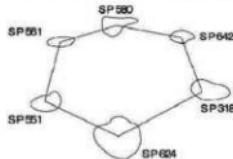
掘立柱建物 S B 1006 (北西から)



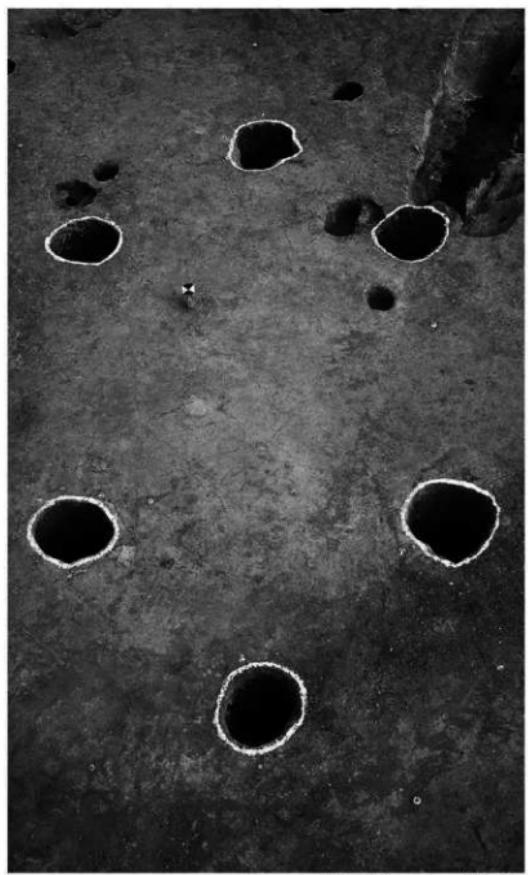
柱穴 S P561 (北東から)



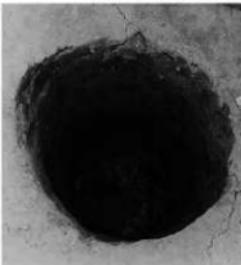
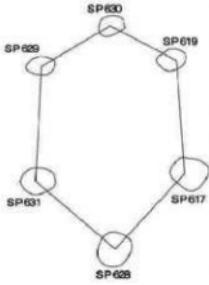
掘立柱建物 S B 1007 (北から)



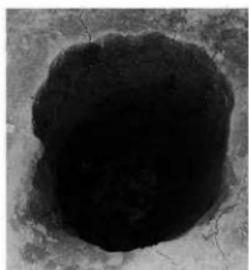
柱穴 S P561 (東から)



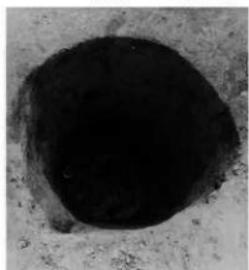
据立柱建物 S B1008 (北から)



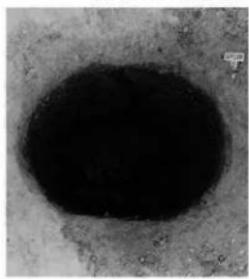
柱穴 SP629 (北から)



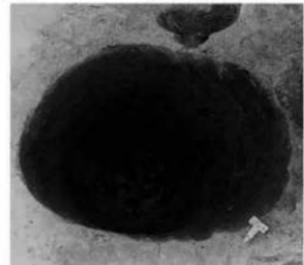
柱穴 SP630 (北から)



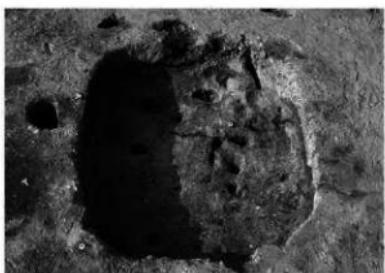
柱穴 SP617 (北から)



柱穴 SP628 (北から)



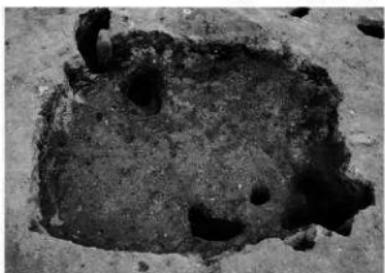
柱穴 SP619 (北から)



土坑SK39（南西から）



土坑SK42（北から）



土坑SK47（北西から）



土坑SK49（西から）



土坑SK229（西から）



深鉢55・57（土坑230 南から）



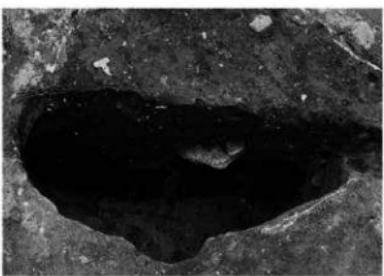
土坑SK232（北西から）



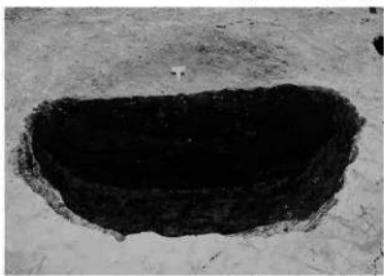
土坑SK233（北東から）



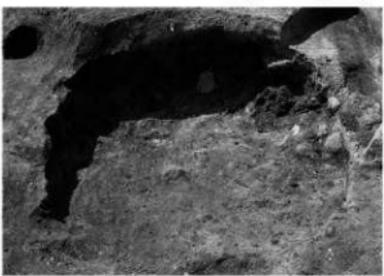
土坑SK252（北から）



土坑SK271（西から）



土坑SK279（東から）



土坑SK416（南から）



土坑SK417（北から）



土坑SK488（北から）



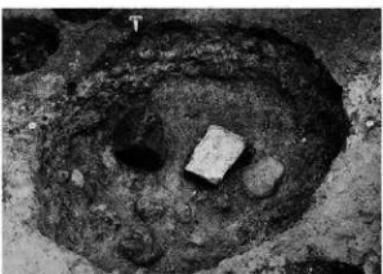
土坑SK510（西から）



土坑SK516（北西から）



土坑S K533（東から）



土坑S K552（南西から）



土坑S K586（北西から）



土坑S K258（西から）



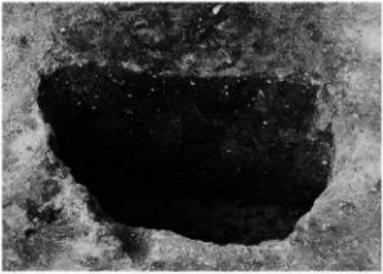
土坑S K616（西から）



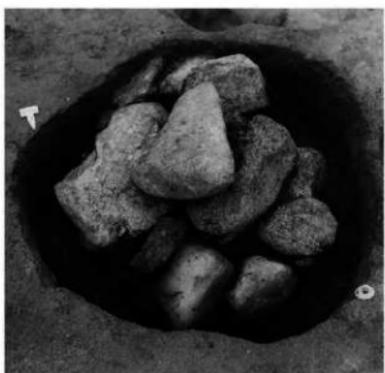
土坑S K276（南東から）



土坑S K69（北から）



土坑S K361（南西から）



土坑SK424（南から）



土坑SK580（北東から）



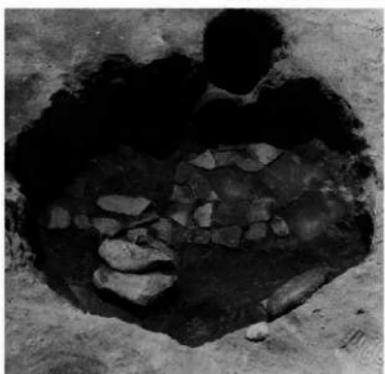
土坑SK648（南から）



土坑SK50（北から）



土坑SK43（北から）



深鉢52（土坑SK41 北から）



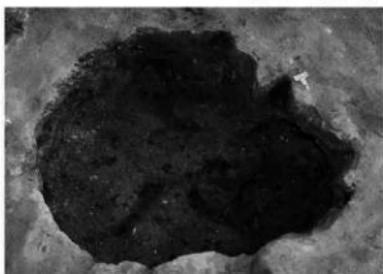
深鉢47（土坑SK63 東から）



土坑SK67（北から）



土坑SK51（北から）



土坑SK100 ピットSP207（北東から）



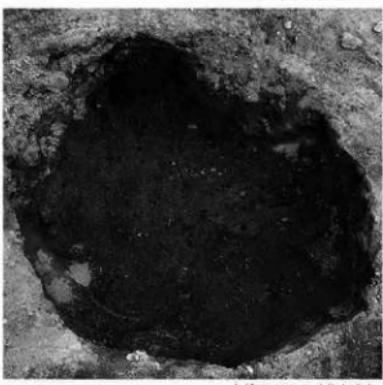
土坑SK64（東から）



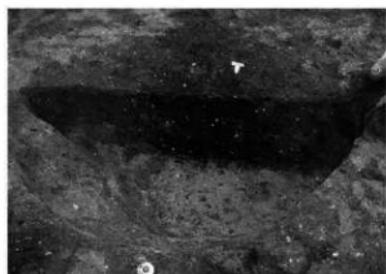
土坑SK226（北西から）



土坑SK304（北から）



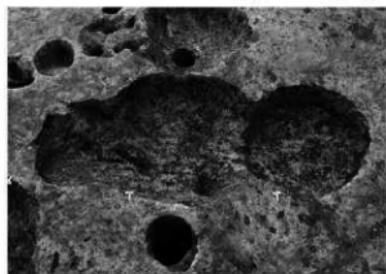
土坑SK259（北から）



土坑S K309（北から）



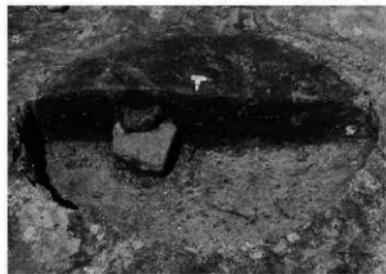
土坑S K321（北西から）



土坑S K486・487（東から）



土坑S K500（東から）



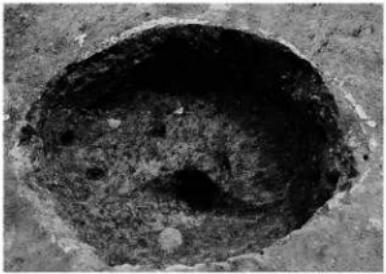
土坑S K511（西から）



土坑S K635（北西から）



土坑S K508（東から）



土坑S K103(北東から)



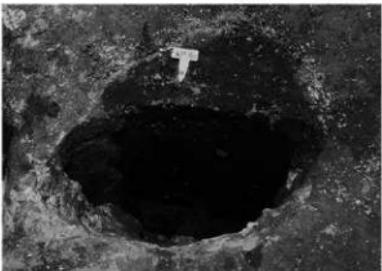
柱穴 SP 66 (北から)



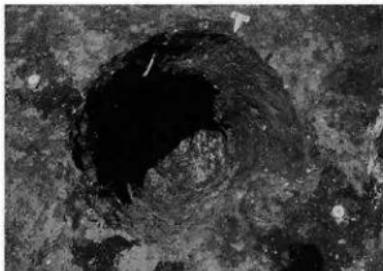
柱穴 SP 80 (西から)



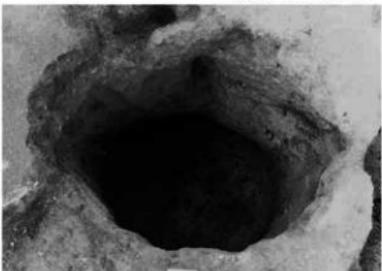
柱穴 SP 95 (北から)



柱穴 SP 96 (北から)



柱穴 SP 99 (北から)



柱穴 SP 141 (東から)



柱穴 SP 144 (北から)



柱穴 SP 173 (東から)



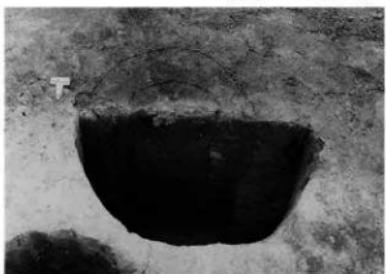
柱穴 SP 177 (西から)



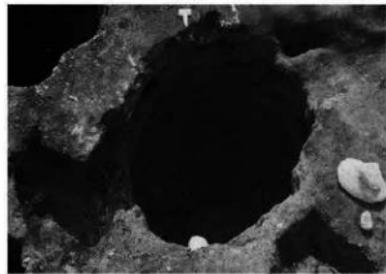
柱穴 SP 180 (北から)



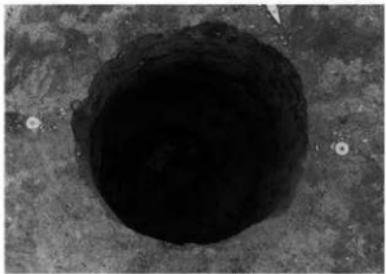
柱穴 SP 193 石皿942 (北から)



柱穴 SP 254 (西から)



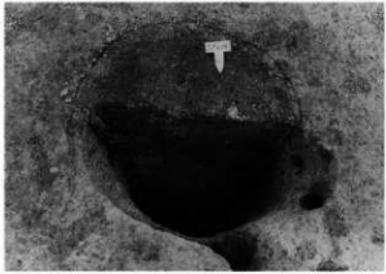
柱穴 SP 334 (東から)



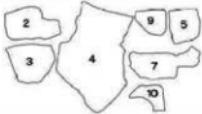
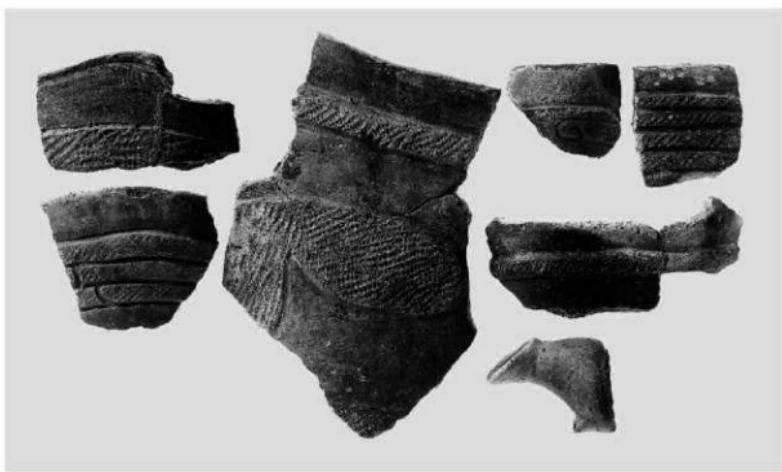
柱穴 SP 559 (西から)



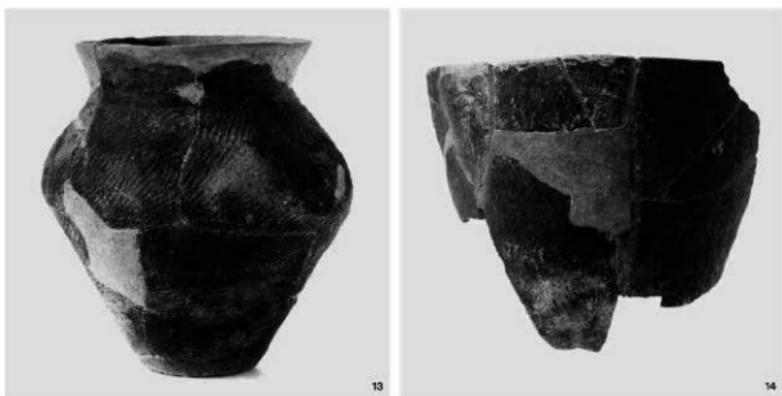
柱穴 SP 593・594・597, SK 595 (西から)



柱穴 SP 618 (北東から)



堅穴住居ST2(1~3) ST3(4~12)



13

14



15

26



竪穴住居 S T 3 (13・14) S T 4 (15・16・20・21・24～28) 柱穴 S P430 (17) S P290 (18)

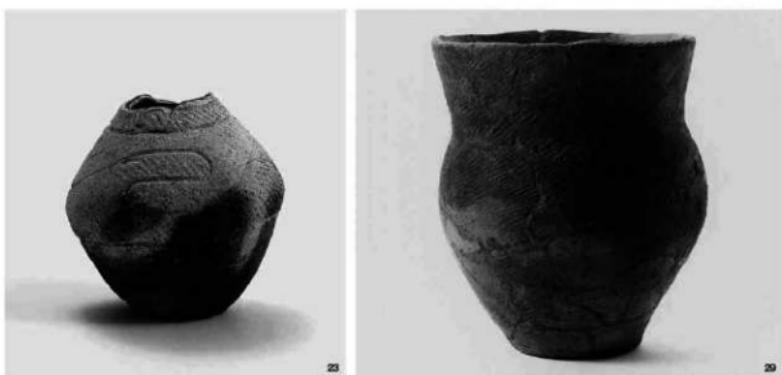


22



22

注口土器（竪穴住居ST4）



堅穴住居 S T 4

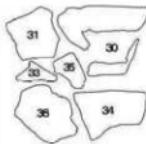


32

深鉢（堅穴住居ST7）



S T 7 30・31
S T 19 33
S T 1004 34～36



竖穴住居 S T 7・19・1004



37

埋設土器遺構 E U27



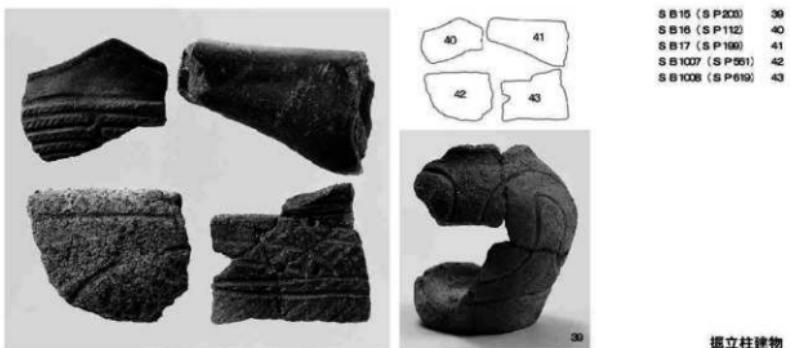
38

埋設土器遺構 E U509



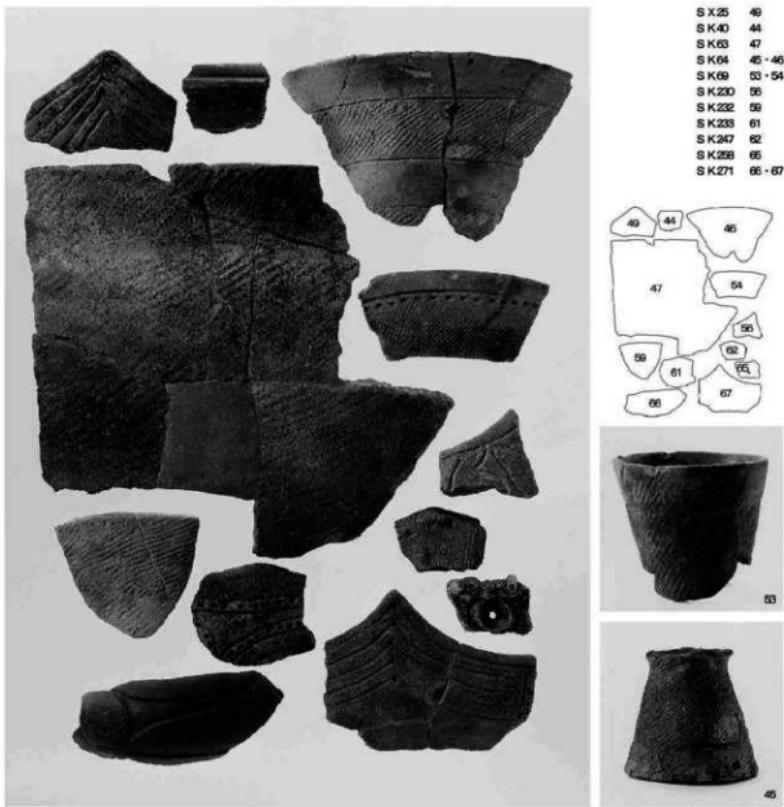
48

深鉢（立石造権 S P482）

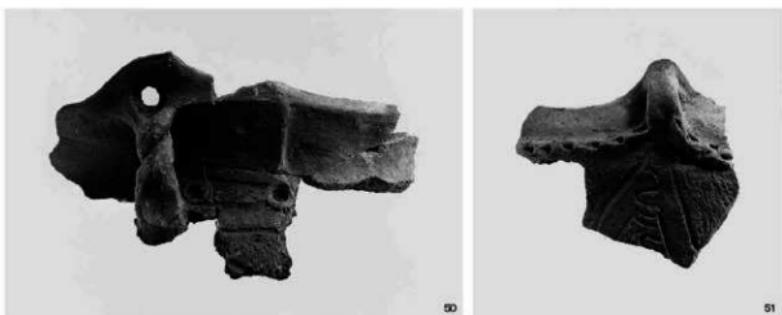


S B 15 (S P200)	39
S B 16 (S P112)	40
S B 17 (S P190)	41
S B 107 (S P561)	42
S B 108 (S P619)	43

搨立柱建物



配石造模 S X25 土坑



52
土坑 SK41



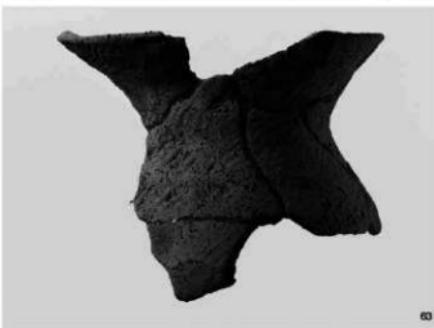
57



58



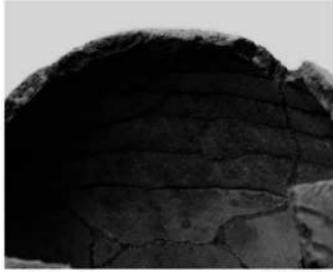
60



63



71



73の内面 (73)

SK200 57
SK232 58・60
SK251 63
SK416 71
SK428 73



73

土坑 S K230・232・251・416・426



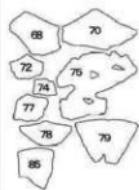
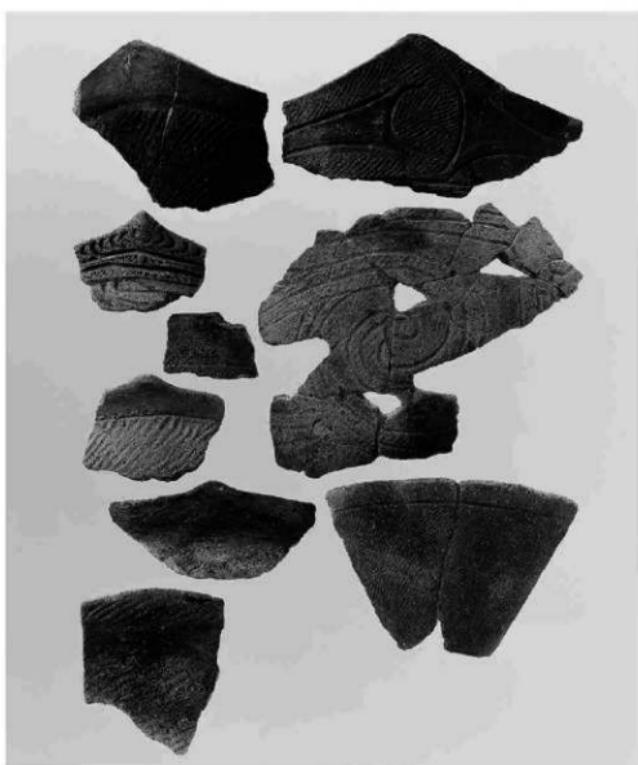
55



56

土坑 S K230 (55) S K252 (56)

S K308 66~69
S K361 70
S K416 72
S K488 74
S K502 75
S K511 76~78
S K516 79
S K627 85



69

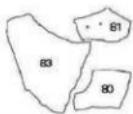


70

土坑



82



84



土坑 S K614



86



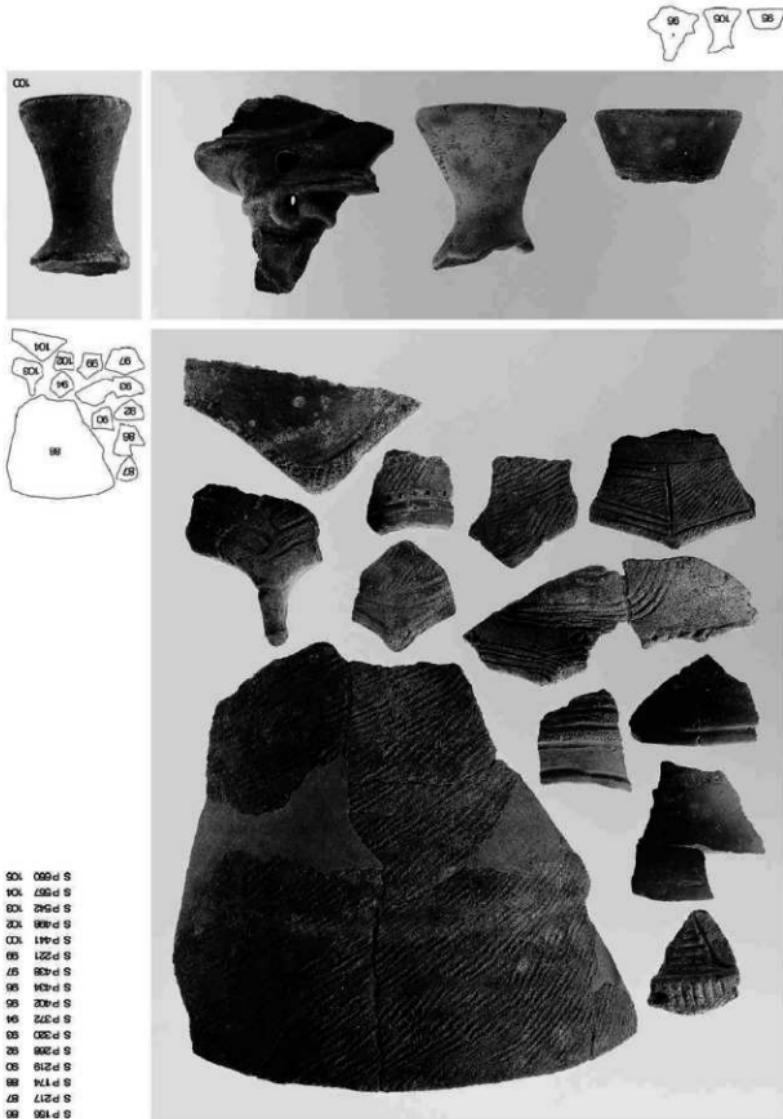
87



88

柱穴 S P 144 (89) ピット S P256 (91) S P462 (101)

462





98

ビット S P221



106

ビット S P656



113

性格不明造様 S X24



125

性格不明造様 S X250

S X 11 107~111
S X 65 115~116
S X 70 117~119
S X 139 120
S X 200 122~124
S X 253 125~127
S X 286 128
S X 387 129~130
S X 696 131



性格不明遺構



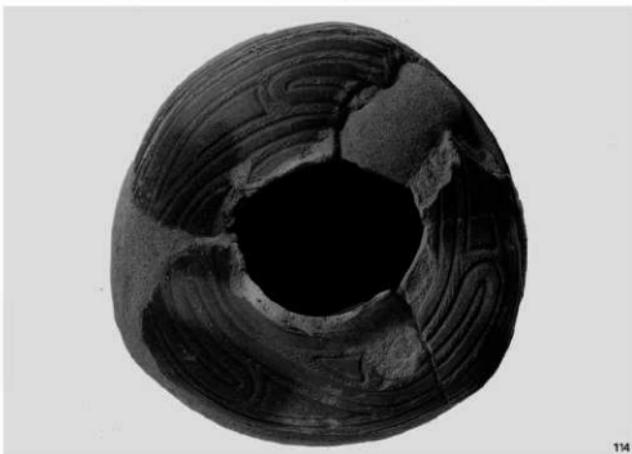
112



118



121



114



111

S X11 112
S X70 118
S X22 121
S X62 114

性格不明遺構



133



134



132

I 群 深鉢 旧河道 SG21



I群 深鉢 旧河道S G21, ピットSP542 (146)



138



141



143



149

1群 深鉢 旧河道 SG21



139



140



142

I群 深林 旧河道 SG21



144



145

I 群 深鉢 旧河道 S G21



151



156

I群 浅鉢 旧河道 SG21

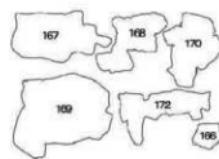
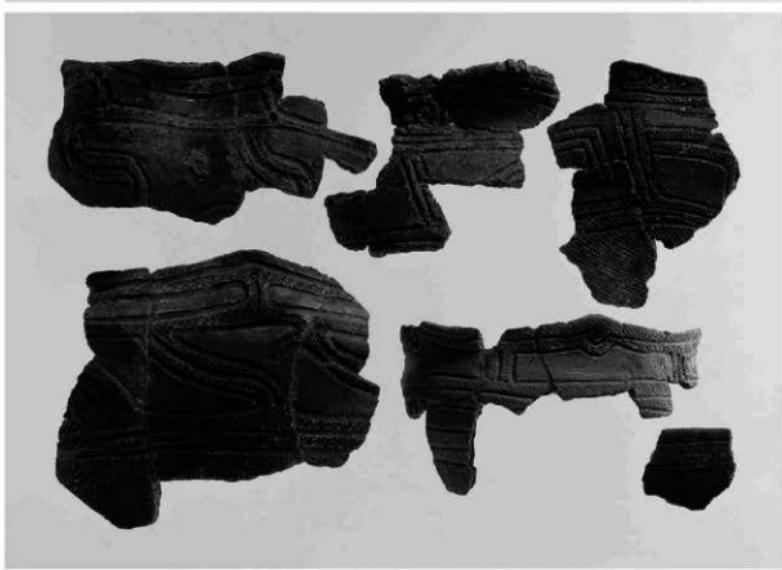


157

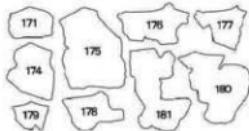


157

I群 浅鉢 旧河道 S.G21



II群（上段）、III群 深鉢（下段） 旧河道 SG21



182



173

皿群 深鉢 旧河道 SG21



184
185
186
187
188



186

皿群 深鉢 旧河道 S G21



皿群 深鉢 旧河道 S.G21



104



100



104

Ⅲ群 深鉢 旧河道 S G21



皿群 深林 旧河道 S G21

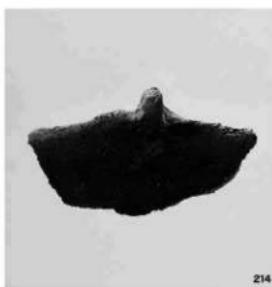


213



213

皿群 浅鉢 旧河道 S G21



III群 浅鉢(214)、壺 旧河道 S G21



221



220

Ⅲ群 壺 旧河道 SG21



228



229



230

IV群 深林 旧河道 S G21



224



225



226

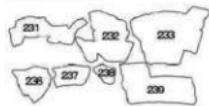
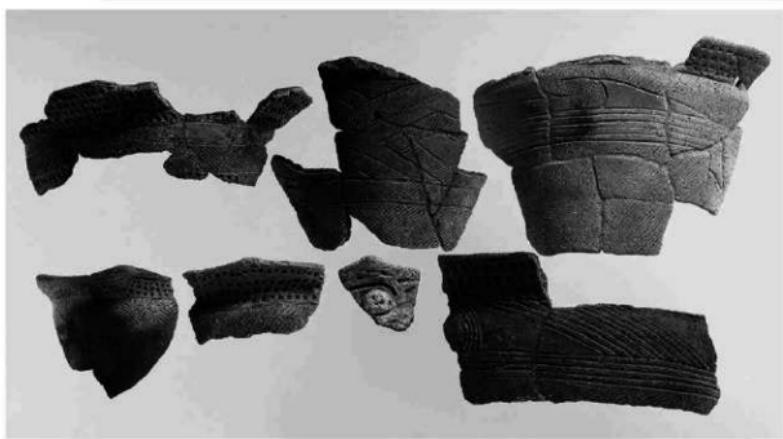
IV群 深林 旧河道 S G21



IV群 深林 旧河道 S G21



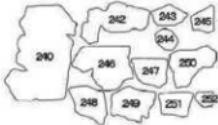
226



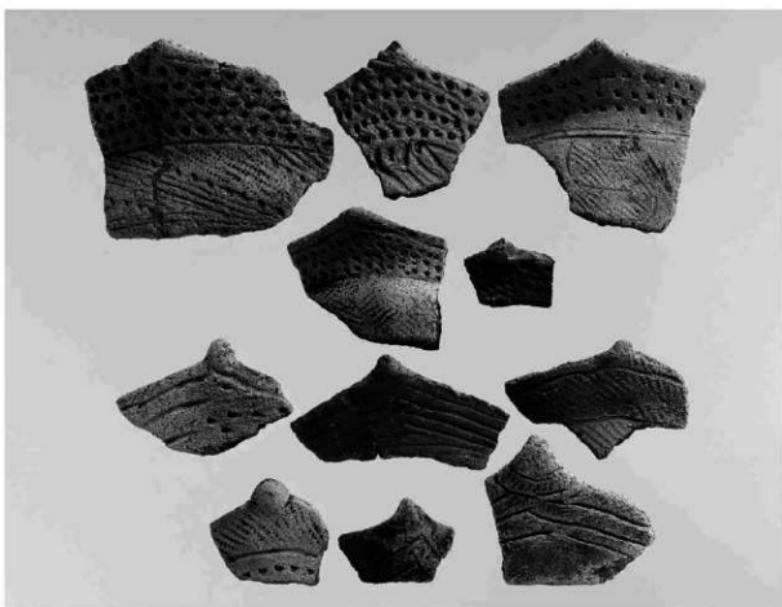
IV群 深林 旧河道 S G21



241



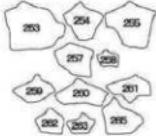
IV群 深林 旧河道 S G21



254



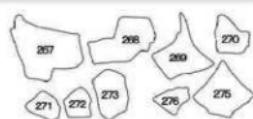
255



IV群 深林 旧河道 S G21



274

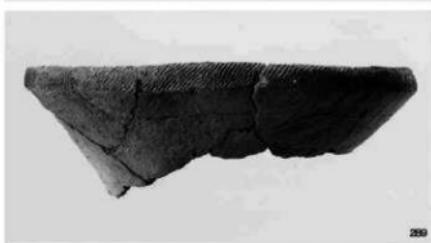


276

IV群 深鉢・鉢 (278) 旧河道 S G21



279
282
284
280
285
286
287
288



IV群 鮮 (277・279・280)、浅鮮 (282～289) 旧河道 S G21



281

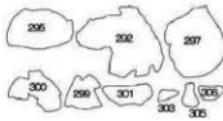
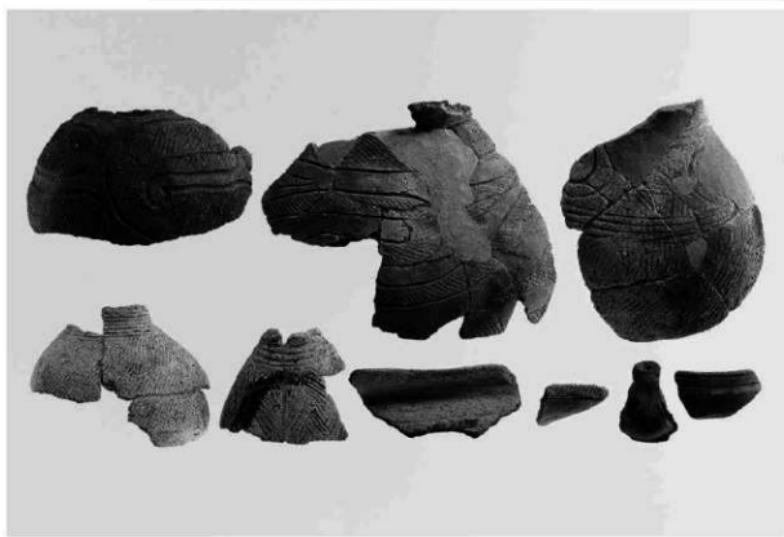


281

IV群 浅鉢 旧河道 S G21



290



IV群 浅钵(290), 盖(292·295·297·299~301), 片口土器(303), 注口土器(306·306) 旧河道S G21



291



296



298



299



304



304

IV群 壺・片口土器 (304) 旧河道 S G21



302

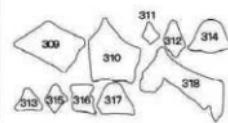


302

IV群 片口土器 旧河道S G21



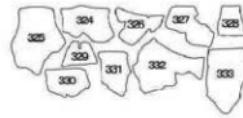
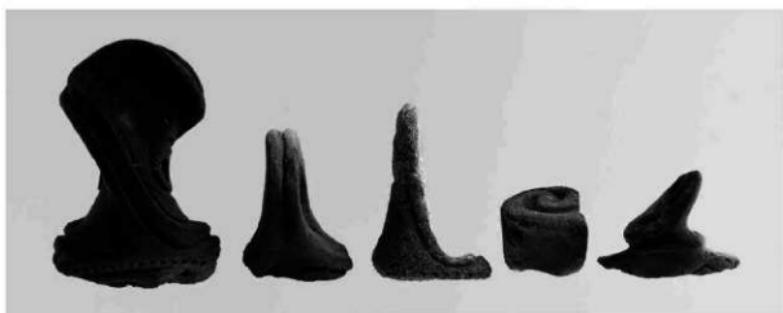
307



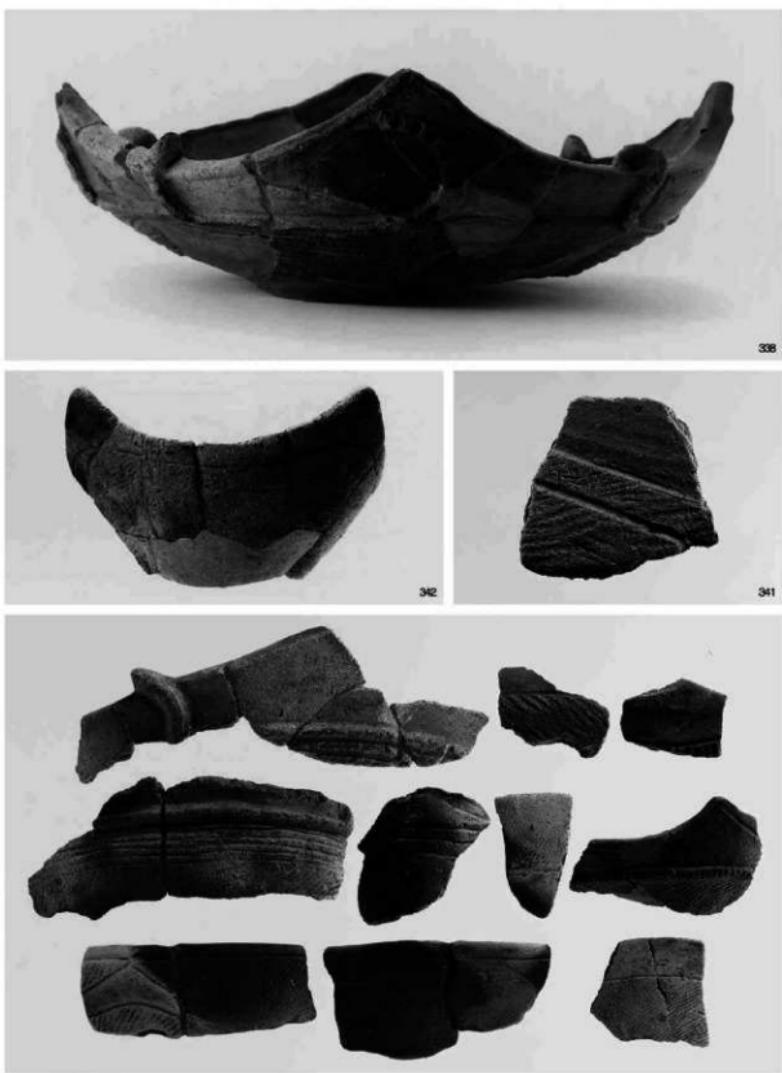
308



V群 深鉢 旧河道 SG21



V群 深鉢 旧河道 SG21



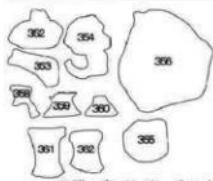
V群 深鉢（338～347）、鉢（348・349）、壺（351） 旧河道S G21



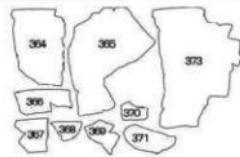
350



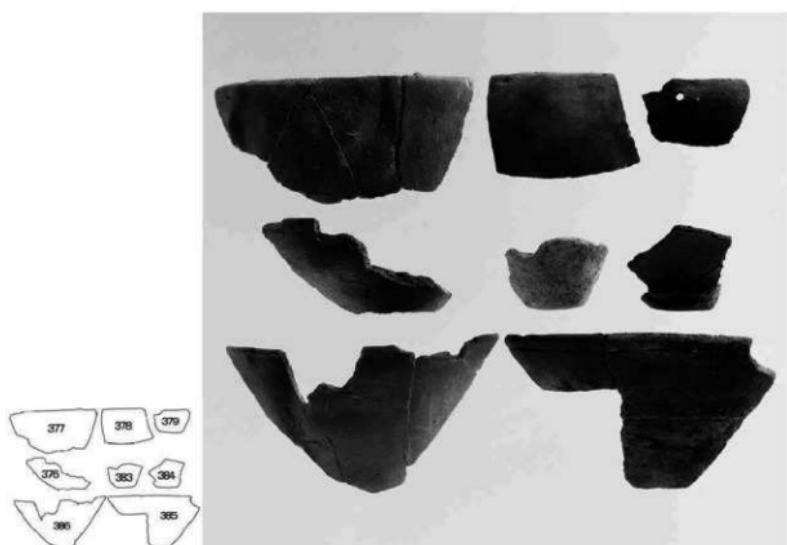
357



V群 壺 (350), 注口土器 (352~356), 台付浅鉢 (357), 台部 (358~360), 脚部 (361~362) 旧河道 S G21



V1群 深鉢 旧河道 S G21



VI群 鉢 (374~381), 浅鉢 (382~384), 壺 (385・386) 旧河道 S G21



387



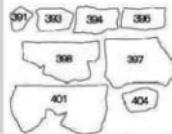
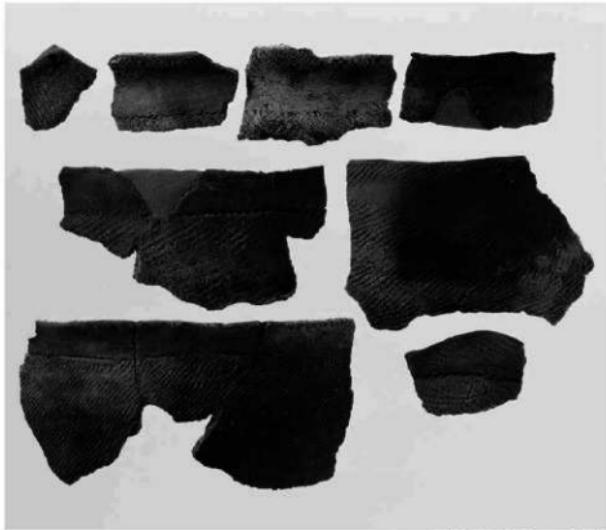
388



389



390



VI群 壺（上段）、VII群 深鉢（下段） 旧河道SG21



392



403



396



400

VII群 深鉢 旧河道 S G21



408

409



418

402

VII群 深鉢 旧河道S G21



419



420

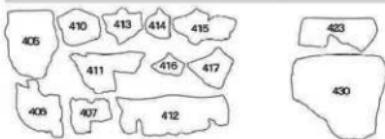


421



422

VII群 深鉢 旧河道S G21



428



VII群 深鉢 旧河道 S G21



427



424



434



425



426

図22 深鉢（427・434）、壺（424～426） 旧河道S G21



435



436



VII群 深鉢・鉢(438) 旧河道S G21



439



441

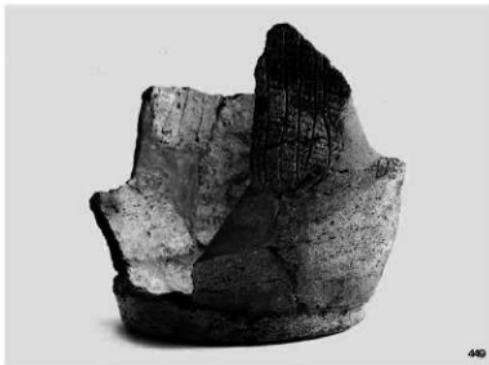
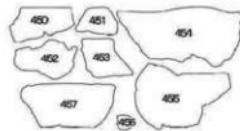


446



447

VII群 深鉢 (439), VII群 ミニチュア土器 (441~445), 異形土器 (446・447) 旧河道S G21



II群 深鉢・鉢(457) 遺物包含層

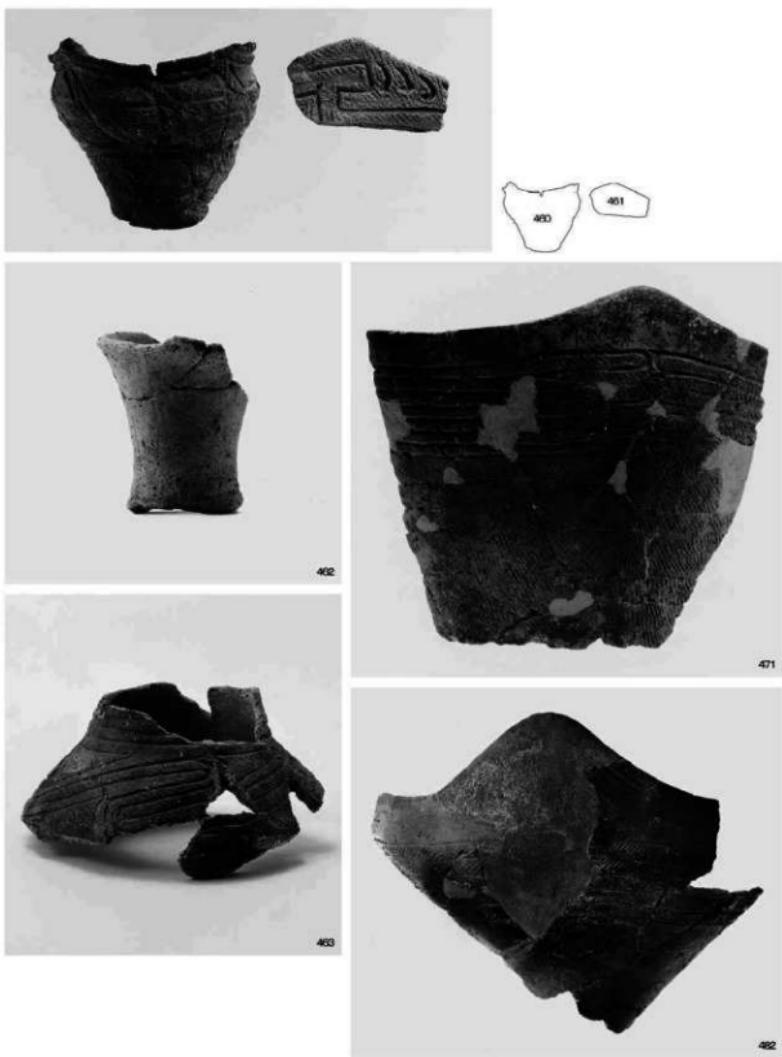


459



460

II 群 深鉢 (459), 鉢 (460) 遺物包含層



III群 深鉢 (460・461), 盖 (462・463), IV群 深鉢 (471・482) 遺物包含層



475

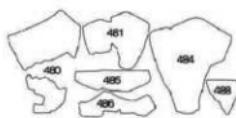
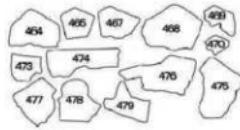
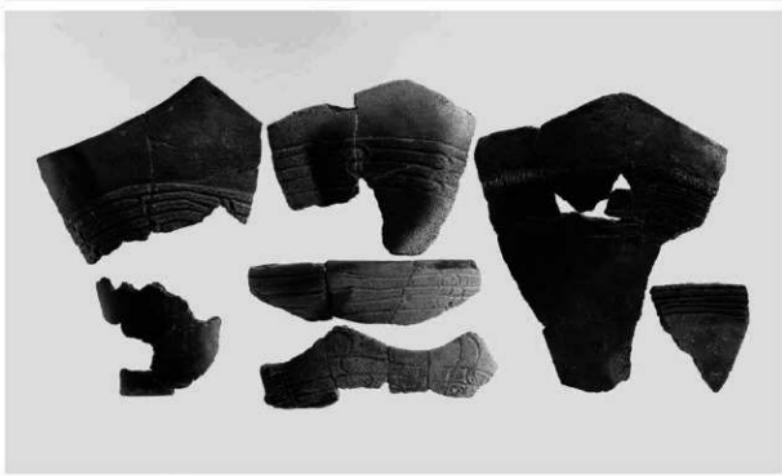


472

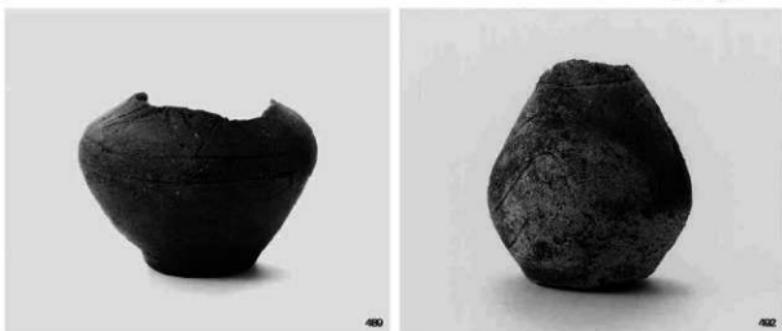
IV幕 深林 遺物包含層



IV幕 深鉢 遺物包含層

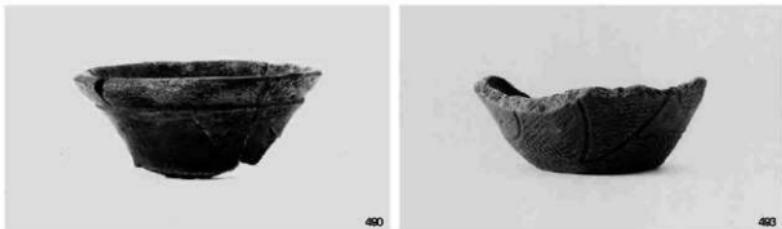


IV群 深鉢・浅鉢(468) 遺物包含層



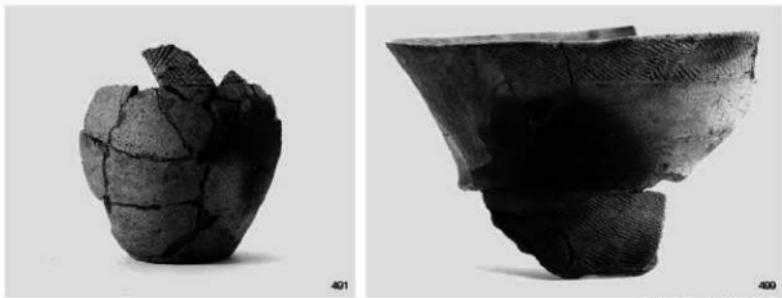
401

402



400

403



401

400

IV 築 壺 遺物包含層



407



408

IV群 壺 遺物包含層



V群 深鉢 遺物包含層



503



504

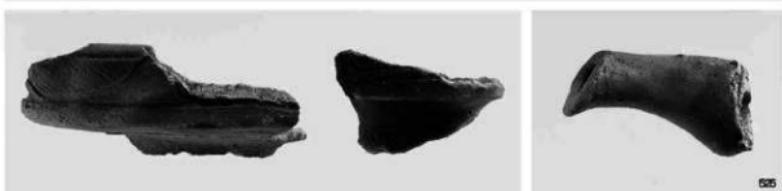
V群 深鉢 遺物包含層



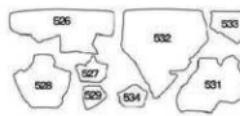
V群 深鉢 遺物包含層



524



525



V群 注口土器 (524・525)

台付浅鉢 (522)

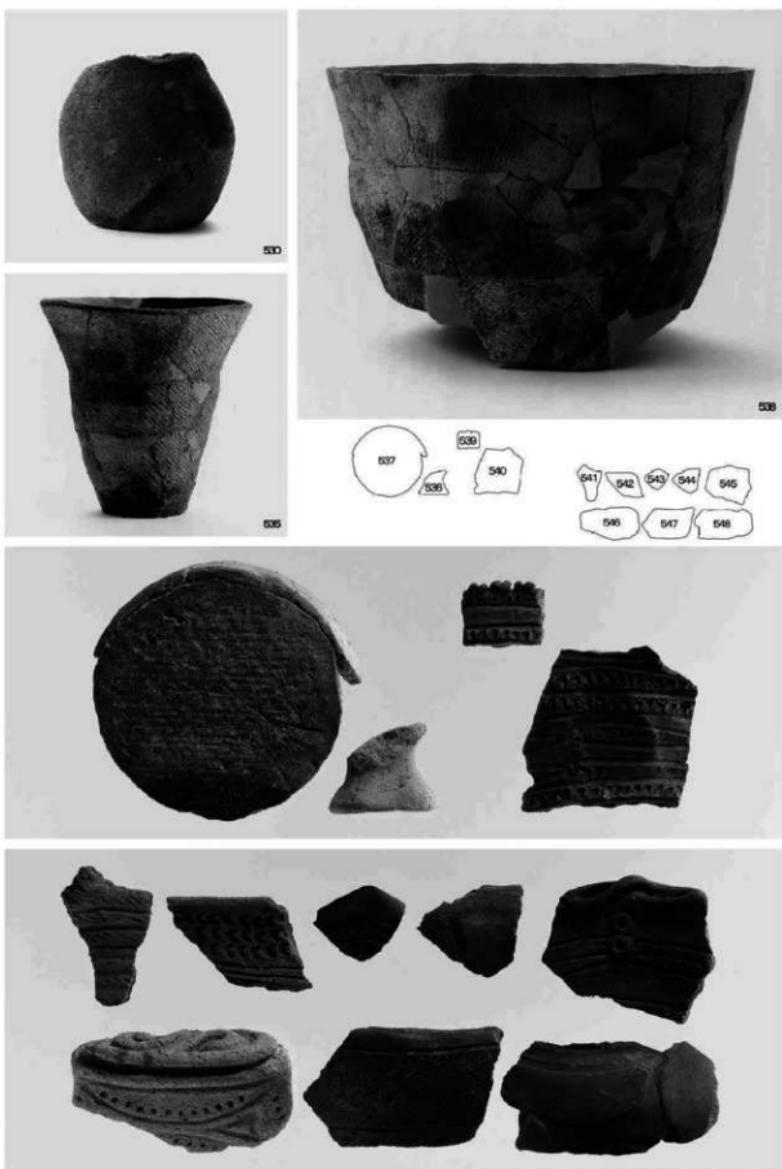
台付鉢 (523)

VI群 深鉢 (526・527)

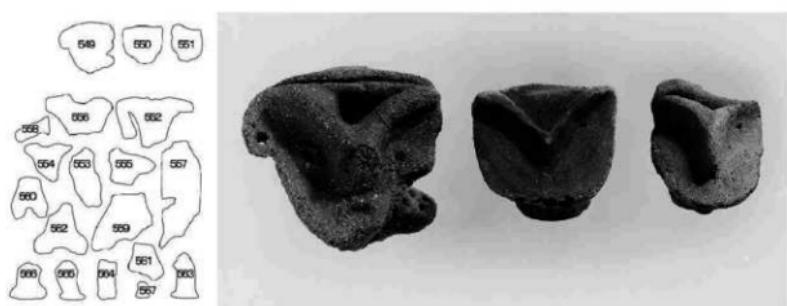
鉢 (528・529)

VII群 深鉢 (531～534)

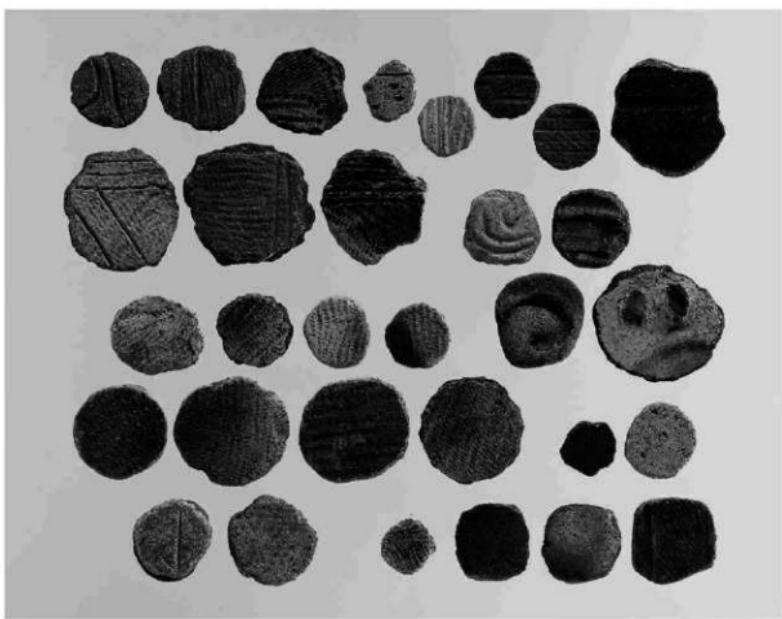
V群 VI群 VII群 遺物包含層



VI群 盖（530）、VII群 深鉢（535・538）、VII群（中段） 遺物包含層、出土地点不明の土器（下段）



土偶

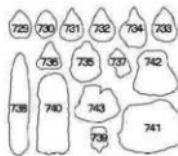


円盤状土製品

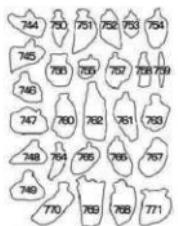
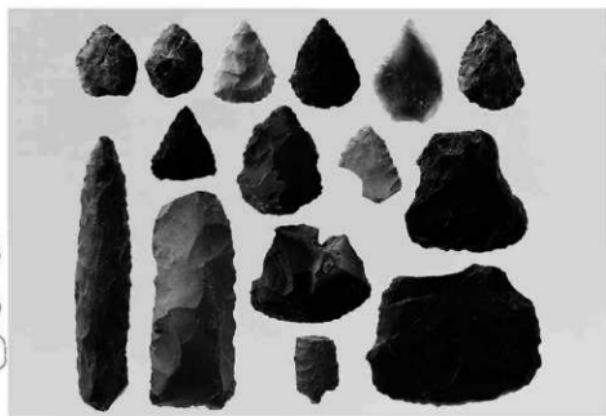


耳飾 (568) スタンプ状土製品 (569) 土錘 (570) そのほかの土製品 (571~573)



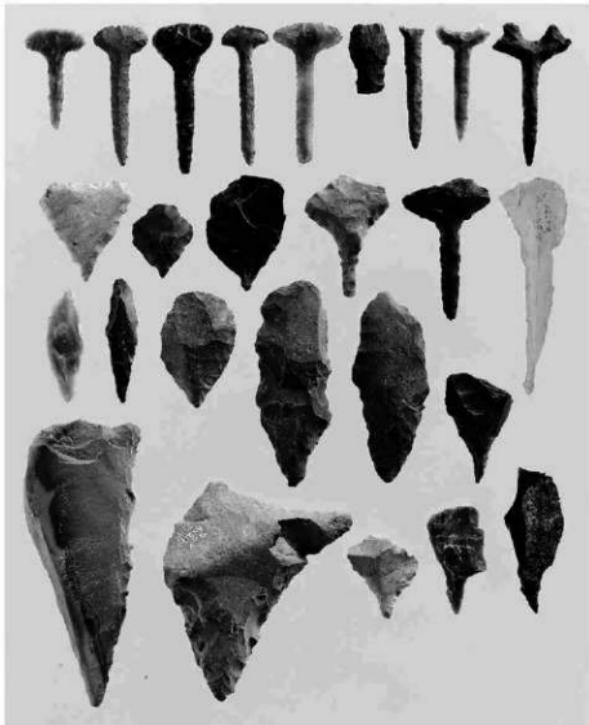


尖頭器 有舌尖頭器
石鎚 插器

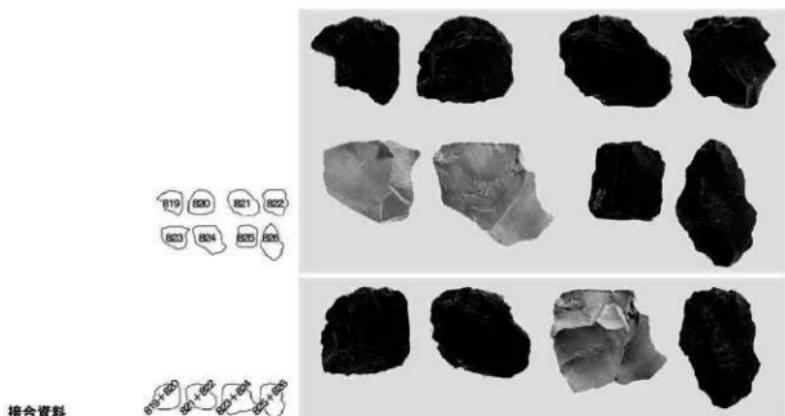


石器

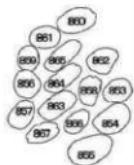




石箭



接合資料



石錘



磨製石斧



浮子



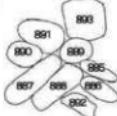
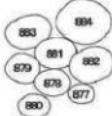
磨石



砥石



磨石





凹石



凹石

895
890
891
892
893
894
895

896
897
898
899
900
901
902
903

凹石

904
905
906
907
908
909
910
911
912
913
914
915
916
917
918
919
920
921
922
923
924
925



石皿

931
932
933
927
926
925
924



石皿

942
939
938
941
940



石皿

937
933
935
936
934

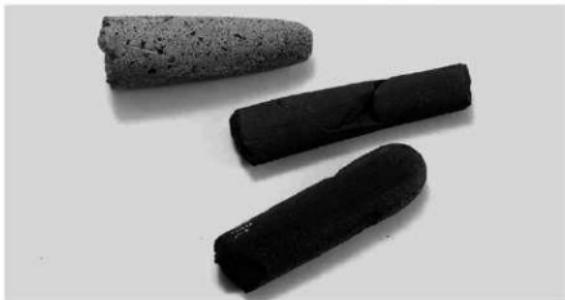


棒状自然模

933
932
934
930
931



線刻石



石棒 (946)
石刀 (944)
石劍 (945)



水晶 (948)
そのほかの石製品 (947・948)



球状自然石

報告書抄録

ふりがな	かっぱいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	かっぱ遺跡発掘調査報告書							
副書名								
卷次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第114集							
編著者名	水戸部秀樹							
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-3161 山形県上市郡天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301							
発行年月日	2003年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かっぱ遺跡	山形県 最上郡 最上町 大字富沢 字合羽	6209	923	38度 44分 55秒	140度 32分 57秒	20000508 / 20000823	6,000	中山間地 域総合整 備事業 (立小路 地区)
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項	
集落跡	縄文時代 (中期・後期)	竪穴住居 掘立柱建物 配石遺構 土坑 柱穴 旧河道		縄文土器 土製品 石器 石製品			縄文時代後期の掘 立柱建物は県内初 の出土。 (總出土箱数:467)	

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第114集

かつば遺跡発掘調査報告書

2003年3月28日発行

発行 財團法人 山形県埋蔵文化財センター
〒990-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号

電話 023-672-6301

印刷 大場印刷株式会社
〒990-2251 山形県山形市立谷川二丁目485-2
電話 023-696-6155



付図 遺構実測図

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第114集
かっぱ遺跡発掘調査報告書
2003年3月28日発行
財團法人山形県埋蔵文化財センター